

HEAVY METAL L·GAIM LAST FILM STORY DIGEST

"ヤーマンの血の許に"

ファイナル・タイムからドリーマーズ アゲイン



重戦機エルガイム

LAST STORY DIGEST

FAINAL TIME

反乱軍のスターダスト作戦により、ついに直接攻撃を受ける、首都スヴェート。戦火の最中、フラット、ミアンは再会をする。同じ男を愛し、違った愛を持った二人の女性が。

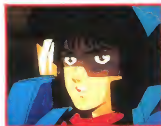
スヴェート、その奥にて



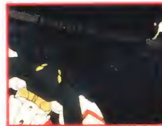
「あー!! オレ見たんだよ。スヴェートのでっかい下部構造。あそこから入れるかもよ。」要はポセイダルを倒せば良い。その為に水中よりの侵入を決意する一同。



ポセイダルの懐へと進む道を探す中、小破し海中へと墜落したキャオのディザードは巨大なスヴェートの水面下構造物を発見する。



「あそこか……」



水中を進むMk－II。しかしこれより先にフル・フラットが同じ進入方法を実行しているとは……。

次々と小惑星をスヴェートに落す反乱軍。すでに正規軍の防衛網は壊滅しているのだ。

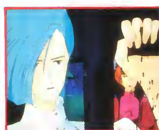


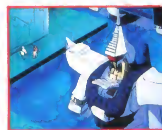


その中をダバ・マイロードは進む。ポセイダルを倒さんと。

しかし、真なるポセイダル、アマンダラも不安定なミアンを再び思い通りにせんと、バイオリレイションのパワーを上昇させる。







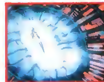
「この私が、まさか侵入する為に使おうとはな……」デンプル・ナイツの一人である自分がスヴェートに忍び込まねばならなくなった事に思い耽るフラット。



「もう、お前から得られる情報も少なくなった。いいな、オリビー解っているな。よろしい……」



「ポセイダル様か……」ターナにいる彼女を使ってダバを殺させようというのだ、妹に兄を。

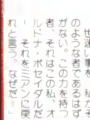


一方、再度アマンダラに制御されるミアンはクワサンに呼びかける。「オリビー聞こえるか……私だよ……」





「まだ、バイオリレイションが……」再び制御が強くなった事を悟るフラット。ミアン、あなたが正気なら、アマンダラの正体をわかってくれるのに、と。



「世迷い事を。私がそのような者であるはずがない。この力を持つ者、それはこの私、オルドナ・ポセイダルだ！ それをミアンに戻れと言う。なぜだ！」

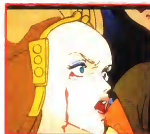


ミアンの頬を万感の想いを込めて打つ。

「あの時の私とあなたの心の痛みを思い出す時だ、ミアン……」



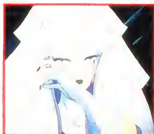
「なぜ、私はセンサーを乱したりしたのだ……」バイオセンサールームから出たミアンは悩む。その時、目の前に人影が。「またアマンダラの操つる糸が太くなっただけじゃないか。」フラット……。




その余波がターナにいるオリビーにまで及ぶミアンが流すのと同じく、オリビーも血の涙を流しながら叫ぶ、女の哀しみを込めて…
「やめろ~!　フラット!」



しかし、自我を取り戻したわけではなかった「感違いするな、苦しませてくれた礼をするのだ。」



「その者の尋問は私が行う、屋敷へ。」
警備兵によって、フラットの行動を止めたミアンは言う。彼女の言葉に振り返るフラット。



絶叫するミアン「やめろ——!」

愛、その形



「ポセイダルには必要であっても、ミアンにはこの機械はいらないでしょう。
バイオリレイションの伝達パワーを上げる。

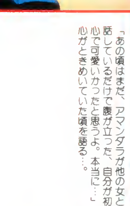



その一方でダバやレッシィもスヴェートへの潜入に成功していた。ポセイダルは何処にいるのか、と。

「なぜお前は私を混乱させる。」
私邸でフラットに詰問する。




「ミアン、憶えているかい?　始めて逢った時のことを…　あれはテンプル・ナイツに入る前のことだった…。

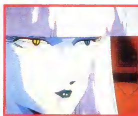



「あの頃はまだ、アマンダラが他の女と話しているだけで腹が立った、自分が初心で可愛いかったと思うよ。本当に…」
心がときめいていた頃を語る…。

そして、その為か、昔の瘢を出す。
「思い出したのかい、ミアン!」だが…
「それがまたポセイダルと関係があると言うのか。」



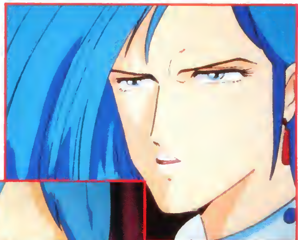
「バイオリレイションを破壊するしかないか…」「死ねば楽になるよ、オルドナ・ポセイダル!」
「ペンタゴナを治める事が楽ではない事位、お前でも知っているはずだ!」



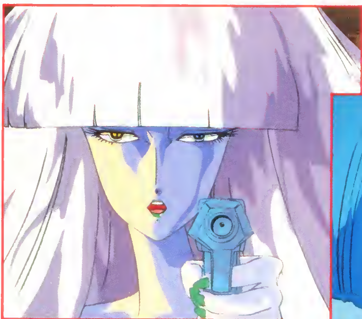
人の心の中で一番人間性を発露した時の事を聞かされるミアン。



「夢に見るのは、いつもあの頃のことばかり……　考えて見ればあの頃の方が今よりは幸せだった…　皮肉なものさ、恋の鞘当ての時代の方が幸わせだったとはね……」



「それが嫌だから、ポセイダルはあなたにやらせたのでしょう!　あなたは心の全てをポセイダルに売り渡して、ポセイダルはアマンダラになった!　それが愛の形なの?　一心同体になったというのは錯覚なのよ、ミアン!」



「どちらでもいい。私に力がある限り私はポセイダルだ!!」



フラットの死

ポセイダルを追って、バスターで通路を破壊する。

「最後だな、ポセイダル！」バスターを目前に受ける！

その時、ダバ達が突っ込んできた。

「どこだ！　ポセイダルは！」

だが、その間にフラットが飛び込んできた。「フラット！」

一瞬、情況判断にとまどう。

「カモン、お前が手を下すまでもなく、私達は自ら朽ちていく…」
「なぜ、私をかばう」
「ミアン、あんたがポセイダルのまま死ぬなんて、余りにもかわいそうだからさ…」

涙がミアンに落ちる…。

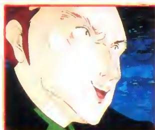
「あんた達の事を思ってはいられない、そんな余裕は僕にはないんだ！」それでもトリガーを引けない…。

ダバが迷っている時、マクトミンの攻撃が！

皮肉にも倒れたＭｋ－Ⅱはフラットの上に崩れ落ちる。絶命するフラット…。

憤　怒

「誰が邪魔をする！　もう少しでポセイダルを倒せたんだぞ！」
やりようのないダバの怒りが爆発する。



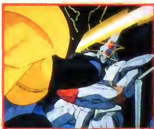
「いやいや、私の敵は貴公だけだ！」
それぞれの考えが交錯する。



「それなりに理由があると言うのかい。」
「共通の敵なんだぞ！」



「えーい！　わからずやめー！」





「そうかい、これが作戦と言うものだよ。」

「下手に出ていればー！」







ダバの憤りがバスターに乗り移る。





「私が出すぎたと言うのか、うわ－！」その憤りの前にマクミトン、死ぬ。

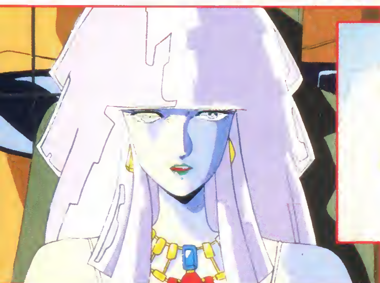




ターナに再び収容されるレッシィとダバ。しかし、その面持ちは冴えない。戦いの中、人の性の哀しみを見てしまったから…。



戦闘指揮官ルームで指揮をとるミアン。しかし、彼女は昔の癖が出ている。再びバイオリレイションの束縛から逃れ出したのか、ミアン。



「オルドナ・ポセイダル…！」
愛の姿にとまどうミアン。しかし、今だ彼女を支配しているのは、真なるポセイダル、アマンダラなのだ…。



「でも、この頬を濡らした物はなんだったのだろう…」自分の心が朽ちていくのを、若者と出逢う事でかろうじて認識し最後の力を持ってミアンに訴えた女性、フル・フラット。彼女は死んだ、しかし心はミアンの中に残った……。



「今よりは幸せだった…　私とあんた、どっちが幸せだったんだろうね…」

「違う、私はミアンではない！」



重戦機エルガイム

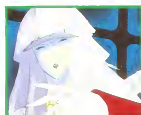
LAST STORY DIGEST
THE DICTATOR

無駄な戦いを避けたいと願うダバは、クワサンをセンサーとする事によって、ポセイダルと合おうとする。彼女を説得し、自らの行動がすでに時代とシンクロしていない事を悟らせて戦いを終結させせようというのだ。

しかしアマンダラは権力に固執し、ミアンに銃を向ける。

一方ギワザも己が手中に世界を修めんと、メッタをスヴェートにぶつけてくる。

決意のカモン・マイロード



「ミアン、何をしようと言うのだ！　今、お前がしなければならぬ事はバイオリレイションのパワーを残ったパネルに集中させることだ！」アマンダの平手打ちが飛ぶ。



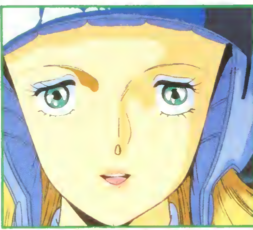
クワサンのバイオセンサーを使って接近してくるＭＫ　IIに近づくアマンダラ。「ダバめ・・　ミアンを手に入れて戦いを終らせようと言うのか　」迫りつつあるＭＫ II

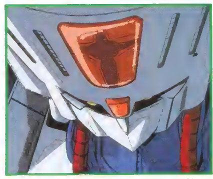
「来るな、オリビー…」アマンダラの言葉などすでに耳に入らぬミアン。彼女は自分の為に戦う。心の中のフラットの支えのおかげで



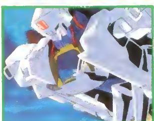


「来るのだ！　ミアン、未練だぞ！お前はポセイダルなどではない！ミアンだ！」「ハッハッハッ　都合によって人を使い分ける。あなたなぞ信用できません！」ついにアマンダラの呪縛が解けたのか　隠れる彼女。



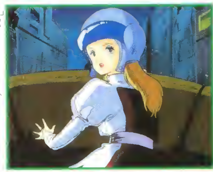


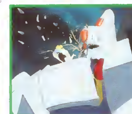
「わかるかい？　クワサンオリビー。ポセイダルが叙しがっているよ」心を鬼にしてオリビーを使い、ポセイダルの元へ行こうとスヴェートへ乗り込む



「オリビー、わかるか？」「わかる、オルドナ・ポセイダル…」

オリビーを気にしながら、強行着陸！「だいじょうぶか!?　オリビー」「そっちじゃないの、あの方角にポセイダル様がいるわ！」





リョウレイ隊の猛攻でオリビーがＭＫ　IIから落ちる！





オリビーの集めた艦隊の戦力が今頃やってきたのだ。「そう易々と入れると思うな！」



一方、ダバとオリビーの乗るＭＫ　IIにはレョクレイのC・テンプルが襲いかかる。



「貴様は女の為に軍を裏切るのか！」「こんな腐り切った軍隊、いつでも捨ててやる！」



「リョクレイ！　それ以上はやらせん！」「ギャブレーがエルガイムを!?」「感違いするな、ダバ…　私はオリビーを愛しているからだ…」



「あのＨ・Ｍ、知ってる人がいる　あれもお兄ちゃん？　これもお兄ちゃん…？」ますます混乱して行くオリビー。



手の上にオリビーを乗せながら闘うアムのＭＫ I



その時C・テンプルのセイバーにフロッガーが巻きつく、ギャブレーだ！



かろうじてＭＫ　IIがキャッチするが、今度はそこにリョクレイの攻撃が！

バイオリレィション



スヴェートの自爆にミアンが必要なアマンダラは彼女を近いかけ、詰め寄る。
「力を解放する瞬間は、私が設定する。お前の好きにはさせん！」



「私は根こそぎ、あなたに利用されたのに・ポセイダル本人は、こんな変装で自分を誤魔化している……」撃たれたミアンはアマンダラの変装をはぎ取る。
「ミアン、よさんか！」
「あなたは大勢の女達の生体を利用し、オモチャにして来た… あなたはすでにポセイダルではない！」





内部へと侵入に成功したダバはビュイでポセイダルの所へと向う。
「オリビー、ポセイダルの所に行こうな！」

「あ ポセイダルが呼んでいる」「あっちに行って！」



だが、その最中壁が爆発しダバとオリビーが飛び込んでくる。パネルに叩きつけられるミアンとアマンダラ。



危急時態を知りかけつける十三人衆のネーバルとハンス。しかし事態を理解していない二人はとまどう。



ミアンも自力でアマンダラから逃げた。話し合いの余裕はなくなった。残るは雌雄を決する最後の闘いしか道はない！



だがアマンダラは一瞬のすきをつき、ミアンを人質にする。
「歯がゆいな、アマンダラ！ どこへ逃げるんだ！」
「逃げるのではない、反乱軍を叩きに行くのだよ、私自らの手でな」



「ポセイダル様！」「アワサンオリビーか…」



「アマンダラ！ いやポセイダル。ミアンは預かって行く！」
「そんな事をしても戦いは終らないぞ！」悪態をつくアマンダラ





「あ、頭が…」オリビーの病状はすでに最悪のものになっていた… ダバの行動が裏目に出たのか？ 「逃がしはせん！」



ダバはオリビーをアムに託し、MK II でアマンダラを倒しに向う。「アム オリビーを頼む！



そしてギワザも最後のカケに出ていた。小惑星メッタをスヴェートに落すと言うのだ！
「ペンタゴナは私の物だ！」
さあ、どうする！





「オリビー！ だいじょうぶ!!」

遂にミアンはアマンダラに銃を向けさせた！「ここをどこだとお思いですか 好きにはさせません！」
アマンダラは先のもみ合いでオリジナルオージェのキーを奪い取っていたのだ・しかし本当のキーは…
「決着をつける時が来たようです…」

重戦機エルガイム

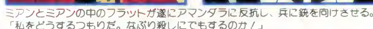
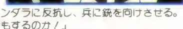
LAST STORY DIGEST
DREAMERS AGAIN

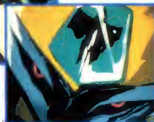
真なるポセイダル、アマンダラとダバが。戦うだが、その果てにダバが得た物は廃人となったクワサンであった。勝利者となりきれず、クワサンを連れ、故郷へと還るダバ。その後姿を見て、二人の女性は涙する……

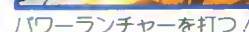
真なる敵、アマンダラ


「ポセイダル、いたか！逃がすか！」

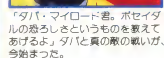

その時、天井からＭＫ－Ⅱが飛び込んでくる。



ミアンとミアンの中のフラットが遂にアマンダラに反抗し、兵に銃を向けさせる。「私をどうするつもりだ。なぶり殺しにでもするのか！」


「バイオリレイションとはこういう事だ。人の生体エネルジーをパワーの源とする。カモンマイロード君、ヤーマンの血の結束を持ってしても、私のバイオリレイションにはかなわんよ」アマンダラの笑い声が響く。


パワーランチャーを打つ！


「生きているのか！　あのＨ・Ｍ！」


「ダバ・マイロード君。ポセイダルの恐ろしさというものを教えてあげるよ」ダバと真の敵の戦いが、今始まった。


「ポセイダルに逆らう者には死を！」両者の思念がぶつかり合う！

「そんな事はない！　そんな事は…！」
「ならば試してみよう」

「私の生体エネルギーが放出されていく！　フル・フラットよ…　消えていくのかあなたの力が……」
アマンダラを殺す事を決意するミアン。愛が裏切られていたのを悟る。


「ヤーマンの血の元に！」額のファティマが発動する。



愛の表現



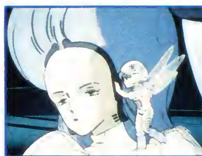
「えーいウルサイ！　愛の前にはミラリーがなんだ！」ギャブレーも己れの信念を固めた！



クワサンを引き渡す。
「やめてってば！　ダバが悲しむよ！」
「悪魔の手先のミラリーだぞ！　オリビーを離せえ」



そのエルガイムをギャブレーが補足した。「クワサンは何処にいるのか！　助け出したのは知っている！」
「あんたには関係ないでしょ！」
「ある‼　私はクワサンを愛しているのだ〃」



一方、クワサンを助け、ターナへと運ぶアムは複雑な想いで彼女を見つめる。愛する人が愛した女性を



べーた！



「おやめ！　リリス」ダバを助ける約束は守れるわね！」
「男に二言はない！　約束はかならず守る。」何が愛する人の為なのか　でもアムにはこれしかできない……

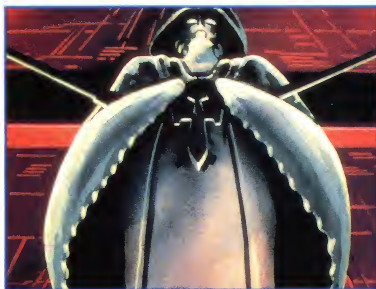


「わかったわ、その代りダバを助けてくれる？」アムを止めるリリス。自分の愛を信じるアム……



「ダバはどこ!?」





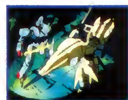


そしてレッシィはスウェートの中心、ラキシスの心臓に入り込む。彼女の顔前に広がっていたのは……

死のポセイダルの姿と、異様な女神像だった。「ポセイダル！」

「少年は今、真なるポセイダルと戦っている…」
「真なるポセイダル!?」

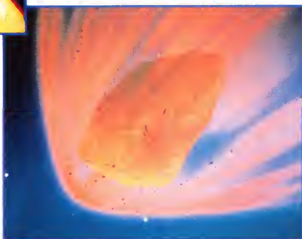
「私を祭壇まで連れていきなさい。私なら彼女を止められる……」











メッタをスヴェートに落すギワザ。「十分後には、私がペンタゴナの王か…」しかし彼は何も知らない。本当に何も…



「あなたが止める！　そんな事は信じられない！」だが、ミアンはメッタを回避する事もできるという。彼女を信じるレッシィ。

ORIGINAL AUGE



圧倒的な強さで迫るオージェ！ バインダーの裏のハンドランチャーを連射する。



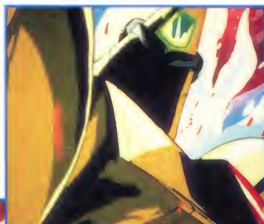
「つくづく身の程を知った様だな、カモン・マイロード君。ヤーマンの血が結束したからといって、スヴェートをパワー源にしているこのオージェを突破する事は無理だよ」

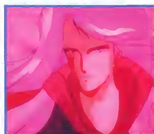




「マキシマムパワーでもかすりもしない！」







「私の前では何者も無力だ！」
まるで歯のたたぬＭＫ－II．





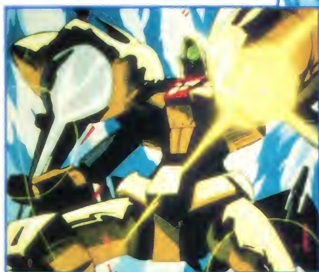


「格闘に持ち込めばＭｋ－IIのパワーだって！」

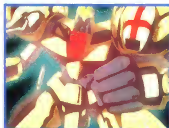




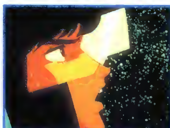
「甘いな！」





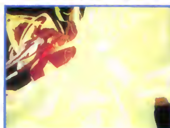

しかし再びパワーの落ちるオージュ


「チッ、フィールドを離れすぎたか？」

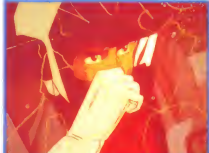

「当った」「エネルギー切れか？」


腕をもぎとられるMK－II。ヤーマンの血の力ではバイオリレイションに立ち打ちできないのか？






「ウウッ」「さっきのパワーダウンはなんだったんだ？」



「全てフィールドでパワーが繋がらんとは…　そろそろかたをつけさせてもらうぞ、カモン・マイロード！」ミアンの行動がオージュの力を弱めだす。活路が！」

私の予定した以上の行動をしなければ、良い生活ができたものをな！」
「他人に自分の人生の枠を組まれて、何がおもしろいものか！」


「なんだ!!　あれは！」
気迫に気圧されるダバ。


両腰のカマを振りかざす。

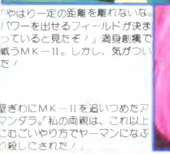



「ならば、つまらなくしてやる！」セイバーを振りかざし、せまるオージュ

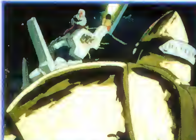



その姿が悪魔のイメージとダブる。


「やはり一定の距離を離れないな。パワーを出せるフィールドが決まっていると見たぞ！」満身創痍で戦うMK－II。しかし、気がついた！

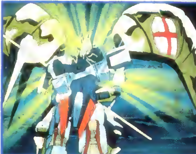

壁ぎわにMK－IIを追いつめたアマンダラ。「私の両親は、これ以上にむごいやり方でヤーマンになぶり殺しにされた！」


かろうじてのランチャー一閃！


「そんな、デタラメを！」しかし、アイデンティティーが崩壊し始めるダバ。


「なんだと!?　アマンダラ！」
「それに比べたら、私はやさしい男だと思って欲しいな！」


が、しかしそれが命中した！

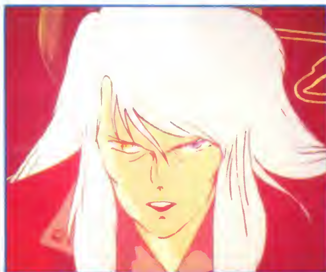

突っ込んで行くダバ。だが、その瞬間バイオセンサーを操つるミアンの介入が。

愛の果に、新しき時代来たる…

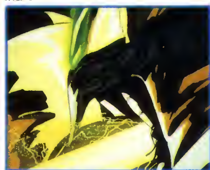


「動け！ 動いてくれ、Mk－II！」Mk－IIも頭部を破壊され、行動不能となっていた





頭部のバリアーを破り、セイバーが喉元を貫く！

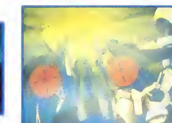


「ミアンめ、バイオセンサーを切ったのか…私の夢を、私の世界を！」
とたんに老化がはじまり苦しみ出すアマンダラ。

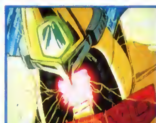
「生きているのか、ダバ！」
ギャブレーがアムとの約束を守ってやってきたのだ！



「ギャブレー！」



その時、間に入ってきたバッシュ



鎌を振りかぶりMK－IIを襲う！
「動けない！」



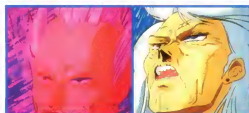
「許さんぞ！ 小僧！」



「お前の時代は終った!!」ダバとギャブレー、二人の心が遂に一つに集束された。今こそ時代は変る。



「私の選んだ若者が、そろって私にはむかうというのか！」時代がいつの間にか自分の手を離れていたのを悟り、そして怒る。彼は傲慢すぎたのだ。



「若僧が――！」



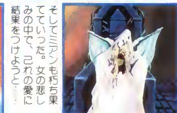
だが、ダバ達が勝ったのは彼等の力だけではない。愛を欲し永く生き過ぎた女の情念が…「あなたの愛だけで、私は操つられましたものを…」



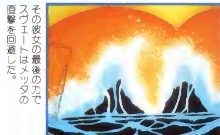
怒りの炎が全身を包む。



目指した時がやってきた、遂に勝ったのだ！



そしてミアンも朽ち果てていった。女の悲しみの中で、己れの愛に結果をつけようと…



その彼女の最後の力でスヴェートはメッタの直撃を回避した。

FINAL ATTACK



これならば、アムの行動も許される、きっと。



「ポセイダルは死んだ！　一気にギワザと決着をつける！」



「ダバ～！　良く無事で！」「ありがとう」そして愛しいアムにKISS



スヴェート上面ではアムのエルガイムが。
「これじゃ、下にいるダバ違が！」
「溺れるわけないでしょ、ダバが！」



リリスの言う通りまだダバは死ねない、時は終っていない、始まったばかりなのだ！
「アム！　エルガイム！」
「ダバ――！」



「聞いたか、諸君！　我らがリーダー、カモン・マイロードはポセイダルを倒したぞ！　残るギワザ艦隊を倒し、ペンタゴナに自由を取り戻すのだ！」この解放感！



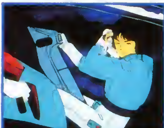
「バスターにエネルギーを回す。落ちるぞ！」
「止めだからいい、やれ！」



「ギワザの艦を沈めれば、事は済む！」
バスターでサージエオーバスを狙う



「アム、コクピットを！」これが最後のドッキング！



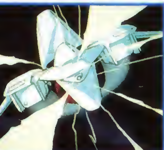
「ダバ――！」愛しいリリスに



「最後！」
「撃っちゃえ！」
リリスからも、ほとばしる感情が。



バスターが火を吹く！　ギワザには世界を背負う力量はないのだ！







「たたきのめしてやる――！」
火炎の中、絶叫する。これで終った！



「私に逆らうH・Mがここにもいる、ここにも！」裁量の狭さが見えてしまうギワザ・ロワウ。
「軍を立て直してくれば、烏合の衆などは――！」



「ギワザ！」心が爆発する。

「だが、ギワザはシャトルで逃げ出していた
違う！　ギワザはシャトルだ！」

ドリーマーズ・アゲン



「勘忍ね… ダバ…」



「オレだって自立したいんだよオ いつまでもダバ、ダバじゃあるまい?」
「今度はあたしとミラリー捜しをするんだよね」皆、元気がない。なぜって…



「何で今日はついていかないの?冷たいじゃない?」



「いい所あるのね、クワサンをダバに帰すなんて。」
「ギャブレーさん、ではなくて、お兄ちゃんと呼ばれ続けるのは私の本意じゃない。」
「でもあなたがクワサンを帰すって言った時からダバはコアムに帰るっていいだしたのよ。」



戦いの風景が脳裏をかすめていく。



そして、それを見つめる仲間達の視線。別離の瞬間…



振り返るダバの視線が全てを物語る。



「あれは一生治らん… ダバめ…」
己れができない事を、成せる人のもとに帰す。ギャブレーが悲痛の表情となる。



「アハハハ…アハハ」



しかし、このオリビーのうれしそうな表情、せめてもの救い。



「さァオリビー、故郷へ帰ろう」
「うん、お兄ちゃん」



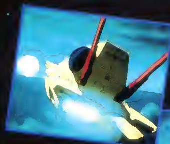
「でも、ダバはそれを選んだのよ…」



「今日から一生、人形になったオリビーの世話を見るのよ。そして、歳を取って死んで行くのよ… 二人とも…」



「アマンダラはこれで、ヤーマンの血統者全てに対しての復讐を完成させたのよ…」





たとえ、今は復讐が成功したように見えても
いつか、またダバは活躍するだろう。
彼は夢見る人なのだから。
夢見るあなたの心の中で、いつか、きっと……

Dramatic L.GAIM

信用、友情、愛情そして誤解、策略、不信。人の心と心の繋がりの中、世界が変って行く。"新しき世代"である彼等は何を想い戦い抜いたのか。男も女も業を持って生きて行く。たとえ勝利を得ても…

COMEN WARLLER Ⅵ

「僕は明日から、こいつの再興をかけて戦います」アマンダラに断言したダバ 今は戦う事が己れの役目なのだと悟って

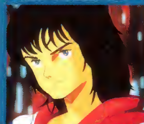




ダバは"王(キング)"たり得たのか？

美少年♡

王族の末裔で美男子。そのうえやさしくて、H・Mの操縦の腕も凄い。その上、絶ず回りに女の子がキャッキャッしているとなると…。これはもう同性から見ると嫉妬したくなる奴です。







え〜ダバの女装です…

戦いを嫌って

最初、ダバは生身の人間を撃つのを、ひどく嫌っている。「生身の人を撃つのは気味悪い、いやだ」と。しかし、いつの日からか、彼は人を殺しても顔をしかめなくなっていってしまった。







H・Mが相手でも、「ごめん！」

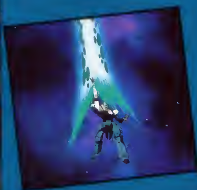
ミズン王朝、カモン家の正統な血を引く唯一の男。それが故に反乱軍の象徴となってしまう。だが彼はやさしさを持つ故、己れが人を動かす事を恐れた。それが為、後は最後にコアムへと帰った。心を失なったオリビーを連れて…

DABA MYROAD



L・GAIM

純白のH・M、エルガイムMk－I、Mk－II。ダバの心を示すかのようなその白さ。少年でもなく、成年でもない、彼そのものであったのだろう　ポセイダルを倒した後もその白さが汚れないことを祈って。



過去の記憶

自分が王族である事を知らず、コアムの避村で静かに苦していた時代。皆が一番平和であったのだろう　オリビーの記憶もこの時代で止っているのだから。





「憶えているだろ、王宮を…　そこはミズン星のヤーマン族のお城だ！　お前はその王子だ！　こうでもしなければ、ヤーマン族の血統はポセイダルに絶たれた！」
育ての親、ダバ・ハッサーより出生の秘密を聞かされる。

COMPANION

ダバを信頼し、友人として恋人として、集まって来てくれた多勢の人々。戦いが終った時、彼はその人達にこれからも答え続ける自信がなかったのであろう。しかし、今はそうでも10年後、20年後その力を得た時、彼は再び現れるであろう、彼等の前に指導者として。







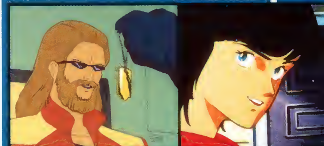






若き心

古き世代であるアマンダラ達に、若い心と言う物をまざまざと見せつけ、ついには彼等と一体化、あるいは打ち破ってみせたダバと言う存在。この力こそが王の持つべき力である。



アマンダラはダバの人生を規定し、己れの野心に利用しようとさた。しかし、いつの日かダバはその枠組みを打ち破る…



「そんな若さ終らせてやる！」
「終らない青春なんて、ないんだよ…　私のように終らない若さを味わってごらん…！」
「そんな……」
しかし、この事によりフラットは己れの心が朽ちている事を悟らされる。

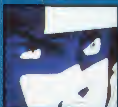


クワサンを想う時

クワサンを想う時、ダバの目の色は変る．そして仲間の事も戦いの事も忘れさってしまう。







オリビーの乗る商船イプシオンが去って行く。それを追うダバを邪魔するギャブレー。
「今日ほど、お前を憎いと思った事はないぞ！ギャブレー！」





リリスといっしょ

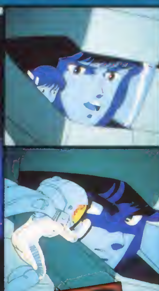






ダバの陰にはいつでもいたリリス。ダバもリリスを大切にして、愛しんでいた。しかしオリビーが顔前に表れた時、ダバにはリリスですら目に入っていなかった。そして戦いが終った後、ダバはリリスではなく、オリビーと一緒にコアムへと帰った。オリビーがいた時、彼のそばにはリリスですら入れなかったのだ









「リリス……暖かいな…
しばらくじっとしていてくれ……」

それでも愛してる

レッシィとアムに救け出したオリビーを見せるダバ。自分を愛してくれていると言う事を、愛され方と言う物を、考えさせられる。でも彼女達は、それでもダバを愛する…





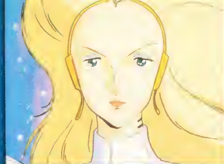
「喜んであげなきゃいけないのよね、本当は……」



「ケガはない？」
「あなたの事よ…」

クワサン NO REPLY

QUWASAN OLIBEE

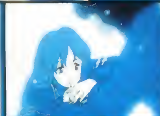


ヤーマン族僕滅の為にアマンダラのバイオリレイションに利用された、ヤーマン族の女性。正常な心を失なってしまった彼女は楽しかった時間の記憶の中に生きてしまっている。そして今も彼女は答えない､｢お兄ちゃん｣としか………

平和なる時に…



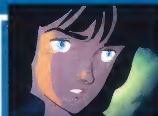
ダバの叫びの中、過去の楽しかった記憶を思い出す 愛しいダバが側にいてくれていた時を 血の絆を…人の心の一番の頼り所が破壊された！





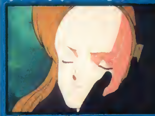


今、再び…



「クワサン… 確かにクワサン・オリビーだ」

オリビーも心の奥でダバを探していたであろう たとえばバイオリレイションでコントロールされていようとも、最愛の兄であり、婚約者なのだから その二人が再会をした、しかしすれ違いながらであったが



「お、お兄ちゃん…」



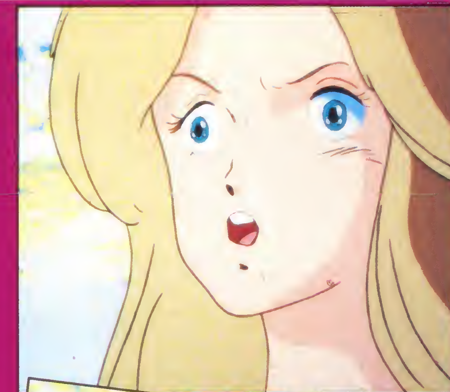
「我らの大地 天につき我らの……」コアムの歌を口ずさむオリビー





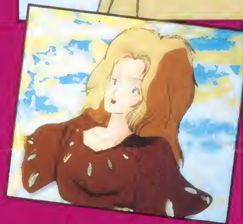
魂の叫び

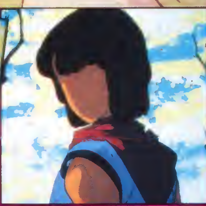
バイオリレイションにより入り込んできたポセイダルの意識と、兄のダバによって換起された自我が衝突、魂の叫びとなって噴出する。











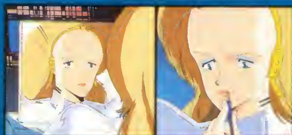
一番大切な兄の顔がない！ 恐怖！



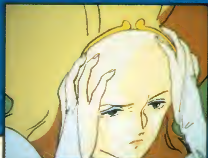


失なった精神

二つの心の衝突により、自分を見失しない始めたオリビー。果てにはギワザに捕えられ、ポセイダルとダバへの両方の切り札として利用される。ただひたすら他人の思惑に流される彼女。



「カモン・マイロード。今度こそ、お前の臭いを消してやる。」



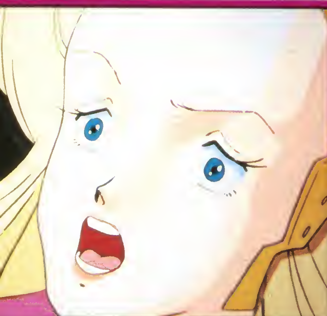
すでにこの目は… 正常な人のそれではない。





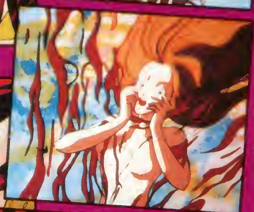


「なぜ、お前は顔がないのか……」記憶の中の男の正体がダバだと思い出した時、オリビーの混乱はさらに進んだ。

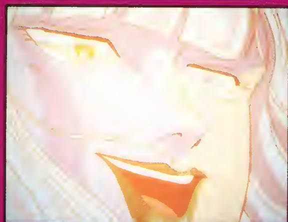












そしてポセイダルの笑い声がこだまする…



七つの恋をする男、キャブレット・ギャブレー

GAVLET GABLAE

物語の見る側面を変てみれば、まちがいなくこの人が主人公であったでしょう。登場人物中、彼ほど自分の心に素直であり、若さを画面一杯にぶつけてきた人はいません。



お上りさん

コアムの一貴族の出身であったギャブレーリーリンとやりあった時の態度、スレンダー・スカラの参謀になった時の顔などは、そのものお上りさん。ましてや最初は本気でリリスの事を〝悪魔の使い〟と呼ぶし…。しかし最後にはリリスに向って「愛の前には、ミラリーがなんだ〃」……成長しました。



ギャブ君、百面相

彼は非常に表情が豊か、キマリポーズからフヌケた顔まで、全身でパフォーマンスしてくれていました。そして、全ての表情が生きていたのです。

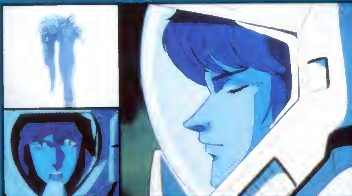




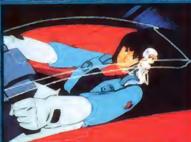
ライバル

最初はダバとは正反対の道を歩んでいたはず。でも、いつの日か助け合う仲となっていった。彼もまちがいなく時代を担う男の一人なのだから。彼はライバルであって、ライバルではないのだ。





44話でクワサンを救いにいき罠にはまったダバを光芒の中より救い出すギャブレー。ダバが問う、「なぜ助けた!?」「なぜか？私にもわからん…」二人の男は徐々に近づき始める。





そして最終回、共に力を合わせてポセイダルを葬る。闘いが終って二人は見つめ合う。同じ女を愛し、奪い合いながらも、もう闘う気はない。共に力を合わせて時代を変えたのだから。



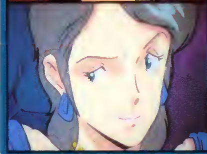
恋多き男

ほとんど逢う女性ごとに恋をしていました。ネイにあこがれ、レッシィそれとなく、そしてパメラ、行きついてオリビー。でもこれは彼が情熱的である証拠。「私はクワサンを愛しているのだ！」



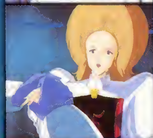
パメラ

ネイのスパイであったパメラ。色掛けでギャブレーに近づくうちに両者共、本当に好きあってしまう。クワサンに出逢った後もギャブレーはパメラが殺された時、本気で怒りました。男とはこういう生き物です。


恋は盲目

大型戦闘艦クレパールに乗り込んだギャブレー。そこで彼はほとんど盲目的に愛する女性と出逢う。クワサン・オリビーその人と…


42話では、クワサンに一目逢ったその日から… と、もう典型的な一目惚れを見せてくれました。本当に自分の心に素直なんですね。

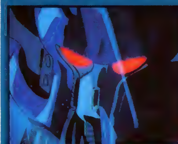




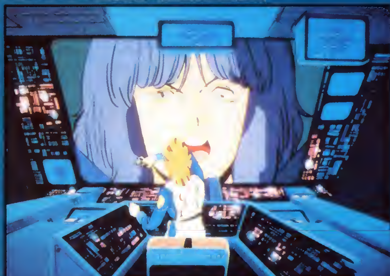
私は、ギャブレット・ギャブレーだ

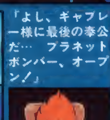
部下から見れば彼の行動は確かに日和見的でしょう。正規軍についたり反乱軍についたり。でも最終回の一言が彼の全てを物語っています。「私はギャブレット・ギャブレーだ。義に死してこそ華だと思わんか！」そう、みんなわかってくれているんですよね。





彼はいろいろなH・Mに乗りましたグライアからアトールまで。しかし彼の魅力が最大限に出たのはバッシュとA・テンプルでしょう。こいつに乗った時こそ、彼の力が一番感じられる。




「よし、ギャブレー様に最後の奉公だ… プラネットボンバー、オープン！」



そんな彼女に彼も…「イレーネ！ 愛い奴…」

リリス・コレクション

LILIS FAW

たった一人で、何を思ってきたのか語ろうとしない分だけ重いものを背負っているリリス。けれど、ダバとの出会いで確かに彼女の心は、開放されていったのでしょう。そして、ダバにとっても精神の支えとなっていきます。

身体は小さいけれど、とても大きな存在だったのです。こんなことをいっても、きっと彼女は笑うだけでしょうけれど、ね。とかもく、リリス・ファウのぺえじ・で・す。

見世物小屋で初めてダバと会ったリリス。ダバのイメージの中で踊る。

リリスの代金として支払った100万ギーンの手形をすかさず奪い返すあたり、なかなかしたたかなようで。ダバへのお礼の意味なんだけどね。





「天下を取るなら妖精と笑え」ミラリーは、場所によって天使とも悪魔とも言い伝えが違う。おかげでギャブレー君に目の敵にされてしまうのでした。

心の支えの…

いつも、誰かがつらい時リリスがそばにいます。それだけで心が少し軽くなるものです。







レッシィになぐられた頬を冷やしてあげている。よく気が付く娘です。



心配そうな表情が良い。

高熱を出したダバが落っこちないように支えているんだけど……結構力持ちなんですね。

頑張りリリス

やっぱり、力持ちです。





一人でエルガイムの操縦までしちゃう。とにかく有能。





in KITCHEN



食器と一緒に自分まで洗っているとゆーか、遊び心が楽しい。この水着自分で縫ったんでしょうね。



料理の腕も抜群。味にはうるさいのです。

スパゲティー1本でおなか一杯かな？

お酒をなめて真赤になってしまったのでした。



かつて、ペンタゴナ・ワールド一帯に拡がり独自の平和な文化を営んできたミラリー一族。しかし、ある日突然核によって滅び、生き残った仲間達も実験用や見世物として次々と捕えられ、絶滅へ追いやられていった歴史を持つ。
ポセイダルとの戦いの中、パラータ・スターの地下に眠る原子炉が活動を始め、リリスはあの悪夢を再び繰り返すまいとパラータへ向かう。

ミラリーの"陰"

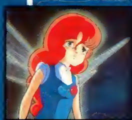




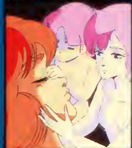
おびえるようにミラリーの歴史を話す



魂の導き



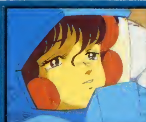




先祖達に守られ原子炉の爆発を防ぐが、力つきて倒れてしまう



今は　おやすみ…









弱々しく微笑むリリス。健気です。





パジャマに着がえ、ふかふかのベッドで眠る。そう、リリスの在る場所はここなのです。
安心して疲れをいやしなさい

イリュージョン



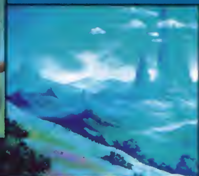
リリスの眼に過去の幻影が――。

ミラリーが住んでいた美しい世界

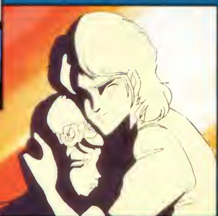












恋人達の語らいも、一瞬の輝きが消し去る。

LILIS GRAFTY

目立つというのではないけれど、いつも画面の片隅にいてそれがとても自然な存在。そんなリリスが全身で演じている表情集です。









気を使いすぎてこんなんなったりして。ダバの顔がまたおかしい。



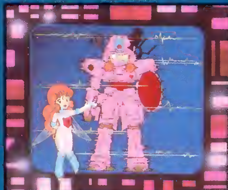
この嬉しそーな表情！見て下さい。





敵の攻撃におびえるところもかあいい。

見だしなみには気をつかいます



リリス用H・M。実物は人間大。細かいところがなんとも……。





キャオともいいコンビでした。
そーいえばリリスの体重ってどのくらいなんでしょ？



結構ひょーきんなのね。

おじゃまリリス。



んべっ☆



狂暴リリス。歯は丈夫です、ね。



サート・スターにミラリー用の服があったのだろうか？



寝起きはあまりよろしくないようで。





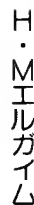


寝姿三態。あおむけになると羽がつぶれるのかしら。





Heavy Metal L・GAIM ストーリー・ダイジェスト



第一話 「ドリーマーズ」

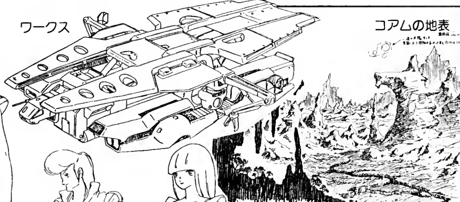
惑星コアムの荒野をつっ走る一台のワークス。駆るのは立身出世を夢見る青年ダバ・マイロードと、ミラウー・キャオだ。二人は正規軍に士官すべく故郷の村を出た。

——コアムはペンタゴナ・ワールドとよばれる、二連星太陽をまわる五つの惑星の一つである。ガストガル星の王、オルドナ・ポセイダルが他の四惑星をたばね、ペンタゴ連邦を樹立して一八年。この時代、連邦の正規軍人になることが出世への登龍門であった——

旅をつづける彼らは少女、ファンネリア・アムに助けを求められた。盗賊に追われているというのだ。だが、それは罠だった。ひとり残ったダバをミアマ・リーリン率いる盗賊団が襲う。ダバはセイバーでリーリンの腕を切り落とし追いはらった。だが、怨念にかられたリーリンはマシンナリイを投入。報復攻撃をかけてきた。ダバは父の形見のヘビーメタル、エルガイムを始動させ応戦。一味を追いはらったあと、ひん死の盗賊のひとりから高額の手形を預かる。盗賊団に見切りをつけたアムを加えた二人は、遺言どおり手形を届けに小都市、プリヤーモに向かった……。

H・Mエルガイム

ダバ・マイロード

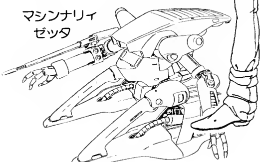


CHECK POINT①

ダバ「おやじは正規軍にエルガイムは見せない方が、いいって言うし。それに、クワサン・オリビーを捜したいしな」
キャオ「ヘッ、血はつながってないってのにな」
⬅二二話

※この項は、後半になって表面化することがらを暗示しているセリフをピックアップしています。





ミウラー・キャオ

ファンネリア・アム

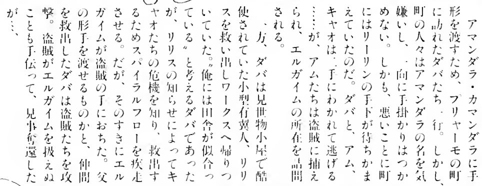
第二話 「スキャンダル・P（プリャーモ・スキャンダル）」

アマンダラ・カマンダラに手形を渡すため、プリヤーモの町に訪れたダバたち一行。しかし、町の人々はアマンダラの名を気嫌いし、一向に手掛かりはつかめない。しかも、悪いことに町にはリーリンの手下が待ちかまえていたのだ。ダバと、アム、キャオは二手にわかれて逃げる……が、アムたちは盗賊に捕えられ、エルガイムの所在を詰問される。

一方、ダバは見世物小屋で酷使されていた小型有翼人、リリスを救い出しワークスへ帰りついていた。〝俺には田舎が似合っている〟と考えるダバであったが、リリスの知らせによってキャオたちの危機を知り、救出するためスパイラルフローを疾走させる。だが、そのすきにエルガイムが盗賊の手におちた。父の形見を渡せるものかと、仲間を救出したダバは盗賊たちを攻撃。盗賊がエルガイムを扱えぬことも手伝って、見事奪還したが……。

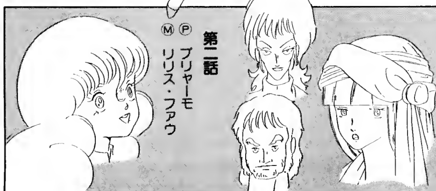


リリス・ファウ



CHECK POINT②

ダバ「そういえば父さんも言ってた。俺がミズン王朝の生き残りだということを」
⬅三〇話



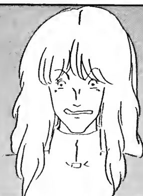
PLACE & MEETING

この項では、ダバ一行の所在地点、およびダバと初めて出会ったキャラクターについてチェックしていきます。

第一話
Ⓟ コアムの荒野
Ⓜ ファンネリア・アム
ミヤマ・リーリン
ハッシャ・モッシャ

第二話
Ⓟ プリャーモ
Ⓜ リリス・ファウ

PLACE & MEETING



第三話
Ⓟ プリャーモ郊外
Ⓜ ギャブレット・ギャブレー

第四話
Ⓟ プリャーモ（アマン銀行）
Ⓜ アマン銀行頭取

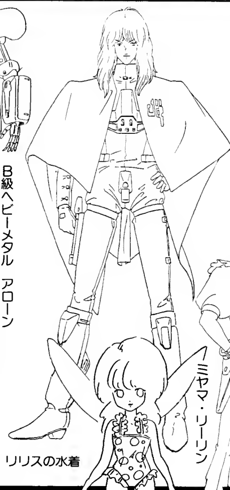


第五話
Ⓟ プリャーモ 宇宙港
Ⓜ トランスポーター船長

第三話「カミング・マン」

プリャーモの近くで休息、メカの整備をするダバたちの前に、一人の男があらわれた。故郷の期待を一身に受け、正規軍入隊をこころざすギャブレット・ギャブレーだ。妖精を嫌う彼は、ちょうどそのころ一行を襲った盗賊団に目をつけ、妖精をかばうダバに一泡吹かせてやろうと画策する。ダバから奪った百万ギーンの手形をエサに盗賊団を味方したギャブレーは、アローンを駆って攻撃！ エルガイムも応戦する。しかし、ギャブレーを好ましく思わない者がいた。盗賊のひとり、ハッシャ・モッシャだ。ハッシャは頭目のリーリンに不信感を抱き、暗殺した。そのため志気のおちた盗賊団は撤退を余儀なくされた。そして、盗賊団の新しい頭目にはリーリンの遺言どおりギャブレーがなった。

一方、手形はダバのもとにもどっていた。いうまでもないリリスの活躍であった。

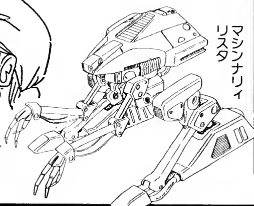


ギャブレット・ギャブレー

B級ヘビーメタル アローン

ミヤマ・リーリン

リリスの水着



マシンナリィ リスタ

盗賊

CHECK POINT③
リーリン「私には一人娘がいる。捜して私のことを……伝えて……欲しい」 ←二四話
※シナリオ上でのみ使われ、本編ではでてきませんでした。

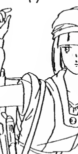
第四話「ザ・コネクション」

ダバたち一行は、アマンダラの経営するプリャーモの銀行を訪れる。手形をとりもどそうとする行員に捕えられかかる……が、アムの機転で脱出。アムとキャオをオトリにしてダバは銀行の頭取に迫り、アマンダラとの面会をとりつける。

手形にふりまわされている……自分の行動に疑問を抱いたダバは、正規軍入隊をあせるキャオに手形を盗ませてみる。だが、そこにアマンダラと接触し、正規軍入隊をとりつけたギャブレーがあらわれ、ダバを襲う。何機ものマシンナリイに対してエルガイム一機。戦力差は歴然としている。窮地におちいったダバを救ったのは、入隊に失敗して戻ってきたキャオだった……。



アローン



銀行員

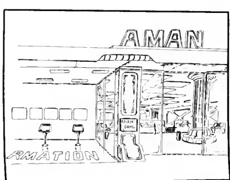


エイマン

アマンダラ・カマンダラ

グライア

ファンネリア・アム

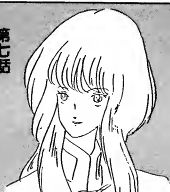


アマン銀行

PICK UP WORDS
キャオが手形を奪って逃げたことを知り、焦燥するアムに
ダバ「オレは手形にふりまわされているだけの男なのか…ためしてみたいんだ」

重戦機エルガイム L.GAIM

第六話 輸送船(トランスポーター)ミズン星へ ガウ・ハ・レッシィ
Ⓜ Ⓟ



第七話 輸送船(トランスポーター)ミズン星突入 ステラ・コバン
Ⓜ Ⓟ



第五話 「エスケープ・ラン」

アマンダラ邸を訪ねたダバ達一行。しかし、アマンダラはミズン星へ発ったあとだった。直接手形を渡し、死んだ男への信義をつらぬくと決めているダバは、ミズン星まで追っていくことを決心する。だが、厳しい規則のために宇宙港では乗船を拒否され、宇宙船ジャックを決めこむ。

一方、正規軍仕官を望むキャオは、狙った宇宙船が軍用輸送船と知り猛反対。ふたりと別れ、仕官のネクタイでダバの計画をギャブレーに密告する。すでに正規軍軍人になっていたギャブレーは、ダバの宇宙船ジャックを阻止し、手柄をたてんがため攻撃！　戦いの中、キャオの合流もあって宇宙船は発進、エルガイムもそれにつかまり脱出する。

だが宇宙船には十三人衆のひとり、ガウ・ハ・レッシイが乗りこんでいた……。

PICK UP WORDS
宇宙船ジャックを決意し、
ダバ「オレは自分でも、自分の人生を見てみたくなったのさ」











第六話 「シー・ジャック」

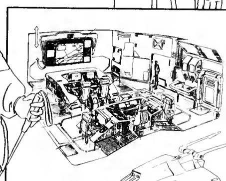
とりあえず宇宙船ジャックに成功したダバたち一行。だが船内に潜入していた軍人、レッシイとの撃ち合いや、ミズンへの進路変更を拒否する船長のおかげで、コトはなかなかうまく進まない。さらに、パトロール艇を破壊したために、現在位置まで知られ、ギャブレーの攻撃をうける。初めての宇宙戦に戸惑うダバ！

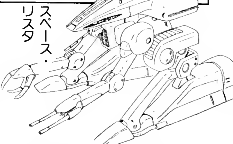
一方、船内に侵入した追撃隊が重力制御装置を利用してレッシイを脱出させた。彼女は宇宙戦まっ最中のエルガイムを船の主砲で狙う……だが、リリスの活躍で砲撃はエルガイムをはずれ、ダバは窮地を脱した。

だが、レッシイの送った通信によって、ミズンへの航路は次々と閉鎖されつつあった……。

PICK UP WORDS
シージャックした身でありながら
ダバ「船長、プログラムの変更お願いします」
船長「お願いしますだと……ん!?」





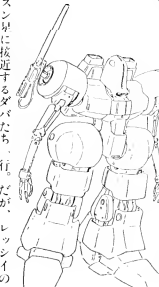




第七話 「スクランブル」

ミズン星に接近するダバたち一行。だが、レッシイの通信によって迎撃されることは必至だ。彼らはレッシイの立場を利用して一芝居打った。――ミズン基地司令はまんまとだまされ、一行を追撃してきたギャブレーとの両面作戦を拒否。着陸許可をだす。しかし、それは罠だった。受け入れると見せかけ、攻撃を開始したのだ。軍人の誇りにかけて船を守ろうとするレッシイ。そこにギャブレーの追撃もあって戦闘を余儀なくされる。レッシイは軍人として生きるため、アム、キャオを捕え、エルガイムで戦うダバに主砲の照準をあわせる……だがレッシイには撃てなかった。いつしかダバに魅せられていたのだ。そんな一行を危機から救ったのは謎の男、ステラ・コバンだった。

PICK UP WORDS
ミズンベース司会をだましたレッシイに
ダバ「ありがとう」
レッシイ「ありがとう……か。軍では聞けないセリフだな……」







PLACE & MEETING

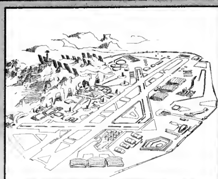
Ⓜ Ⓟ **第八話**
ミズン
シェラ・リーフ

Ⓜアマンダラ・カマンダラ

Ⓟ **第九話**
ミズン・ベース







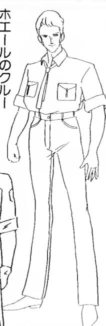
第八話「ヤーマン・クラン」

ダバたち一行を救ったステラ・コバンはポセイダル軍に敵対する勢力だった。そのうえ一行が捜し求めるアマンダラの居場所を知っていたのだ。ステラの部下、リーフに案内されアマンダラの大型宇宙ヨットを訪ね、手形を渡したダバは、アマンダラからの謝礼の申し出を断わる。彼にとって金持ちが暇を持て余してゲームをやっているような感覚が許せなかったのだ。

一方、ギャブレーは、軍にもどったレッシィを連れ一行の行方を捜していた。そこへ、アマンダラのもとをひとり出たダバが正規軍の傍若無人なふるまいに、いさかいを起こした……との連絡がはいる。勇んで駆けつけたギャブレーの攻撃。だが、ダバの身を案じて合流したアムらの協力もあってギャブレーを追いはらう。だが、戦いの中、リーフが正規軍に連れさられてしまった……。

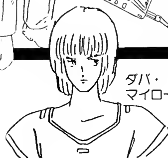








メモリー・コミニュケーター

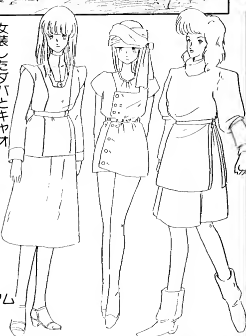


CHECK POINT ④

壊滅したヤーマンの村を見て、
リーフ「こんな村はミズンのあちこちにありますよ。ポセイダルは、特にヤーマン族に対する畏怖心が強かったんですよ」
←一三話

ダバ一行を見送って
アマンダラ「あの三人、私のまっていた若者かもしれん……」
←五四話

第九話「アーミィ・ベース」











捕まったリーフを助けだすためミズンベースに潜入するダバたち一行。もちろん厳しい警備の目をかいくぐるため女装までしてだ。コックを脅し監獄の場所を聞きだす一行。だが、それに気づいたレッシィがあとを追っていた。そのころ、軍の腐廃に嫌気のさしたギャブレーは、コアムから赴任したチャイに進言……逆に、軍のしきたりを重んじるチャイに罵倒され、躍起にはってリーフを拷問していた。反乱軍の本拠を吐かせようというのだ。そこへダバ一行が出現、リーフを救出。ダバの協力者となる決心をしたレッシィの援護を得て脱出する。しかし、リーフの身体には軍の発信器が仕掛けられていた！ ギャブレー隊が反乱軍本拠を襲う！ エルガイムは、反乱軍兵士の協力もあって、正規軍をしりぞける。だが、ダバの心のなかでなにかが変わりつつあった……。

PICK UP WORDS

正規軍スパイではないことを証明するため、髪を切ったレッシイに
ダバ「信じよう……
ガウ・ハ・レッシイ」

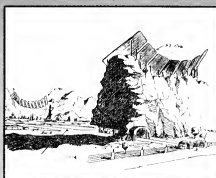
重戦機エルガイム L.GAIM

第十話 反乱軍本拠



Ⓟ第十話 反乱軍本拠

第十一話 ミノト港・クイーンアミ号



Ⓟ第十一話 ミノト港・クイーンアミ号

第一〇話「タイム・リミット」

傭兵料はいらないというダバたち一同に不審感をいだくステラは、アムをていのいい人質にとり、アマンダラのところで武器調達確認をおこなうよう命じる。期限は一日だ。二人はロージナの街へ急いだ。しかし、途中で軍のチェック――レッシィの機転で突破し、アマンダラのもとで武器の受け渡しを完了する。そのころ、アマンダラは停泊させていた宇宙ヨット ホエールをポセイダル軍に発見され窮地におちいる。ダバはアマンダラが嫌いだった。だがポセイダルと戦うためには必要な人間だと判断。ホエール救出に向かう。その間にも期限は刻々とすぎる。ギャブレーとの戦いのなか、ダバはホエールを脱出させみずからもアムのもとへ急いだ！

一方、反乱軍本拠ではアム処刑の準備が整えられていた。約束の時間を半日すぎてもダバは帰ってこないのだ。その時、エルガイムが帰還！ アムはダバの胸に……。

CHECK POINT⑤

アマンダラ「自分たちの存在が、ポセイダルに絶対必要な存在であるといえない状態にある」

ダバ「あなたは本当に死の商人なんですね」

アマンダラ「――私はポセイダル軍からしか、金はもらっていないよ」

⬅五三話

第一一話「ジェラシー・ゲーム」

正規軍をふりきってリトルセイへ到着する反乱軍の一行。しかし、戦闘を続けていくための武器はなかった。ダバたちはアマンダラから調達された武器を受けとるためミノト港に向かう。だが、それを察知し、ネイの許可を受けたギャブレーが武器運搬船をとりおさえていた。様子を見にいったアムとレッシィが捕えられ、仲間を呼び出せと責められる。その時、エルガイムを出動させたダバが攻撃を開始。アムらはそれに乗じて脱出する。だが、ダバの前にオージェを駆るネイが現われた。その圧倒的な強さにたじろぐダバ。アムがランドブースターで援護する……が、まったく役にたたない。そんなダバを救ったのは、とっさに運搬船を奪い、ネイの部下を捕虜にしたレッシィの機転だった。

PICK UP WORDS

レッシィとの対峙のすえ、引き揚げるネイ。なぜ……と問うギャブレーに、

ネイ「女どうしの話があった。男のお前が口にすることか」

PLACE & MEETING

第二二話
Ⓟリトル・セイ
Ⓜネイ・モー・ハン



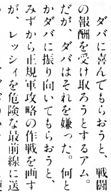
第二三話
Ⓟリトル・セイ～ミズン星衛星軌道上
Ⓜキャボット・ササ



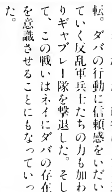
第二二話「ディコイ・ディコイ」

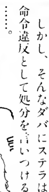
ダバに喜んでもらおうと、戦闘の報酬を受け取ろうとするアム。だが、ダバはそれを嫌った。何とかダバに振り向いてもらおうと、みずから正規軍攻略の作戦を画すが、レッシィを危険な最前線に送ってしまい、ダバの心をさらに硬くしてしまう。だが、反乱軍のつかんだ情報はネイの放った罠だった。攻撃のため戦力の手薄になった反乱軍キャンプをギャブレーのアローンが襲った。自分の焦りが思わぬ事態を招いたことに、重圧を感じるアム。それを救ったのはダバと、前線から引き返してきたレッシィだった。形勢は一気に逆転。ダバの行動に信頼感をいだいていく反乱軍兵士たちの力も加わりギャブレー隊を撃退した。そして、この戦いはネイにダバの存在を意識させることにもなっていった。

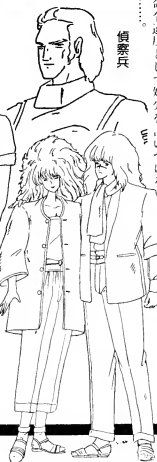
しかし、そんなダバにステラは命令違反として処分を言いつける……。


一般反乱兵たち


ダバ・マイロード


農民服のネイとギャブレー




偵察兵

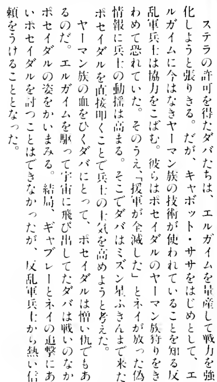

ステラの側近

PICK UP WORDS
レッシィ「女の生きがいは、殿方に命をかけることよ」

第二三話「コンタクト」

ステラの許可を得たダバたちは、エルガイムを量産して戦力を強化しようと張りきる。だが、キャボット・ササをはじめとして、エルガイムに今はなきヤーマン族の技術が使われていることを知る反乱軍兵士は協力をこばむ。彼らはポセイダルのヤーマン族狩りをきわめて恐れていた。そのうえ「援軍が全滅した」とネイが放った偽情報に兵士の動揺は高まる。そこでダバはミズン星ふきんまで来たポセイダルを直接叩くことで兵士の士気を高めようと考えた。

ヤーマン族の血をひくダバにとって、ポセイダルは憎い仇でもあるのだ。エルガイムを駆って宇宙に飛び出してたダバは戦いのなか、ポセイダルの姿をかいまみる。結局、ギャブレーとネイの追撃にあいポセイダルを討つことはできなかったが、反乱軍兵士から熱い信頼をうけることとなった。

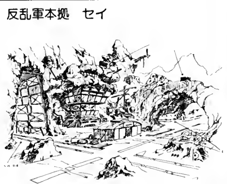

ダバ・ハッサー






幼いころのダバ・マイロード

反乱軍本拠　セイ



CHECK POINT⑥
ダバ・ハッサー「同志を集めろ、ポセイダルの世を嫌っている人を集めて――。正規軍に入って出世し、ポセイダルに近づくという手もあるが、やめたほうがいい。ポセイダルは人を堕落させることしか考えていないヤツだ」
キャボット・ササ「ダバ・マイロードは、ひょっとするとカモン家の忘れ形見か」

←三〇話

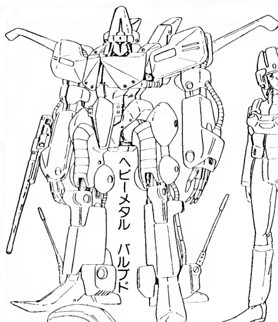
第一四話

Ⓟミズン星衛星軌道上、戦艦エイブ
Ⓜオルドナ・ポセイダル



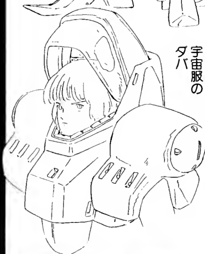
第一四話 「レディ・ポセイダル」

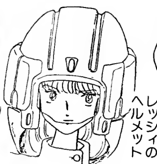
反乱軍は孤立したままで、戦況は非常に苦しいものだった。だが、そんな中でリーダーであるステラは、金貨をばらまき兵士の士気高揚のみに専念、ポセイダルを討たねばならないと提案するダバの意見に耳も貸そうとはしない。業を煮やしたダバは単独作戦に踏みきり宇宙へと発進していく。近衛部隊の攻撃をかわし、レッシィの持つデータをもとに戦艦エイブに潜入したダバは、遂にオルドナ・ポセイダルに会いまみえる。ヤーマン族の仇と迫るダバ。だがポセイダルは立体映像だった。やりきれない思いでエイブを脱出するダバ。しかし、味方の宇宙船は破壊されていた。ネイの別動隊が現れたのだ。もう帰るすべはないのか？ そんな時、ミズンからステラの送った援護隊が上昇してきた……。

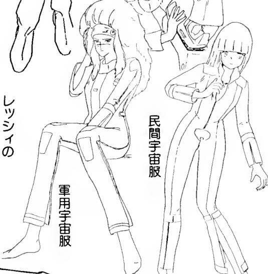

ヘビーメタル バルブド

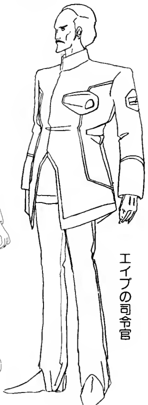

キャオの戦闘服


アムの戦闘服


宇宙服のダバ

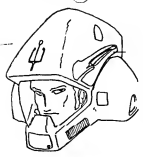

レッシィのヘルメット

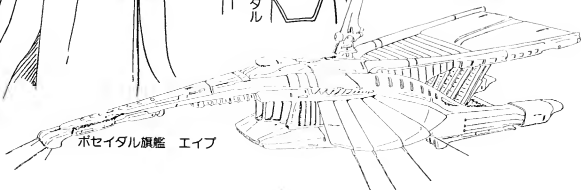

民間宇宙服
軍用宇宙服


エイブの司令官




オルドナ・ポセイダル


バルブドのパイロット


ポセイダル旗艦 エイブ

CHECK POINT ⑦
ヤーマン族の仇とポセイダルを狙うダバに、
ポセイダル「ヤーマン族の絶滅は、私の意志ではない」

←五三話

PLACE & MEETING

第一五話
Ⓟ リトル・セイ


リトル・セイ 独房

第一六話
Ⓟ リトル・セイ

第一七話
Ⓟ リトル・セイ
↓
アステロイド
Ⓜ フル・フラット



第一五話「プライド」

チャイの放った工作員の手によって、キャオがスパイだと疑われはじめる。プライドを傷つけられたキャオはリトル・セイを離れチャイと接触、ステラの首と正規軍志官を交換条件として提示され、ステラ暗殺のためダバたちのもとへ帰る。だが、それがダバをうとましく思うステラにつけいるすきを与えてしまい、二人は監禁される。その時、チャイの基地奪回作戦が始まり、二人は壊れた牢を脱出、キャオはダバの説得により改心、出撃する。一方、ギワザを出し抜こうとするチャイは援護に駆けつけたキャブレー、ネイに手出しをさせない。だが、ついにはキャオの体当りをくらって戦死した。

チャイの戦闘服

ネイのガウン姿

スパイ

衛生兵

金貨

フロッサー・ミニ

ヘビーメタル デイザード

PICK UP WORDS
アム「やっぱりメカマンね」
キャオ「あれ、いまごろ気がついたの？」
アム「あーら、知らなかったの、あんただけじゃない」

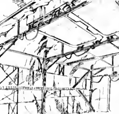
第一六話「ブロークン・ハート」

前回の戦闘で重傷をおったステラに見切りをつけ、次々と離散していく反乱軍兵士たち。焦ったステラは金をはたいて強行作戦を計画する。それに対しダバは冷静だった――いや、いつ誰が死ぬかわからぬ状況だからこそ、レッシィや自分の技術を伝えておかねばならないという、それも焦りだったのかもしれなかった。そんなダバにギャオは反発する。だが、ダバの想いを知り、キャオは、そしてて反乱軍兵士はダバを中心に結束を固めリトル・セイを出てギャブレー隊に総力戦を挑む。だが、それは囮であった。手薄になったリトル・セイをネイが強襲。急ぎ引き返す反乱軍、ダバのエルガイムはオージエに追い詰められる。その時、自分のプライドを掛けたステラが死をもって正規軍を追い払った。だが、リトル・セイはすでに廃墟と化していた……。

兵士A・B

ヘルメット

PICK UP WORDS
ステラ「私の一言の方が兵を動かす時代となったのか…ダバ・マイロード」


リトル・セイ格納庫

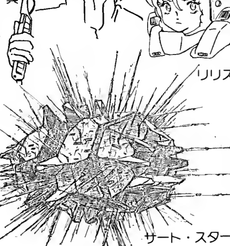

壊滅したリトル・セイ

第一七話「ライム・ライト」

リトル・セイを掃討するギャブレー隊。戦力の大半を失った反乱軍は、そのなかをちりぢりになって脱出する。アムとレッシィは、反乱軍再編成のために別行動をとることを決意。ガストガルに向けて発進するダバの艦には乗りこまなかった……だが突然、艦が進路を変えた。潜かに艦に乗りこんでいたレッシィの手によるもの――ダバを想う心のあらわれだった。その時、遊撃隊 スレンダースカラの作戦参謀となったギャブレーが攻撃を仕掛けてきた。戦いのなか、アムがいかに大切な役割りを果していたかを思い知らされた一行は、追撃をさけて小惑星帯に逃げこむ。だが、そこはサートスターの勢力圏。ダバたちはフル・フラットの呼びかけに応じ、サートスターへと接近した……。

キャオの工具

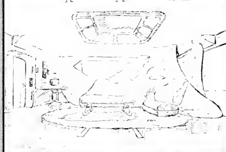

リリス


サート・スター


フル・フラット

重戦機エルガイム L.GAIM

第一八話
Ⓟ サート・スター→ガストガル（スヴエート）
Ⓜ パメラ・ヒロレージ



第一九話
Ⓟ 宇宙空間（ガストガル→バラータ・スター）

第一八話 「ガストガル・デモ」

ダバたちはサートスターにかくまわれた。女領主フル・フラットはダバに、ポセイダルへの反逆をやめてこの星で静かに暮らせと言う。だが、その真意をダバには掴むことができなかった。

一方、アムの件でダバに嫌われた……と自己嫌悪に陥ったレッシィは、ダバがギャブレーの放った刺客、パメラをとりおさえるすきに、アムを捜しにミズンへ向かおうと艦を始動させる。だが、それに気づいて追ってきたダバらを乗せ、艦はサートスターを後にした。ギャブレーの追撃をふりきりガストガルを目指す一行は、隕石に隠れて首都スヴェートに接近。その象徴ともいえるポセイダル象に一矢むくいる。だが、首都警備隊のため退路を断たれる。絶対絶命。と、突然、正規軍艦が爆発を始めた。上空にターナを手に入れたアムがあらわれたのだ……。

警備兵

ヘビーメタル アシュラ・テンプル

ヘビーメタル ベアズ

パメラ・ヒロレージ

フラットのバスローブ

PICK UP WORDS
ダバ「ギャブレーに刃物って、ことわざができたね」

第一九話 「ゴー・アンド・カム」

グルグルからターナに移乗するダバ一行。ターナはアムがアマンダラの協力を得て手に入れた船だった。アムとの再会を喜ぶのもつかの間、正規軍のパトロール艇がターナに迫る。迎撃に出るダバのエルガイム。だが元盗賊の一人ハッシャ・モッシャが手伝うのか邪魔をするのかわからぬ様子。かろうじてパトロール艇を追いはらうが、ギャブレーにダバらの所在が知られてしまう。アシュラテンプルを駆り攻撃するギャブレー。ダバもエルガイムで迎え撃つ。その頃、ターナではハッシャが反乱を起こし、降伏信号をあげる。だが、受け入れられず、覚悟を決めたハッシャはアムらを開放。自ら戦いに臨んでいく……。

マルシェ

ロンペ

アロン・ゼブラ

グルグル

ヘビーメタル バッシュ

ウエイクマン

ドモ

オズケット

アノースカ

レジーナ

イレーネ・イルス

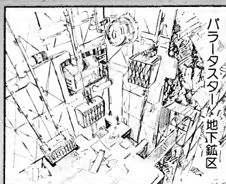
PICK UP WORDS
ギャブレー「ヘッドハンターは男の勲章だ。ネイごときにやれるものではない」

PLACE & MEETING

第二〇話
Ⓟパラータ・スター
Ⓜアジーン

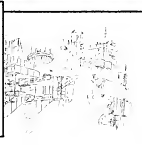


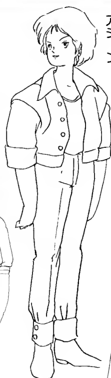
第二一話
Ⓟ宇宙空間（パラータスター→トライデトアル）

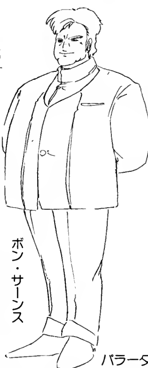

パラータスター・地下鉱区

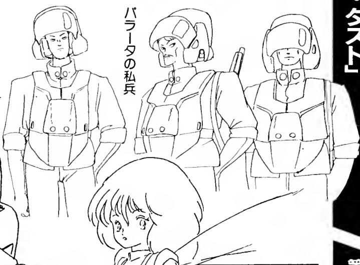
第二〇話「スター・ダスト」

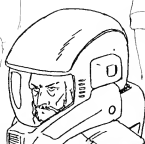
破損したエルガイムの部品を買いつけるため、ポセイダルの支配下で独自の制空圏を持つパラータスターへ向かったダバたち一行は、アマン商会の船籍を名のって入港した。その時、ダバは宇宙を漂うひとりの少年 アジーンを助ける。アジーンを迎えにパラータの警備兵が来るが、彼は帰ることを極端に嫌がる。いや、それは嫌悪よりも恐怖に近いようだった。なにかある――ダバたちはそう感じた。案の上、パラータスター側はダバたちの正体に気がついていた。警備兵に追われた一行は地下の鉱山でアジーンと再会、圧政に苦しんでいる労働者たちに蜂起をうながす。その頃パラータスターの強固な態度に業を煮やしたギャブレーが攻撃を開始。内、外、二面からの攻撃をうけパラータスターは陥落した……



パラータ・スター


アジーン



ボン・サーンス


パラータの私兵


パラータの宇宙服

PICK UP WORDS
ダバ「俺は自分の人生を見るまでは、ひとりぼっちでも淋しくはない」

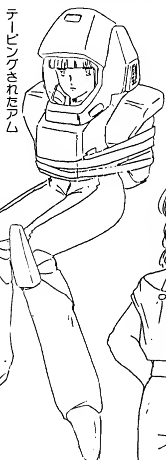
第二一話「ザ・テンション」

ハッシャはパラータスターの賞金首リストを見てダバたちを値踏みしていた。

宇宙を逃げまわるばかりの生活に嫌気がさしての行動だった。かくしてハッシャはアムを捕え、それをダシにダバをも拘束しターナを出た。ギャブレーに売りはらおうというのだ。だが、ダバは独力でスレンダースカラを脱出する。追撃するギャブレー隊。だが、その様子を冷徹に見守る目があった。合流のため接近していたネイの部隊である。手柄をあせるあまり、ネイの隊はギャブレー隊の後方からターナを狙った。追撃隊は混乱し、ついには内輪もめを起こす。その隙を突いてダバはターナを戦闘空域から離脱させる。


エプロンリリス


トレーニングウエアのギャブレー


テーピングされたアム

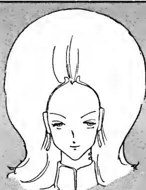

グライアのキャプテン

PICK UP WORDS
ダバ「ポセイダルは言っていたよ――軍のすべて、ペンタゴナのすべてを支配している――ってな」
ギャブレー「――うそだ！ ポセイダル様は、従う者には自由を与えてくれる――」

重戦機エルガイム L.GAIM

第二二話

Ⓟ宇宙空間（パラータスター
——→トライデトアル）
Ⓜクワサイ・オリビー

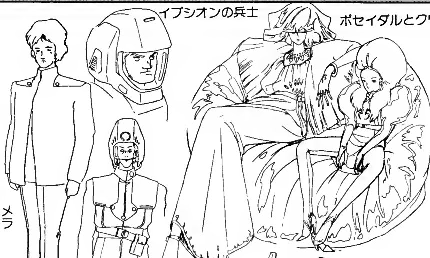


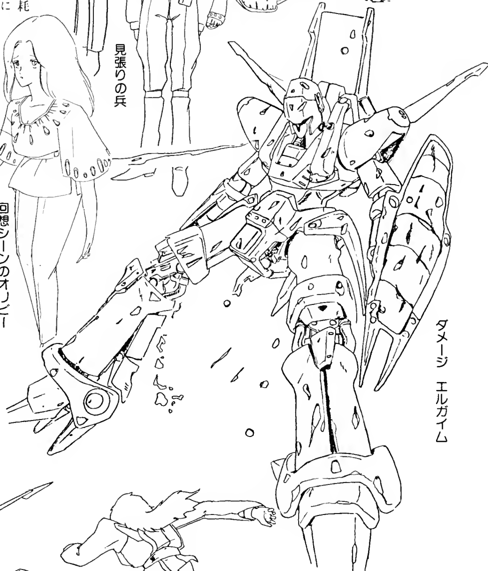
Ⓜリョクレイ・ロン



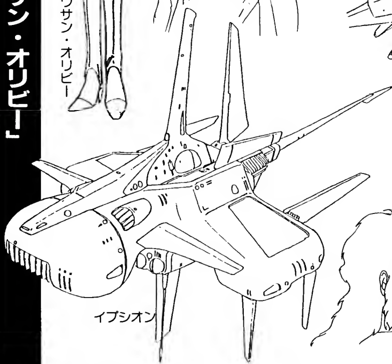
第二二話 「クワサン・オリビー」

ターナは商船イプシオンと接触する。消耗した物資を買いつけるためだ。だが、ダバにとって目的はそれだけではなくなった。イプシオンからの通信映像に、盗賊に誘拐されたはずの義理の妹、クワサン・オリビーの姿があったのだ。一行は勇躍イプシオンに乗りこむ。ところが、イプシオンはポセイダルのエ作船、ヤーマン狩りのための船だった。オリビーはヤーマンに対して鋭いカンを備えていたのだ。そのためダバも捕えられてしまう。クワサンの記憶を呼びもどそうとダバはコアムの歌を口ずさんだ。イプシオンのコアム人たちも歌いはじめる。艦長、リョクレイへの反抗の印だった。その時、オリビーに変化が……オリビーもその歌を歌っている。反乱を起こした兵たちの協力もあってダバは脱出する。だがオリビーのことが、なにより気になるダバだった……。











PICK UP WORDS
ダバ「ポセイダルがペンタゴナを支配する以前は、一つの星にも国家にも歌があったというのに……」

PLACE & MEETING

第二三話
Ⓟ トライデトアル星
Ⓜ マレーニキ
クロソ



第二四話
ⓂⓅ トライデトアル星
ミヤマ・アスフィー

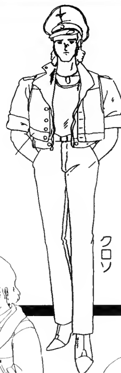


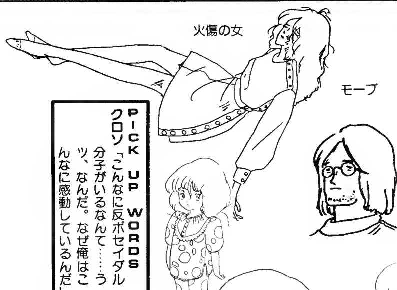
第二五話
Ⓟ トライデトアル星
Ⓜ バグザール
チェック・ソーロック



第二三話 「ゼネラル・クロソ」

トライデトアル星に到着するターナ。そのマレーニキの街で、ダバ一行は反乱軍の英雄、クロソ将軍と間違えられる。いったんはクロソになりますが、目前に本物のクロソがあらわれる。だが、クロソ自身がネイの放ったスパイだった。マレーニキに潜入したといわれるポセイダルの工作員を牽制するために放ったのだ。ところが、クロソはマレーニキの反ポセイダル分子の数に驚き、自分自身の生きざまに疑問を持つ。ダバは、クロソをそのまま将軍として行動させる。市民の心の支えとするためだ。その時ネイのオージェが攻撃を仕掛けてきた。マレーニキの掃討が目的だった。クロソは反乱軍の兵士として戦った。そして、彼はオージェに追い詰められたエルガイムをかばって戦死。ダバの心にやりきれない怒りがこみあげる……。





PICK UP WORDS
クロソ「こんなに反ポセイダル分子がいるなんて……うツ、なんだ。なぜ俺はこんなに感動しているんだ」

第二四話 「アスフィー・ハート」

ヘビーメタル「パードナー」がターナを襲う。それを操るのはダバを母の仇と狙う少女、ミヤマ・アスフィーだった。女盗賊リーリンの娘である彼女は、本当の仇、ハッシャにだまされていたのだ。ダバには彼女を撃つことはできなかった。いや、それ以上に彼女の復讐をあきらめさせたかった。血の因縁に運命を支配されるのは自分だけで充分だったからだ。しかし、アスフィーはターナに乗りこみ、ダバが仇でない証拠を見せろと迫る。だが、ダバの説得に折れ、ターナを出る。その時、ギャブレー隊が現れた。アスフィーも戦列に加わる。ハッシャがアスフィーもろともダバを狙う。窮地を救われダバの心を知るアスフィーだった……。

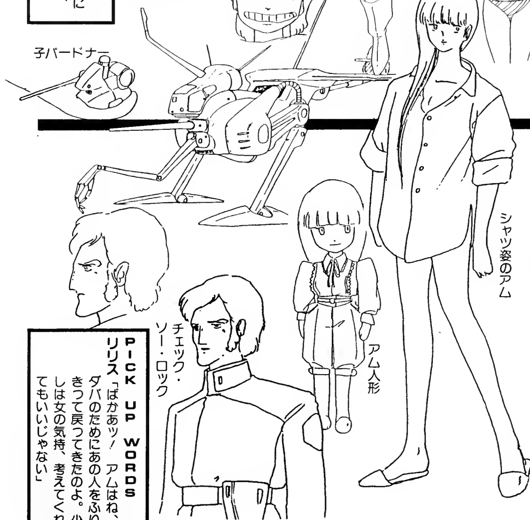


PICK UP WORDS
アスフィー「あぶなくなると、人はウソをいう」
信じろというダバに

第二五話 「ラブ・アゲイン」

買出しにでて正規軍に追い詰められたアムを救ったのは、彼女が劇団時代の恋人チェックだった。チェックは正規軍士官になった今もアムのことを想いつづけていた。だが、ダバのことが気にかかるアムはチェックに別れを告げる。

実のところ、チェックはネイのスパイであった。ダバの居場所を探しだすための。だが、ネイがアムに発信器をつけたことを聞き、踊らされていたことを知る。そして発進したネイをバルブドで追う。だが、チェックは、不用とののしられターナを飛び出したアムと再会するが、今のアムにチェックはなんの意味も持たない男だった。アムはチェックと決別、ネイに襲われるダバを救うためディザートで発進する。チェックのバルブドがオージェを襲う……が返り討ちに——その時、偶然オージェのマスクをやぶり、撃退した。だが、アムにとってこれほど悲しい体験はなかった……。



PICK UP WORDS
リリス「ばかあッ！　アムはね、ダバのためにあの人をふりきって戻ってきたのよ。少しは女の気持、考えてくれてもいいじゃない」

重戦機エルガイム L.GAIM



第二七話
Ⓟトライデトアル荒野



第二六話
Ⓟトライデトアル星トヴァの街
Ⓜイレーネ

PICK UP WORDS
イレーネに、
ダバ「ボクがアムを大切に思っているくらいに、ギャブレーがあなたを大切に思っていなければ、あなたを見殺しにするだろうな」

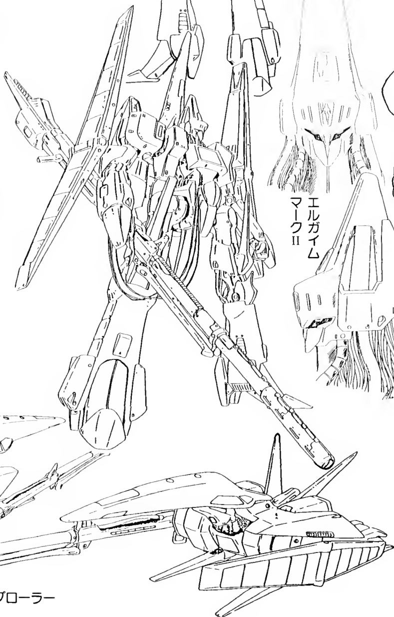
第二六話「サーチ・II」

突然、ダバが四十度の熱を出して倒れた。手のうちようのないアムたちは、ターナを着陸させ医者を捜す。だが、出会った医者はのんだくれで、どうもうさんくさい。案の定ギャブレーに通報していた。引き渡されるはずの新型H・Mスタックの実戦テストを兼ねてダバたちを包囲するギャブレー。敵のグライアを奪ってダバとロンペを逃がしたキャオは、二人がターナにつくまでのおとりを演じるが捕えられる。ダバは高熱をおしてエルガイムを発進させ、キャオを救いに向かう。だがギャブレーはキャオの後を追ったアムを人質にしてダバに降服を迫る。だがアムは隙をついて脱出。ダバもそれを機に脱出。キャオはスタックを奪った。スタックに、エルガイムMk II の姿を見たのだった。



第二七話「ミステイク・ラブ」

磁気嵐の中、スレンダースカラに追われるターナ。レッシィはそんな中自分が女を捨てようとしているのではないか?……という焦燥感を持つようになる。それは、アロン・ジェブラに女らしさを問われたことに端を発した。レッツィは自分の迷いを断ち切るためにディザートで発進する。そしてギャブレーと出会い撃ち落とす。レッシィは傷ついたギャブレーを発見、無事にスレンダースカラへ帰す。だが、それが焦燥感をつのらせレッシィは見よう見まねで料理をする。女でありたいと思っての行動だった。そんな頃、アロンがハッシャの部下に捕えられダバがMk IIで発進する。レッシィにも出撃要請がくる。だが、レッシィはダバに続かなかった。そんなレッシィにアムは土下座して頼む。自分では戦力にならないから、ダバを救って欲しいと。レッシィは自分の気持ちをふっ切るように戦場へ飛び出した。



PICK UP WORDS
ギャブレー「レッシィはマシーンになじみすぎていると いうのだ!」

PLACE & MEETING

第二八話
Ⓟ トライデトアル星
ルマーナ村
Ⓜ セムージュ・シャト



第二九話
Ⓟ トライデトアル星
反乱軍本拠

第三〇話
Ⓟ トライデトアル星
反乱軍本拠
Ⓜ ウィーク



第二八話「ネイ・クライシス」

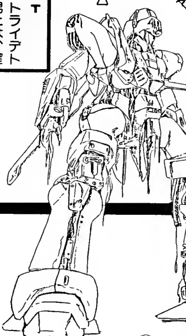
ギャブレーはセムージュ以下の反乱軍を追いまわす。ダバたちをおびき出す作戦なのだ。かくしてエルガイムが飛来、ギャブレーはアシュラ・テンプルを自爆させエルガイムを損傷させる。そして、脱出したギャブレーはターナに潜入する。一方、ギワザは自分の立場が変化したことを知る。クワサンの近衛昇格がその好例だ。ギワザの身を案じるネイは、彼のため反乱軍撃滅に出撃。ディザートを駆るダバと刃を交える。だがB級H・M、ディザートは非力だ。ダバはリモコンで投入されたMk IIに乗りうつり、オージェを退散させる。

そこに、セムージュ・シャトを中心とする反乱軍が姿を現し、ターナとの合流を申し出る。ダバはそれを喜んで受け入れた。反乱軍の戦力は序々に拡大し始めていたのだ……。





セムージュ・シャト



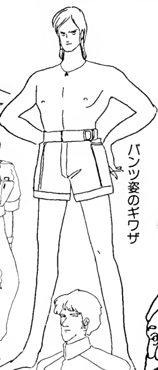
ブロークン・エルガイム

CHECK POINT
ギワザ「ポセイダルがトライデトアルに派遣した男とは、確かにいるらしい」 ←四〇話

第二九話「クロス・ポイント」

セムージュの率いる反乱軍と合流したダバたちだが、馴れない団体行動にチームワークが乱れる。特に英雄視されるダバに気苦労は大きかった。レッシィは、そんなダバの未来を案じ、自分が反乱軍を離れることで統率の回復を計ろうとし、みずから悪役的振舞いをする。そこへいつも邪魔になるギャブレーを率いずにネイが攻撃を仕掛ける。ダバはMk IIで出撃、レッシィもディザートで出る。だが、二機がかりでもネイのオージェには力及ばない。その時、セムージュの駆るエルガイムが出現、オージェを追い払う。

帰環するMk II、エルガイム。だがレッシィはダバのもとを離れてアマンダラの船、ホエールへと乗り込んでいった。しかし、ダバにはレッシィの真意がつかめてはいなかった。



パンツ姿のギワザ




兵士



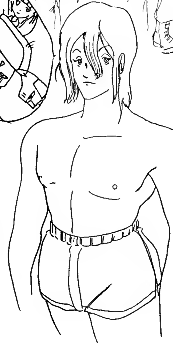
リリスの水着



老人




ドレス姿のパメラ

通信兵

キャオのパンツ姿

PICK UP WORDS
セムージュ「武器の供給なら、配することはない。力なバックアップはる」 ←三二

重戦機エルガイム L.GAIM

第三一話
Ⓟトライデトアル星
反乱軍兵器基地
Ⓜイッカ・ハミルトン



第三二話
Ⓟトライデトアル星
ふきんの宇宙空間

第三〇話「アワ・マスター」

ダバをしたって続々と集結する反乱軍兵士。セムージュはこの機会にギワザ艦隊を撃つことを勧める。だが、その言葉に自分を利用して反乱軍の力を強めようとする思惑を察したダバは、今になって、やっとレッシイの心使いがわかりつつあった。そんなダバの慎重な態度に業を煮やしたセムージュ以下の反乱軍は出撃していく。だが、先鋒で発進したギワザの正規軍と交戦。ネイの本隊が別行動をとっていることに気づかなかった。必死で主力の存在を知らせるダバ。しかし、一向にセムージュは聞き入れようとしない。ダバはMkIIで発進、自分しかダバのことを思ってやれないと考えるアムがあとを追い、ネイの本隊を後退させる。ダバの戦い方を理解したセムージュはダバを主としてつかえることを誓った。

一方ギャブレーはギワザの命令を破り、レッシイを捜し始めていた。

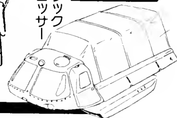
PICK UP WORDS
セムージュ「ダバ・マイロード殿 私はきょうからあなたを主として仕えます」



ギワザの部下



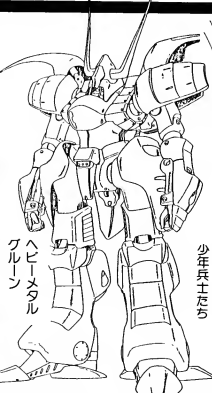
ギワザの略式戦闘服



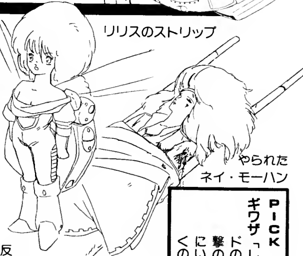
トラックフロッサー

第三一話「キャッチ・ウォー」

ギャブレーはギワザに呼び出されていた。さきの攻撃で戦闘に参加しなかったことに嫌疑の目を向けられていたのだ。ギワザはギャブレーに反乱軍攻撃の先鋒を言いつけた。だが、その情報は即、ダバのもとへ入った。反乱軍兵士、イッカの兄、マザンがスパイとしてギワザ艦に潜入、命掛けで送信したのだった。だが、そんな自分の命をみすみす捨てるような作戦を、ダバは嫌悪した。自分をしたって集まった兵士たちは、死なせたくはない。ダバをリーダーとしての重圧が責める。だが、戦いはそんなダバを容赦なく戦場に誘う。ギワザ艦隊が大気圏内に突入したのだ。先鋒は、ギワザを想うネイが、ギャブレーにとって代わっていた。MkIIで発進したダバは、部下をかばいながら戦う、初めての指揮に恐れながらも！ そして、ついにバスター・ランチャーの閃光がギワザの艦を貫き、ギワザ隊を後退させた……。



ヘビーメタル グルーン



リリスのストリップ

やられたネイ・モーハン

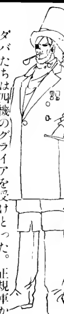
反乱軍の少年兵士たち

PICK UP WORDS
ギワザ「しかし、ダバ・マイロードのいるところが、常に攻撃のポイントというのは気にいらんな……奴は私をひくのか？」

第三二話「フラッシング・ネイ」

ダバたちは四機のグライアを受けとった。正規軍からだ。正規軍の中にも"奪われた"と称して反乱軍に協力する者は数多いのだ。そのころ、セムージュは独自に四隻の戦艦を手に入れようとしていた。ダバが入手経路を知れば拒否するに違いないと考えたのだ。だが、それにアマンダラの気配を感じたダバは、ターナでセムージュを追う。

一方、ネイの部隊は反乱軍の戦艦受け渡しの情報を得て攻撃を開始。出現したMk・IIのため受け渡し妨害は失敗するものの、戦艦の一隻を奪って、ガストガルへ向かった。ギワザをおとしいれようとするポセイダルに、その真意を問うためだった。だが、そのころギワザは十三人衆を集める画策を始めていた。各人各様の思惑をはらんで、戦いは拡大を始めつつあった……。



民間人

戦艦のはこび屋



負傷したネイ

CHECK POINT
ダバに戦艦のおくり主の名を聞かれて
セムージュ「まわりにある戦力が、すべてあなたのものとなるのです。それでいいではありませんか」

←三三話

PLACE & MEETING

第三三話
Ⓟ宇宙空間→ミズン星
Ⓜドリンク・カフェオ



第三四話
Ⓟミズン星　衛星軌道上
Ⓜルコ・マイト

第三三話「マイ・アース」

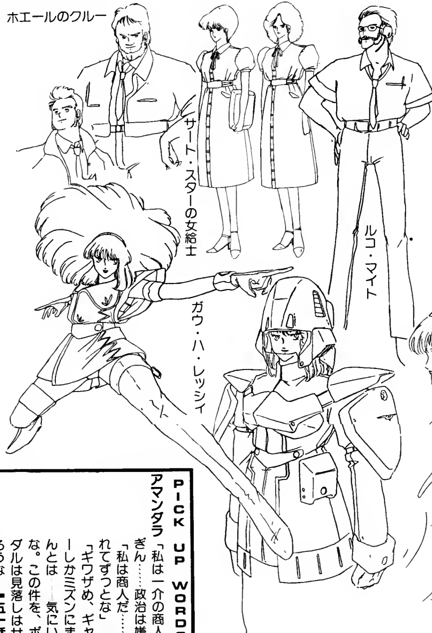
ミズン星に急ぐダバたち。だが、その前に十三人衆のワザン・ルーンの軍隊の立ち塞がった。回避したダバたちは、アステロイドを漂うアマン商会のボートを助ける。それにはアマンダラが乗っていた。ダバはアマンダラに自警軍の戦力を借して欲しいと願う。だが、アマンダラはそれを突っはねる。ダバはアマンダラに自分の決意――ヤーマン再興を告げると、ポセイダルを倒すため故郷に腰をすえる決意をかため、ミズンの大気圏へ突入していく。だが、そこに十三人衆のひとりとなったギャブレーが攻撃を仕掛ける。ギャブレーのバスター・ランチャーがMk II を狙う。その時、SLSの光が！アマン商会のホエールが放った援護だった。
ついにダバはミズンへ降り立った――かってのヤーマンの儀礼に従ってダバは大地に口づけする。そしてダバは、カモンを名乗るようになった。

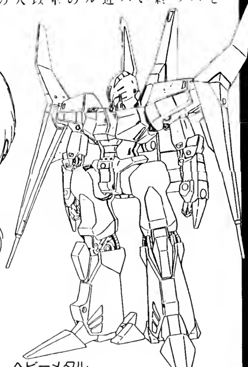




第三四話「レッシィ・マインド」

ターナを救ったホエールには、ダバのもとを去ったはずのレッシィが乗っていた。ダバが……そしてアムが面会を申し込むが、レッシィはかたくなに拒否する。彼女は戦争が終るまでダバと顔を会わさない決意をたてていたのだ。だが、アムとアロン・ゼブラはスパイラルフローで、ホエールのブリッジに接近した。そのとき、ワザンの正規軍がホエールを強襲。ギャブレーのグルーンがレッシィのヌーベル・ディザードを捕え、ホエールの牽引すら始める。だが、ギャブレーにはそれ以上の欲があった。ギャブレーはレッシィを人質に、ダバの投降を迫る。Mk IIが、そのためバスター・ランチャーを投げ捨てた。そのとき、アムがグルーンのコクピットに乱入！　浮遊するバスター・ランチャーを拾ったヌーベル・ディザードが撃つ！　ギャブレーは退却を決めこんだ。





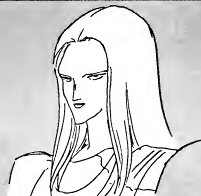
PICK UP WORDS

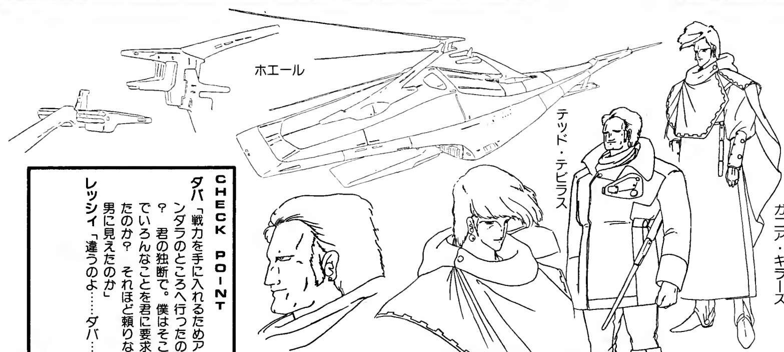
アマンダラ「私は一介の商人にすぎん……政治は嫌いだ」「私は商人だ……生まれてずっとな」「ギワザめ、ギャブレーしかミズンにまわさんとは――気にいらんな。この件を、ポセイダルは見落しはせんだろうな」⬅五一話以降

重戦機エルガイム
L.GAIM

第三四話

Ⓟミズン星　反乱軍基地
Ⓜリィリィ・ハッシー





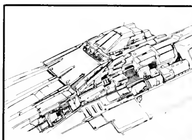
CHECK POINT

ダバ「戦力を手に入れるためアマンダラのところへ行ったのか？　君の独断で。僕はそこまでいろんなことを君に要求したのか？　それほど頼りない男に見えたのか」
レッシィ「違うのよ……ダバ…」

第三五話 「ペリル・ミッション」

ダバは疲れ果てていた。慣れない指揮、激しくなる一方の敵の攻撃、そして重い期待にそんなダバの心中を察したアムが、代理でパトロールに出る。だが、ミズンに配属されたリィリィ・ハッシーに捕えられ、まるで猫がねずみをいたぶるような拷問をうける。助けに出るというダバをセムージュが止める。彼もダバの身体を気づかっていた。彼自身が救出に行こうというのだ。だがダマは、そういうセムージュを制して出撃。グルーンをリィリィのような女に扱わせることに腹をたてたギャブレーの協力もあって、アム救出に成功する。

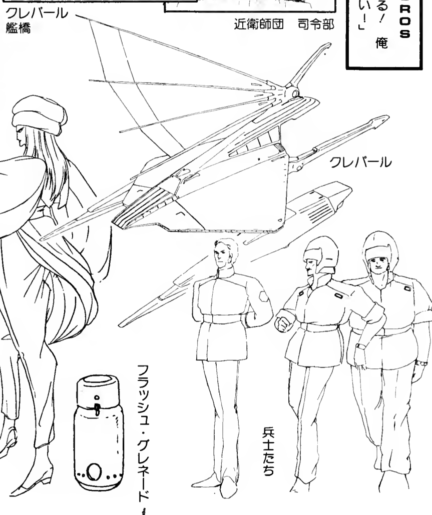
一方、反乱軍から奪った艦を駆るネイは、ガストガルへ到着。フル・フラットの情報を持ってきた……と、近衛艦隊のクワサンと接触。スヴェートのポセイダルへの諸見を申しでていた。……


クレバール
艦橋


近衛師団　司令部

PICK UP WORDS

ダバ「俺はアムを助ける！　俺も助かる！死にはしない！」



PLACE & MEETING



第三六話
Ⓟミズン星　カナール
Ⓜワザン・ルーン

第三七話
Ⓟミズン星ふきんの宇宙空間

第三八話
Ⓟミズン星——宇宙空間

第三六話「オールド・ソルジャー」

ダバは反乱軍兵士からのSOS信号をキャッチし、カナール市へと援護に向かう。そこで出会った反乱軍の老人は、自分をヤーマン族の生き残りだという。老人に今はなきダバ・ハッサーの面影を見たダバは、彼をターナへと招く。だが、この男は一三人衆のひとり、ワザン・ルーンだった。ワザンはエルガイム、Mk・IIの破壊工作を開始するが、間一髪、それを発見したリリスらの手によって妨害され、ワザンはダバと刃を交えることとなった。今どきの軍人には珍しく、ワザンは気骨な武人。ダバは敬意を表して剣をひく。だが、そこへリィリィの攻撃。ワザンは正規軍としての立場故、ダバとふたたび刃を交え、そして、散っていった……。


爆破装置

浮浪者たち

10歳のころ

ミザン・ルーン 5歳のころ

PICK UP WORDS
ダバ「半分本当のことをいうウソのほうが、本当らしく聞こえて、人をだましやすいからですよ」

第三七話「オリビー！クライシス」

ミズンの首都、カナールは、ついに反乱軍の手におちた。そんな反乱軍にオリビーからの退去勧告が入る。ポセイダル近衛艦隊がミズンに接近していたのだ。それに対してダバは、先制攻撃を決意、ターナ、ホエールが衛星軌道上まで駆けあがり、戦闘が始まる。そして、オリビーのことが気がかりなダバの前に、H・Mヘルミーナに乗ったオリビーが出現！攻撃できないダバは背後にまわり、彼女の記憶を回復させるため、むかしのことを語って聞かせる。だが、彼女にまとわりついたポセイダルの影が、そうはさせない。ダバは自分の口を噛み切った血でハンカチをぬらし、オリビーに見せる——記憶が断片的に甦え始め——その時、リィリィの攻撃——瞬間、オリビーがダバをかばう。だが突然オリビーは変調をきたし、引き揚げていった……。

一方、ギャブレーはネイを連れもどすためスヴェートに派遣された。

回想シーン スキーウェア

ヘルミーナ（カルバリー・テンプル）

PICK UP WORDS
ダバのイメージを想い浮かべて
オリビー「……なぜ、なぜお前は顔がないのだ！」

第三七話「エスケープ・ギワザ」

戦況が好転せぬことに焦りを感じるダバは、アステロイドの隕石をガストガルへ墜とすことを発案。スターダスト作戦を計画する。だが、そのためにはパラータ・スターのエネルギーが必要だ。パラータを探す間、リィリィ隊の目をひきつけておくため、ダバはターナをおとりとして発進させる。

そのころ、ギワザはポセイダルへの反乱を決意していた。自分の部下を信じられないポセイダルのやり方に、ついに自分の意志を爆発させたのだ。そして、ギワザはサートスターに向かう。それに気づいたダバは、ギワザの後を追った……。

一方、スヴェートで軟禁されていたネイは、立体映像のポセイダルに謁見。サートスターのフル・フラットが反逆を計っていることを伝えた。だが、ポセイダルは……。


反乱軍使節リーダー

ネイ・モー・ハン 礼服

ポセイダル側近の女性将校

CHECK POINT
ポセイダル「ギワザは私を実在する独裁者だと信じておらんのか？」
ネイ「そんなことは、考えておりません」
ポセイダル「……では、本気なのか……（暗然）」

重戦機エルガイム L.GAIM

第三九話
Ⓟ アステロイド
Ⓜ ギワザ・ロワウ

第四〇話
Ⓟ サート・スター

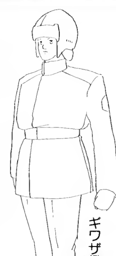


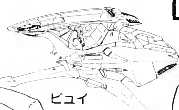
CHECK POINT
ダバ「むかし……捕まったふりをして、人をだます熊がいた。オレにそれができるか知れないが、試してみる」

第三九話 「ザ・オーメン」

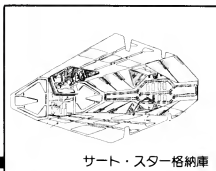
ギワザを追うターナ。だが、発見されることを恐れ小惑星帯の影を航行した影響で、バッテリーがあがりかけていた。ダバにとって気がかりは、ギワザの行方である。ダバとキャオは対電波かく乱布でカバーしたボートで、ギワザの艦に接近、潜入し、ギワザに迫る。だが、ギワザの手下が現れ、脱出を余儀なくされる。目前に迫りながら、ギワザを殺れなかったと悔恨するダバ。同様に屈辱に燃えたギワザは、リィリィ隊と合同でターナを叩くことを命じる。ホエールからエネルギーチャージをうけたターナではあるが、また充分ではない。ヘビーメタルも同じだ。隕石の割れ目に閉じこめられたエルガイムを救うため、ダバのMk-IIはエネルギーを使い果たし……ギワザに投降した。


サート・スター出入口


ギワザ艦の兵士


ビュイ


ギワザ艦の兵士


サート・スター格納庫



第四〇話 「フル・フラット」

ギワザに捕えられたダバは、捕虜としてサートスターのフル・フラットに引き渡される。ギワザはダバをみやげに、フル・フラットと対ポセイダルの確約をとりつけたのだ。一方、ダバ救出のため、サートスターに潜入したアムとキャオは、フラットの口車に乗せられ、ダバはここにいないと信じさせられ、サートスターを出る。そこへ、リィリィの隊が攻撃をかけた。その機に乗じて、ダバはMk-IIに乗り脱出を試みる。だが、サートスターのベアズ隊の手によってサートスターに連れ戻される。誘導され、たどりついたのはフラットの寝室。ダバは、反乱軍にとって強敵になるであろうフラットにセーバーを抜いた。だが、フラットのムチがダバを倒し、彼は再び捕えられてしまう。



スー・アザン


セーラ


フル・フラット



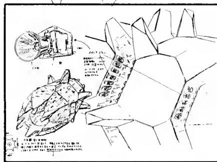



リリス・ファウ

ダバ・マイロード

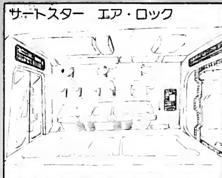
CHECK POINT
フラット「アム……想った男についていくのが、いつも正しいわけじゃないのよ」

⬅五一・五二話


サート・スター　メインブースター

PLACE & MEETING

第四一話
Ⓟサート・スター

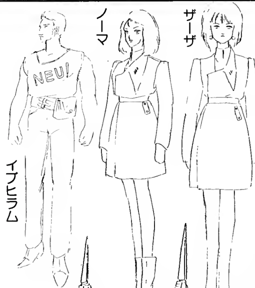


第四二話
Ⓜセーラ（前出　三八話）

第四一話「スパイ・イン・スパイ」

フラットはターナに、ひとりの工作員を送った。ベアズ隊の隊長、セーラである。アムらは、まんまとこれに乗せられ、ギワザ艦隊を攻撃にでる。だが、アムらは真実を知らなかった。セーラは、かねてから反乱軍に送りこんでいたスパイ、セムージュと接触する。だが、セムージュは今や反乱軍兵士のひとりと化していた。彼は、セーラの企てを見破り、アムらを帰還させた。

一方、ダバはフラットを人質に、Mk—IIを奪回、そのままサート・スターを脱出する。悪徳の匂いのする正体不明の女、フル・フラット。だが、ダバは彼女を殺さずサート・スターに帰した。そう、ダバは彼女をふくめて、人の心を信じたかったのだ……。

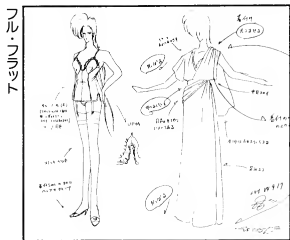


第四二話「ヤング・パッション」

ギャブレーが、ポセイダルに反乱を企てるギワザの艦隊を離れ、オリビーの近衛隊に接触した。彼にはポセイダル軍々人であり、ギワザの部下ではない……という自負があった。だが、オリビーと出会った時からギャブレーに新たな戦いの目的ができた。彼はオリビーに恋をしてしまったのだ。さっそく、オリビーから受けとったアトールで、ギャブレーはターナを強襲した。

そのころ、ダバはフラットの影響力を反乱軍の力として得たいと考え、サート・スターへ向けてセムージュとアムを送っていた。だが、ギャブレーの出現によってフラットの交渉はできずじまい。しかも、アムの乗ったエルガイムが大破し、いずこかへと消えていった。「アムーッ」ダバの絶叫だけが宇宙空間に残った……。

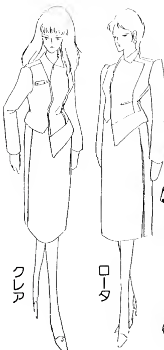
ヘビーメタル
ガイラム

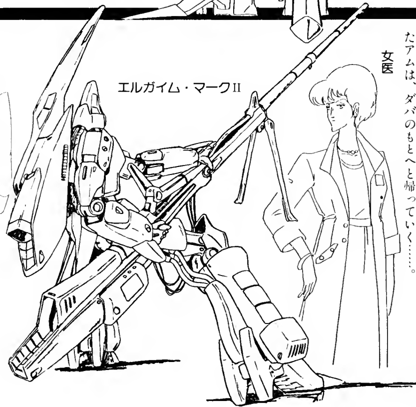


第四三話「レディ&ガール」

アムの行方は依然としてつかめなかった。だが、今のダバにそれを悲しんでいる暇はなかった。苦しいながらも、ダバはポセイダル軍をかく乱するため、クレアとロータという二人の女をオリビー艦に送りこんだ。フル・フラットとギワザが手を組んだという情報を伝えるためだ。

一方、アムはサート・スターに保護されていた。そこでアマンダラとフラットの矛盾する愛のカタチを見た彼女は、アマンダラに誘われる。フラットのような権力を持たないか……と。だが、アムを自分のように不幸な女にしたくないと考えるフラットは、セムージュをエルガイムに乗せ、アムを脱出させる。サート・スターを離れたアムは、ダバのもとへと帰っていく……。

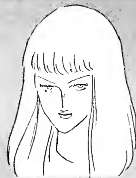




重戦機 エルガイム L.GAIM

第四三話

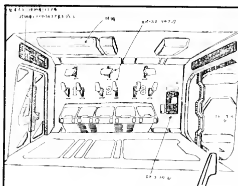
Ⓟ宇宙空間（移動中のサート・スターふきん）

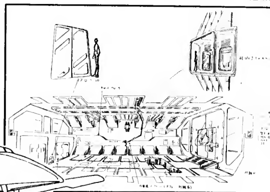

Ⓜクレア

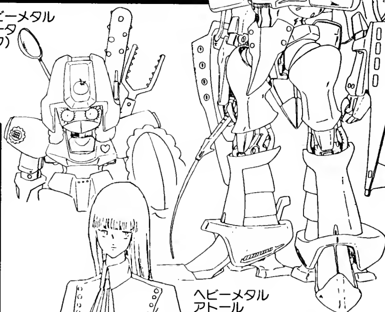

ロータ

CHECK POINT
フラット「しょせん私も、ポセイダルに操られるミアンと同じなのか……」
←五一・五二話

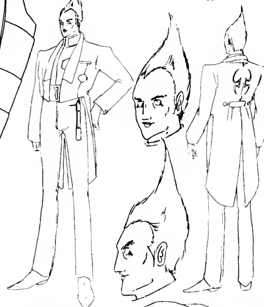
PICK UP WORDS
セムージュ「命をかけられる男というのは、いるものだ」


サート・スター　エアロック


サート・スター　H・M格納庫


リリス用ヘビーメタル（コンピュータグラフィック）

ヘビーメタル アトール


ママ・マクトミン

PICK UP WORDS
ダバにキスされて、アム「エンジン、かかった!!」

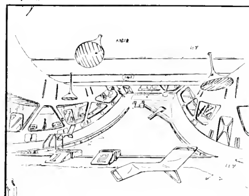

フラッシュ・ライト


ファンネリア・アム


フル・フラット


ターバンをまいたキャオ

CHECK POINT
フラット「男というものは、どんなに愛し合った女でも捨てる動物さ……」（アマンダラ）一度の契約で、百年も女を縛れると思ってもらいたくない……」
←五一・五二話


サート・スター（プール）

PLACE & MEETING

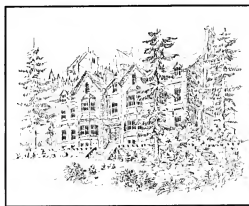
第四四話
Ⓟ ガストガル上空
（宇宙空間）



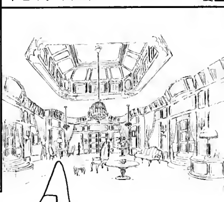
第四五話
Ⓟパラータ・スター
Ⓜムト（前出 二〇話）



ポセイダル私邸



寝室



ガストガルの首都、スヴェートに潜入し、単身ポセイダル邸に侵入したレッシイは、そこでミアン・ク・ハウアッシャーがポセイダルに変貌する姿を見た。だが、ポセイダルと直接謁見したネイに発見され、捕えられてしまう。ポセイダルは、ネイにギワザ暗殺の使命を与え、レッシイとともに宇宙へとかえす。愛に生きようとする二人をうらやましく思っての仕業だった。だが、ギワザのもとへ帰ったネイを待っていたのは、ギワザの冷たい仕打ちだった。せめて一太刀……とギワザに迫るネイ。だが返り討ちにあい、死ぬ。そんなネイの姿に、レッシイは何か自分と似たものを感じる……。

ミアンの召使い

ミアン・クゥハウ・アッシャー

第四四話

「ピカレスク・ギワザ」

ケープ

フル・フラット

ガウ・ハ・レッシィ正装

CHECK POINT
ポセイダル「そうか……女でありすぎて男に接するから、死に目にあう。私を見ればわかろうものを……」
⬅五三・五四話

重戦機 エルガイム L.GAIM

第四六話
Ⓟ宇宙空間

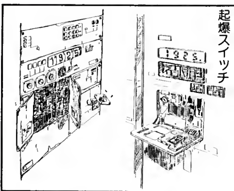
ミラリィの住む大地

第四五話「リリス・メモリー」

反乱軍のアジーンらが待つパラータ・スターへ急ぐダバたち。パラータはスターダスト作戦のカナメなのだ。いちはやくその情報をキャッチしたギワザは、アントンをパラータを攻撃させる。だが、そのショックでパラータの原子炉起爆装置が作動を始めた。

宇宙が核で汚されてしまう……！かつて、核によって滅んだミラリィ族の記憶に恐怖するリリスは、キャオとともに起爆装置を止めに急ぐ！　だが、配線すらショートを始め、もはや手のつけようがない。その時、リリスに異常が生じた。幾人ものミラリイが、彼女の肉体と幽体を分離させたのだ。

ミラリィの協力もあって原子炉は停止する。だが、リリスの意識はもどろうとしなかった……。

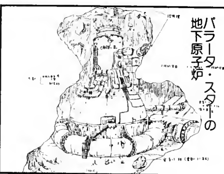


起爆スイッチ



男のミラリー

女の子ミラリー



パラータ・スターの地下原子炉

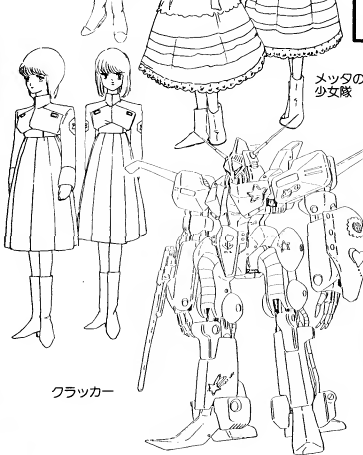
リリス・ファウ

PICK UP WORDS

リリス「……あたし、とっても懐しかったのよ……もう少しだけ、仲間の夢を見させて……」

第四六「クワサン・ウェイブ」

ギワザに補給基地、メッタに招待されたオリビーは、そこに罠が待っていることを承知で招きをうける。ギワザらを内部から切り崩そうというのだ。だが、メッタの少女隊の手によって拉致されてしまう。オリビーに熱い想いを抱くギャブレーは、即刻救出に向かった。ギャブレーはギワザの援護に来たといつわってメッタに侵入。オリビーを奪回しようとするが、ギワザに連れ去られてしまう。同様にオリビーを追ってきた者がいた。ダバ・マイロードである。ギャブレーは、オリビーを想う自分の気持ちをダバに叫んでしまう。だが、ダバとて、かつてはオリビーの許婚者。おいそれとギャブレーの気持ちを認めるわけにはいかない。アムを放っておいて、二人の戦いが始まった……。



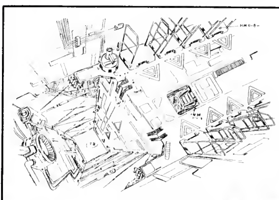
メッタの少女隊

PICK UP WORDS

ギワザ「触角をつぶせば、あとはたやすいもの。……（オリビーに）お前はボセイダルのセンサーなのだろ」

ヘビーメタル バルブド・ガイゼス

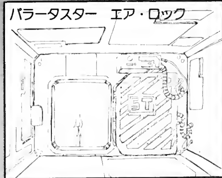
クラッカー

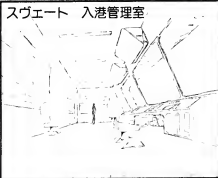


メッタの宇宙船格納庫

PLACE & MEETING

第四七話 Ⓟ パラータ・スター
第四八話 Ⓟ パラータ・スター
第四九話 Ⓟ ガストガル星・スヴェート


パラータスター　エア・ロック


スヴェート　入港管理室

第四七話 「ボーイズ・ボーイズ」

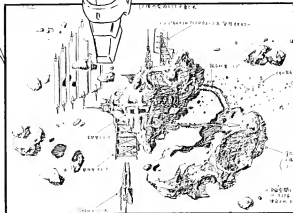
ギワザにオリビーを拿捕されて、ギャブレーは焦っていた。だが、近衛艦隊のリョクレイは、すでにオリビー見捨てようという腹づもりだ。ギャブレーは、そんな近衛艦隊に見切りをつけ、ギワザと接触する。もちろん、ギワザの軍門にくだるというわけではない。目的はただひとつ、オリビーの奪回だった。ギワザは、オリビーをネタに取引きを言い渡す。ダバの首と交換してやるというのだ。勇躍ギャブレーは、パラータ・スターに攻撃をかける。ダバがMk—IIで迎撃にでる。ギワザ隊、近衛師団をまたにかけるギャブレーをののしるダバ。激情にかられるギャブレーはオリビーへの熱い想いを叫ぶ！　だが、ギャブレーは、ダバがオリビーの許婚者であることを知らなかった……。

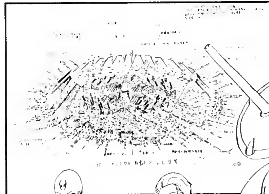
エルガイム

ダバ・マイロード

ギャブレット・ギャブレー

PICK UP WORDS
ギャブレー「ポセイダルしか考えられん貴様に、愛の重みがわかるかーッ」


ギワザの工場惑星


スヴェート　全景

第四八話 「ファースト・アタック」

スターダスト作戦が開始された。宇宙空間を漂う隕石群が次々と動き始める。その頃、ダバは隕石の進路上に浮かぶギワザ艦から流れる、オリビーの声を聞く。……これがオリビーを救い出せる最後のチャンスかもしれない……ダバはMk—IIを駆ってオリビーをめざす。だが、オリビーの声に動かされたのはダバだけではなかった。ギャブレーもそのひとりだった。ギワザ艦を前にして、激しく刃を交えるふたり。ダバはアムの協力もあって艦内に侵入する。だが、そこにオリビーの姿はなかった。反乱軍とポセイダル相方を一挙に叩こうというギワザの策略だったのだ！　しかし、それに気がついた時、隕石群がダバの前に迫りつつあった……。

壊れたバッシュ

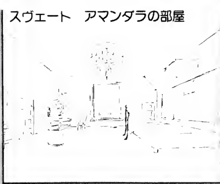
ハンス・アラハート

マハール・セヌーマ

アトールV　マクトミンビルト

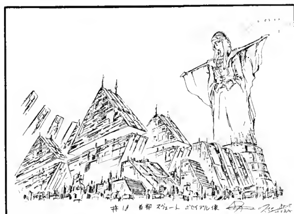
重戦機エルガイム L.GAIM

第五〇話 Ⓟ 宇宙空間
ル・フラット艦

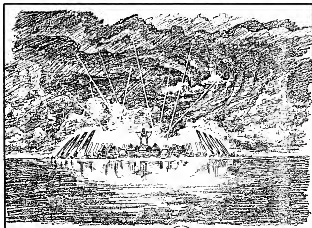

スヴェート　アマンダラの部屋

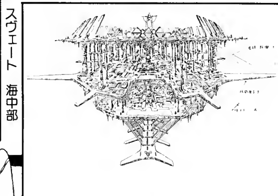
第四九話「レディ・キラー」

スヴェートをめざして降下する隕石群。だが、それはことごとくガストガル星防衛網のえじきとなった。スターダスト作戦は失敗？　いや、まちがいなくそれはポセイダルに動揺をあたえたはずだ！　ダバはMk―IIでスヴェートのポセイダルを撃ちに出た。そのころ、フラット、アマンダラ、そしてギワザの命令を受けたヘッケラーも、ポセイダルをめざしていた。思い思いの目的を持って。そして、ダバはポセイダルに迫り、今の姿が仮のものでその秘密をフラットとアマンダラが握っていることを知る。その時、ヘッケラー隊のスヴェート攻撃が！　脱出するダバたち。その後方では巨大なポセイダルの影像が、音をたてて崩壊していく……。


ガストガルの首都
スヴェート


スヴェート
軍用ポート


スヴェート


スヴェート　海中部

PICK UP WORDS

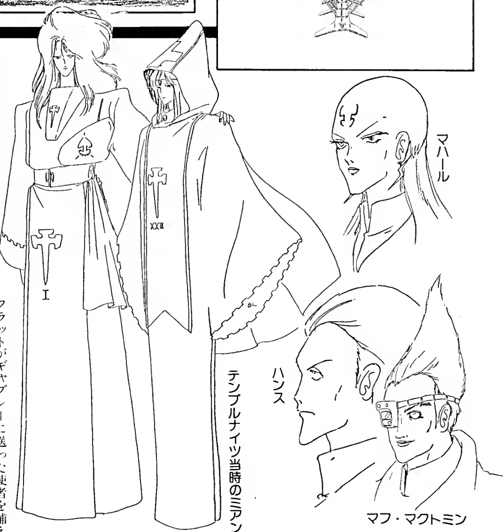
フラット「もはや、あなたはポセイダルではない。すぐにでも昔のミアンに、もどりなさい」

第五〇話「エキサイト・アム」

CHECK POINT

ギワザ「バイオ・リレーション。バイオ・センサー。それですべての人間をコントロールできるのだ。しかし、それがポセイダルの意志の力だけで、できるとは思えん」
アントン「バック・アップ・システムがあると……」
ギワザ「そうだ。システムがスヴェートを支配していると考えるべきだ」
←五四話

フラットがギャブレーに送った使者を捕えた反乱軍は、フラットの不審な行動を察知する。スヴェートでフラットがポセイダルと関係を持っていることを目撃しながらも、なおフラットを信用しようとするアムは、ダバが援護に送ったレッシィとともにフラット艦に潜入。フラットがギワザ暗殺を計画していたことを知る。ギャブレーとフラットの部下との銃撃戦にまきこまれるアムとレッシィ。ダバのMk―IIの援護もあってふたりは脱出。フラット艦を破壊する……が、フラットは危機一髪脱出。そのフラットを狙うダバだが、アムがそれを制した。だが、そんなアムの気持ちは、どうしてもフラットには伝わらないようだった……。

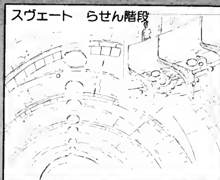

テンプルナイツ当時のアマンダラ
テンプルナイツ当時のミアン
マハール
ハンス
マフ・マクトミン

PLACE & MEETING

第五一話
Ⓟ ギワザ艦(サーガス・オーハス)

第五二話
Ⓟ スヴェート

第五三話
Ⓟ スヴェート


スヴェート　らせん階段

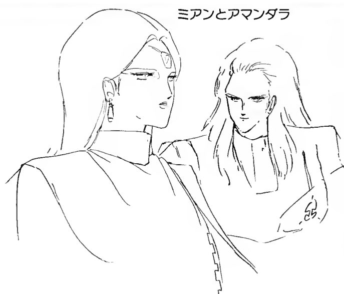
第五一話 「マイ・ラブ」

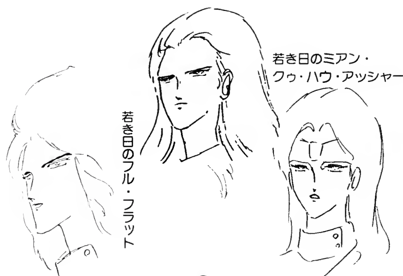
ギワザとフルフラットが全面対立。ダバはそのすきをついて、ギワザ艦隊に接近、攻撃を開始する。

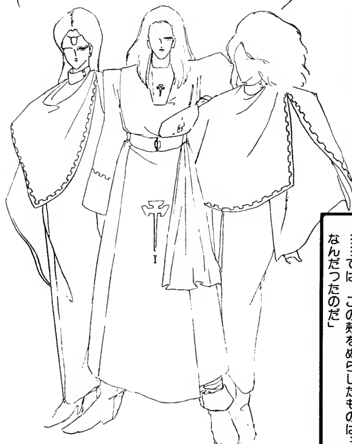
一方、ポセイダルの身にも異変が起こりつつあった。ひとつの体のなかで、ミアンとポセイダル、そのふたつが葛藤を始めたのだ。それに連動して、アマンダラの操るバイオセンサーがショートした。と、同時に異変は宇宙空間にも伝わった。オリビーのイメージが拡大して出現したのだ！ ダバはギワザ艦に突入！ つのる想いのためギワザを裏切ったギャブレーの力をかりて、オリビー救出に成攻する。

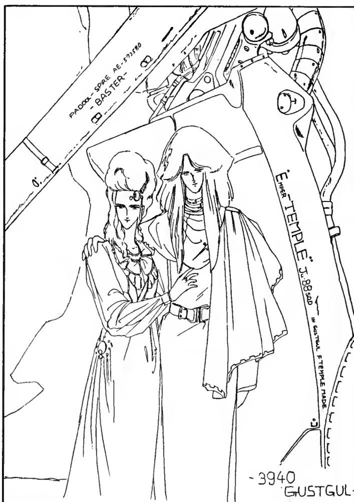
そのころ、バイオ・リレーションの回復をはかってアマンダラが、そして独自の思惑を秘めてフラットがスヴェートへ向かっていた……。

PICK UP WORDS
アマンダラ「我々がポセイダルを、あやつっていたのだ。それを放棄するのか⁉」


ミアンとアマンダラ


若き日のミアン・クゥ・ハウ・アッシャー
若き日のフル・フラット


アマンダラとフル・フラット

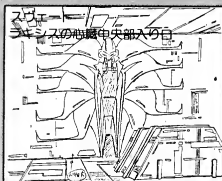


第五二話 「ファイナル・タイム」

反乱軍の本格的なスヴェート攻撃が始た。調子にのったキャオは被弾、スヴェをとりまく海に落下する。だが、キャオ中に潜む巨大な、スヴェートの下部構造見。反乱軍は戦闘方針を変え、水中から撃を開始。ダバたちはスヴェートに接近そして、ポセイダル邸に侵入したダバたそこでフラット、ミアンの愛憎に満ちたを盗み聞く。だが、ダバには、そんなふに与えてやれる時間などない。銃口がミをとらえた。そのとき、ギワザ隊のH・出現、ダバはポセイダルを討つ絶好のチスを失ってしまった。だが、死をかけたットの説得によって、ポセイダルが自分在に対して持っていた疑問……自分はポダル、それともミアンなのか……は、床彼女のなかで重要さをましつつあった。

PICK UP WORDS
ミアン「私はポセイダルだ。ミアンでは……では、この頬をぬらしたものは…なんだったのだ」

重戦機エルガイム L.GAIM

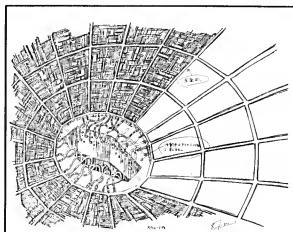

スヴェート
ラキシスの心臓中央部入り口

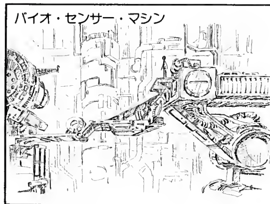
第五三話「ザ・ディクテイター」

PICK UP WORDS
ミアン「私は根こそぎあなたに利用されたのに……ポセイダル本人は、こんな扮装で自分をごまかして……。バイオリレーションの若返りの力だけを利用している」

ダバは、オリビーのバイオ・リレーションの力を使って、ポセイダルの居場所を逆探知。スヴェートに潜入し、オリビーの指さすままビュイを走らせる。そのポセイダルは、バイオ・センサーを操る最中だった。支配者としての威信がそうさせていた。だが、ミアンにポセイダルの限界を見たアマンダラは、彼女を殺そうとする。そのときミアンにとりついたフラットの情念が、真のポセイダルであるアマンダラに、ミアンを逆らわせた。驚愕するアマンダラ。そこへダバがあらわれ、ミアンらを捕えようとするが、間一髪逃げられてしまう。

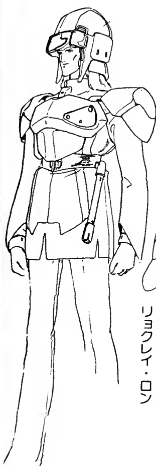
そのころ、宇宙空間ではギワザが動き始めていた。メッタをスヴェートに向けて落下させようというのだ。はたして勝利はだれのものに……。


バイオ・センサー・ルーム

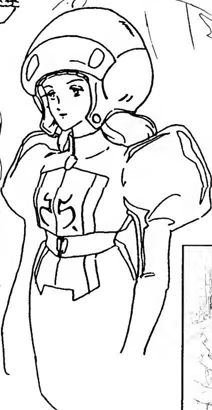

バイオ・センサー・マシン

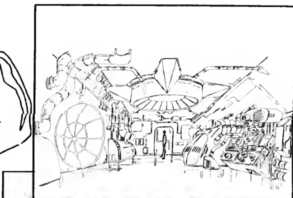

アマンダラ・カマンダラ

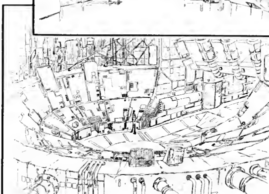


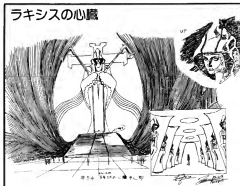


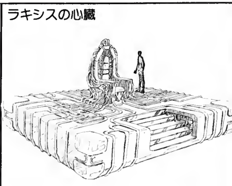

リョクレイ・ロン


クワサン・オリビー




バイオ・リレイション・ルーム


ラキシスの心臓


ラキシスの心臓

PLACE & MEETING

第五四話
Ⓟスヴェート

第五四話「ドリーマーズ・アゲイン」

スヴェートにメッタが迫る。アマンダラが支配者の意地をかけて、オリジナル　オージュを作動させた。その前に立ちふさがるダバ。だがスヴェートをエネルギー源とするオージェの前では無力に等しい。Mk—IIの左腕がひきちぎられた！　その瞬間、オリビーと交換にダバを救うことをアムと約束したギャブレーが現れた。と、同時にアマンダラが老化し、オージェともども死んだ。ミアンの心をとりもどしたポセイダルが、バイオ・リレーションを切ったのだ。

それとともにスヴェートが移動を開始、メッタの衝突を切りぬけた。だが、ギワザ艦隊はガストガルへ侵攻を開始。これを機会に反乱軍、近衛隊壊滅をもくろむ。そのギワザを、大破したMk—IIからエルガイムへと乗りかえたダバが、バスター・ランチャーで撃つ！　ギワザは爆死した。

戦いが終り、勝利を手にしたダバ。しかし、そんな彼をポセイダルの用意した最大の悲劇が待っていた……。

クワサン・オリビー

カモン・マイロード

破壊されたエルガイムMk—II　原画より

アム

レッシィ

キャオ

イレーネ

ギャブレー

リリス

セムージュ

マルジェ

アロンジェブラ

オリジナル　オージェ

ハッシャ

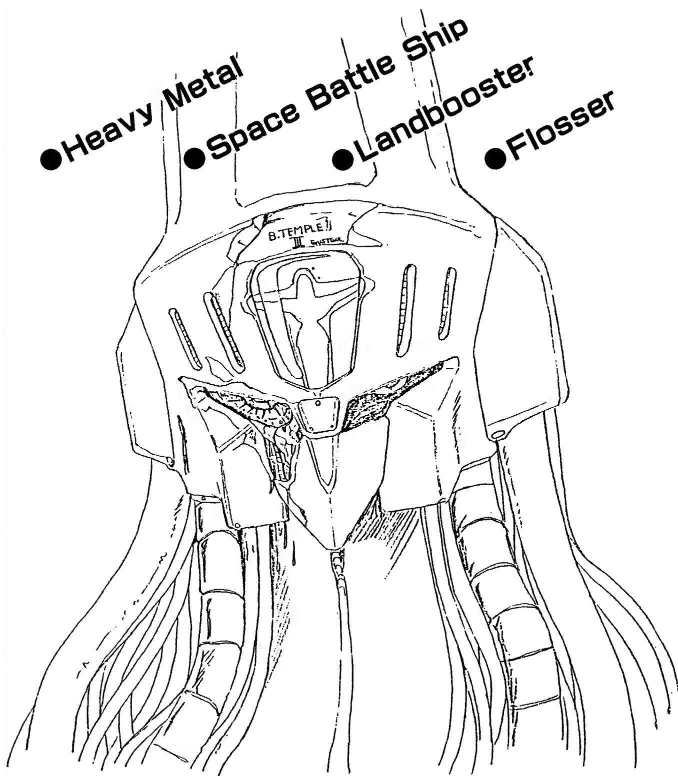
バラ

ドモ

PICK UP WORDS

アマンダラ「私の予定した以上の行動をしなければ、よい生活ができたものをな」
ダバ「自分の人生のワクを組まれて、なにがおもしろいものか!!」
アマンダラ「私の選んだ若者が、そろって私にはむかうというのか!?」
ギャブレー「おまえの時代は終った」
アム「……でも、ダバはそれを選んだのよ」

ペンタゴナワールド メカニック事典



　一つの記憶は、人の中で絶ず増幅を続け、色とりどりの意味を与えてゆく。
それに支配されるのが、
人の悲しい性質なのだろうか。
　そんな想いをマシーンは一瞬たりとも忘れさせてくれる。（冒頭ナレーションより）

Heavy Metal その有り方

作品中に登場するH・Mは、そのほとんどがポセイダル系とヤーマン系に織別することができる。一部においてコアム系やトライデトアル系の物も見受ける事はできるが、残念ながら爆発したファの母星、カラミティ系のH・Mは姿を見せなかった。そのために系譜は大別すると二系統に別れる事になる。

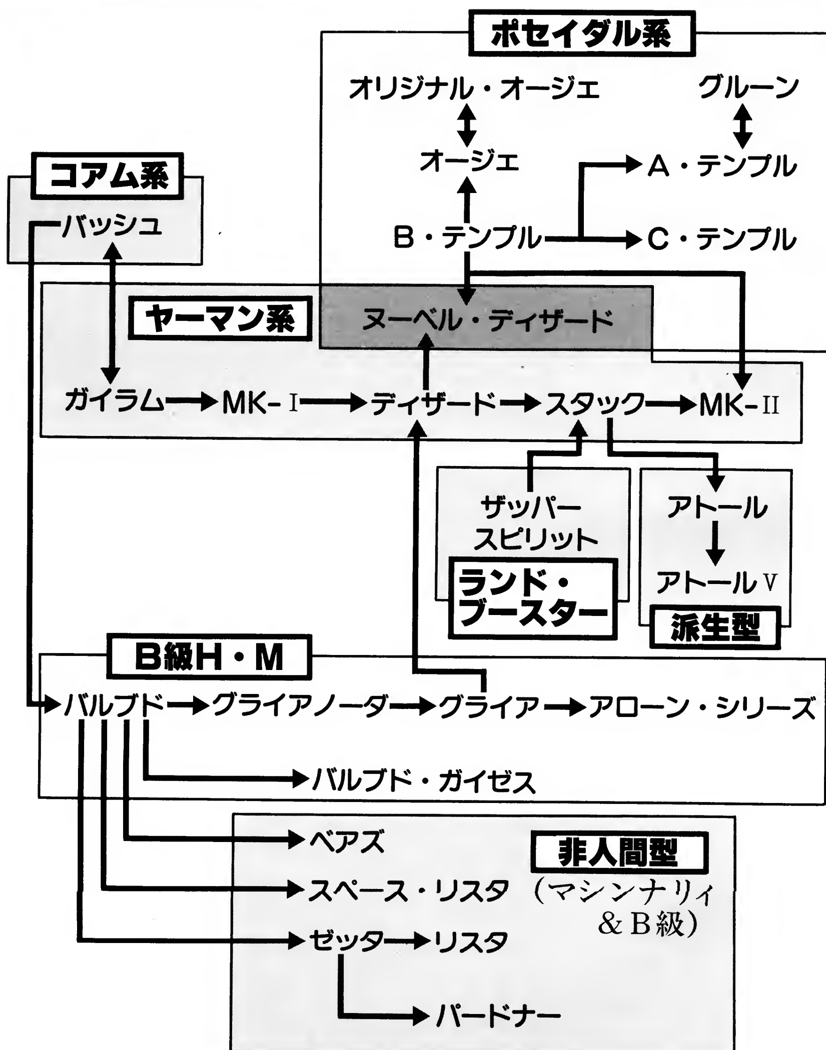
A級とB級の差としてはアンドロイド型コンピューター、ファティマ・ファティス（FATIMA・FATIS）を登載しているか否か、と言う事が掲げられる。その二次的産物としてA級の場合、ファティマの反応速度に合わせるため、伝達系に有機伝導システムを利用している。ただし非常に高価であるのでB級においてはケイ素（シリコン系）の物を使用している。またB級は反用性を高めるため、コストダウンを計り、部分的にムーバル・フレーム（MORVABUL・FLAME）をアーマー（＝装甲）として使用している。本来はファティマを登載した物のみをヘビーメタル（HEAVY・METAL）と称するが、この時代においてはすでにファティマの製造法が失なわれ、ブラックボックス化しており、その模造品であるB級までもがヘビーメタルと呼称されている。

H・Mを含む、ペンタゴナワールドの全ての機器はそのエネルギーを太陽より得ていて、特に戦闘用機器はソーラーパネルを別の場所に置いておくわけにも行かず、そのため機体表面に先に述べたエネルギー転換塗料であるツイ・メリットコーティングを程こしている。

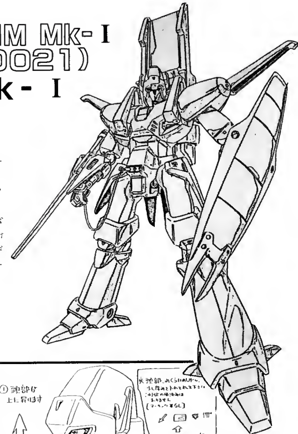
戦略的な使用法としては、本来プラネット・ボンバー（PLANET・BOMBER）や戦艦などにより、制空あるいは制空権を収め、目標物の大方を破壊した後に使用する物である。ただし、そのためには彼我の戦力比が圧倒的に有利でなければならず、これはあくまでも理想的な状況である。実際的に両軍入り乱れてH・M同志が戦闘になった場合、優秀なA級H・Mには遠距離からのパワーランチャー等のレーザーはバリアーシールドや機体表面のエネルギー転換塗料であるツイメリット・コーティングやレーザーブラスト処理のため、ほとんど効果を見込む事ができない。そのためセイバー等での接近戦になる事が非常に多い。ただしB級は、その対レーザーバリアーを持っていないため直撃を加えられてしまう。では、その状況下においてA級H・Mを破壊する方法はないか、という発想で生れたのがバスターランチャー（BUSTER・LUNCAER）である。H・Mのジェネレーターに極限にまで負担をかけるこの兵器は有秀なファティマを登載して機体をコントロールしなければ、とてもではないが連射する事のできない代物である。しかし、このバスターランチャーの超圧縮され、物質化寸前にまで高められたエネルギーを受けて耐え切れるシールドは今だ開発されていない。そのエネルギーの火の玉は射線上周辺をも含め、一撃で20～30機のH・Mをも破壊し、なおかつ余り有るパワーを内包している。その他にもう一種類、一撃でA級H・Mを倒すべく考えられたのがブラッド・テンプル（BLOOD・TEMPE）専用に開発されたフレーム・ランチャー（FLAME・LUNCHER）である一万二千度以上の火炎を放出するこの兵器は画面上には登場しなかったが、機体表面が熱に弱いジーン・プラスティックとラバーで作られているH・Mの構造上、驚異的な戦果を上げていった。これに対抗すべく製造されたのがミズン戦役の時、ヤーマン王朝の使用したガイラム（GAYRAHM）である。ガイラムはその主力兵器であるパドル・スピア（PADLL・SPEAR）を最大限に伸ばす事によって、フレーム・ランチャーの有効射程外からブラッド・テンプルに致命弾を与えるという攻撃法をとった。実際的にヤーマン系とポセイダル系のH・Mの性格は、ほぼ互角に見えるが、絶対的にポセイダル系が勝っている部分があった。それはフロッサー・システム（FLOSSOR・SYSTEM）である。元来、H・Mのノウハウはポセイダル側が開発した物であるが、H・Mの本体内にフロッサーを内蔵する事ができたのは、中心戦力として考えられたテンプル・シリーズ、(TEMPLE・SERIES)とポセイダル用H・Mのオージェ(AUGE)系のみである。他のH・Mは全て背部に小型のフロッサーを装着せねばならず、その部分に非常に無理がかかった。しかし、所詮ムーバル・フレームの性能が良いと言うレベルであって、決定的な要因はやはりファティマの性能であった。だが、やはり外部装着フロッサーでは長距離の移動は無理であり、内蔵型のムーバル・フレームは大量に生産できないポセイダル側も新たな方法を考え出した。それが、後にMk—Hとなるアモン・デュール(AMON・DUUL)の変型システムである。ムーバル・フレームにヤーマン系のメカニズムを採用したこのH・Mは背部に巨大なフロッサーを持たせ、長距離・高速移動時には各関節をロックし、移動に適した型状に変型させようと言う物であり、一応の成功を見、Mk－IIに改装された時点で完成した。この事は重大な意味を持つ。飛行形態への変型が可能になった事により、H・Mがプラネット・ボンバー的な要素をも持つことが可能になったのである。考えてみて、Mk－IIがいかに戦力的な高さを持ったかわかるであろう。変型システムは、他にもヌーベル・ディザード（NOVEL・D・SSERD）も持っていたが、エネルギー系数の低さのためか、実際に変型する所を見せてはくれなかった。しかし、何度も述べるが、H・Mの性能を最終的に決定するのは、コンピューターであるファティマなのである。ファティマはH・Mの全機能を司っており、操縦者はファティマにメインの指令を出すだけなのだ。しかし、それは作品世界においてはすでに過去の事であり、ファティマを製造する方法は失なわれ、彼女達も眠りについてしまい、H・Mの基本的なコントロールをしているにすぎない。今は人がほとんどのコントロールを行なっている。それがガイラムにはなく、Mk－Iが製作された時に始めて考えられた全周囲コクピットに表われている。

だが、フォティマ達が存在してこそ、H・Mが、・Mなのであって、彼女達が眠りについたら、H・Mは単なる戦闘マシーンとなってしまった……

Heavy Metal系譜

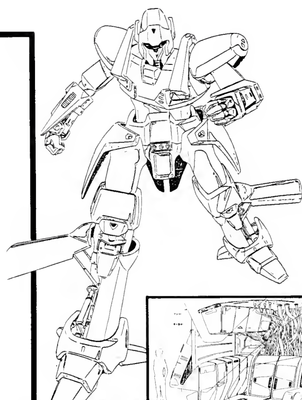


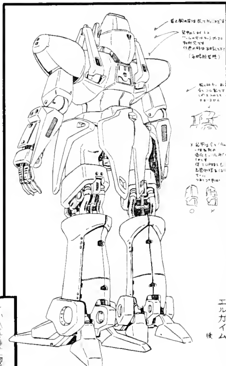
A-CLASS HEAVY METAL L·GAIM Mk-Ⅰ (AHAMES 0021)
エルガイム Mk－Ⅰ



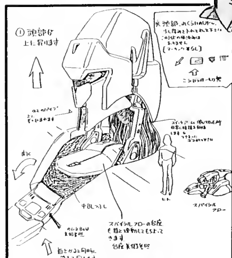
ミズン王朝が、ヤーマン戦線時に使用したガイラムの内、王家の者が登乗するアーメス0021を臣下のダバ・ハッサーガ両産に向くよう改造したH・M。かなり基本的な作りのようであり、武装はパワーランチャ、セイバー等だけとなっている。しかし、不完全ながらも今までのH・Mにはなかった360°スクリーンと耐Gコクピットとなるスパイラルフローシステムを取り入れるなど、元々ヤーマン系の技術によるムーバルフレームを非常に良く改良したため、総合的なポテンシャリティはかなりのレベルである。一応、スパイラルフロー"フリッカ"なしでも操縦は可能であるが、あくまで動くだけであって、戦闘をするには両者がドッキングしなくてはならない。エネルギーチャンネルは腰部に3ch有り、バスターの連射も可能である。26話まではダバが乗っていたが、Mk-Ⅱの完成の後はアムが操縦者となった。しかし、最終回Mk-Ⅱをオリジナル・オージェに破壊された後、ギワザとの最後のケリをつけるため、ダバは再びMk Ⅰに乗り、バスターにより全てを終わらせる。

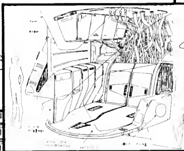
ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはホワイト。

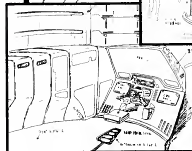




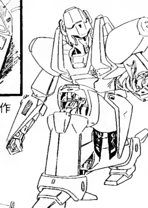
エルガイム 後

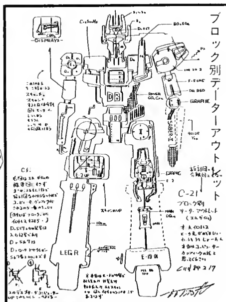




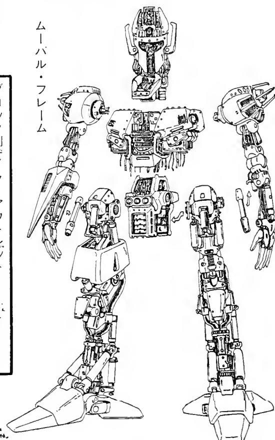


コクピット内補助操作パネル

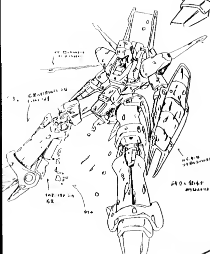




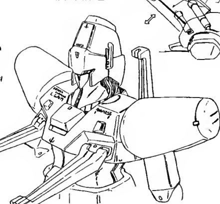
ブロック別データーアウトレット

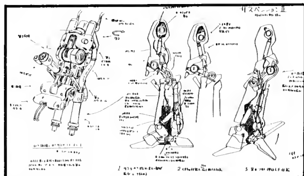


ムーバル・フレーム



胸部構造



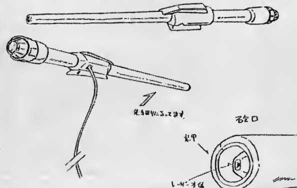


脚部構造

L·GAIM ARMS VARIATION

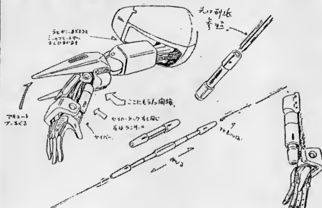
パワー・ランチャー (POWER LUNCHER)

エルガイムの主力兵器である強力なレーザーキャノン。B級用の物と比べると数段の威力がある。腰のエネルギーゲートより電力を得ている。



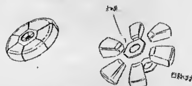
セイバー、ランサー&ハンド・ランチャー (SABER, LANCER&HANDLUNCHER)

エルガイムは両手のセイバーラックに3種類のうち2本を収納する事ができる。特にセイバーは主力兵器の一つで、ジェネレーターを内臓しており、太陽光線があたる限り使用できる。しかしランサー本来使い棄ての兵器であり、ジェネレターを内臓していない。そのため数分間で効果がなくなる。なお両方とも使用時に本体よりビーム誘導用の軸が出ているため、敵の攻撃を受けとめる事が可能である。またハンド・ランチャーはパワー・ランチャーの小型の物であるが、誘導部の短い分、威力がない。



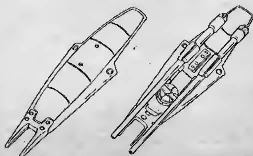
S·マイン(S·MEIN)

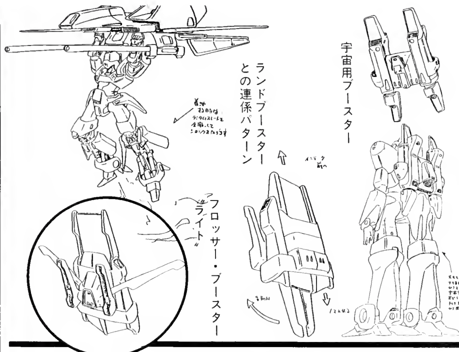
化学反応によって爆発する集束手留弾。投げた後、目標物の上空で6ヶに分離する。なお化学反応兵器のため、被弾しても爆発することはない。



バインダー(BINDER)

表面は特に吸収効率の高いツメ・メリットコーティングを施してあり、かなり強力なレーザーでも吸収・拡散してしまう。ただし限界点を超えると形状を維持できなくなり砕け散ってしまう。なお裏面にはパワーランチャー2門、S・マイン1個が装備でき、先端はアキュート・エッジになっている。





SPIIRAL FLOW FRITKA
スパイラル・フロー フリッカ

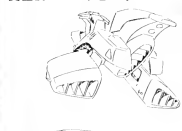
小型フロッサーでありながら、なおかつそのままH・Mにドッキングしてコクピットになるスパイラルフロー・システム。ポセイダル系H・Mのフロッサーシートとは用兵思想が異り、発進が短時間で済むようになっている。さらにこのスパイラルフローが優れているのは広角度スクリーンを可能にした事である。このシステムはヤーマン系技術独得の物であり、戦闘時において非常に有効である。



変型前
フロントビュウ



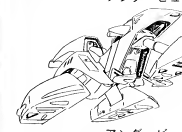
変型後フロントビュウ



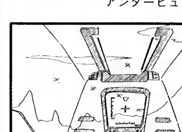


変型後、
頭部カバー

アンダービュウ、変型後



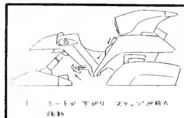
アンダービュウ、変型前

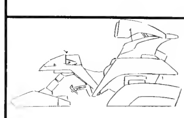


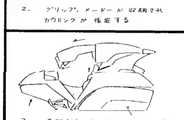


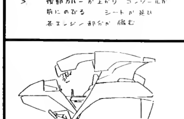
合体時視界

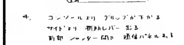
変型プロセス



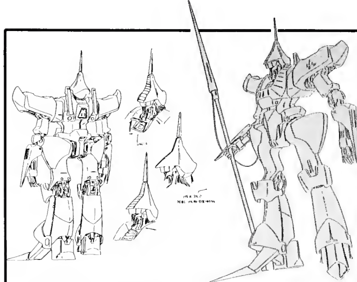






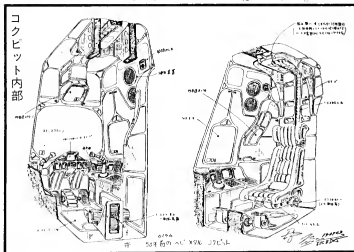


REAL HEAVY METAL GAYRAHM
ガイラム



エルガイムの母体となったH・Mであり、共通しているパーツも多い。特にブースターの取付基部などは完全に同じである。元来、技術が進歩していたヤーマン族の開発したH・Mだけあって、そのムーバル・フレームの性能は高い。作品中においてはフラットがサート・スターに隠し持っていた物を使用したため、皮肉にもエルガイムとは敵味方となる。しかし、その肩の紋章はまぎれもないヤーマン族のものである。

ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはパープル。



コクピット内部

この時点ではまだ全周囲スクリーンは開発されていない、と言うよりも必要性がなかったのであろう。ファティマが居る限り、それ程の視野は必要ないからである。だがフラットによる改造もなされているようである。

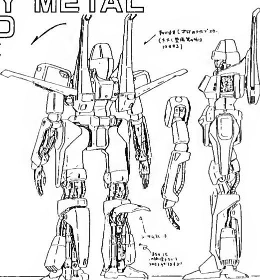
ガイラムのパドル・スピアー(PADOOL SPIRE)はグルーンのロングスピアと違い、機体本体とエネルギーチューブで接属されており連射が可能である。また伸縮自在であり、B・テンプルに対抗すべく遠距離から至近弾を与えるために開発された兵器である。

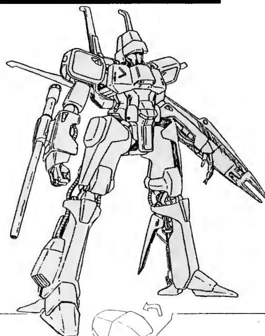
B-CLASS HEAVY METAL D,SSERD
ディザード

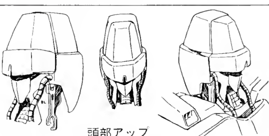
エルガイムの廉価版H・M。そのためシルエットもエルガイムに非常に良く似ている。ただし、パワーを優先させすぎたため、回路の制御が難しく、故障しやすい面もあるようである。しかしそのメリットとしてパワーランチャーはエルガイムと同じ物を使用できる。

最初、リトル・セイで製造された時のタイプはコクピットがフロッサーシート対応型であったが、後にレッシイ用のレッド・ディザードを始め、除々にスパイラル・フロー〝フリッカ〟対応型へと改修されていった。

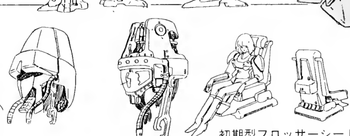
ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングは基本的にはホワイト。





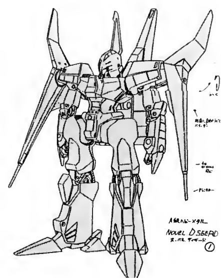


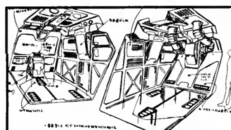
頭部アップ

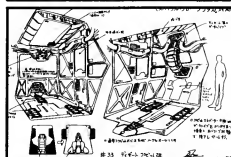


初期型フロッサーシート

A-CLASS HEAVY METAL NOVEL D,SSERD
ヌーベル・ディザード





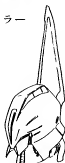


レッシィガアマンダラよりホエールと共に譲り受けたH・M。テンプル・シリーズにディザードとアモンデュールの変型システムを融和させた物であり、かなりの高性能を発揮していた。しかし、飛行形態が画面上に表われることはなかった。

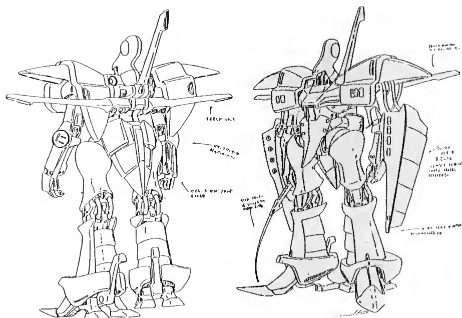
ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはワインレッド。

ラウンド・バインダー(ROUND BINDER)を装備するなど、技術的にはかなり完成されているのだが、エネルギー系数が低く、バスターランチャーの発射エネルギーをまかない切れない。

当初、コクピットはフロッサーシート対応型であったが、レッシィが譲り受けた後、フリッカ対応型へと改装されている。

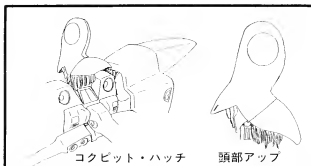


A-CLASS HEAVY METAL A,TAUL
アトール



後半にギャブレーが使用したA級H・M。背部には大型のフロッサーを持ち、腕にはウインゲル・バインダー、セイバーラックにはセイバーフロッガーを持つなど、新型のH・Mである。

ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリーングはパープルグレイとダークブラウン。



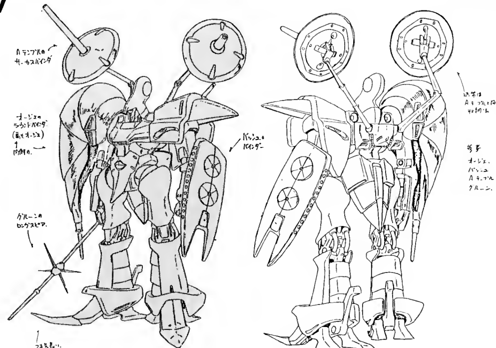
コクピット・ハッチ　　頭部アップ

特に腕についているウインゲル・バインダー(WINGEL BINDER) はアトールに特有なもので、これによりこのH・Mは大気圏内を滑空する事ができ、また背部のメイン・フロッサーの可動性の良さとも合い増して、機体の安定性を高めている。

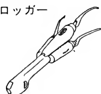
A-CLASS HEAVY METAL A,TAUL V mctomin built
アトール V

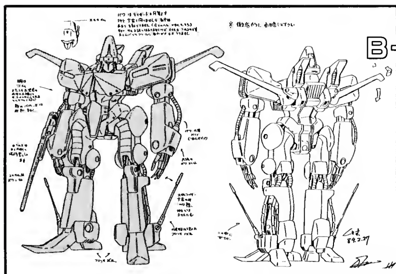
ムーバル・フレームは基本的にアトールの物を使用しているが、アーマーにオージェのラウンド・バインダー、バッシュのバインダー、A・テンプルのサーカス・バインダー、グルーンのロング・スピアと計5種類のH・Mのパーツを使用している。名称のVはここから来ているのだが、レプリカA級の代表のようなH・Mである。しかし、手に持つミッ又セイバー・フロッガーはなかなか有効なようである。マフ・マクトミン専用機である。

ムーバル・フレームはM－サイズ。カラーリングはメインがダークブルー。



トリプル・フロッガー



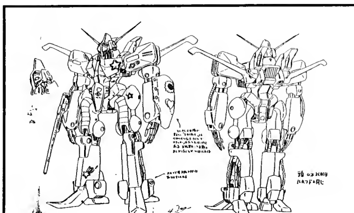


B-CLASS HEAVY METAL BAL-BUD series
バルブド シリーズ

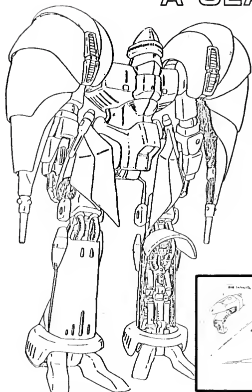
A級に一番近いB級H・M。特に腕部のパワーユニットはA級のそれを使用しており、腕力、パワーランチャーの威力はB級のレベルを過えている。また、トータルバランスも良く、ほとんどのB級H・Mの基本となった機種と考えてよい。その性能と量産性からポセイダルの親衛隊が主に使用している。

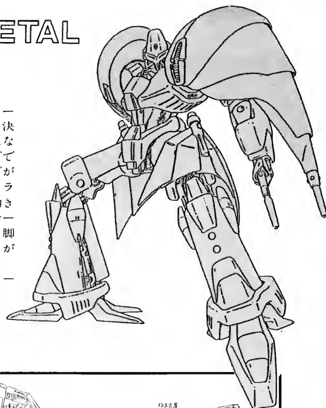
ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはイエロー&ブラウン。

バルブドをさらにチューンアップしたのがこのバルブド〝ガイゼス〟である。外装としては頭部と胸部のデザインの変更、足のスタビライザーを取り外した、などである。また、性能的にもパワーアップ等が試みられているようである。ギワザ指揮下の小惑星メッタで少女隊が使用していた。そのためコクピットサイズも小さくしてある。全身ピンクで、ともかく派手である。



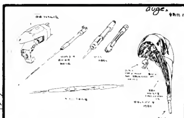
A-CLASS HEAVY METAL AUGE
オージェ

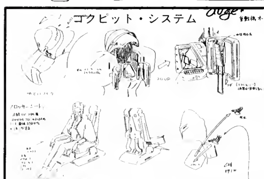




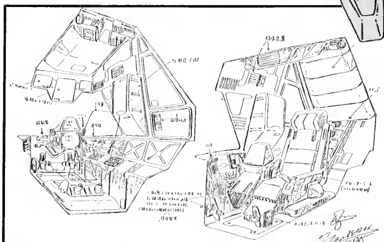
本来はポセイダル専用のH・Mであるオージェ。ネイガ貸り受けて使用していたが、決っして本来のパワーを出していたわけではなかった。両肩のラウンドバインダーは金でできており、ポセイダルの権威を示すようでがある。そのバインダーの先端にはパワー・ランチャーが仕込まれており、腕とは別な動きをする事が可能である。また裏にはランサーが15本づつ、計30本隠されている。また、脚部にはフロッサーとランダム・ストレートがり、運動性も非常によい。

ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはゴール&ブラウン。

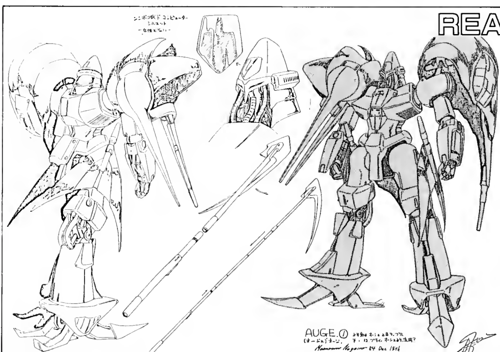




ポセイダル系のコクピット・システムは全てフロッサーシートを用いる共通の物であるが、ヤーマン系のスパイラル・フローシステムに比べると操作性において、劣ってしまっている。



REAL HEAVY METAL ORIGINAL AUGE



H・Mの一つの到達点であるオリジナル・オージュ。ムーバル・フレームは基本的にオージュの物であるが、下半身はブディン・オージェの物であろう。すでにヒザ関接が五重関接になっており、完全に人間の動きを真似る事ができるまでになっている。右肩のラウンド・バインダーはバスター・ランチャー装着のため変っている。また、バインダーの裏面にはハンド・ランチャーをセットし、30のビームを一度に発射できる。腰には伸縮可能な接続式の大鎌を持ち、これによって最後の戦いにおいてMk-IIの首を切り落した。

このH・Mが本来の力を出すにはキーが必要であったが、それは物質ではなくアマンダラの生体反応であった。また、エネルギーもソーラーパワーではなく、スヴェートの住民達の生体エネルギーをバイオリレイションを通して供給していた。そのため、Mk-IIのパワーを持ってしても本来の力を出し切られた場合、とてもではないが倒せる相手ではなかった。

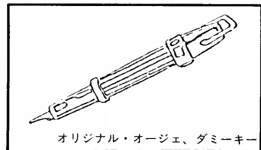
ムーバル・フレームはM－サイズであるが部分的にL－ザーズのB・テンプルの物を使用、カラーリングはプラチナゴールド&ブラウン。







最終話原画より



オリジナル・オージェ、ダミーキー

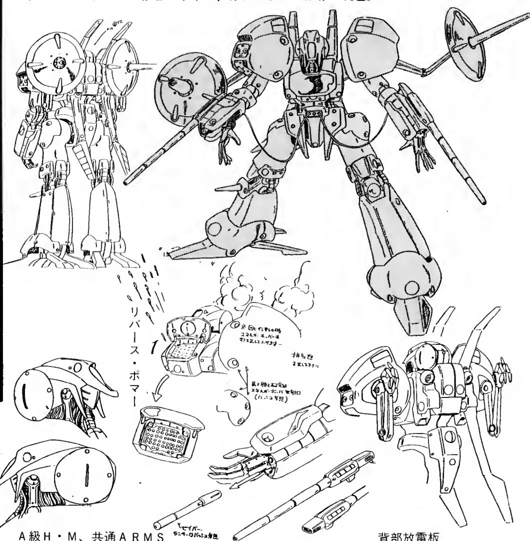
49話原画より

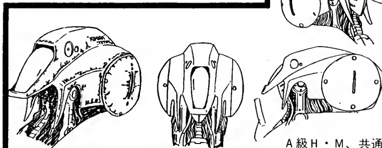
REAL HEAVY METAL GONDORA
ゴンドラ

49話でミアンの回想シーンに登場したH・M。たぶんガイラムと同じ年代の物であろう。胸にある穴はエネルギーサッシュの発射のように見受けられ、頭部にはパワー・ランチャーが装備されているらしい。
詳細は不明。

A-CLASS HEAVY METAL A,SHURA TEMPLE
アシュラ テンプル

4本7腕と攻守両用のサーカス・バインダーを装備していて、計4本のランチャーを持つ。さらに胸にはリバース・ボマー(REVERS BOMBER) とエネルギー・サッシュが有り攻撃性の強いH・Mである。そのため肩のジェネレーターは大型の物となり、かなり恐しいシルエットとなっている。また、両腕のセイバー・ラックには二本づつのセイバーorランサーが収納できる。なお、脚部にランダム・スレートが装備されている。
ムーバル・フレームはL－サイズ、カラーリングは赤&肌色。

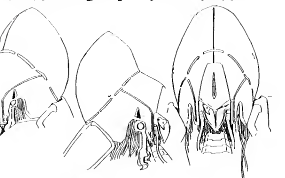




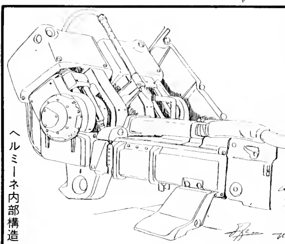
A級H・M、共通ARMS

背部放電板

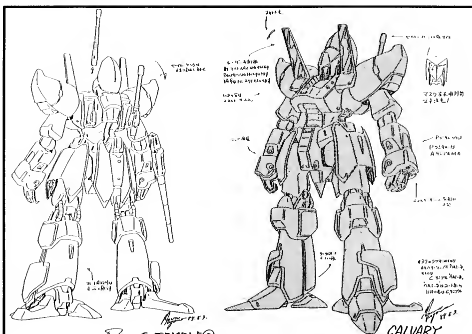
A-CLASS HEAVY METAL CALVARY TEMPLE
ガルバリィ テンプル



バインダーを持たず、白兵戦を念頭に置いたH・M。武装としては背中にセイバー2本、腕と胸にエネルギー・サッシ発射に、さらに両腕にパワー・ランチャーを装備できる。胸のレーザー発射板は別にカルバリィ・テンプルだけの物ではなく、テンプルシリーズ全てに装備されている。なお49話に登場した物がオリジナルであるらしい。また、クワサンの使用した機体のコード名はヘルミーネ。
ムーバル・フレームはL－サイズ、カラーリングはレッド&イエローとダークグレイの機体が登場。

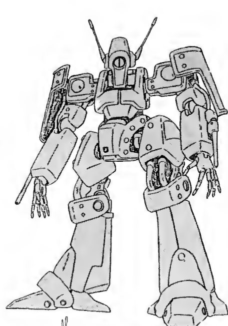
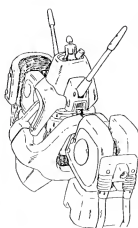


ヘルミーネ内部構造

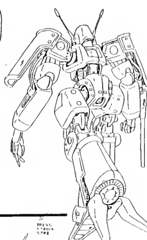
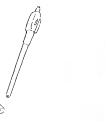
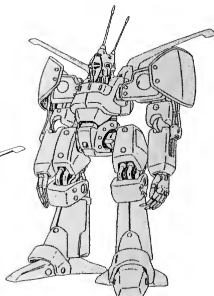
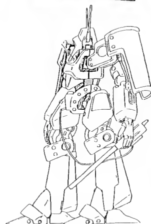
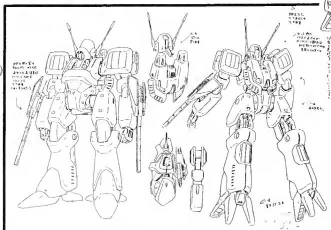


B-CLASS HEAVY METAL GRAIA series
グライア シリーズ

軍用、民間用と多種に渡って使用されている機首。画面に登場した物だけで三種類になる。性能としては、その武骨なデザインからは想像もつかない良さである。
ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはブラウン系が多い。

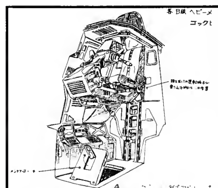
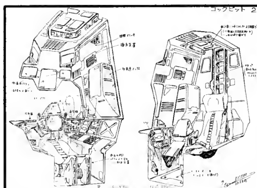



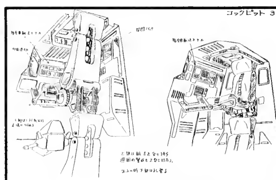
基本型のグライア。脚部にフロッサーを内臓、武装はパワー・ランチャー２門である。当然ながらセイバーは全てのH・Mで使用可能。

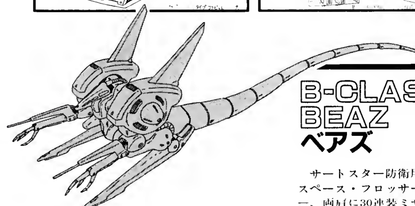






宇宙用グライア。基本的に宇宙用フロッサーを装備させ、かわりに脚部のフロッサーをはずしたタイプ。そのため、地上でのフローティングは不可能である。

グライアの基本型、グライア・ノーダ。基本的には同じ構造であるが、パラータスターに装備されていた物は改造を続けていたため、現行のタイプと同じか、それ以上の性能を持っている。

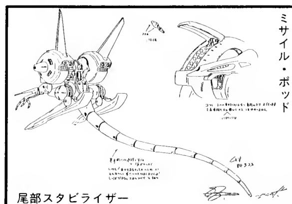



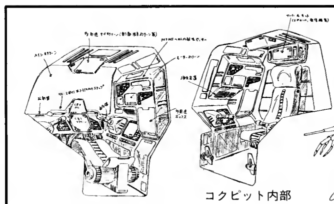


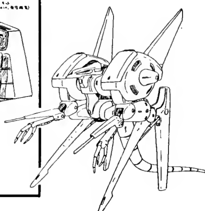


B-CLASS HEAVY METAL BEAZ
ベアズ

サートスター防衛用H・M。宇宙戦専用に使用する事を考慮して人間型を棄て、巨大なスペース・フロッサーと尻尾状のスタビライザーを装備させた。両腕にパワー・ランチャー、両肩に30連装ミサイルポッドを持つ。







B-CLASS HEAVY METAL PARDNER
パードナー

子パードナー

非人間型であるにもかかわらず、戦力的に高いのでH・Mと呼ばれている。おそらくはマシンナリィからさらに派生したものであろう。本体と子パードナー5～6機による立体攻撃を主戦法とするが、本体にも腕とパワー・ランチャーが有り、セイバーを使用する事も可能。子パードナーにはセンサーとパワー・ランチャーが装備されているだけであるが、ジャマーの厚い場所においても使用できるようにワイヤード・リモコンとなっている。

カラーリングはダークグリーン。ちなみに操縦はなかなか難しい。全長は14.8m。

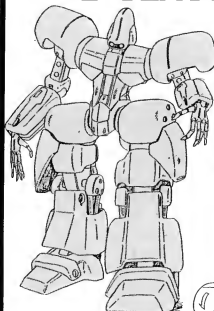
?-CLASS HEAVY METAL LILIS SPECIAL
リリス用H・M

リリスが自分も専用のH・Mが欲しい、と言って考え出したデザイン。実物は登場せず、コンピューター・グラフィックが画面に出ただけであった。全長は2m、重量は85kg。身長が30cm程のリリスからすると丁度こんな感じであろう。デザインはやはり、と言うべきかMk-Ⅰに非常によく似ている。しかし背中にしょっている武器はおたまやらなんやら。さらにはなんと言っても目立っている花形バインダー。額にはリリスのりんごマークがさんぜんと輝いており、なんと髪の毛まである。カラーリングはなんと言っても全身オールピンク！

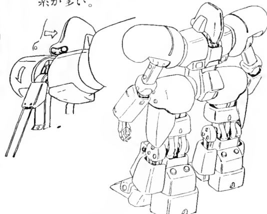
B-CLASS HEAVY METAL ARORN series
アローン シリーズ

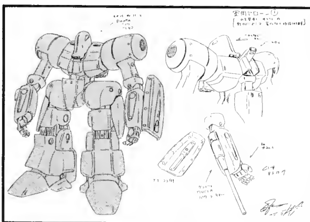
ペンタゴナ・ワールドに於て、グライアと並んで最も一般的に使用されていたH・M。そのためバリエーションも非常に多い。画面中に登場しただけでも4種類になる。たぶんもっといろいろなバリエーションがあるであろう。ムーバル・フレームを一部アーマーと兼用させたり、伝達系にシリコンを使うなどかなり廉価版のH・Mである。

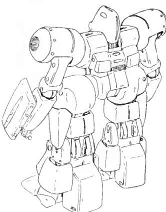
ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングは多種にのぼるがブルー系とグリーン系が多い。



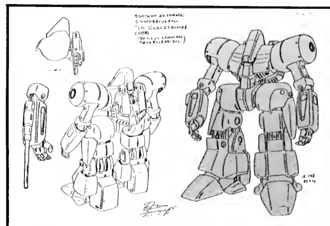
ギャブレーが登場当時使用していたタイプ。リトル・セイでレッシィが操っていたタイプでもある。パワー・ランチャーは腕に内臓式。



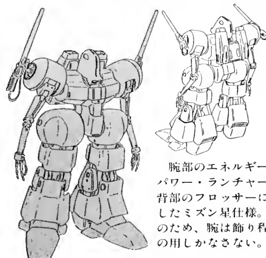


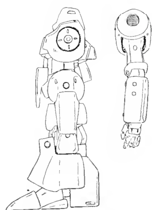


アローンの基本型である軍用アローン。ギャブレーが使用したとのは頭、肩、武装等が異なっている。



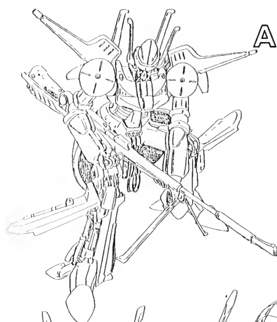
スペース・アローン〝ゴロンゴ〟。反乱軍仕様の宇宙戦専用のタイプである。背部にスペース・グライア用の宇宙用フロッサーを装備しているが、その変り脚部の地上用フロッサーを装備していない。





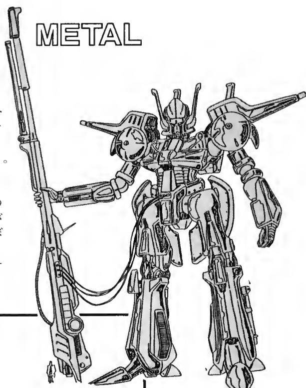
腕部のエネルギーをパワー・ランチャーと背部のフロッサーに回したミズン星仕様。そのため、腕は飾り程度の用しかなさない。

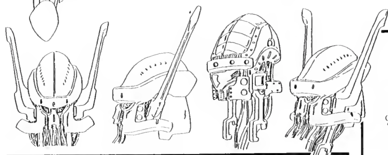
A-CLASS HEAVY METAL BAT-SHU
バッシュ

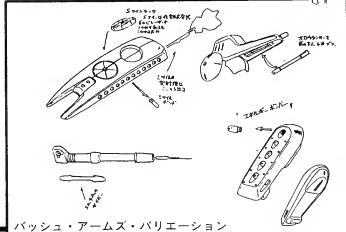


ムーバル・フレームの均り合いが取れており、非常に戦闘性能の高いモデル。原型はすでに過去の戦争で失なわれているらしいが、その性能の高さからレプリカが多数存在する。このバッシュとMk-Iは非常によく似ておりアーマーを交換すると完全に化ける事ができる程であるので、互いに影響を受けているのかも知れない。武装は大型のセイバー1、バインダーにS・マイン2個、エネルギー・ボンバー。両肩にスロウ・ランサーが計12本。

ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはダークブルー。



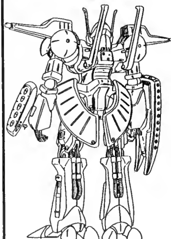




バッシュ・アームズ・バリエーション



両腕の落ちたバッシュ

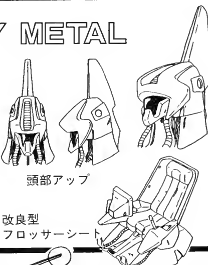


大型のセイバーを使用している事から、接近戦を念頭において作られていると思われる。このタイプのセイバーは他にカルバリィ・テンプルが装備しているだけで余り見うけられない。そのパワーは通常のタイプの数倍であり、Mk-I・IIのセイバーと言えども遠く及ばない。

A-CLASS HEAVY METAL AMOUN DÜÜL
アモン デュール

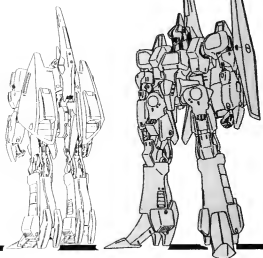
トライデトアルでメッシュが製造していた数百年ぶりの新型A級H・M。スタック(STACK)はこの機だけの名称であり、アモンデュールが型式名である。これの頭部、肩、ヒザ、すね、バインダーを改良または交換した結果、Mk-IIが完成した。この機においてもブローラーへの変型は可能である。

ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはオレンジレッドである。

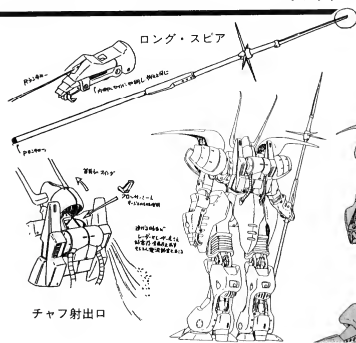


頭部アップ

改良型フロッサーシート



A-CLASS HEAVY METAL G,ROON
グルーン



ロング・スピア

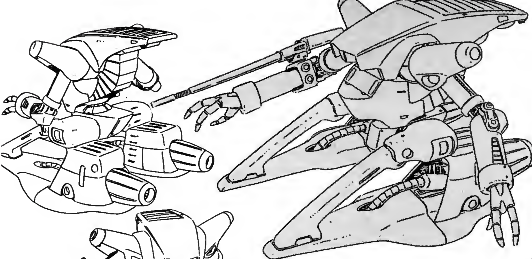
チャフ射出口

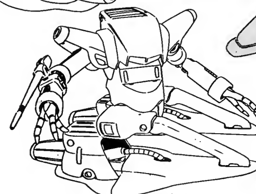
めずらしい小型のH・M。しかし運動性が良いため多数のレプリカが登場、三機編隊で戦っている事が多かった。本来ネイの乗機もこれである。肩にランダム・スレートを持ち、角のような物は放電板である。武装は主として手に持つロングスピアであるが、その両端についているパワー・ランチャーのエネルギーは本体から供給していない為1～2回の発射が限度である。また腕にもパワー・ランチャーを持つがこちらのパワーも低い。なお、腰についているポケット状の物はセイバーラックである。また背部から逃走用チャフを放出できる。

ムーバル・フレームはS－サイズ、カラーリングは紺&イエロー。

MACHINNARY ZEDDA
ゼッタ

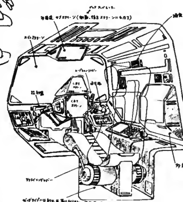
軍、民間と多数使用されているゼッタ。そのためバリエーリョンも多数存在する。マシンナリィは操縦がH・Mと比較して相当簡単なためであろう。武装もヒジの部分に取り付け型のパワー・ランチャーだけではなく、手に持つピストル型の物も有り、リスタと共通して使用できる。
カラーリングは不定。

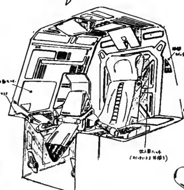




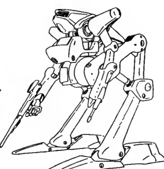


リーリンの使用した機種

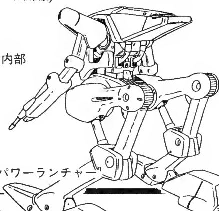


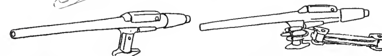


共通コクピット内部

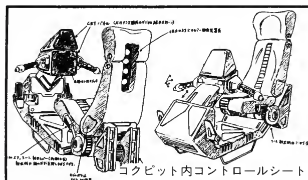


軍用ゼッタ

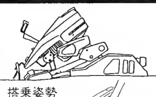




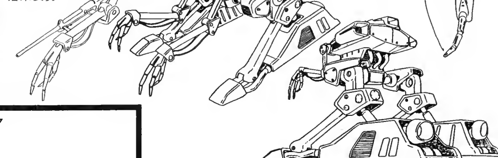
オプションのピストル型パワーランチャー



コクピット内コントロールシート

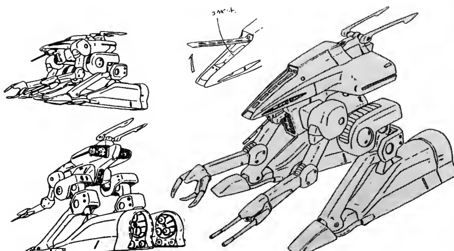


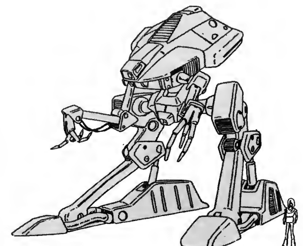
搭乗姿勢



MACHINNARY SPACE LISTA
スペース リスタ

シルエットが非常にリスタと似ているためにこの名がついたが、元は違うH・Mから分派したタイプである。フロッサーを持たず、宇宙用の推進システムしか装備していないため地上では飛行することしかできない。武装は左手と頭部のレーザー砲のみ。カラーリングはモスグリーン。運動性は非常によい。

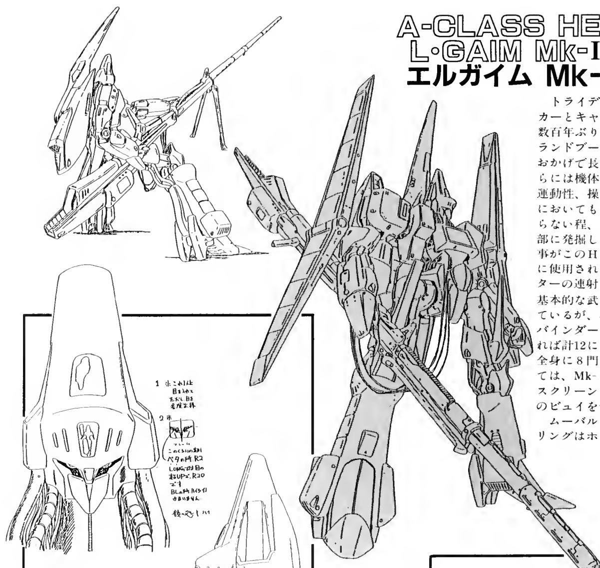




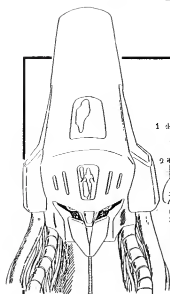
MACHINNARY LISTA
リスタ

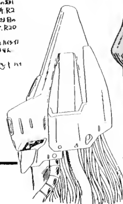
マシンナリィも今は非人間型であるが、もとはB級のH・Mであり、そのため手などもあるのである。このリスタも基はそうであったらしい。カラーリングは不定。

A-CLASS HEAVY METAL L・GAIM Mk-II
エルガイム Mk-II

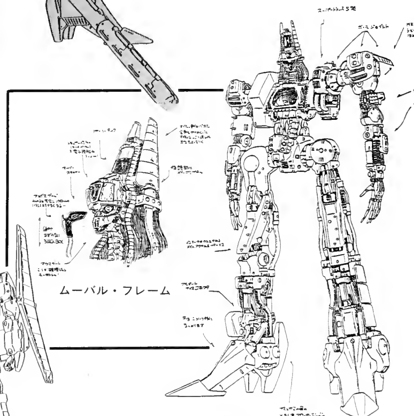


　トライデトアルの技術将校メッシュ・メーカーとキャオが作り上げた、ペンタゴナでは数百年ぶりに新たに設計されたA級H・M。ランドブースターへの変型機能を組み込んだおかげで長距離・高速移動を可能にした。さらには機体各部にザブコンピュータを持ち、運動性、操縦性を優れたものにした。パワーにおいてもノーマルのH・Mとは比べ物にならない程、強力である。さらにはMk-IIの頭部に発掘したB・テンプル№3の物を使えた事がこのH・Mを強力にした。B・テンプルに使用された程のファティマであれば、バスターの連射を行なうことすら可能なのである。基本的な武装はMk-Iの物と同じ物を使用しているが、エネルギーチャンネルは本体に6、バインダーに3、バインダーを両肩に武装すれば計12にまでなり、パワー・ランチャーは全身に8門まで取付けられる。操縦系に関しては、Mk-Iでは完成しきれなかった全方位スクリーンを装備。スパイラルフローも新型のビュイを使用している。
　ムーバル・フレームはM－サイズ、カラーリングはホワイト。

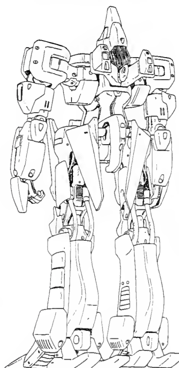




頭部アップ

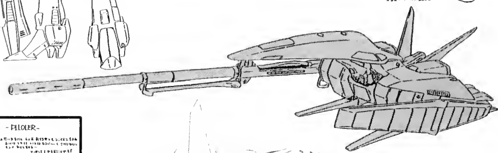


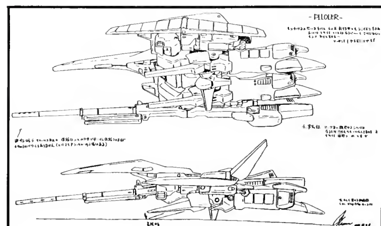
ムーバル・フレーム

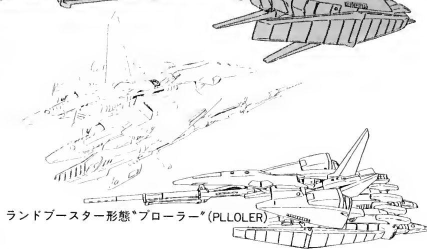




プローラーをはずした状態







ランドブースター形態"プローラー"(PLLOLER)

SPIRAL FLOW VIEWY
ビュイ

Ｍｋ－Ｉで成し遂げられなかった全方囲スクリーンを可能にした新スパイラルフロー。今までのようにバイザーに風景を投映するのではなく、球形のコクピットに全てを映し出すようになっている。ビュイはその中に浮いて収まっている為、耐Ｇ性も非常に良く、操縦者の負担が軽くなった。一応Ｍｋ－Ｉにも使用できるが、その時はフロントキャノピーがスクリーンになる為、とても視界が悪い。

頭部シルエットの変化

コクピット内部

太股部アップ

コクピットオープン時

MkII→プローラー変型プロセス

MkIIアームズ・バリエーション

BUSTER LUNCHER
バスターランチャー

Ｈ・Ｍが使用する最強力の兵器。ひいてはペンタゴナ・ワールド最強の兵器であろう。Ｈ・Ｍとの接続はエネルギーチャンネルを３ch使用する事によって行なわれる。構造としては比較的簡単なもので誘導部、圧縮・点火部、冷却部に大別される。Ｈ・Ｍから供給されたエネルギーは圧縮部でカートリッジに集中される。点火されるとエネルギーは誘導され銃口より放出されるが、そのエネルギーは圧縮の余り固体に近い物となる。そのためＨ・Ｍに及ぼす反動も発生、悪影響を与える。さらには発射後も冷却システムが働くため、Ｈ・Ｍのジェネレーターはオーバーロード状態になる。もしもＨ・Ｍのチューニングが狂っていて、マッチングが悪いとジェネレーターはバーストしてしまう。

プラグ部アップ

BASE MACHINE variation

WORKS
ワークス

キャオとダバガコアムのウーゴル村から青雲の志しを抱いて出て来た時から使用しているベースマシン。居住性に優れ、またH・Mのメンテナンス一式も上部のランチングレール上で可能である。後半、姿を見せなかったガターナに登載されていた。装置は対人レーザー1門、パワー・ランチャー1門。下部に4基のフロッサーを内臓しており、信地回転が可能である。

全長23.9m、カラーリングはオレンジ。

下部四基のフロッサー

キャビン内部

コクピット内部

CHICKEN
チッキン

軍用の小型ワークス。リスタなどを運搬していた。ダバ達の使用していたワークスよりも新式である。武装にレーザー1門。

全長21.9m、カラーリングはパープルグレー。

機首部アップ

SAPORT WORKS サポート ワークス

ワークスの後部に連結して使用する、ランドブースター運搬メカ。自力行動も可能である。

全長17.4m、カラーリングはブラウン。

LAND BOOSTER variation

SPILIT
スピリッツ

反乱軍が主に使用していたランド・ブースター。パワー・ランチャーを2門持ち、旋回半径も小さい。またH・M運搬用としても性能が良い。

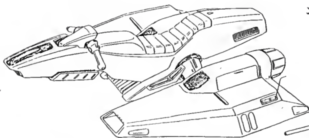
全長が25.4m。カラーリングは多種に渡るがパープル系が多い。

収納型態

飛行形態→収納形態

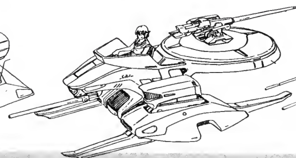
AUX
アックス

単座のフロッサー。オプションで機首に固定式のレーザー１門が取付け可能である。リーリンが使用していた。カラーリングはオレンジブラウン。



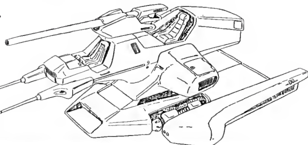
DESKS
デスクス

民間、軍事両方に良く使用されていた、かなり一般的なタイプのフロッサー。ダバ達も使用していた。武装は前部に固定式レーザー１門、後部に回転式レーザー１門。カラーリングはダークグレイ他。



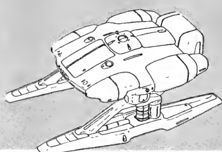
MID FLLOSSER
ミッド フロッサー

複座の中型タイプ。対H・M用にパワー・ランチャ１門、対人用レーザ砲２門を装えている。普及率が高く、随所に登場した。カラーリングは多種にわたる。



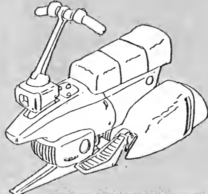
ADEVAN
アデバン

反乱軍が使用していた大型フロッサー。レーザー砲を６門持ち、ミッド・フロッサーを４機収納しており下部前・後にあるハッチより発進させることができる。輸送艦的要素が強い。



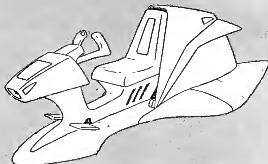
MINI
ミニ

一人乗りの小型フロッサー。ほとんどお買物スクーターである。カラーリングはピンク。



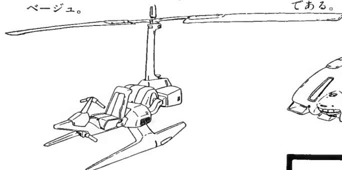
LITTLE FLLOSSER
リトル フロッサー

アムが盗賊にいた当時使用していた小型のフロッサー。カラーリングはイエロー。



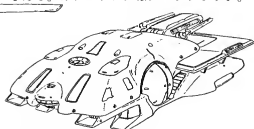
AUTOGIRO
オートジャイロ

盗賊達が使用していた物。しかし、ジャイロとは言ってもローターで浮上するわけではなく後部にあるフロッサーで行動する。そのためホバリングはできない。カラーリングはベージュ。



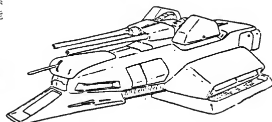
GUGER
グーガー

ステラ・コバン率いるリトル・セイの反乱軍が使用していた、大型の戦闘用フロッサー。機体各部にレーザー砲を装備している。左右と後部に格納庫を持っており、輸送艦的要素も強い。なお、このタイプは水中行動が可能である。カラーリングはダークブラウン。



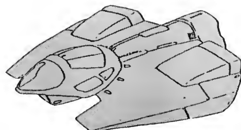
EAGER
エージャー

パワー・ランチャー２門とレーザーを１門装備した大型戦闘フロッサー。



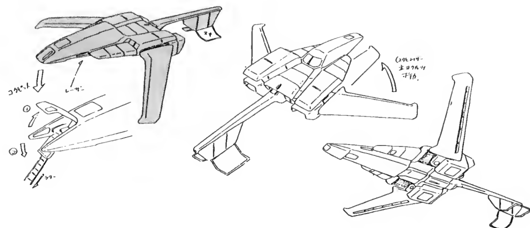
ZAPPER
ザッパー

Mk-IIの背中のブースターと、ほぼ同型のランド・ブースター。たぶんメッシュ・メーカはこれを基にしたのであろう。



GIRHTPPY ギラッピー

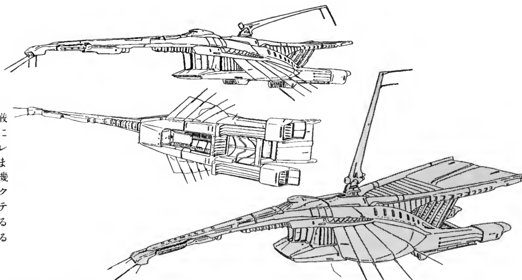
正規軍が使用していたランド・ブースター。スピリッツとほぼ互格の性能であるが、こちらの方が旋回半径が多少大きい。武装はレーザー２門。
全長22.5m、カラーリングはグレーとダークブラウン。

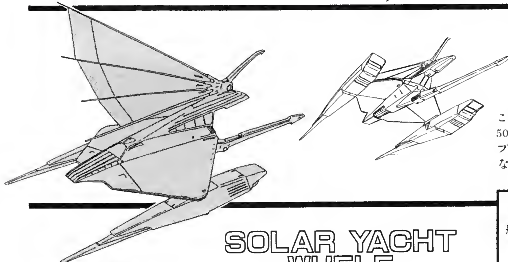


SPACE SHIP AP
エイプ

超巨大な外宇宙艦行艦。ポセイダルの威厳を象徴くるかのごときの威様を誇る。艦首にはベスターガ２門、表面には1000門以上のレーザーを装備している。また艦内には工場まで持っていて、収納しているＨ・Ｍは数十機に登る。なお外装は一体成型のプラスチックのような物でつくられている。なお、Ｂ・テンプルはこの中に収納されていたようである一応大気圏突入能力を持つが、地表に降りることはまず有り得ない。

全長は1.3km、カラーリングはホワイト。

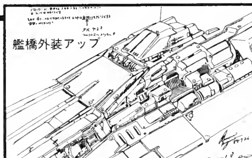




SPACE SHIP QURPAUL
クレパール

35話で再登場したクワサンが乗っていた艦。この艦も本来は外宇宙航行用である。表面に500門からのレーザーを持つが、本来このタイプの艦は戦闘宙域の中心におもむくものではない。

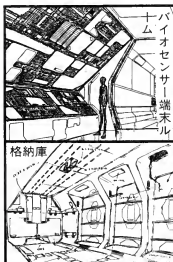
全410m、カラーリングはホワイト。

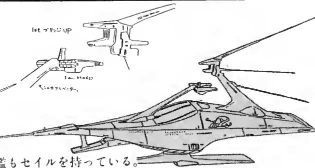


SOLAR YACHT WHELE
ホエール

サートスターで製造されている大型外宇宙航行艦。最初、アマンダラが使用していたが、後にレッシィとフラットも同型艦を使用している。特にアマンダラが使用した艦にはバイオリレイションのコントロールシステムを持っている。非常に線の美しい艦である。

全長375m、カラーリングはアマンダラ用はダークグレイ、レッシィ用がエメラルドホワイト、フラット用がピンク。





なお、この艦もセイルを持っている。

SPACE SHIP TRAST
トラスト

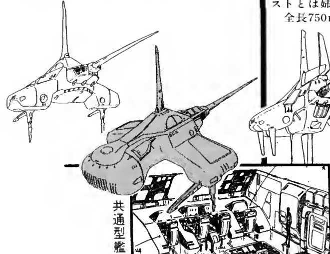
イプシオンの同型艦、ほとんど差異はない。レッシィがスヴェートに侵入するため使用していた。相当な超距離を航行できる。

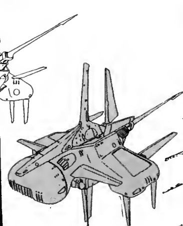
全長750m、カラーリングはダークブルー。

SPACE SHIP Y'ON
イプシオン

ポセイダルがヤーマン狩りのために商船として艤装させていた艦。大気圏突入性能も一応は有るが、本来の使用法としては一定宙域を周回しているものである。見ての通りトラストとは姉妹艦。

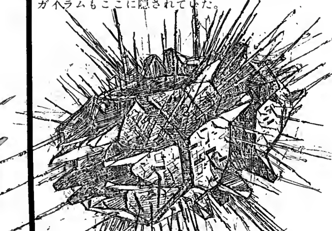
全長750m、カラーリングは水色。





THEART STAR
サートスター

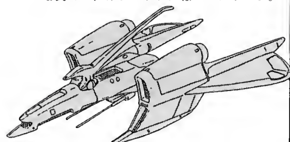
ガストガル近くに漂よう人工惑星。アマンダラが妾のような存在になってしまったフラットに与えた星で、彼はこの星で兵器類も製造していた。星の周囲には絶えずアステロイドをリモコンで浮遊させ、近くに艦が近づけないようにしていた。住人は女性達ばかりであり、彼女等全員がフラットと密接な関係であるらしい。推進機関もあり、大気圏突入も可能であるが、その時はセンサーを全て内部に引き込んで行なう。内部空間は広大でありガイラムもここに隠されていた。



SFF KASATHU
カサッシュ

小型戦闘機。大気圏内外両方での使用が可能だが、宇宙空間での戦闘が主である。レーザー砲２門を装備している。

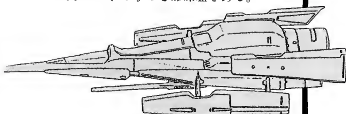
全長25m、カラーリングはモスグリーン。



SJR SLASH
スラッシュ

大出力を利用しての高速宇宙艇、インターセプターである。垂直上昇で後部のメインノズルを全開にすると、大気圏外へ２～３分で到達できる。ただし武装はレーザー２門のみである。作品中にも数多く登場した。

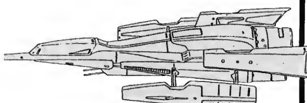
全長130m、ＳＪＳと姉妹艦である。



SJS GUL-GUL
グルグル

形状がスラッシュと非常によく似ている高速キャリアー。合計６門のレーザー砲を装備している。基本的にペンタゴナ・ワールドの宇宙船は大気圏突入整能を有しており、この艦を突入可能である。17話でダバ達が使用していたのはこのタイプである。戦艦としては一番良く使用されたのが、このタイプとスラッシュである。

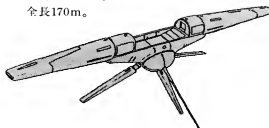
全長130m。



GARDIAN POST A-NANDA
アーナンダ

ガストガルの衛星軌道を巡っている防衛々星。分離ミサイルを装備しており、スヴェートに近づく不審な艦を攻撃する。本来は無人であるが、一応管制室もあり、ドッキングベイも持っている。

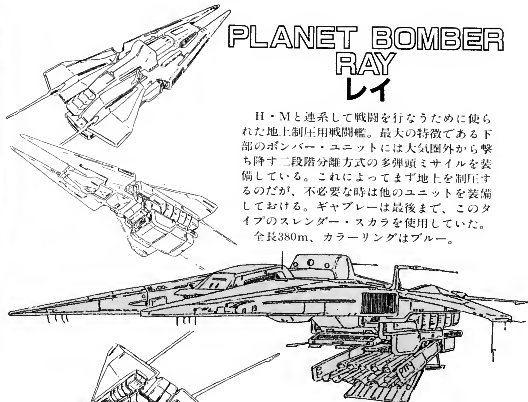
全長170m。



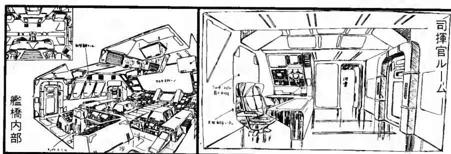
PLANET BOMBER RAY
レイ

Ｈ・Ｍと連系して戦闘を行なうために使られた地上制圧用戦闘艦。最大の特徴である下部のボンバー・ユニットには大気圏外から撃ち降す二段階分離方式の多弾頭ミサイルを装備している。これによってまず地上を制圧するのだが、不必要な時は他のユニットを装備しておける。ギャブレーは最後まで、このタイプのスレンダー・スカラを使用していた。

全長380m、カラーリングはブルー。



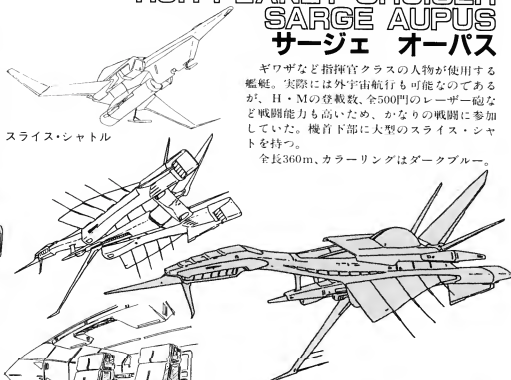
ボンバーユニット、オープン時

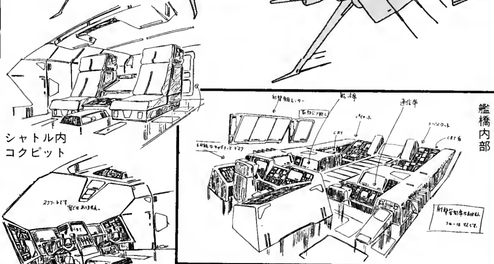


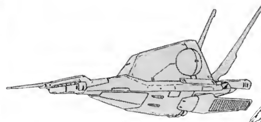
HJR PLANET CRUISER SARGE AUPUS
サージェ オーパス

ギワザなど指揮官クラスの人物が使用する艦艇。実際には外宇宙航行も可能なのであるが、Ｈ・Ｍの登載数、全500門のレーザー砲など戦闘能力も高いため、かなりの戦闘に参加していた。機首下部に大型のスライス・シャトルを持つ。

全長360m、カラーリングはダークブルー。





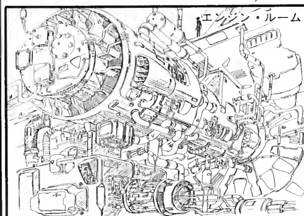


エネルギー吸収時

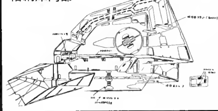
MTJ QUART TARNA
ターナ

アムがアマンダラから貰った中型宇宙船。艦首に大口経レーザー、船体にミサイル発射口を持ち、H・Mも4～6機発載可能であるが、プラネット・ボンバーなどと比べてしまうと戦力的に数段落ちそうである。やはり輸送艦的要素の強い船なのであろう。

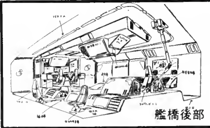
全長240m、カラーリングはベージュ。



エンジン・ルーム



格納庫内部

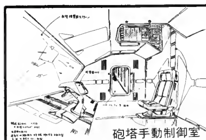


艦橋後部

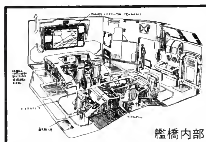
TRANSPORTER QUART
クォート

トランスポーターであるが、軍用として設計されているために武装も比較的整のっており、がんじょうにできている。

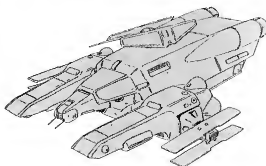
全長は133m。

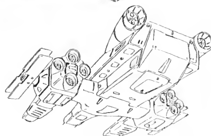


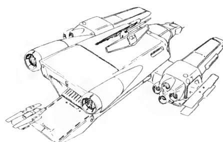
砲塔手動制御室



艦橋内部



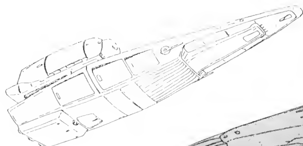


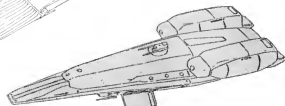


TRANSPORTER D'PS
ディップス

本来は輸送艦なのであるが、反乱軍はこの船をアマンダラから戦艦に改造して貰っていた。武装は艦首に大口経レーザー1門、他にもレーザー砲数門。ただし、この艦には数類種のマイナーチェンジ版があった。ちなみに図はノーバ(NOVA)。改造場所はサートスター。

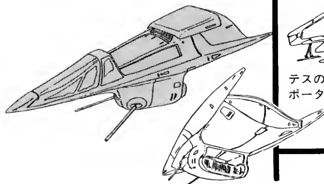
全長260m。





SOLAR BOAT CROSSE
クロッサー

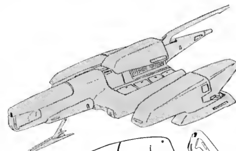
サートスターで使用されている小型の万能艇。上部にカーゴルームを持つ。武装はレーザー砲2門。

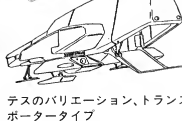


PATOROL BOAT THESS
テス

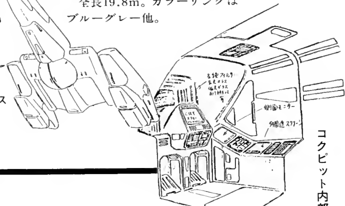
主に宇宙空間での臨険などに用いられた。この機もトランスポータータイプなど、数種類のバリエーションが存在する。

全長19.8m。カラーリングはブルーグレー他。





テスのバリエーション、トランスポータータイプ



コクピット内部

ヘビーメタル　デザインノート

エドラス

MK―IIの基になったコンセプトでFighterとなっているように、当初はH・Mを脱却した物をイメージしていたようだ。しかし、超絶した威力を持っているという点では右サイドのドラフターロックがプローラーのバスターに受けつがれている。実際にこのエドラスが活躍する所をぜひ見たかったものだ。

ヌーベル・ディザード

脇にはNEUEと書かれているが、英語にすればヌーベルになる。ヒザの部分を見る限りでは、すでにこの頃から変型を考慮していたように見える。すでに最終的なイメージも入り始めているが、まだ考えがまとまり切っていないのであろう。

当初案のヌーベル・ディザードの飛行形態。ランダムバインダーが完全に水平翼となっている。しかし、最終的にはピンナップにあるようにシルエット状に変更されたようである。

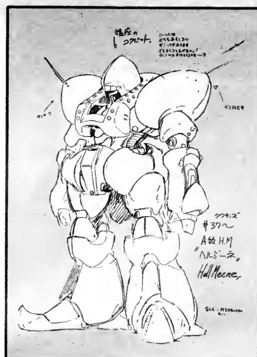
アシュラ・テンプル

おそらくはクリンナップ直前に書いた物であろう。少しばかり変った部分もあるが、ほとんど決定稿と同じに仕上っている。

基本的なコンセプトが決ったのであろう。多少機体のバランスが違うだけで、ほぼ画面に登場している物の特徴はしるされている。

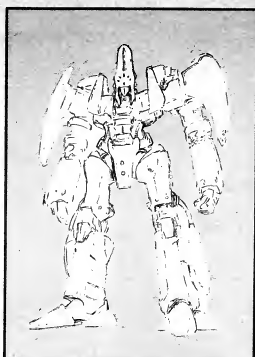
この頃になると、A・テンプルのどっしりした感じが出初めている。全体的なフォルムも決まり始めたようだ。

一番最初のイメージから、この機の特徴であるサーカス・バインダーは考えていたようだ。しかし、まだ腕は二本しかなく、バインダーは肩にジョイントしてあるのであろう。



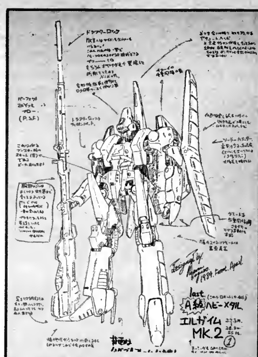
ヘルミーネ

カルバリィ・テンプルの前身であろう。しかし形状としては想影は見られるが、別のコンセプトを持って描かれたのであろう。この絵の最大の特徴である左右肩のガスタンクもC・テンプルにはなくなり、全体の丸々した感じも最終的には変っていた。



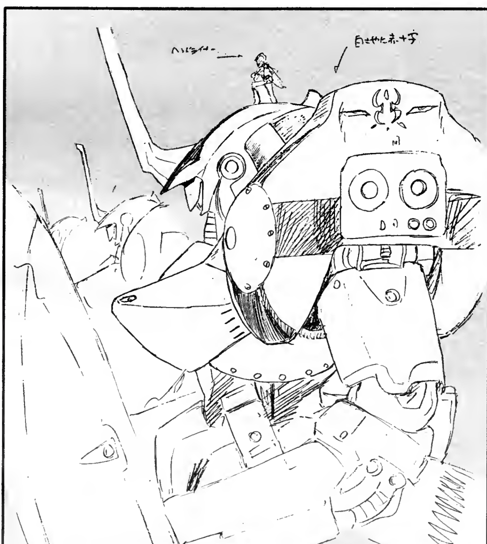
アトール

考え始めて最初の頃のデザインであろう。頭部デザインやウインゲル・バインダーに面影は見えるし、気分も伝わってくるが、まだコンセプトが決り切っていないようである。



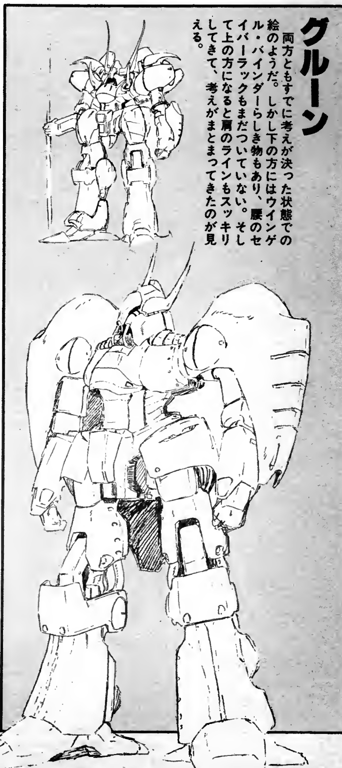
エルガイム Mi-II

決定稿の下敷なったデザイン。これをクリンナップして作画用の設定となった。頭部デザインに微妙な差があるが、すでに全体は完成している。



ブラッド・テンプル

最初の案では最終回に登場するはずであったブラッド・テンプルのイメージラフ。右手にはパワーランチャ、バーストを持ち、左手にサーカス・バインダーを持っている。この図で頭部に立っているのはテンプル・ナイツの人間である。なおこのB・テンプルは20体登場する予定であったらしい。



グルーン

両方ともすでに考えが決った状態での絵のようだ。しかし下の方にはウインゲル・バインダーらしき物もあり、腰のセイバーラックもまだついていない。そして上の方になると肩のラインもスッキリしてきて、考えがまとまってきたのが見える。

ベアズ

ラフの第２案なのであろう。ランディング・ギアの部分が重すぎると思ったのか、最終的にはずっと軽いイメージの物に変った。

この時点でどうやらデザインも固まってきたようだ。大体の特徴はすでにこの時点で表われてきている。しかし、頭部デザインはまだいろいろと試されている。

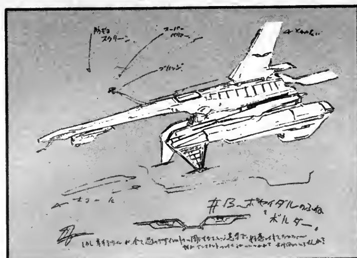
この頃になると、スタビライザーの位置を試したり、胸のデザインを変えてみたりしている。

かなり色々な試行錯誤をくりかえしたデザインのようであるこの時にはまだ、スタビライザーもなく鋭角的なイメージも余り感じられない。

さらに前のデザインを固めた物。肩もせり出し始め、腕にＡ級のユニットを登載していると言うイメージが出ている。頭部も、かなりスッキリとしてきている。

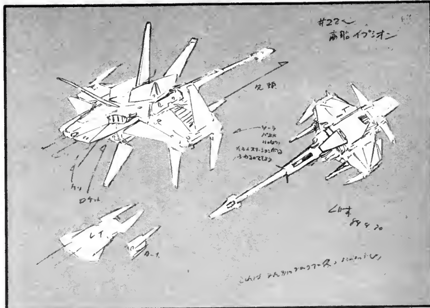
クリンナップ直前の絵。しかし、この場合いはほとんど設定と呼んでも良い物であろう。
すでに最終的な物と差はなくなってしまっている。

バルブド



エイプ

“エイプ”の初期イメージである“ボルダー”すでにこのデザインにおいてもエイプの面影が有る。ただ、まだセイル状の物の姿はなく船体のバランスもこれでは不満であったのであろう。かなりの変更をしている。



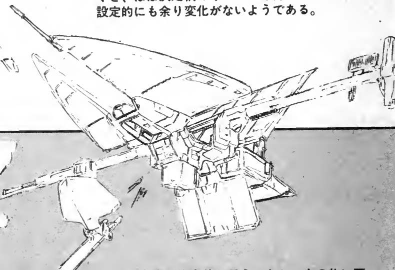
イプシオン

この商船イプシオンについては、最初からかなりイメージが出来ていたのではないだろうか。尾部の変化と全体が丸まった事をのぞくと、ほぼ決定稿のイメージを持っており、設定的にも余り変化がないようである。



カサッシュ

決定稿とはかなりの差異を示しているが、小型戦闘艇であると言うのはかなり意識していたようであり、身軽なイメージがデザインに表われている。



スレンダースカラ

機首が右のイメージ、船体が左のイメージの合成が決定稿と言うべきか。右の物に至ってはかなり細部まで決定していたようだが、やはり立長の船体も魅力であったのであろう。

THE FIVE STAR STORIES 付記

“エルガイム”のキャラ&メカデザインを担当した永野護氏のオリジナル世界である『ファイブスター・ストーリー』。右図はP114〜115の物で、敗北を悟ったポセイダルがファティマ“アトロポス”とつれだち、カモンとクワサンの乗るターナに乗船してきたシーン。ここで何が語られたか、知る者はいない。



右図はP116〜117の図。全てが終った事を知ったレッシイは愛機Mk−IIを駆り、同じくMk−IIIを操つるネイといづこともなく宇宙へ去っていった。時は3988年、彼女は25才であったと言う……



1枚目ピンナップの裏面は戦争終了後、3987年ミズン星にてカモンとアムの結婚式シーン。上空を飛ぶのは右よりヌーベル・ディザード、Mk−III、Mk−II。

獣戦記 エルガイヌ

　このコーナーは永野　護氏がアニメックに来た時、遊びで描いたイメージ・イラストを基に再編成したものです。
　エルガイムのキャラクターを犬に見たて、19世紀のヨーロッパの雰囲気で構成してみました。本来の作品とは関係ありませんが、楽しんでいただければ幸いです。

STORY OUTLINE

　昔々、ペンタゴナと言う地に、多くの国がありました。そこに住む人々は互いに競い合い、自分達の国を強くする事に努力を惜しみませんでした。ある日、ペンタゴナの国々の一つガストガルからオルドナ・ポセイダルと言う若者が立ち、多くの国を統合して、ペンタゴナ・キングダムと言う一代帝国を築き上げたのです。
　統一されて後18年、初めは温和だった政策も時が経つにつれ圧政と変っていきました。ついに、民衆は自分達の自由を勝ち取るためポセイダルに倒された国の一つ、ヤーワン王家の末裔であるダバ・マイロードを立てて、ポセイダルに反旗を振りがえしたのです。

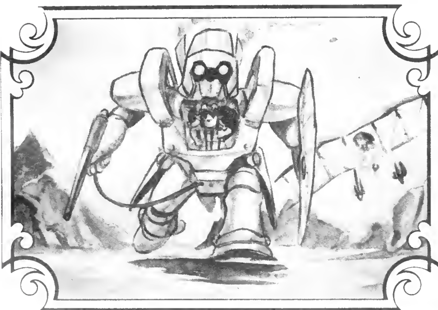


ILLUSTRATION／堂谷順子

上京 come up to sveet



神隠しに会ったクワサン・オリビーを捜して村を出たダバ、アム、レッシィ、キャオ、そしてリリス。牛車でエルガイヌを運びます。



戦闘 action



戦闘シーンのエルガイヌ。ダバが操るエルガイヌのエンジンは蒸気機関。ランクが上るごとに燃料が変化します。







首都 capital

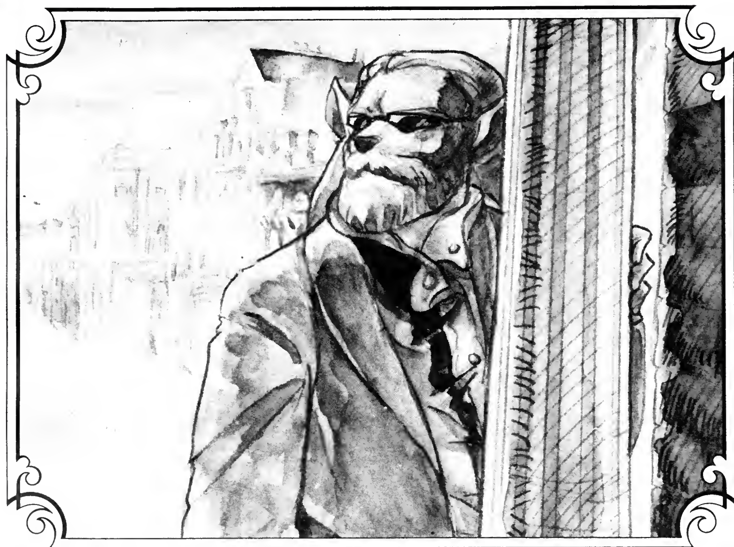
首都スヴェートの町並を歩くエルガイヌ。レンガ作りの高い建物に大きなエルガイヌもほとんど隠れてしまう。



出生の秘密 brith of secret

若き日のダバ・マイロード。ダバ・ハッサーは死の直前、マイロードが実は自分の子ではなく、ヤーワン王家の王位継承者だと伝えるのだった。

影にて shadow





オルドナ・ポセイタル
OLDNA POSAYDAL

フル・フラット FULL FLAT





ネイ・モーハン死す

オルドナ・ポセイダルは13の犬達に各自、司政をあたえ、国々を治めさせた。なぜなら、ポセイダルに弓引く力を作り出し、鎮静する事で世界を活性化させようと企てたのである。

「うげ～」のキャオ
(UGE～) KYAO





再会 meet again



戦いの中、ダバは捜し求めていた妹、クワサンと出会う。しかし、クワサンはバイオリレイションと言う恐ろしい狂犬病にかかり、心を奪われていたのである。



証 proof

革命分子にヤーワン王家の紋章を見せるダバ。これによってダバ・マイロードはカモン・マイロードと名のり指導者となって行く。





集結 concentration

圧政を布くポセイダルに反旗をひるがえすダバ。立ち上る民衆！——この物語はここで終ります。みなさんどうでしたか？この後のお話しはみなさんの心の中で考えて下さいね。

重戦機エルガイム
声優座談会



イラスト／四位広猫

出席者
平松和広　（ダバ・マイロード役）
本多知恵子　（ファンネリア・アム役）
川村万梨阿　（ガウ・ハ・レッシィロ）
（リリス・ファウ役）
西村知道　（ギワザ・ロワウ役）
大塚芳忠　（ミラウー・キャオ役）
向殿あさみ　（リィリィ・ハッシー役）

●最初ダバの顔も覚えてなくて

――最初に「エルガイム」をおやりになる時に、各々のキャラについてどんなイメージをお持ちになりましたか？

平松　僕は、オーディションでダバとキャオの両方やったんです。それで、キャオの方の説明は一杯覚えてたんですけど、ダバの説明をしている時に、富野さんの顔をずっと見ながら、（この人はどっかで見たことあるなぁ）ってそのことばかかり考えてて全々聞いてなかったんです。ただレッグウォーマーをしてるなとかそれくらいで、顔も覚えてなかったりして。（笑）キャオのリーゼント頭が一番印象に残ってますね。

最初から王子だっていうのは一応聞かされていたんですけど、その辺はあまり関係なくやってました。

――本多さんのアムのイメージはどうでしたか？

本多　私は最初、アムとレッシィとリリスを見まして、その時は名前わかんなかったんですけど、「あらこの妖精かわいいなぁ、こういう役やりたいな」と思ってました。アムは、絵自体カチカチしてなくてかわいいと思いましたし、ファッション的にも凝ってて面白かったので、第一印象で気に入りました。

最初はお姫様というかそんな感じだって聞いていたので、（あらそうなのかしら）ってにこにこしてアフレコしたら全々違ってあばずれ女だった。（笑）あれまぁとか思ってやってるうちに段々ずれてきて、お姫様どころじゃなくなっちゃいましたけど。（笑）

川村　私もアムとレッシィ両方オーディションでやったんですけど、レッシィはとてもキリッとしていて私がやるキャラクターじゃないなとか思っててアムの方を一生懸命やってたんです。レッシィの時には、（きっとこの子は、声の低いキリッとした雰囲気の人がやるに違いない）と思って、どうせ受かるわけないやって調子にのって、こういう声出せるかなとかちょっと実験みたいにやってみました。だから受かったって聞いた時はびっくりしましたね。

ただ誰が言ってたのかしら、アムがヒロインでこっちは脇役の方だから殺される可能性があるって。（笑）だから、なるべくヒロインの方がいいなあって思ってたら殺されそうな役になって、2クール以降は富野さんもわからないって言うしね、もういいんだとかいじけながら。（笑）

大塚　キャオは絵を見て、すぐにやりやすい役だと思いましたね。つかみやすい。極端にやればいいなって。（笑）明るくね、極端に落ち込んだり振幅を激しくやってればいいんじゃないかなって。なんか、あれ一年やって性格が変わりましたね。（笑）明るい人になっちゃいました。

●悪役って最高ね

西村　みんなオーディションやってるんだ。僕なんかの場合何も見せられなくて、突然この役でと言われたんですよ。一番最初は年寄りだって聞いたんだよね。結構老けてるからって。僕も老けを意識したんだけど、それが段々若くなってきて、ああいう風になるとは思ってなかった。

本多　29才でしたっけ、

平松　出てくる度に顔が若くなって。

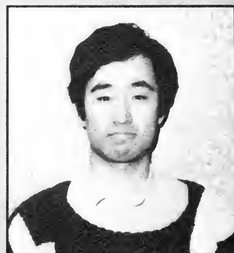
向殿　それにしてはずいぶんと大志を抱てたから。（笑）

川村　え――っ、じゃ大塚さんと変わんないのぉ？

大塚　うん、同い年。

――向殿さんのリィリィは？

向殿　私もいきなりっていうか、突然こういうキャラクターなんだけどって言われて。「女性なんだけど、すごいんです」って。ただそれだけなんです。それで、説明だけ何ってキャラ表を見せてもらわなかったので全々わからなかったんです



平松和広

所属：俳協



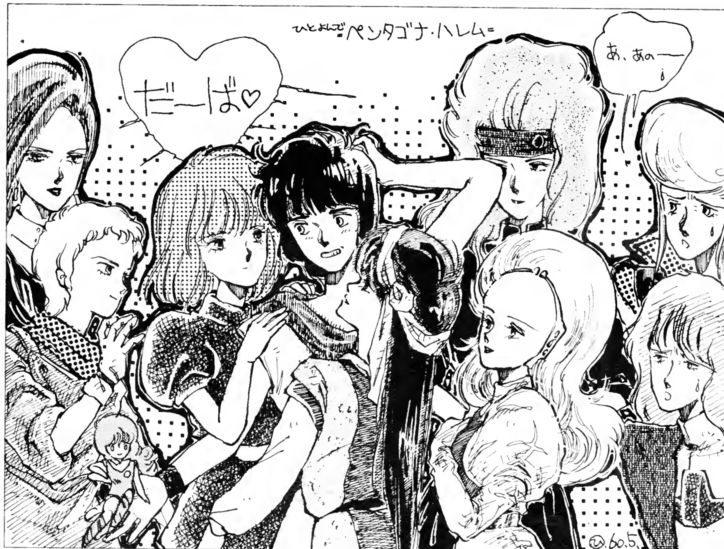
本多知恵子

所属：俳協



西村知道

所属：アーツビジョン



イラスト／四位広猫

よ。とにかく雰囲気としては、「ザブングル」に出てたトロン・ミランというのを私やったんですけども、「トロン、ミランよりもすごいんです」って言うんです。台本だけは先にいただけたので、読んだら男なんじゃないのこの人は、という様な台調で。現場に行って絵を見るまで顔とか全々知らなかったんです。思ってたよりやせてギスギスした感じの人でしたけど、面白かったですよ。

西村　すごくのってたもんね。

向殿　私初めてなんです、悪役って。初めて出て来た時なんか、さんざんアムのことといたぶんのね。

本多　そうそう。

向殿　「主役をいじめんの最高だね、悪役って面白いもんなのね」ってしみじみ言っちゃった。

――**でも最後はあっけなかったですね。**

向殿　あれだけ悪いと、最終回まで残れっこないなって覚悟はしてたんですよね。それで一番最後の台本読みしたがら「これ死んでるんじゃない、ひょっとして」「えー、うそ」とか言って。あっけなくて死んだのかよくわかんなかったけど、アムが後ろで「やった、やっちゃった」とか言ってるから、だめだこりゃ死んでる。(笑)

西村　ギワザも最後はちょっとあっけなかったね。でも最終回は感動しましたよ。普段見られないから最終回はビデオにとってあるんです。

向殿　ギワザさんて、最後まで何をやらかすかわかんなかったですね。なんか攻め入るとか言いながら、あっちを利用したりこっちを利用したり。(笑)

川村　私もレッシィは最初ほとんど悪役かと思いましたよ。ヒロインとなぐり合いのけんかはするし。

本多　そう、一人で目まいおこしちゃったもんね。はぁはぁいって。

川村　前半ほとんど毎回でしたね。とにかく口汚くて。

本多　こんなこと言っていいのかしらっていう言葉がぽんぽん出てきてね。

川村　私達なんか一生懸命やってたのに、オリビーが出て来てからこっち…。

本多　ねえ。レッシィとけんかして、どっちがダバをってやってたのに、鳶に油揚げ。(笑)

向殿　私は、アムとレッシィがダバを争ってて、そこにキャオか誰かが入ってきて四角か六角関係くらいになるのかなって思ってたんだけど。

川村　ダバを頂点にして、アム、レッシィ・キャオ・オリビー・リリスってなってるんです。(笑)

――**キャオは最初から出てたわりに、女性との話がなかったですね。**

大塚　キャオはあんまり本題には入ってこなかったから。

向殿　全々なかったの?

大塚　もてないんですよ。最初はアムが好きだったんじゃなかったっけ。

平松　前半ね。

大塚　モーションかけてたんだけど、見向きもされなかった。

——キャオはずっと縁の下の力持ち的存在でしたね。

大塚 見え隠れしながら。力はあまりないけど。(笑)

向殿 一瞬死ぬかと思っちゃったね、最終回の1話か2話くらい前。あっ、これはヤバイノと。(笑)

大塚 殺すつもりだったんじゃないの。死ねば劇的だったのに。(笑)シリアスになっていいのになあって思った。(笑)残りも1話か2話だし。

川村 これでキャオも死んで、オリビーは再起不能になって、ダバがそれ連れて帰っていったらもうどんな終わり方になるか——。

大塚 悲惨な物語だね。

平松 死んじゃうとナレーションが出きなくなるでしょ。

向殿 大塚さんのやってたナレーション面白かったねぇ。

川村 「ペンタゴナという惑星」って個性的な言い廻し。

西村 ああいう風に、ちょっと面白くというのは富野さんの指示なの?

大塚 あれは指示はなかったです。勝手に「ペンタゴナ」って言ってた。キャオとは違うところでやれとは言われたけど。

川村 2話か3話で、「まあ、そういう話だ。へへ、へへへ」って笑うの。(笑)

大塚 ただ笑えって言われたから。(笑)でも、「マークII」になってからは、急にシリアスになった。照れちゃうね、シリアスにやると。

向殿 タイトルで、うまく言えないのが一個あったでしょ。

大塚 沢仙あったよ。(笑)タイトルらしく叫ぶっていうのは難しいんですよ。やっぱり、節つけないとタイトルらしくならない。で、節つけると口がうまくまわらなかったり、ピタッと決められなかったり。

●ダバ君、陰険になったんじゃない

——ダバが反乱軍を率いてからは、威厳とか意識されましたか?

平松 全くそんなのないです。(笑)ほとんど目一杯やってたから、これはどんな状況で、とか考えてる余裕がないというか、画面を見てその第一印象でやっちゃたから、後半はやたらめったら叫んでるだけでした。

——オリビーが出て来たあたりから、ダバがやたらシリアスになりましたね。

平松 シリアスになっていけばいくほど、ダバが暗くなりましたね。もうちょっと、前半のキャオとの明るい部分があった方がいいかな、と思いましたけど、それやるとまた話がわかんなくなるから仕方ないのかなぁ、と。僕は最初の頃のダバの方が好きなんです。

——意識して変えていった部分というのは?

平松 ありませんけど、自分の性格を反映して暗くなっていきましたね。前は、ダバは結構ぼ——っとしたとこがあったんで普通にやると暗いって言われたんですよね。だから出来るだけ明るめに声を出してたんですけど、後半は戦闘シーンが多くなって、そういう指示が出なくなったからすごいやりやすかった。でも、好きなのは最初の頃なんです。

一話完結でいってほしかったですね。反乱軍を集めてる最中は、だいたいエピソードごとに一話完結でしたよね。あの辺が一番好きです。後半になってやたら話がつながってきて、自分でも整理しきれなくて困りましたけど。

川村 後半陰険になったんじゃない?

平松 陰険になりましたぁ?

向殿 もう少しおっとりした感じだったんじゃない。

平松 前は何も知らないみたいなとこがあったから。1話で人を撃つ時に謝る人ですよ。ほんとに田舎からぽっと出て来たって感じだったのが、もまれてああなっちゃう。

向殿 戦争って恐いのね。

——好きな台詞というのはどんなものがありますか?

川村 私は9話あたりの「私、恋をしたのかしら」というセリフが好きです。

本多 一杯あるんだけど、最終回の「でもそれがダバの選んだ道なのよね。」っていう、アムが自分に思い込ませようとしているというか、そうなんだよねっていうのが印象に残ってますね。

川村 あと、リリスの「ウー、ウー」言ってるの好きだったの。「うー」だけで感情表わしてるの。だからバリエーションつけてみよう、とか。急にしゃべり始めちゃいましたけど。

それから、リリスが見せ物小屋で踊ってるとこも好きだった。白い服着てダバのイメージの中で踊る、という。だから、今度こそ妖精っぽい妖精が出来るかも知れないと思ったけど、だめだった。最後はしたたかになってしまった。

平松 僕はゼネラル・クロソの出て来た回が一番印象に残ってます。「最後までわからないなんて、人生は」とか、いきなりシリアスなこと言うんです、泣きながら。あの台詞が好きだったからもう少しうまくやりたかったですね。



川村万梨阿

所属:アーツビジョン

●リィリィの暗い過去が知りたいね



向殿　リィリィの在り様っていうのは、全体的に好きだったんだけど、やっぱり「ばーか」と「あたしゃ趣味でやってんだから」というのが一番好きだったのね。趣味で戦争やる女がいるかっていうの。(笑)もう最高。自分ではすごく低い声使っているから、迫力出そうとするんだけど、長い台詞だともたたいの。だから、バ――ッと言ってる長い台詞より時々ぽそっという方が好きだったのね。「ばーか」とか。初めのうち出て来てビシビシバシやってるのも好きだったけど。何ていう性格なんだろうね。(笑)

川村　向殿さんと一緒にお仕事したのは初めてでしたよね。出て来た途端にアムを「2度と会えない顔になっちゃうよ！」って痛めつけて、(すごいなぁ)と。(笑)

向殿　もうほとんど狂気だもんね。(笑)

平松　リィリィの暗い過去が知りたかったですね。どうやったらあそこまで。(笑)

向殿　私も知りたかった。きっとネイみたいな扱いをうけたに違いないと思ってた。で、相手の片腕どころか心臓突きさして、やってやったとか思ってあとは趣味に流れたのかな。

西村　悪い男だね、ギワザってのは。

僕は、好きな台詞というんじゃないけど、ネイとギワザがラブシーンやってた時は、あの話の中で芝居をしているわけで、ああいうのは楽しかったですね。で、そこは盗聴されてるのでわざと聞かせるとこだから、すごくオーバーにやったらやりすぎだと言われたけど。

川村　そういえば、レッシィもギワザに捨てられたんですよね。

本多　そうそうそう。初めはギワザの下にいたのに、ネイが来たから左遷されたの。

川村　ギワザのお気に入りだったのよね。それで腹いせに反乱軍に入っちゃった。(笑)でも、リィリィって1話に1回、印象に残る台詞言ってません？

向殿　そう。だから今回はこの台詞が好きっていうのが必ずあるわけ。最後の方はあんまり出て来なかったけど、ひょいって出て来てぽつ、ぽつって言うのが好きだった。

書いてる人大好きだったね。「趣味でやってんだから」の回は、渡辺麻実さんが書いてて、「わー麻実ちゃん好き〜」とか思っちゃう。

西村　男の人が書くのとやっぱり違うのかな。女の人には女の人の見方があるから、うまいところをつくのかも知れないね。

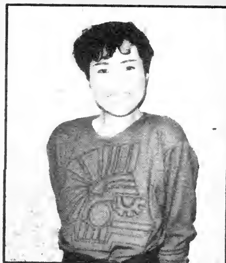
向殿　そうかも知れない。私がすごく気に入った回は、渡辺さんが書いてる回が多かったのね。思い入れたっぷりで書いてるのを、こっちがどれだけ表現出来たかは置いといてだけで。

よく言われましたよ、それだけ言えれば気持ちいいだろうねって。気持ちいいわよぉ。

西村　ギワザはそういうの出せないからね。僕はどっちかというと明るい方だから、押さえて押さえて芝居してた。だから最後の死ぬとこなんか、その反動じゃないけどブワーッとやっちゃって、ギワザはそんな死に方しないとか恐られた。

向殿　静かにやってましたものね。ネイとやってる時も、すごく静かでしたね。

本多　ネイ役の竹内さんも、割ときゃあきゃあした性格なのに、ネイって落ちついた性格なのね。あのギャップが面白かった。間違えると、「きゃー間違えちゃったあ！」とか、大変面白く観察させていただきました。(笑)



向殿あさみ
所属：アーツビジョン



大塚芳忠
所属：アーツビジョン

●ラフな会話とか、新鮮な作品だったね。



イラスト／四位広猫

西村　役と自分とダブってくることってあるの？

川村　半年もやってますとね、これはないんじゃないか、とか真面目に頭にきちゃうことありますね。オリビーにダバをとられそうになって、私が今までやってきたのは一体何だったんだ！とか。(笑)

向殿　思い込みが激しいから感情的になっちゃうというのはよくわかる。アムやレッシィが「あたしが相手よ！」とか出て来るとムカーッてするものね。うるさいんだよお前は、とかつい言っちゃうもの。

川村　私はそういう気持ちがあるのに、後半レッシィが寡黙になるでしょ。このギャップが激しくて、リィリィとの戦いがものすごい発散になるんです。(笑)

向殿　だからそういうはけ口が、全部戦闘シーンになるのね。

西村　役とか離れたところで、そういうこと感じるっていうのは、やっぱりいいことなのかも知れないね。

——キャオも結構感情を出す青年でしたね。

大塚　キャオはあんまり話の本筋に入っていかなかったからねえ。

川村　何をいじけているんですか。(笑)

大塚　僕はリリスと遊んでるのが一番楽しかったですよ。

川村　あ、一つ気持ち悪かったの言ってもいい？ダバが女装して「うふっ」ていうの。絵はすっごいきれーな女の子になってるわけです。兵隊にかわいい「かじゃないか」とか言われて「いや～ん」なんて。その気になってやってるなぁと思って聞いてたの。

平松　その気になんなきゃ恥しくて出来ないよ。まだそれ観てないんだ。最終回も観てない。

本多　最終回は何とか観ました。でも最後の方なんか絵が暗くなかった？ダバと別れるところのシーンが、全体的に芝居じゃなくて絵が暗かった。夜明け前なのかな。

川村　みたいね。

向殿　うちのビデオは壊れる寸前だったから、画像が悪くてわからなかった。

本多　でも、ミアンの最後の言葉「私は操られましたものを……」って、すごく思い入れ込めてやってるなあと思った。すごい胸にきましたね。

川村　この間、1話を久し振りに見なおしてたら、ダバ君が「たまんねぇな」とか言ってるんです。イメージとして結構お坊っちゃん言葉だったよなぁとか思ってたから、こういうのも新鮮だったなあ、と思った。

向殿　キャオは最後までラフだったね。他の人達はかなりド真面目にかまえてやってたから、キャオの言い方ってすごく好きだった。

平松　ラフっていうか、普通の会話だよね。今僕達の街で流行(はや)っている会話みたいな。

西村　僕は、台詞を全部自分で変えちゃったりするんですよ。「ザブングル」のゲラバ・ゲラバなんか、それで最後にはすごくひょうきんなキャラクターに変わっていった。だからやりすぎだってすごく言われたね。めげずにやったけど。でもギワザは出来なかったね。そういう意味ではすごく難しかったけど、一番印象に残ってるのも「エルガイム」だね。若い人達が入ってきてることもあるし、役者さん同士も何か目に見えないつながりみたいなものを感じる作品だったたね。



Heavy Metal L·GAIM

PLACE IN THE HEART

常に移り変わっていく流れの中で、時よ止まれと願う一瞬を求め、
人々は永遠という名の幻影を夢みる。
しかし、やがては夢に倦み疲れ、
精神さへも虚ろになってゆく。
己の信ずるものが虚像に過ぎなくなった時、
人はどうすればよいのだろうか。
そして今、若者達が時代の眠りを覚ます為、動き始める。







ACT 1：ボーイ・ミーツ・ガール

それはいつも出会いで始まる。
王子様を夢みるほど純情ではないけれど、
一瞬ていうのは必ずやってくるものです。これはと決めたからには〝あたしのものにしてみせる！〟と、したたかぶりもいじらしく、ファンネリア・アムは追い続けます。求めるものを、自分の心に従って——。

物語の始まり
～気分はもうロミオとジュリエット～

芝居小屋から盗賊稼業へ。昨日の敵は今日の友…じゃなくて恋人へと、その潔いまでの転身ぶり。尻軽女？　なんてとんでもない。自分が、今、何を求めているか知っているからこそなのです。

アム・グラフティ

嫉妬に燃えるアムさんです。

た…たくましい。実に表情豊かで楽しい。もっと載せたかった…。ま、アムっていうのはこーゆー子です。

うーん、かあいい。

キャオの顔みて。「あ…はずれ★」

なんとなく、というよりはほとんど強引にダバ達と一緒の旅路。これもまた成り行きではあります。
でも、アムにはいつでも身をかわせるというような〝軽さ〟がありますね。それも、誰かに引きずられてでなく、自分の意志で道を選んでいるからでしょう。

「うらやましいだろ、ほれほれ。」レッシィをからかうアム。どうも最初からライバル意識を感じてたようで。しかし、何ちゅう表情じゃ。ダバの迷惑そうなのがまたいいですね。

タクティクス

反乱軍の事を考えているダバ。ダバ一人を想うレッシィ。ならば自分は共にあることでそんなダバの思いをも包み込み支えようとする。少しずつアムは足元を確かめていく。

戦闘が続く中、何かと有能なレッシィに押され気味。だまされた形とはいえダバと一歩離れた事で、まずはリードのアムさんです。ここぞとばかり釘をさす。

お別れの♥。しっかとダバの頭を押さえる手が★★

戦闘に関して素人のアムには、レッシィの苛立ちは解からない。「こんなんであたしがいなくなったらどうするの？ダバを支えられるの!?」アムはレッシィの心を垣間みる。

こちらは再会の♥

ステラ・コバンが死んでバラバラになった反乱軍を立て直すには、新しく仲間を集めなくっちゃ。レッシィに言われなくたって、それくらいわかっているわい！ でもでもでもね、すぐ帰ってくるからねー。と、ダバと泣く泣く別れるアムですが……。

レッシィは、アムの迷いを責める。

「もうたくさんだわ！」出て行くアムを、まだ資格がないとダバは止めない。わかるけど、でもそりゃあんまりよ。女にははっきり言って欲しい時があるのです。

「もう3年になるのね。」

ハートチェック

〝あたしは、自分が納得したいだけなのよ。〟かつての恋人を振り切る様に、アムは叫ぶ。自分の人生を見つける為に、迷いを断つ為に、自分自身に向けて。だから、後悔はしない。どんな結果が待っていようと。

「いかせたくない」
「何であの時そう言ってくれなかったの!?」

「同じ優柔不断なら、正規軍じゃない方に賭けたほうがいいと思わなくて!?」
誰の為に……と呟くチェック。この心のすれ違いは、ただただ切ない。もし、とは言ってはいけない事かも知れないけれど、3年前にその一言が聞けたなら。でも彼には、アムの見ているものが見えなかったんですね。

いつか優しさに逃げてしまうかも知れないと、チェックは死んだのだと思おうとするアムにダバは言う。
「楽な優しさは人を殺す。」

自分の都合のいい時だけ優しくするのは、誰にでも出来る事。そんなものは人を傷つけるだけなのですよ。

お互いわかっている事なのに口にする2人。若いなぁ。そうする事で人は強くなり、本当の優しさを知ってゆくのだろう。辛いね。

ACT2：フォール・イン・ラヴ

容姿端麗頭脳明晰。13人衆という地位も実力で手に入れたし、軍人としてのプライドだってあるけれど、何かが胸の奥で燻ぶっている。これでいいの？　本当に？　そんな想いがダバに火をつけられ、レッシィは飛び立つ。自分自身を見つける為に。



軍だけが、出世だけが人生じゃない。入隊したてのわくわくギャブ君をからかいつつも何故か苛立つレッシィです。







ギワザと何やら関係があった様ですが、レッシィにはどうもこれが初恋らしい。自分でも何でこうなるのかわからない所がかわいいのです。

ファースト・ラブ





「ダバ様……」ダバ君は、やっぱり王子様なのよね。





「撃てる！　あたしは軍人だ！」突然の感情にとまどいながら、必死で軍人であろうとするが心は正直なもんです。



「男の一人や二人、作ってやるわい！」
一目惚れするほど子供じゃない。プライドなのよ、とネイに心を移したギワザへのあてつけ半分ダバの許へと走ります。ダバは何をやって見せてくれるのか？　と。
女心は複雑です。

ネイの乗るオージェの放った一撃が髪をかすめるが、レッシィは身動き一つしない。女としての自分に区切りをつけた瞬間です。





レッシィは、今までの自分を確かめます。これから先へ進む為に。でもどの方向に行けばいいのかを見つけるのは、もう少し後になってからです。

女の命の髪も、切ってみせましょ、あなたの為に。
軍人としてのガウ・ハ・レッシィに区切りをつけた彼女は、まるで重荷を降ろした様に微笑みます。いい笑顔ですね。







「なら……いいわ」





「信じよう、レッシィ。ガウ・ハ・レッシィ」

ジェラシー





自分ならダバの役に立てる。でもアムは―。傷付くのは自分と知りながら、嫉妬の炎は消せぬもの。策略めぐらしアムを船から追い出します。

レッシィも変化

髪を切ったあたりのレッシィは、ちょっと子供っぽいですね。外見だけじゃなくて。慣れない料理をしてみたりアムを追い出したり、揚げ句はとっくみあいの大ゲンカ。何をしたらいいかわからないのです。(この辺、やっぱり初恋だなって感じだね。)

常にアムの存在があって、能力的には優れているのにどこかで負けてる部分がある。ならば、自分は戦士としてしか必要とされないのか　　。アムと同じ部分で張りあってもだめなのだ、とレッシィは気付く。自分は自分であることに。









なんちゅうカッコじゃ。ほんとに子供のケンカなのよね。

ここまでくると、ほとんど別人ですなー。



艶やかなレッシィ。化粧をするのは素顔を隠す為と自己顕示。"私はここにいるのよ、こちらを見て"こーゆーつっぱり方がとてもレッシィらしくて可憐です。











セイ・グッバイ

振り向かせる為には、まず振り切ること。そばにいるだけではあまり役には立てないし、ましてや私自身を見てはくれない、とレッシィは決心します。こういう駆け引きが出来るのもレッシィだからなのです。不純ですか？人を愛することは、自分をもまた大切にすることなのですよ。



こーゆー顔されちゃうと困っちゃいます。ずるいわよぉ、ダバ君！



ACT3：ゴーイング・マイロード

ダバは〝少年〟ではない、けれど完成した〝大人〟でもない。そうダバは〝青年〟なのだ、強かな……。
若いから突っ走ってしまう。だからこそ慎重にもなる男、それがダバ・マイロード。アム達を利用してると思える部分もあるけれど人を「信じるよ」と言えるダバは、鮮やかです。やはりただ者じゃないのだ。



「アムなら協力してくれるかなって思っちゃったりしたんだ。」

ダバ君etc.

自分の姿を見てイエイ！　なんちゃって。割とおひょーきんなところもあるようで。

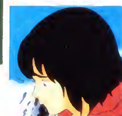






おデコのダバ君。かあいいっしょ。普段着の方がダバらしくって好きなんだよね。（第一メットを被ると顔がよく見えんじゃないか！）

結構、手が早かったりして。そうだ！　こーゆー奴なんだよ、こいつは。レッシィとは抱き合うだけだったけど、アムとは何回キスしたんだ？



「変な子だ……。」
アムの笑い顔もおかしかったけどね。こーゆーダバ君もとても好きです。

ラヴ・ゲーム

ダバが二人の気持ちに気付いていないはずはない。けれど、今のダバはポセイダルを倒し、クワサン・オリビーを取り戻す事だけを考えようとしているのですね。
そんなわけで、アムとレッシィの恋の競争も今のところLOVE・GAME。



「心配しないで。必ずアムはつれて帰るわ。」



「こんな事を頼めるのは君しかいないんだ。」



「困っちゃう。」

あっちにもこっちにも頼りにしてるよ、とか言っちゃって。目的を遂げるまでは恋愛の事は考えないで仲間として接しようとしてるみたいだけど、二人の気持ちを利用しているともとれるのよね。

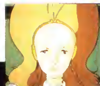
絆

オリビーをポセイダルから解き放つこと。それが今のダバのすべきこと。義兄として、男として、人として。





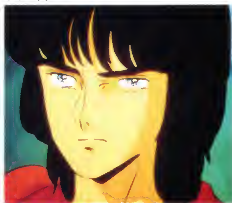
「救えなくちゃなんにもならないんだ。」
ダバの戦いは終わらない。





「オリビー！　お兄ちゃんだよ！」
一瞬、昔を思い出すオリビーだが……。

なんも考えてない…おっとっと。いつもぼけっとしてるけど…あやや。とにかく、自分の中にしっかりしたものを持ってるなと感じさせてくれるダバ君なのです。



いい男★



「戦争の臭いのする所にアマンダラがいる。ちがいますか　？」



「最後になるまでわからないなんて、人生ってやつは……。」



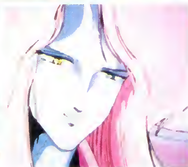
ACT4:トライアングル・プレイス

男一人をめぐる二人の女……。ダバとアム、レッシィ、ポセイダルとミアンとフラット。ポセイダルは、もう一人のダバの姿なのか!?

似通いながら微妙な違いをみせる2つの関係がぶつかり合い、一つの世界を形作る時、ポセイダルの敷いたレールは撓み始める。



「私はアマンダラ・カマンダラを名乗り永遠にお前を見ていこう。



「愛の力は本人以上に相手をわかるものだ。



自分の目的の為に、ポセイダルはミアンを利用していく。



ラヴァーズ

ポセイダル(アマンダラ)がミアンを愛していたなら、こんな悲劇は起こらなかったのだろうに……。

目的が何であろうと、これはこれの為の行為である。相手への愛でなくこれへの愛。ペンタゴナ・ワールドすら自己の生み出したもの、分身であるとするなら、彼は自分しか見ていなかったといえる。



「本当にその体も心も私にくれるのか。」
「私に出来るのでしょうか……。」

クリエイション

人々の自立の為に、過渡期として敷いた独裁。けれど変わらぬ若さと権力を手に入れた時、それは次第に私欲の為にと変わっていったのです。

彼の志した事が間違っているとは言わないけれど、人の心を無視して作りあげた世界は果たして理想郷といえるのでしょうか。それに、時に逆らって肉体だけ若さを保っても精神の荒廃を止めることは出来なかったということなのです。









若き日の三人。



「どんな理由があろうと、人の心を弄んでいいことにはならない。」



潜在意識が浮かびあがりコントロール出来なくなってきたミアンの代わりにアムまでを傀儡にしようとしたポセイダル。何故ここまでしなければならないのか、そうまでして何になるというのか……。

身代わりとして、ミアンに世界を統治させながら全てを思い通りにコントロールしようとしたポセイダル。自分一人で出来ると信じてしまったことが誤りだったのですよ。

(何でアマンダラのアップが無いかって?決まっているじゃないか。男は顔だよ。)

ACT5：ラヴ・イズ・ブラインド

愛する者と一つになる。身に心も溶けあいたいとは誰でも望むこと。しかし、そう願うあまりに、そこに自分の意志がなくなってしまったとしたら？　自我を消し去り、相手と同一になろうとする事が果たして愛と呼べるのだろうか。ひたすらに愛の荒野を突き進む者達の姿は、ただ哀しい。



マリオネット

相手の事だけを考えてしまう愛は、いつしか利用され操られていく。しかし、それさえも時に人は愛だというのでしょうか。

「わかるかい。ギワザの様な男を女の情熱でひれふさせたいのさ。」



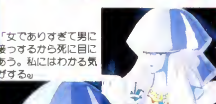


ネイを待っていたのは裏切りと死だった。

ギワザを愛するネイに、彼を殺せと命ずるミアン。愛する男の為にと尽してきたネイだが、その愛故に利用できる駒としてしかみられない。



「私とて甘んじて裏切られるつもりは……。」



「女でありすぎて男に接っするから死に目にあう。私にはわかる気がする。」

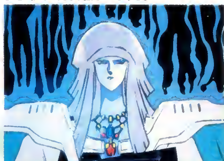




「ギワザを倒してくれるか。」

ポセイダルの姿をしたアミンのこのセリフ。とても意味深です。

これを取り戻せ、とフラットはミアンに迫る。過去を思い出しかけるが、すぐまたポセイダルに戻ってしまう。ポセイダルの支配は深く、それはまたミアンの愛の強さでもある。







「私は、オルドナ・ポセイダル…」



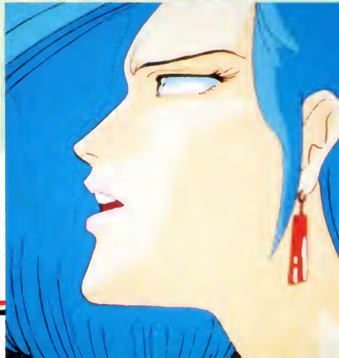
もはや、ミアンの愛するポセイダルとミアンは一体化しています。ならばミアンの愛はどこへ向かっているのでしょうか。自分自身が愛する者。それはポセイダルを愛し、尽くすミアンの姿。彼女の精神も朽ち始めています。フラットの叫びももはや届かないのです。



「ミアン・クウ・ハウアッシャー！」

「私が……ミアン……。」





ACT6：ジェネレイション

得られなかった愛の代わりに手に入れた、若い肉体とサート・スターの特権。自己であろうとした結果が、衰えていく精神を見続けなければならないことだったとは。過去の重みに堪えかねてフル・フラットは動き出す。新しい流れを求めて。

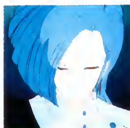


「君の見ている局面だけじゃない。そちらの都合だけで終わらせるわけにはいかない」



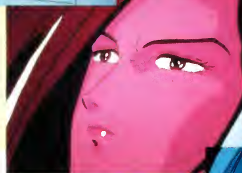
ビギン・トゥ・フロウ

ミアンもフラットもポセイダルも、各々が違う形の永遠を望んでいたのですね。でもダバは問います、そんなものが何になるのだ？と。フラットは、永遠の若さと引き換えでも人を留めてはおけないことに気付き、時代が流れ始めたことを知ります。



「男というのはどんなに愛しあった女でも、平気で捨てる動物だ」

「嫌いだからといって好きに命は放り出せない」



若いが故の欠点を認め、それでもなお若さを信じて走るダバ達。自分のなくしたものを感じ、フラットの心は揺れる。





アムがフラットに拘るのは"大人"でなく、女としての部分。自分もまたミアンと同じなのではないのか。ミアン達の関係は知らないはずだけど、これは女のカン。でも「運命は自分で作れるわ」と言えるアムだから、大丈夫なのですよ。

滅びゆく者達

愛する者を捨てなければ、手に入らないものもある。

ペンタゴナ・ワールドの為には人の心など、というポセイダルに、フラットは自分の信じてきたものが幻影だったのだと感じます。永遠の若さも愛も得られないのなら、せめてポセイダルの人形になってしまっているミアンと共に、本当の自分自身である朽ちる肉体に戻ろうと願うのです。



「人の心を自由に操ろうとしたのが誤りだったのよ。あなたは……」





自分達だけでなくアムにまで手を出そうとするアマンダラが許せなくなるフラット。

そうして一体何が手に入るというのか、と。

「愛する者を捨てなければ…」確かにそれも真実ではあるけれど、そう言わざるを得ない彼女の姿は孤独です。

「私もミアンと同じなのか」





ACT7：マインドスコープ

失ってしまったもの。失ってはいけないもの。失いたくないもの。
それは若さか、愛なのか、人の心か。答えを求める人々の中で、今、想いが交鎖する。

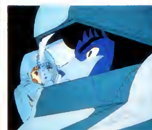
わずかにオリビーが取り戻した記憶。このオリビーの笑顔を消したものは誰だ。

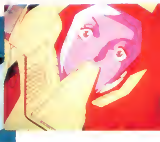


リメンバー

捕れのオリビーの精神は、常に解放されたがっているけれど、押しつけられた人格とのせめぎあいが、少しずつ自我を崩壊させていきます。

ポセイダルがどれだけ正しい理屈を揃えようと、この歪められたオリビーの姿がある限りダバはポセイダルに挑み続けます。本来の姿を否定し、統制してまで得なければならないものがあるのか？　と。そうして手に入れたものなどまやかしにすぎないのですから。そして、このオリビーはミアンでありペンタゴナ・ワールドそのものでもあるのです。





「オリビー！お兄ちゃんの所へ帰るんだ」

コール・バック・アゲイン

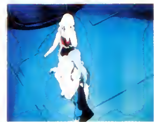
フラットにとってミアンは、友人であると同時に自分の望んだ姿でもあったのでしょう。もしミアンが愛されて幸福でいたのなら、フラットの心もここまで傷つかずすんだのでしょう。そしてまたそれへの問いかけでもあります。

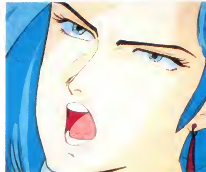


フラット



「あなたが、ポセイダルの姿のまま死ぬのはあまりに可愛想だから……』



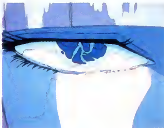


「思い出しなさい、ミアン』
「勝ったのはあなたなのに、操り人形になってしまっていいのですか』





ミアンとポセイダル。





ACT8：デイ・ドリーム・ビリーバー

時は巡る、時代の流れを止めることはできないと。そして一つの物語が幕を引く。

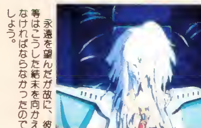
ミアンの幻想は破れ、オリビーは解放された代わりに自我を失い、ポセイダルはその復讐を完成させた。けれども、ダバの瞳の中には暗い影はなかったと信じよう。だから今は、黙って彼等の消えゆく彼方を見つめるだけだ。彼等の残した白い軌跡を。それは、情熱の趣くままに示してくれた、心の在り方。

終焉

人の幸せなんて、他人には押し測れないもの。本人が幸せならそれでいいわけで、口出しする筋合いはないのですが、一番大切なものが欠けている事に気付いていないなら、やはりそれは悲劇といえるでしょう。









永遠を望んだが故に、彼等はこうした結末を向かえなければならなかったのでしょう。



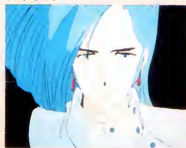


ポセイダルの愛さへあったなら、こうして滅んでゆこうと幸せだったのです。だから、ミアンの涙は悲しい。



「夢に見るのはいつもあの頃。」
「あの頃の方が今より幸せだった。」
二人のうちどちらが本当に幸せだったのでしょうか。





「あなたの愛さへあれば、私は操られましたものを……。」

ビギニング

人の在り様を問い、それを抑圧するものへ向けて常に敏感でありながら思うままに進んで行くこと。それが若さ。

だから、ダバは後悔はしていないのです。オリビーを完全には戻してあげられなかったけど、精一杯やってきてこれからもそうして生きていくのです。彼は、ポセイダルにはならなかったのですから。



ちょっと重かったけど、ダバ、あんたは鮮やかだったよ。

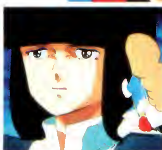


「[illegible]。」





「歳をとって老いて死んでいくのよ。」



「でも、ダバはそれを選んだのよね。」



このオリビーの笑顔が救われます。

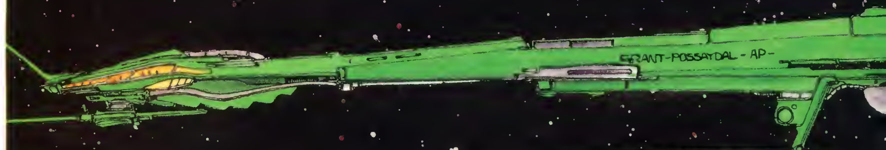
ドリーマー

夢を実現させようとしながら、夢の中へ埋没していく者達。けれど若者達はそれを恐れはしません。終わってみなければわからないからこそ搦め取られないよう懸命に走るのです。明日を、夢を、人を信じて。ならばゴールがどこだろうと、それは素晴しいのです。

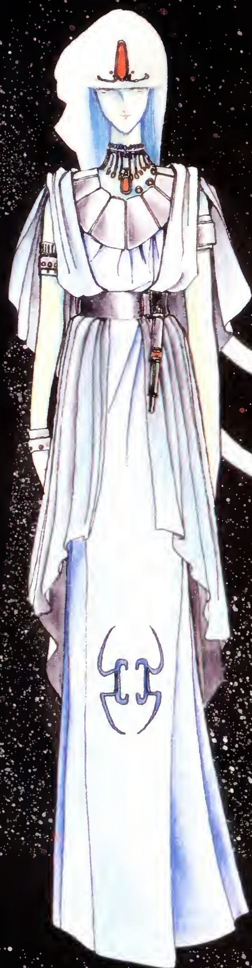
THE FIVE STAR STORIES

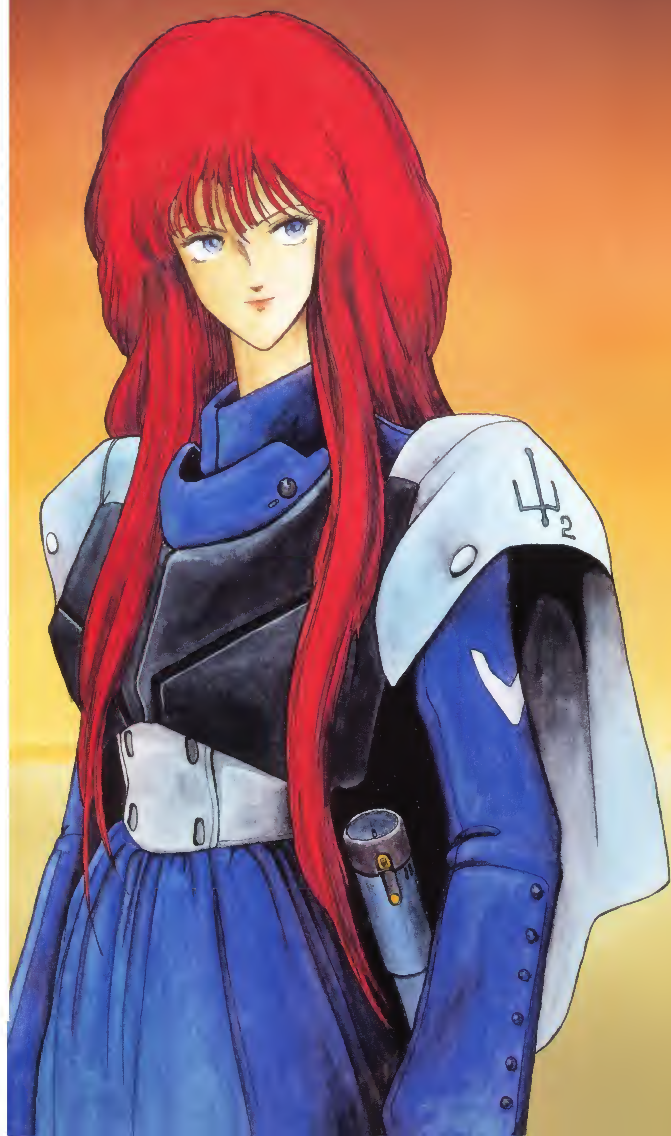
Gusstugul 3985

"THE KING to KING"



"The Grant Possaydal" with "Atropos" come to "Tarna", where Wallrer Ⅵ and Quewasan. Stay in there living room.





THE FIVE STAR STORIES

Gusstugul 3988

"Ser,"HAT",S JOURNEY"

Kötenschwanz´weht to Corem that became to Pentagon Knights leader. Her "Grayon" and Nei Mo Hann's "Wunderschätzs", gone to the spase. after ten minuts.

……at she was 25 years old.

Say. by. by……

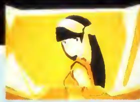
See you again.

from. M. N.



EYE CATCHER

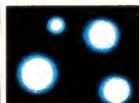
B TYPE

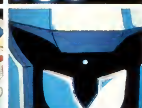





A TYPE

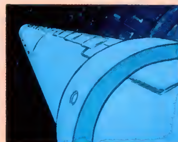






C TYPE










D TYPE







富野由悠季（総監督）



インタビュー

〝ダバの将来が、あのラストシーンで決まったなどとは思わないで下さい〟



「ヒーローたるダバの限界点」

——反乱軍の象徴的存在であったダバが、ポセイダルを倒したとは言え、オリビーを選びコアムへと帰ってしまったと言うのは、ダバに力量がないように見えてしまう気がしたのですが。

もちろんそうです。「エルガイム」の場合は、とてもはっきりそのような形に描いています。が、本来この手のヒーローと言うのは皆ああなんですよね。一番良い例が「スター・ウォーズI」のルークで、一見表彰されていて一番のように見えるけれども、彼はあの後どうなったかと言えば、組織の中には入っていないでしょ。皆そうなんです。だからどう言う事かと言うと、人の悟性のなりあいみたいなこと、簡単に言えば『適材適所』ですね。僕は三つも四つもの部分を一緒に出来る人っていうのは、そんなにいないと思う。ダバのあの年齢から類推していった時に、彼は自動的にあのレベルだろうな、と言う事があったから、ああいう風にしたっていうだけの事です。その辺の事が気に入らないとかいう話は、受け手として当然あるわけで、逆に言うとあってあたり前です。それは一体どういう事なのかと言えば、例えばああいう色々な意味で気に入らない描き方を

していているシリーズの事を、将来自分の事を考えてくれる一つのきっかけになってくれればいいなって事があるんでああいう風にしたんです。変わった終り方をしていると言う考えも、今言った様な部分から出発していくとああいう風になる。ただそれを一つのヒーローのエンディングとして、らしい形にすると例えば「スター・ウォーズI」みたいな作り方で、それをらしくしないで、ダバだって所詮一人の兵隊でしかなかったと考えていき、その事をはっきり見せようとすると、ああいう結果になるという程度の事でしかない。その辺を僕の立場で考えていった時に、最低はああいう描き方でやるしかないなっていう事です。

――ヒーローの限界と言う事ですね。

それともう一つ。オリビーを選んだのか、選ばされたのか、選ぶように追い込まれていったのかはわかりませんが、きっと追い込まれたのでしょう。そう言う意味で、どうしてダバがオリビーを選んでしまったのかという、ダバの周りの環境というものと、環境に対して一人の人がどういう風になっていったかという環境と個人の関係と言うのが、見た人が気になって考えてくれればいいなって思った事から、あの様なラスト・シーンにもってくる形を作ったという事です。そして、それについての好みという話は当然あります。むしろ当然出てくるだろうと思ってました。出てくる様に作ったつもりです。それはもう一つ言っちゃうと、若い間、つまり24、25くらいまでの年齢で、実は自分達がいつも体験する現実という周りの環境と自分の問題というのを考えていった時に、大体あの位にうまくいかなくて、自分も不本意なんだけども、とりあえずはこれが一番穏当らしいから、これを選んでしたった、みたいな事が一杯あると思うんです。そういう部分がアニメの世界でも、たまにはあるんじゃないかなっていうのがああいうラスト・シーンになったんです。



――シチュエーションを打破できなかったという事ですか。

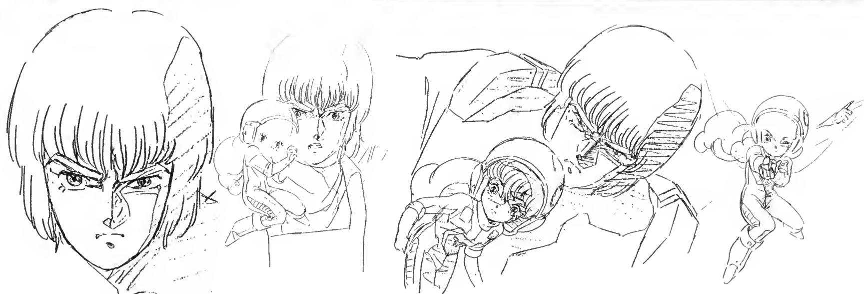
出来ませんね。その為には、自分自身がシチュエーションを変えていかなくちゃ。どういう事かと言うと、ロボットに乗ってちゃいけないんですよ。もう少し事態が大きく見える様にならなければやはり打破できないんですよ。ヒーロー物の一番の悲劇と言うのは、ヒーローは世界を制した事はないと気がつかなくちゃいけない。スーパーマンでさえアメリカの政治経済を変える事はできないんですから。所詮、彼等は一つのシーンの中でのヒーローでしかないわけですよ。残念だなと思うんだけど、やはりそれが現実なんだろう。それなら、たまにはそういう気分になってもいいんじゃないかな、と思うんです。あるいは夕陽とか朝陽に向って雄々しく旅立っていくダバとするのは簡単ですし、そんなのは一番最初に考えました。でもそれは50年も100年も人間はやってきている、こういう場面でこういう作品で、小説で。では違う風にするにはどうしたらいいかっていうのが「エルガイム」ですから。そういう意味では予定通りです。ただストーリーの途中が僕の予定通りにならなさ過ぎている意味での僕の方でのやりにくさ、と言うのがありまして、非常に困ったという事が僕にとって「エルガイム」の全てです。

ですから、ラストシーンと言う事については一番初めに頭にあって作ったシリーズだという事です。

「世界の統治者たる者」

――ダバの対比として、アマンダラを見た時に、ペンタゴナを少なくとも衣食住が保障された世界にした彼をダバは倒す根拠を持っているのでしょうか。

アマンダラでさえ治めた、と言う風に僕は思ってません。どう考えたって50~60年で人間が本質的にもっている世界観みたいなものを、たやすく変える事が出来るかと言うと、変えられやしませんよねっていう部分がある。さらにアマンダラレベルの人だったらば、40~50年位、世界を治めただけで、ああいう風にいい気持ちになって舞いあがっちゃうのよね、と言うのもある。そう言う風に見て欲しいな、という部分もあったし、それをアニメという番組を使ってでも多少は描く事が出来るんじゃないのかなって事が、アマンダラをあの様にしたっていう部分もあるわけです。その後、世の中なんでもかんでもこういう言い方しちゃったら、「エルルイム」的に言っちゃうと、みんなつまらなくなるわけです。どうしてかって言うと、たとえば日本人は織田信長にしても豊臣秀吉にしても一代限りのヒーローだという気がしますね。じゃこの二人が、たかが日本を何年制覇したか。そして豊臣家が、たかが400年



500年一つの大きな家柄として残ってきたのかというと、残念な事にそうじゃない。歴史の事件ざまで言うと、一番わかりにくい徳川家康という人が、結局300年間江戸幕府を構築する基礎を作っちゃった。その違いは一体何なのだっていう事が「エルガイム」の中での物語と基本的に同じなんです。そう考えていった時、一代の英雄というのは、所詮一代の英雄でしかないし、実際にある程度国家を支配できるのは家康的な、色んな事がわかって知っていて、最終的に全部取っちゃうみたいな人なんですよね。そして、さらにシチュエーションを変更していこうと思うのならば、その位の持続力がなきゃいけない。そういう意味で秀吉っていう人は、一代の瞬発力であそこまで成り上っただで、人それぞれの個の問題を考えていった時に、自動的にエルガイム的になるんじゃないかな、と僕は思っている。

では、ダバの場合もああいう風にしたっていうのは、あのシチュエーションまでの時間で考えたら、一見敗北に見えるかも知れませんけども、何しろまだ若いんですから。それにオリビーをあの様に押しつけられたからといって、じゃ彼はあのままなのか、と言ったってこれはわかりませんね。正直言って。むしろ家康的に考えれば、まだ18・19歳で面倒みなくちゃならない妹が目の前にいて、今の日本での一般市民的に考えていくと、後一生あの子の面倒を見なくちゃいけないとなってくるのかどうかですね。でもこの一年位、奴がやってきた力みたいなものを想像していった時にそうは終らないだろう。

「ダバの10年後を考えて欲しい」

——決して彼はあのままでは、終わらないと。

むしろこれから30歳位まで、それこそじとじとしているけれども30になって我慢しきれなくなって出てくるかも知れない。あれだけ色んな人と付き合ってきた人だから、10年たてば何を仕入れるか分らない。これからの鬱屈していく時代の中、彼が正しく苦労する事を知り、ああいう兄妹という特に皮膚感が伝わる様な部分での親族感みたいなものを、不足している部分を自分の中で一生懸命作り上げていった時に、それこそもっと良いパートナーを見つける事が出来るかも知れないし、少なくともそうそう薄汚なくはならないんじゃないかなって気はする。そうなっていった時の彼の本当の意味での人生というのは、この後に始まるんじゃないのかな。それはそれで容易に推測がつく。だけれども一般的な解釈で、レッシィやアムに言わせている様な極面的な解釈も当然なりたつわけです。ただ人間ていうのは、坐折というものを良い形で体験する事が出来ると、将来的にとてもいいエネルギーになる。そういう意味でダバの将来は僕にはもうわかりませんし、当然決めてもいません。僕はあのラストシーンまでの事しか決めなかったし、むしろ物語が終った以後いろんな意味でイメージをふくらませていく為にいろいろ品揃えをしてあるからきっと沢山考えられる。その品揃えっていうのはこう考えてくれなくては困るんですよ。特に男の人に言いたいのは、アムやレッシィの様な女の子と付き合えた男の子っていうのはかなりいろんな事を教えてもらっただろうという事です。それはキャオだってそうです。この事は少なくとも、その人の力になるだろう。現実的な男女関係や何かを見ていてもそうなんだけど、それを同じ様な人、自分の好みに合う人としか付き合わず、それ以外の人は絶対に拒否するっていう人もいるわけです。彼をそういう人と比べたら少なくとも、あれだけ長い間アムやレッシィみたいなのとひっついた、離れた、なだめすかした、またある時はいじめられたみたいな事をあの年齢で体験した男というのはそんなにヤワな男であるわけがない。逆に女の子側から見ると、まあ、何か自己主張がある様な、ない様なだけれども、まァあの人偉いのよね、死ななかったのよねっていう、そういう男を見るという事が、女の子の中で異性に対する価値基準をレベルアップさせるんですよね。そう

そうです、それはギャブレーだって味方にわかれただけなんだけど、最終的にあぁいう形で平気で混っていっちゃって、その事に異和感がないでしょ。それは何なのかと言うと、結局彼もいろんな事を見てきた上で、自分の最終的な好みを決めないで、取りあえずいろんなところに唾つけた為です。ぺっぺって。しかし、もう一度考え直してみるか、と思った時にあそこの位置にぽんと来る事が出来るという納得性があるんです。要するに、あそこに品揃えしたあの連中は、これからなんだよね。その象徴があのシーン。そうすると、一見離れている様なんだけれども、ある一つのテリトリーの中でそういうとても刺激的な行動をやってくれる奴、つまり徹底的に敗北したか、成功した奴がいて、彼等を上手に観察できる人がいれば、その集団は全体として向上していくと言う図式があるんです。ですから彼等は、そう簡単に薄汚くはならないだろうと信じています。どうもあのラストシーンが気になる事があったら、今言った様な事も含めて、考える糸口として提供した事からです。これ以後は要するに皆さん各々に考えていって、どう言うものなのかって知って欲しい。これはファンレターの中にもあった事なんですけど、何故ダバがアムなりレッシィなりと引っつかなかったんだ。と表現してくるんですよ。けれども、あの年で女を決めて貰っては困るんだよね。女の方もそうですよ。あの時点で男決めてしまったら、あんたそんなにせこいのって思いません？　今はとりあえずあれでいい、何よりもそういう要素が一杯あった。だから少し様子をみて、とりあえず皆と二、三度寝てみて、それで決めようか、と言うくらいの気分でいいんじゃないかな。特に今のアニメを見ている男の子に言いたいのは、女ってのはそのくらい平気でためす事ができるんだよ、だから油断しちゃいけないよって事でね。そういう意味で処女は貴いという言い方になってくる。初めから処女が貴いんじゃなくて、女性というのはそのくらい恐しいんだよね、本質的に。わかって貰うの無理かな、やっぱし。

——年代が若い視聴者の場合ですと、つらいでしょうね。

そういう意味で納得できない部分はかなりあるだろうというのは承知しています。でもわからなくてもいいんです。ただ、その？マークを忘れないで欲しい、いつか自分の実体験の中で？マークが重なっていった時に、あっそうか、俺はバカだったになるんです。これだけは絶対に保障します。

——いつか自分にオーバーラップしてくると。

アム的なのかレッシィ的なのかパメラ的なのかっていう部分も含めてですけどね。だから僕はラストシーンに関しては、ギャブレーの後ろにいる女の人が一番好きなんですよね。こいつ図図しいんだよね、女ってわかんないんだ、恐しいんだよね、とずっと思っています。誰もやさしくしてくれなかったから、こういう作品を作るようになってしまったんですよ。(笑)　例えばこういう少し飛躍した言い方、わかるでしょ。つまり異性との関係って、その位は皆知っているけれども、ＨＯＷ　ＴＯを知らないし、もう一つ一番困るのは、自分で決めたイメージで他人を見過ぎるんですよね。そのイメージにそぐわない人が、要するに自分にとって嫌いな人になってくるんです。だからそんな簡単に好き嫌いとか決めて良いのかな、と僕はいつも思っているんです。そういうのが少しわかってくれると……。だからダバがオリビーを選んだのなんて、あの局面で一番妥当性があり、とりあえず皆が我慢しておく、と言う事なんです。アムかレッシィどちらかを選んだら、どちらにしても血を見ますよね。ゴタゴタ起って、そしたらもう１シリーズ続けようか、と言う話になっちゃうもの。(笑)　それはできない。かといって僕は三角関係の乱交みたいなのだけは、もうこの齢ですから、生理的に認めたくない。ダバの後ろに女が二人ついて行くなんて絶対に作りたくない。年寄りの偏見ですね。(笑)　ましてや逆に一人の女、たとえばレッシィにギャブレーとダバがついて行くなんて、これはもうまさにおじさんだら、これこそ絶対に許せないからね！　女はどこへ行ってもいい



ですから。（笑）

——視聴者としては、ひょっとしてダバはもう両方と関係しているんじゃないかな？　という気もするのですが。

おじさんになったから、こういう事も言えるんだけど、手をつけたと言うのは余り重要な事ではないんですよ。問題は要するに、寝た後の十年どうするか、と言う事です。それが見えない限り、遊びは遊び、ちょっと恥ずかしいけれど愛は愛って別にしときます。そういう意味で単純に、手をつけたとか寝盗られた、という事だけを考えたらいけません。それは楽しいものですから気持ちがいいもんです。でも、それはまあ自分が傷つかない程度におやりなさいって。

「アマンダラとダバの対比」

——ダバは自分が回りの状況を決めるのを非常に、特にゼネラル・クロソに出逢った頃など特に、こわがっていたのではないでしょうか。

もちろんこわがるセンスを持てるから、そういう風に考えられるんで、こわがる心がなければ何でもかんでもやっちゃいますよ。そういう意味でのこわがるとか、奥手の部分というのは僕は決して悪い事ではないと思っていますし、生き方の上で、そういう風な正しいこわがり方というのは絶対に持つべきだと考えています。そうでないと何でも自分の価値感だけで決めて、これは正しい、これは正しくないと言うようにパッパッと切り捨ててしまう様な人になってしまう。そんな気が最近特にします。それでは大成はしませんし、それだけの事しかしません。そう言った事で、いい形で正しくこわがり、悲しがって欲しい。ところが実際は、なかなか正しく悲しがれないんですよね、自分の情だけで悲しがるケースがよくありますから。その辺も考える要素として、頭の中に置いといてくれるといいな、という気がします。でもこの事はわからなくて結構です。覚えておいてくだされば。こういう事を読んだ人で、こういう言い方をする人がいる、これは一体何なのだろう、と言う事がわかる人は、それこそ人生の上で成功する人です。この話にも多少自信があります。

——アマンダラとミアン、フラットの三角関係というのは。

どうしてあの様な形にしたか、と言うと一番簡単な事言うと、ダバが悪く転んだらああなるよ、とそういう移し絵です。アマンダラは何かとても威張っているけれど、あれは嘘でしてね、男が悪く転がるとやはりああなるんです。あの関係を図面上の構成だけで見れば、ミアンだってフラットだってとても可哀想に見えるでしょ。けれど本当に女の側から見た時どうなのかは、とても怪しいんですよ。本当にあれが快感ていうのがいるんだから。だから女は信用してはいけないんですよ。（笑）

——恋の鞘当てに負けたフラットが果してミアンとアマンダラの間に「あなたを見ていられないから」と言って、割って入る権限はあるのでしょうか。

フラットが自分の立場を自己主張したい時に、他の女をたたっ殺してでも、と言うのがあるから、権利とか権限とかの問題じゃないです。生理の問題です。それに、ああいう風になった同性を見ている事自体、フラットにとってはとても気持ちの良い事なのかも知れない。そんなのわかるもんか。（笑）

でも今のが冗談かと言うと冗談ではなくて、むしろ人間の個性ってそういう所に根ざした部分がかなりあるから気をつけなければいけない、と言うんです。これはともかく、あなた達の年齢でわかりはしません。本当にわかりたいと思ったら、これこそ正しく人間が心のどこかに持っている嗜虐性の問題とか、加虐性の問題。SM雑誌レベルの事を言うのではなくて、がわかってこないとあの構図は理解できません。

——解釈によってはアマンダラは少なくとも何十年間かは衣食住が保障された世界を作り上げたわけで、それほど悪人ではないという見方も成り立つと思うが。

もちろんそうです。そういう論法で行けば、悪意があって国民を治ようと考えた人はまずいないと思います。それはヒットラーだってそうです。ただし問題なのは、例えばヒットラーにとって不幸だったのは、たまたま周りが自分に同情してくれなかった、と言うだけですし、純血ゲルマン種だけの世界を作ろうっていうその論点だけに立って、虐殺される側の事を考えなければ正しいんではないでしょうか。確かに彼もヤーマン族を虐殺していますけれども、倫理構造においてヤーマンを情けをかけるに価しない生き物であるとしてしまったなら、じゃあそれが悪い事なのか、と言ったら、ヤーマンにとって迷惑なだけの事になってしまうんですよね。

——ギワザと言う人間については。

結局普通の人です。

——世界を背負う事が出来ないという。

そんなレベルじゃなくて、普通の人です。バカなんです。それがちょっと誤まって権力を手に入れてしまったんですよ。ただ残念な事は、世間にそういう人は多いんですよね。その人の能力とは関係なく、たまたま大きな会社に入ってしまったために会社の名前で仕事が出来ただけなのに、自分でやった事だと思う人が世間には一杯います。だから逆に、一代で成り上りトップになった人がとても苦労している。死んでも死に切れないわけです。本当は人間なんて隠居したい部分が本音としてかなりあるでしょ。で、そんな彼だから最後にシャトルで脱出しようとする。ああなってしまうと、まさに俗人の真骨頂ですね。初めっからあれやってい



ればいいんです。司令官やらないで、どっか逃げ出して。要するに彼はコアムの一司政官くらいで、気に入った女5～6人はべらせていれば幸せな一生送れたでしょう。まあ、彼はあんなもんでしょう、と思います。たぶん。

—そういう点ではリィリィも。

そうですね。ただ僕はああいうタイプの人が実は一番好きなんです。つまり初めから全部わかっていて、その事だけで一生懸命やっていると言うのは、悪い事ではない。問題なのは、それをもう少し良い方向で頑張らせれば良かった。その結果として結局ああなってしまっただけの事ですから。彼女みたいな人こそ気に入らせてしまえば、一番いい協力者になってくれる人なんじゃないですか。そういう意味では、ひょっとしたら可愛いい女なんですよ、きっと。こういう話をすると、また嘘でしょって言われるけれどね。これは保障する。絶対そう！（笑）ただああいうタイプの人で問題なのは、ケガしやすいと言う事なんですよ。走り過ぎてしまってね。だからお気をつけなさいって。でも一番いい性質の人ですよ。まあ巡り合わせが悪かったんですね。

「ペンタゴナ・ワールドの存在」

—舞台であるペンダゴナ・ワールドについてですが、何故あの世界は5つの星で、ああいう形態でなければならなかったのでしょう。

「エルガイム」が終ってみるとわかる通り、舞台を変えたいからああ言った便利な世界を作っただけです。ただし、あの様な便利な宇宙があるが、と言ったら、我々の知っている世界ではありはせんよね。では何故、こんな世界があるのか、と言う話まで本当はやりたかった人ですけれど、事情があって出来なくなってしまったんですよね。この事は僕の中の「エルガイム」が終った瞬間に成った宿題でして、何か別の形で表現したいな、と思っているわけです。その辺のヒントが言ってしまえばリリスと言う存在なんですよ、という事でバイストン・ウェルストーリーズとしてのペンタゴナ・ワールドというのを、もう少し具体的に表現したいと思っています。考えとしてはバイストン・ウェルのテリトリーの中にある宇宙が、ペンタゴナ・ワールドであるんです。

—その接点が45話の「リリス・メモリー」であるわけですね。

そうです。実はあの部分がもっと前後に話として伝わる様に構成したかったんですけど、それが出来なかったので、バイストン・ウェルストーリーと言っても仕方なくなるんですよね。それとやっぱり言わない方が良いな、と思った部分がありましてね。

—「エルガイム」の考察としては。

我々が作っているのは所論、絵空事である事だけれど、その背後にもしも人の生命があるとしたら、それこそリィリィがああいう殺され方するのも可哀想だし、ひどいって言わなければいけない。と言う風なわかり方をして行くという事を、もっともっと具体的にやって行く作品が作られて、世の中に出て来てもいいんではないかなって言う実験が「重戦機エルガイム」であったという風に言う事は出来ます。それが僕にとっての「エルガイム」であったんだろうな。ヒーローと言うのは、一番最初に言った通りです、彼等は時代を制した事はないんですよ。とりあえず、勝っただけなのだ、と。だからそういう物ではないと思ってきたし、そういう物を今度は具体的にわかっていくために、一つの刺激なり、モーションを与える作品みたいなのが一つあっても良いんではないかな。という事が「エルガイム」なり、ペンタゴナ・ワールドを作らせたという事です。もっと簡単に言うとペンタゴナ・ワールドと言うのは人の情念が作らせた世界なんでしょうし地球だってバイストン・ウェルなんですよ。

（昭和60年4月4日 オフィスAiにて収録）

今川泰宏(演出)インタビュー





――「エルガイム」終了しまして感想としては

終ったと言うことで、一言で言えば快感ですね。最後にやった49話「レディ・キラー」で打ちあげ花火を上げたんで、何とか気はおさまったな、と。心残りは大森さんと、もう一本やりたかったという事ぐらいですね。最後にマクトミンというキャラを自分で作ってしまって、32話あまりで出て来てえのまま最終話までずっと出なかった。そうするともう出番のないキャラだ、と。最後にあのキャラを書きたかったんですよね。それで富野さんに「出すとだめですかねー。好きなんですがね。」

――あの「つるんでやがる」は。

マクトミンに関してはオリジナルっぽくしたくて、他の話数はああいう芝居してないでしょ。エルガイムで一人、自分のキャラクターを作ってみたかったんです。かっこいいというか、好きなんですよああいうキャラが。よく言われるんですが、富野アニメの場合結局コクピットの話し合いになってしまうとか、僕は嫌いじゃないですがね。そしたら戦闘シーンで必死になったらどうなるんだろうと考えて、それであういう風になったんです。あの人戦闘中に一言二言しかしゃべってないでしょ。

――40話のダバとフラットの芝居なんかもおやりになってますね。

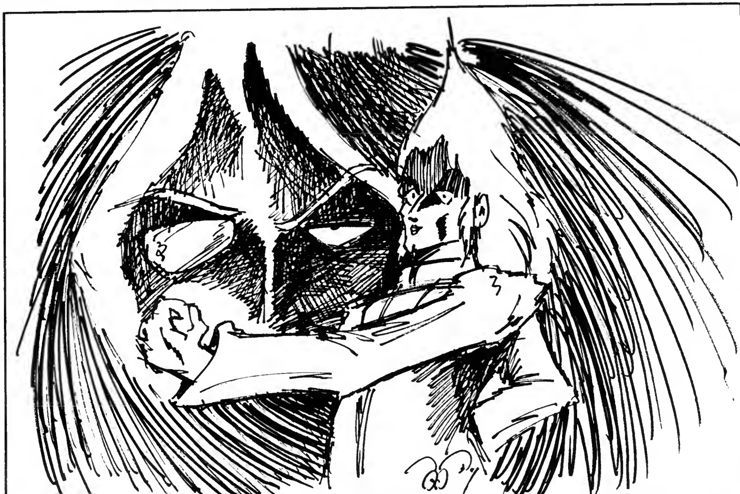
あの暗いやつですね。エルガイムは、いつもメカ戦闘で終わっちゃう話でしょう。それで人間同士のアクションで終わらしてやれって。若さがどうのこうのっていう言葉を言うんであれば、肉体を使った若さというのもやってみたいな、と思ったんです。確かシナリオにあったのかな、フラットがベットで寝てたっていう。それでそれを利用して、暗闇で戦わせたら面白いんじゃないんじゃないかと。どうせチャンバラやらせるんなら趣向を変えようって事で、永野君に頼んでムチを作ってもらったんです。暗闇の中でムチがヒューっていった方が流れとしてきれいだろうしね。最後はちょっと劇画タッチで決めてみようかという。

とにかくエルガイムに関しては、一本一本趣向を凝らして一つの目標を作って、それに対して処理していくなりコンテを描くなりして、こういう芝居でせめてみようとか、こういう絵を作っていこうとか、元々それをテーマにしてるんで、ああいう40話とか49話とかみたいな形に最後の方で結晶してきたんだなと思います。2話、7話、17話あたりは部分的にやってるんですね。最後の方になってそれを一本にまとめてみるっていう形に自然となってきた。僕としてはいい形で出していけたなって思うんですけど。

――あと人間芝居としては29話の「クロス・ポイント」。あれもなかなかすごいと思うんですけど。

あれもちょっと凝ってみたんですよね。美術の面ではペンタゴナ・ワールドって荒涼としてるでしょ。そこで楽しい絵にしてみようと。山の中、村の中、今までの村の中というとても淋しかったんですよね。それをきれいな村を作ってみたかったんです。

人間芝居の点も、個人の思惑を絵に



イラスト／今川泰宏

夢は枯野をめぐれども 男は獅子に、時は維新！

してみようと。気に入っているが、のギャブレイの色仕掛けのシーンです。あそこは単純な絵の繰り返しが多いんですけど、ギャブレイの百面相ってことで、色んな感情で表情にしてみようということで。本当はあのシーンしゃべらせないで字幕で出したかったんですよ。パメラの顔をナメて「ギャブ様」と一言言うと字幕で「クサイ芝居だ。」次パメラのアップ「ん、におったかしら。」ってあったんです、コンテには。できれば面白いと思ったんですけどね。

僕がエルガイムでやってたのは大半が実験だったんだよね。29話でいえば、ネイとギワザのシーン、部屋が全天スクリーンになってて、ぼーっと影がつくっていうね。あの回Aパートは特に話し合いが多かったですね。セリフ多くて、普通にやるとあきると思ったんです。それで展望室作ってああいう映像処理になった。皆の思惑がからむ中、面白い映像になるんじゃないかと。そういう意味でAパートはとても成功したと思います。自分の中でこんだけコンテから思惑が流れてきたのはひさしぶりだった。でもBパートは思いきりコケましたけどね。

Aパートで、最初から色と雰囲気とその感情にあった絵を作っていこうと思ったんですよね。ですからただ単に、カット回しやセリフの内容としてじゃなくて映像としての人間芝居、感情を表わしていきたいなと思ったんです。例えば、レッシィがけんかした部屋が夕暮れだったんですよね。あそこは朝や昼じゃ面白くないな、夜でも面白くない。やはり黄昏時というか、人が想いを寄せる時間帯を利用したわけなんですよ。弱った事に最初部屋の中にいたんで、外との落差をあまりつけない様に人間がとても落ち着く琥珀色にしたんです。レッシィの心境が部屋の中の色であり夕暮れであると、そういう感じにもっていった。ですから逆に、発端になる楽しい部分の水遊びのシーンはきれいに見せてある。それから段段レッシィの心境で色を落としていって、滝のシーンではレッシィとダバのちょっとした雰囲気を作ってあげたい。滝というものはやはり絵になりやすい、人が見て感傷的にひたしめる場所、色を利用してみたわけです。

エルガイムって失敗すると落差が激しいんですよね。34話なんて怒濤の失敗作でしたからね。レッシィがホエールで帰ってきた話。演出上あれほど思うようにできなかった話は初めてじゃないかってくらいです。

――多少思い入れの差ってありますか。

確実に出ます。僕の場合特に出ました、エルガイムは。逆に出す様にしたって感じはあります。自分の好きなキャラをいかにして面白く見せるか。それは出番を多くするんじゃなくて、見せ方ですね。カッコ良くとか目立つ様にとかじゃなく、出来ればにじみ出したいなって。ギワザなんかとても好きでしたけど。声優さん自体好きなんですよ。西村さん。

――シブくがんばってましたね。

ああいう押さえのきくキャラって好きなんですね。49話でギワザが演説しますよね。あそこはシナリオになかったんですよ。ポセイダル軍とギワザ軍

今川泰宏インタビュー

と反乱軍とサートスターの四角関係を何とか見せたいなと思って、ギワザをあそこに集結させたんです。13人衆の生き残りが全部登場したでしょ。それでギワザに演説させれば軍の全貌が見えゆだろうと思って。最終話に向けてのスタートでしたから、あの話数でそういうものをやっておけば、後話数へのうけてになるだろうと。あの中でギワザが言ってる事は本心でもあるんだろうと、僕は勝手に思っています。シリーズはシリーズとして存在するでしょうけど、個人の本数として存在させる場合、やはりあそこで言ってる事も本当だろうと。ギワザがあくまでも悪漢だけじゃなかった、人間味をちょっと見せたいなと思った。それが個人の思い入れの入れ方なんですよ。そんなに見えてはいけないけど、にじみ出る様な感じで少し隠れて、一歩ひいておけばいい形で出るんじゃないかと。逆にマクトミンなんてキャラはすごい派手に出してアピールしてみました。

　本来僕の演出ってエンターテイナーが芸してエンターテイメントとなるという部分があるんで、マクトミンをエンターテイナーにしといて、ヘッケラーの最後で見せてあげようと。49話でとってもおしかったのは、ヘッケラーが二刀流で切られますよね。その後に本当はハンス・アラハートの「両手を失ったH・Mに何が出来るか」というセリフがあった訳なんです。トカゲのしっぽじゃないけど、ヘッケラーは昔かたぎの、何が出来るか、ここまで出来るって所を見せてくれた男ですね。僕の好きな男像だった。元来僕は時代劇が大好きでして。あの話数に出て戦闘してた人間達は皆、侍だと考えたいわけです。49話って僕の好き勝手に作った話数なんです。だからハンス・アラハートとマーハル・セヌーマという二人を、ボセイダルにも忠誠を残してる人間もいるんだろうという部分を見せたくて、勝手に作ってしまった。でないとポセイダル側はいつもシュルツってわけのわかんないおっさんがしゃべってるだけになって、つまんないんじゃないか、と。

　シナリオを生かしつつ、キャラクターをいかして使うかって好き勝手ににやってるのが49話ですね。僕はマクトミン命ですから。どっかでマクトミンだけのサイドストーリー作りたいです。「マクトミン物語」人気ありませんかね。あんな気持ち悪いの嫌がりましたかね。皆さんどういう反響するか楽しみだったんですけど。色んな雑誌見てたけど、あの話無視されてて。やっぱ受けなかったのかなあって…。マクトミンだけでやっちゃうと自分のエゴだけで終わっちゃうだろうと思って、ヘッケラーで最後しめたんですが。でも最後はメカ戦ではなく肉弾でギャブレーなんかと剣で戦わせたかったんです。

――どちらかというと、ダバ達よりもそっちを中心にやってましたね。

　僕は主人公というのは嫌いなんです。悪役をいかにうまく見せるか、脇役がうまく立ち回れば主人公は自然にカッコ良く見えるだろうと思ってますから。そうでもないか。

――今川さんの回で、アマンダラの素顔出て来てほしかったですね。

　ああ、あれはないですね。最初から知ってましたけど。あと顔といえば、一度やりたいんですけど、NHKの「峠の群像」。実写って表情に対しては説得力あるでしょ。それを逆に殺してしまった、表情を使わなかった。殿様が切腹させられて、皆悲しむのに蔵之介だけ落ち着いて後の処理をテキパキするんです。それで「あんたは悲しくないのか」と言われて怒るんですけど、そこには軽く流すんです、皆に対して。ところが家に帰って、御飯食べ始めた時いきなり茶わん落として、顔を両手でふさいでわんわん泣き出すんです。その時、手の間から米粒がボロボロこぼれる。表情が強みの実写が顔隠して芝居しやがって！あれは腹立ちましたね。ものすごく感動したんですよ。リアクションのすごさというか、一気にそこに集まったという。なるほどなと思ったんですよね。アニメの弱点を強みに生かすようなのやりたかったですけどね。

――一番見てほしかったところとは。

　仕事をする上で、まわりの人々が自分と同じ位の年令なんです。イメージ、思考、目的、みんなそれぞれですが、今のアニメを作るという若さ！その共通項を持てるわけです。やってみたい事をキャッチボールして必ずしも自分の中だけでとどめずにいこう、目の前の遠くへの広い道路、一方通行の標識を外し、みんなでドリブル、パス、たまにはトラベリング、そしてシュート！そんな一点一点が集まってできたのがエルガイムという作品だったのではないでしょうか？そんなところが見えればな…と思ってました。もちろんベテラン勢のパワーも。これがエルガイムの作り手としての僕の大きなテーマでした。

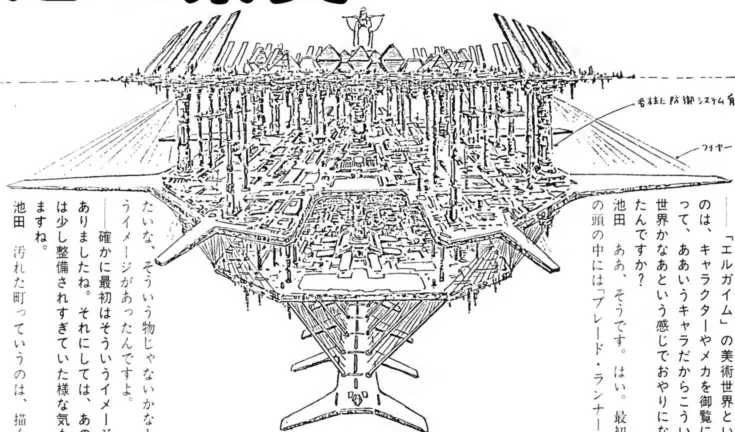
――デザイナーと作画とのコンビネーションはどうでしたか。

　同じスタジオ内で仕事してましたから、意志の疎通がよくはかれましたね。コンテを描く前にデザイナーといろいろ相談できるというのは、担当演出としてはなかなかできない事だと思っていました。決してコンテを描きやすくするのでなく、設定に幅を持たせればな、と思いました。特に永野君と共謀して作ったアトールV！アシュラ・テンプルのシールド・アームとかよく相談しました。H・Mはとても面白いメカでしたけど、設定書を生かしきれなかったのが残念だった。後半特に芝居のシの字もなくなって、H・Mがメカでしかなくなっちゃった。自分でもとてもくやしいんですね。

　作画の方は実験的な処理によく協力してくれましたね。7話の大気圏突入時の大地のせまりとか。

　それと、もう一つ視聴者の方々に知っていただきたいのは、作品中に使った、主にアジアや南米、アンデス民謡とかの民族音楽ですね。それからブライアン・イーノとかマルコム・マクラレン、チャイナ・クライシス、タキシード・ムーンモンスーン、エヴリシング・バット・ザ・ガールetc。めちゃくちゃマイナーなのもあります。49話は、自分の持ってる全ての音楽ラインを全て使ったものなんですよ。もう本当に好きなだけやりましたね。

池田繁美（美術）インタビュー



――「エルガイム」の美術世界というのは、キャラクターやメカを御覧になって、ああいうキャラだからこういう世界かなあという感じでおやりになったんですか？

池田　ああ、そうです。はい。最初僕の頭の中には「ブレード・ランナー」みたいな、そういう物じゃないかなというイメージがあったんですよ。

――確かに最初はそういうイメージがありましたね。それにしては、あの町は少し整備されすぎていた様な気もしますね。

池田　汚れた町っていうのは、描く上で手間がかかるんですよねえ。奇麗な町の方が早いんです。

――奇麗な町だと線一本でいいところを、何本も線を加えなきゃいけないとか。

池田　そうなんですよ。

――スケジュール的にはどうだったんですか？

池田　スケジュールはあるんですけど、富野さんのやつはやたらにブックが多いとか、カット数が多いんでそれだけ手間がかかるんですよね。

――美術設定は全部池田さんがおやりになったんですか？

池田　そうです。ただ、もう全々間に合わないんで使い回しばかりやりまして。サンライズの吉村君に散々お世話になったんですよ。それと永野君ね、彼はある意味でアニメの世界の活生化にはなると思うんですよね。キャラクターのファッションなんかも、彼自身かなり打ち合わせして、今までのアニメで思いつかなかったなんていうのやってますからね。そこが魅力になっているんですよ、彼の。それから永野さんのメカは映画的な直線的なメカなんですね。僕のは、ひと昔前の。

――エイリアンの宇宙船みたいな。

池田　ああいう方が趣味ですね。だから「スター・ウォーズ」より「ブレードランナー」の方が面白かったっていうタイプなんです。

――「ブレード・ランナー」もメカというより建て物がすごかったですね。

池田　あの台形のビルにずっとバックしてきますよね。途中に下の方に町があるでしょ。あれただの鉄板なんですよね、ペラペラの。あれがちゃんと画面みると立体的なビル街に見えるんですよ。

――見せ方のうまさですね。

池田　そばで見ると鉄板が切れてるだけなんですよね。あれは驚きました。

――それとレプリカントの寿命の制限のない女の人が最初に出て来るシーンで、確か主人公がピラミッドの中で会いますよね。あのシーンは、空とホリゾントが入って部屋の半分も全部入れる。

池田　合成なんですか？すごいですね。

――それで彼女が、太陽の前を横切る瞬間ていうのは、全部マスクと合成でうまくやったという話ですけど。向こうのやつは、ある意味で気狂いじみて描き込みがすごいですからね。

池田　言い方変えれば、結局はアニメーションですね。アニメーションの背景に人が立ってるっていう。

――ただそれがスーパーリアリズムになってるからほとんど実写だと。アニメーションをあの制度でやれと言われたら地獄ですけど。（笑）

池田　そうですね。（笑）「S・W（スターウォーズ）」のマット合成用の絵ありますよね。最初そんなの知らなかったんですけど、雑誌ペラペラッと見てて、なんでこうなるのかな、と。写真の一部を抜いてあるような。よくよく見ると全部絵なんで

すよ。

――アニメでやったらどういう感じになるんでしょう。

池田　まあ、周りからキャラが浮いちゃうでしょうね。

――今の日本のアニメじゃ無理でしょうね。キャラもスーパーリアリズムで描いてもらわないと。そうするとアニメの良さがなくなっちゃう気がしますが。

池田　あんまり意味がないでしょうね。実写に近いものを作った作品であるというだけで。

――あれはそれ専門のプロがいるんですよね。

池田　そうですね。また、見た目に写真そっくりに見えるってのは技術的に普通の絵を描く人と違うんです。コツがちゃんとありますもの。

――筆なんかもう使わないかも知れませんね。エアブラシとマスキングだけで。

池田　そうですね。

――永野さんのキャラはどうですか、池田さんのやり方みたいなのと――。

池田　合いますね、考え方が。僕の方は、コックピットやってもただのデザインでやるのは嫌なんですよ。だからH・Mのコックピットって最初に描いたの見ると、ちゃんと脱出装置がついてるんです。僕としては当然だと思うんですけども、まず脱出装置を考えない戦闘機っていうのはあり得ないんですよね。どっちかていうと、そういうとこから入りたいし。普通ロボット物のデザインていうと外見だけでやりますよね？ただ彼は違うでしょ、中身から入っていけるっていうか。

――骨組みとかそういう細いところから。

池田　そうです。ロボットの関節が一つじゃ曲がらないとか、ちゃんとやってますもんね。細かいところまで考えていけるというか。比べちゃおかしいんですけど、例えば「ガンダム」だとあそこはどうなっているんだとか考える余地ないでしょ。

――ほとんどあれは内部はブラックボックスという。(笑)でもロボットアニメはだいたいそうですよね。

池田　そういうのが嫌なんですよ、僕としては。例えば、船の中やってても何の部屋がどこにある、エンジンルームはこれだけ幅がある、居住空間はこれだけでって完璧にやっちゃいたいほうなんですよ。

例えば、アニメーションで演出するにしても、こういう風に演出するからこういう設定にしようじゃなくて、こういう船だからこういう風にしか演出できないなって、演出っていうのはそういうもんだと思うんですよ。

――御都合主義といえばそれまでなんです。今のアニメーションだと、やっぱり演出とかシナリオが優先で設定を作ってくれってとこがありますから。

池田　そうですね、だから本来はそういうのはやりたくない。

――デザインがあって演出をする。

池田　そうです。富野さんとか永野さんもそれに近いと思いますよ。だから最初っからビシッビシッと決めちゃって、それで話を作っていくという。

――スヴェートは全部池田さんがおやりになったんですか？

池田　まあ、だいたいそうですね。あれは正直いってあまり話にはふれてないんで、ああいうものを描けばなんとか使ってくれるんじゃないかと。まだ設定も話も何もないうちに出しちゃったんですよ。

――あの一番下がどうなってるか、経局画面には出て来なかったですけど。

池田　そうですね。いいんじゃないですか？　あれは本来は宇宙空間にある様なんですよね。それをただ滑走路にするべきところを町にしたっていう、そういう感じなんですよ。あのカッコのまま大気圏に出ていこうとするとえらいことになる。本来はあれが地上にいるのがおかしいんですよ。

――あれ大きさ何キロぐらいなんですか？

池田　10キロぐらいじゃないですか。ポセイダルの像からしてそうバカでかいもんじゃないですよね。あの像はスヴェート全体から見てかなりウェイト占めてて、少なくとも東京タワーよりはデカイでしょうね。500メートルくらいかな。

よく背景で描くんですけど、高層ビルってデカイですよね。直感で見ますと本当に野原にカカシがボンとあるっていう感じじゃないですかね。で、500メートルっていうと存在感として圧倒的なもんでしょうね。

――特に人間の形してますから。

池田　そうですね。前からだとあぁ簡単に一人進入出来るはずはないと思ったんですけど。

――本当はもっと防御装置があるんじゃないかという気がするんですけど。

池田　主都は動けるんだから、回壁運動とかするはずですよ。止まったままですから。

――あるいは無人の自動攻撃兵器とか。

池田　勿論そうでしょうね。永野さんと僕のイメージでやれば、ああちゃちい戦闘にはならなかったんですけどね。

――「エルガイム」という作品を、全部通して第三者的に見るとどういう印象を受けるでしょうか。

池田　あんまりはっきり言えないんですけど。作り手の方に、もうちゃんと各々のストーリーっていうのがあるんですよね。僕の設定なんかの方にもありますし、永野さんのメカの設定の方にも当然ありますし、脚本の渡辺由自さんの方も、独自の一つの話みたいなものをメインに持ってますし。それと同じ様に、富野さんのストーリー・ウェルに含まれた話なんだっていうのがあるんですよね。でも、最後の2～3話は面白くやらせてもらえましたよ。それが良かったですね。

私的エルガイム始末記



シナリオライター
渡辺麻実

キャラクター総まとめったって、アータ……本音を云えば何を書いてよいやらわからんのですよ。

私自身、エルガイムに関しては闇雲に突走って、ダバ達と一緒に青春してましたからねえ。今更、客観的な見方なんぞできまへんがな。

ファンの方々、いろいろ御不満もございましょうが、少なくともエルガイムという作品は、渡辺麻実というしょーもない人間を、かなり派手に変えたという点ではすごいモンだったように思っとります。

……ってな訳で、もう客観論なんぞハナッから無視しまして、私の好きだった台詞を列挙して、我が盟友達への花束としたい……などとキザなことを考えました。

尚、ここに挙げた台詞はシナリオとしての決定稿の中から抜粋しましたので、一般には出まわっていないものもあることを、お断わりしておきます。

> ダバ「ギャブレー、今日こそ憎いと思ったことはないぞ！」
> （22話クワサン・オリビー）

とにかく最初から、どーも解せん奴だったのがダバなんですよね。人間的に大きいのかアホなのか、全く見当がつかないのでして。

特に女性に対してはメンタルな部分が強すぎるのか、ストイックなのか女の浅知恵ではとにかく不可解。

やはり途中までは私もファンと一緒にアムかレッシィかはっきりしろい！と思ってたんですよ。

ところが22話でオリビーが出現した時のダバというのは見事でした。あれほど目の色が変わったダバを見たのは実に初めてで、どんな事情があるにせよ、こいつからオリビーを切り離すことはできないと確信致しました。

願わくば、オリビーの具合が少しづつでも良くなって、ゆったりと倖せに暮らしていてほしいと、切望してます。

よくわからん奴ちゃ、と思いつつもその背中から目を離せなかったダバ、また、いつか、どこかで会いたいね。

> ダバ「ポセイダルを撃つためにはお前が必要なんだ！」
> キャオ「オレが……」
> ダバ「オレはお前が必要なんだ！」
> （15話プライド）

富田さん（富田祐弘氏）が大好きだったキャオくん。

ダバとはほとんどホモだちじゃないかとさえ云われる程、ベッタリくっついてた彼。非常に残念だったのは、いつのまにやら生彩がなくなってしまったこと。

それでも彼は最後までダバの傍に居ましたね。

チーフ（渡辺由自氏）がよく、男同志の友情の間には、女が入りこむ余地なぞない……と、のたまっておりましたが、全編通して見ていたこの二人は確かにそういうもんだったのかもしれません。

中途から陰ながらアムを助けるキャオの気分、すごくよくわかりながらも女の私としてはダバを追うアムの心境もよくわかり、実に複雑でした。

キャオ……今頃はアムをくどけたんだろうか……？

> ギャブレー「所詮、お前はこそ泥の器だ……俺を意識するのが間違っている」
> （5話エスケープ・ラン）



こういう屈折した自信、好きでした。常にこの人は自分を中心にペンタゴナはまわっていると思っていたんじゃないでしょうかね。

他人の云うことなんぞ全く聞く耳持たんくせに、自分の気にいった人に対してはえらく素直になれる……至って単純な、そう、いい男でした。

このギャブレーに関してはシナリオ班と演出班の間に大きな溝があります。

ファンの皆さんが御覧になったギャブレーは演出班のギャブレーです。シナリオ班のギャブレーは、ちょっとタイプが違うんですよ。でも、これはもう済んだことですから、永久に闇に葬りましょうか。

次に会う時はさ、ギャブレーとハッ

シャのコンビで「傷だらけの天使」やってほしいな。

レッシイ「闘わなければ、私は認められないというの？　女として……」
（27話ミスティク・ラブ）



御免！　本当にゴメン！

だけど、とうとう私はアンタを最後まで好きになれなかったんだよね。

だからなのか、成りゆきなのか、私の担当話数はアンタの出る幕がほとんどなかったもんね。ま、私としてはホッとしてたんだけど……。

何故好きになれなかったのか……正直云ってよくわからないんだね、これが。

もしかしたら、性格が私とひどく似てるせいかもしれない。強そうに見えるけど案外モロくて……そんなモロさを見られるのを恥だと思っている……。

実にどうしようもない性格だと思うよ、レッシイ。その突っぱり、やってて、かなりシンドイ筈なんだけどね、弱音を吐くのなんて、とんでもないって思ってるでしょ？　バカだねえ。

よし、楽になる方法、教えちゃう。

私はダメな女なんだな、誰か傍に居てくれないと、立ってもいられない…そう、思いこんでごらんよ。少しはなんとかなるんじゃないの？

最もねえ、レッシィ、アンタより、それをやるの、私が先かもしれないね。



ダバ「温かいな」
リリス「!?」
ダバ「そのまま、しばらくじっとしていてくれ」
リリス「――――」
（37話オリビー・クライシス）

いい娘でした。

料理はうまい、縫法も得意、可愛い、おまけに優しい……難を云えば、ちょっと小さめなだけ。

男性諸君、こういう女の子こそいいカミさんになるんだよ。アムだレッシィだと云ってる間があったら、自分のまわりをよく見回して御覧な。こういう地味なタイプってのは、なかなか目につかないんだよ。

シリーズ的に云えば、この娘にはいろいろと苦労したんですよね。

当初の予定ではまともに喋らせるつもりは全くなかったのです。だから、ダバが「えっ？　お前、喋れるの？」なんてシーンも、ちゃんとあったんですよ。



言葉を話すということは、相手に対して心を開くというリリスの意志表示でもあったのに……知らんうちに喋ってた……。

確かどっかで、リリスはレッシィとダバに心を開いてる、なんて書いてあったけど……そんな話、どっから出たんだろうね？

ダバはわかるけど、レッシィってのは初耳でした。

ヤァ、ペンタゴナワールドの七不思議ですな。（あ…やな性格だ）

アントン「ネイ様はどうなさるおつもりですか？」
ギワザ「こうなったらペンタゴナワールド全てを我手に収める……虫のいい話かもしれんが、あれなら、わかってくれるはずだ……」
（38話エスケープ・ギワザ）

ポセイダルの許へ直談判しにいったネイを、どうするか……というくだりだったのですが……。

実はこの台詞、家中をわめきながら走りまわり、左手で右手を押さえつけるようにして、やっとこ書いたのですよ。

見ようによっちゃ、ギワザがネイをとても信頼しているようにもとれますが、それは大まちがいのコンコンチキなのです。

これは、男の論理ですからね。ギワ

ザもネイを見捨てるのは苦しかったんだ……なんて思ったら甘い! 甘い!

やっぱり見捨ててほしくないのが女ごころ。ちょっとみっともないな、なんて思っても、ギワザがポセイダルの許へ直接行って、ネイを返してほしいと云ってほしかった……。

それというのも当初、ギワザはネイに本気で惚れている、という設定があったからなんです。

今だから話そう!

実はギワザを庇ったネイが大ケガをして、それが原因でギワザの腕の中で死んでゆく……ギワザも「お前のような女を軍に入れたのがまちがいだった」と後悔する……そんなくだりもあったのです。

それがいつの間にか利用する、されるという関係になって、想いはネイの一方通行。あえない最期となった訳ですな。

ま、それでもネイさん、ギワザに殺されても、うらんじゃいないと思いますよ。やっぱり、どんな目にあっても彼女、ギワザに惚れてたんだものね。女って、そういう浅はかなとこ、あるんですよ。

ギワザとネイ、この二人に関しては原作本の小説「重戦機エルガイム」第2巻で、濃厚なラブシーンがあるとか。

なんでもチーフが、話にグッと詰まって、ここらでラブシーンでも入れたるか……と書きだしたら、そのあとがスラスラ続いたそうな。

この二人の関係、どうなるかと気になる方は、読んでみて下さい。5月下旬、朝日ソノラマ文庫から発売だそうです。(チーフ! 宣伝しましたからね! あんみつおごって下さい!)

> アム「私、もっともっと長ければ良かったと思うわ……戦いが三年でも四年でも続けばいいと思ってた……そうすれば……」
> (54話ドリーマーズ・アゲイン)

オリビーと共に旅立ってゆくダバを見送るアムでした。これはテレビシリーズには出ませんでしたから、御存知なくて当り前。でも、一番好きな台詞でした。

ダバと共に一年間旅をして、戦って……自分は普通の女の子なのに、何故人を殺さねばならないのか、それもこれもダバのためなのか……そう自問自答をくり返し、くり返し、アムは成長してきました。

戦いさえ終ればバダとの微笑みの日々があるのでは……そう夢みたことも散ってしまいました。

アムにとって、思い返してみれば平穏な日々よりも戦いながらも傍にいられた方が良かったと……今さらながら思っているのでしょうね。

アムの心境はまた、その頃の私の心境でもありました。

アム……今頃、どうしているでしょうか……ま、心配には及ばないかもしれません。

ダバを待ちながら、トライデトアル再建に、みんなで頑張っていることでしょう。

どなたかアムの噂聞いたら、私にも教えて下さい。

> オリビー「お兄ちゃん……帰るの?」
> (54話ドリーマーズ・アゲイン)

シナリオ決定稿での本当のラストの台詞でした。

この台詞にはオリビーの回復、同時にペンタゴナワールドの再建、若者達の今一度の旅立ち等、全てを暗示するシナリオ班の願いがこもっていた様な気がします。

だからこそ「ドリーマーズ・アゲイン」だったのです。

大人の世界の諸事情から、シリーズの中でいろいろな変化がありました。それでも、私の中では常にダバ達が生き生きと活躍し、育っていったのです。



このシリーズの終結と同時に、私も再びドリーマーズとなって、アニメ界を突走ろうと思います。

ダバをキャオをギャブレーを……アムをレッシィをリリスを……応援して下さって本当にありがとう。

きっとこれからも彼等は皆さんの想いの中で生き続けてゆくと思います。

私にとってもエルガイムは青春の一ページを飾って、今、静かに閉じられようとしているところです。

また、いつの日か、彼等に再会したいとも、したくないとも……今は答がでない状況なのです。

皆さんは……?



イメージofビーボオー
エルガイム・グラフィティ



○「エルガイム」のアニメーションをデレクトしたビーボオー。その彼らに独自の「エルガイム観」を1ページの中で表現してもらいました。

エルガイムのキャラクターが持つ〝個性〟の迫力を感じ取って下さい。

ILLUSTRATION
○遠藤栄一
○恩田尚之
○中村　悟
○山本正文
○沢田正人
○窪岡俊之

イラスト／遠藤栄一

恩田尚之

★エルガイムの恋愛関係はとても複雑なんです。三角関係、四角関係はざらなんですもの。これで男性同志を加わえたら……もうあきまへん。



中村 悟

★エルガイムPART２はキャオが主役でミラリー探しなんかどうでしょう。インディジョーンズ真っ青の冒険活劇で……。



山本正文

★エルガイムの乗り込むアムとリリス。もう男の時代は終り、これからは自立する女の時代！男のために生るのではなくて、私があなたを愛するのです。



沢田正人

★ギャブレイの愛は″～のために生きる〃事なのでしょう。常に、肩中に背負くらいの意気込みなのです。もっとも、誰かに見せびらかしたいミーハーぽさがありますが……



窪岡俊之

★やはりギャブレイはエルガイムの中で最も〝らしく〟生きようとした人なのです。思い込みが激しいだけと言われそうだけど、人はああ生きてみたいと感じるのです。



エルガイム・エッセイ
スタッフルームの〝輪〟

「エルガイムってどんなスタッフが作っていたんだろう？」そんな疑問に答えてくれるのが，このコーナーです。題して〝エルガイム・エッセイ　スタッフルームの輪〟

スタッフの方々に各自一名のみ選んで，思い出や感想を語ってもらいます。どんな話しが出て来るか期待して下さいね。

MEMBER

- 富野由悠季
- 永野　護
- 今川泰宏
- 大森英敏
- 湖川友謙
- 本田知恵子
- 平松広和
- 川村万梨阿

INTERVIEW

「ようやく僕の所へ来たな」という出会だった
富野由悠季



僕は最初に永野君の絵だけを見せてもらったんです。だから、その時には彼の事は全く知らなかったといっていいですね。それでも「あっ、きっとこの人なんだな！」という風に思いました。それで会わせてもらったら、実は3年前から知ってはいたんです。永野君の名前は知らなかったけれど、顔は良く知っていたんですよね。

その頃は、彼はバイファムの初期設定の仕事をやっていたんですけれど、それとは違う仕事に関係ない絵も描いていたんで、僕が見たのはそっちなんです。それで、その絵を見せてもらったからこそエルガイムに決めたんです。それこそインスピレーションだと思うのね。

「あっ、ようやく僕の所へ来たな。この絵を描いたのはきっとあいつだな。」っていう……思いね。そういうひとつの出会いだったんです。

なおかつ、その時にもうひとつ感じたことがあります。

「やはり、こういう風に感じさせてくれる人でないと、きっとクリエーターにはなれないんじゃないのかな！」っていう思いです。僕はこの一年間、ずっとそういう感性を持った人と出会いたいな、と思っていたんです。だから、そういう意味で新しい恋人を見付けたと思っています。

残念なことに永野君的な人はまだまだ少ないですね。彼は色々な要素がパッ、パッと散らされているのを、ワッとひとつのものに収束させて組み上げてくれるんです。そういう意味で、もっと彼のような若い人が出てくれないかと、とても寂しい思いをしてるんです。

結局、人というのは全く「初めありき」だなっていうことです。もし、永野君のように他人にポオーンと感じさせることができる人がいれば、その人も将来が見えてくるんじゃないかと思います。こういう出会いにはもうひとつ重要な事があります。僕の、つまり受け手とのタイミングが会わなければいけないんです。彼のように発信している人間がいて、それを受信できるセンサーを僕自身で持っていられたということがとても有難いと思っています。

まだ自分のセンサーが開いているうちに、もう三人くらい恋人を見付けたいなと思うんです。永野君以後の人に関してはまだ今ひとつで、ガールフレンドレベルなんで、ちょっと寂しいんですけどもね。

昭和60年3月15日
オフィスアイにて収録

WRITING

今川少年のこと——

永野護

大体やな、あの男は、ほめるとつけ上って、手に負えへんのや、せやから、何書いてえーのかわからへん。京都から、出て来てもう8年、関西弁が似合わなくなってきた自分を、とても弱くなったと思うのだが、彼は今も変わらず〝関西人〟に見える。ぼくは京都、あいつは大阪、関西と言うのは東京とちがって、中心になる都市が、4つもある為に、(京都、大阪、神戸、奈良)同じ関西圏で育っても、相当性格の違いが出るらしい。(といっても私は京都からはずれた所で生れたけどね)

彼を見てると本当に(なにわ)っ子だねえと思う。他人の評価は私(ボク)自身がまだ〝お父さん(とみのそうかんとく)〟みたく完成していないのでパーソナリティに関しては、全てパスするが1言で言うならば、彼＝今川泰宏はまだ子供である故にみずみずしく、ピュアなのです。そして、とてもエラぶって背伸びをしているのだけれども、それは時として才能ある人間の特長でもあるから、私は当り前だと思うしそこがマ、とてもかわいく見える所でもあるのです。男に〝かわいい〟などとはとても失礼なことなのだけれども、それはぼくが彼より、年上であるという点でゆるしてほしいとも思う。

L・ガイムに入ってぼくはたくさんの、友人を得ることができた。演出の杉島氏や、作画の大森氏、それとは別に、〝弟〟みたいなもの、＝ぼくでさえもが、〝いい方向にもっていってやりたい〟と思っている人間が北瓜君と今川君なのです。北瓜君に関しては又別の機会で述べることもあるかもしれませんけれど、とにかくこの2人は、大好きなのです。確かに私はアニメ界に入ってくるのがとてもおそかったように思えるし、とても先輩ヅラはできる訳はないのだけれど—(アニメに関しては、私は2人よりくわしくなく、又、よく解っていない所が多分にあると思うのです)が—その分私は色々なことを経験して来ているはずな訳で、そんな彼らに、もっと他の、情報を与えてあげたいと思っている訳です。

さて今川君1人に話をもどして、ま、彼のスケジュールを、ものともしないあの製作態度には問題があるかもしれないけれども、その結果あの#2、#7 #17 #22 #29 #34 #40 #49とそらで言えるほど彼の担当した話数は印象的なのですよ。はっきり言ってあいつは、アマノジャク——多分に子供的な—なのは周知の通りなんだけれども、そのアマノジャクさが、彼をおもしろい方向にもっていっているのも確かである訳です。あのオバン、オジンキャラに対する異状なこだわり————……

あなたね、気持ちは解るけれども、もちっとすなおになりなさい！

レッシイがキライ？ アホ！ レッシイを殺してやりたい！ ボケッてめーの担当した回が一番レッシイが魅力的じゃないか、7話、ありゃ何だ私—恋をしたのかしら…　オレはあのカットのセルを権力総動員して、手に入れよーとしたんだが、どこをさがしても無い！ 無い！ 無い！と思ってこらっ！〝番宣〟(番組宣伝用カット)カットをもっていくんじゃない！

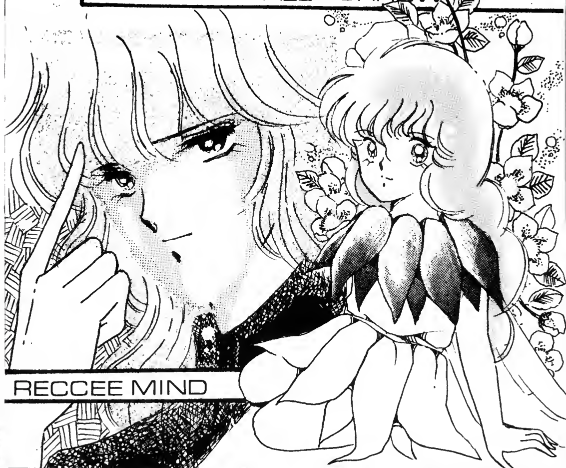
〝34話〟あのレッシイ、キライなキャラに、あんなかわいいしぐさをつけるのはどーしてだ！ もっと素直になりなさいっ——　ま本音はさておき、実はL・GAIMの前半までは彼の演出力はいつもコンビで組んでいた、大森氏の力があるからではないのか——と思っていた訳なのだけれど、それは40話で、彼の実力をはっきりと知ったことにより(大森くんの力も相当のものだけどね)少し考え方を変えた！

「ふ——んこの子、人間書けるんだ」そう思ってもっとおもしろい話しを、彼にやらせてみたいな—と思った訳で49話へとつながるのです。マフ、マクトミンとヘッケラーの話に、ぼくが、テンプルナイツのアイデアを組み込めないか？と彼に言ってみたら、あの出来上りだった訳である。とにかく、「おもしれーじゃん」、カントクがラッシュをみて一言いったと同時に私も、LGAIMの中では一番よく解る(スゴイとかではなくて)話になって出来上がったと思ったからである。まーあの49話とゆーのはメチャクチャな日ですけどね、さらにストーリーがこんがらかったという意味で……

彼はよくダンバの37話をもち出して言うことがある——けれどもね、今川くん、あなたあのバイパージェリルを演出面ですでにぬいている回をどんどん作っていたのですよ、エルガイムではね。確かに7段落し、全動画のレプ

ラカーンはすごいけれど、あの時のあなたと同じレベルに杉島君が最終話で、おいついちゃったのですよ。ハデさではなくて、今度は〝フル、フラット〟の時の様に、私をうならせて下さいな、「あ、こりゃ、今川せんしゅだわ、本当――」とね、今思えばアシュラのリバースポマーも、アトールのフロッガーも、イレーネや、マクトミンもみーんな君が、ぼくに「作ってちょ!」、とう――何て低レベル――いったのでしたっけ。ハイハイ、又、いっしょにやる時があれば何でも作ってあげます。何たってボクの大切な今川くんのたのみですもんね。

PS、もっとスナオになれよな――レッシイはかわいい、いとしい、いじらしい――当り前だ!オレだって本当はレッシイ好きなんだからな。



カット／刹寝瑞穂

WRITING
大森さんについて――今川泰宏



懐しのニッケルオデオンの響きも、もう遠のいていってしまった今日このごろ、桜も霧の中へ終るようです。

Dear大森さま、ひさしくなりますね。お仕事御一緒しなくなってから。昨年の秋にガウ・ハ・レッシィをターナからたたきだしたのが最後でしたね。できればもう一本組んで人の迷惑かえりみず、絵コンテ用紙、トレス台場所をかまわず乱闘につぐ大虐殺を重ね、クリミナル精神にのっとって、あのブラウン管というキャンパスに血まみれの作品を映しだしたかったのです。

なのに……なのにあなた様は僕のもとから去っていってしまった。コンテを描くたびに、大森様に作画してもらうとどんな絵になるのだろう？どんな芝居をつけてくれるのだろう？そればかり想像していたのですよ。でも思いはからまわり……今もまぶたに浮ぶ作画打ち合せのこと。

「まっ、てきと―にやっといてえな、イメージはこんな感じでんな。」

すると大森様は、

「はいな、わかっとりまんがな、ほな、ま、てきと―にやらせてもらいまっさ」

数日後、上ってくる原画を手にして一言。

「まいりました!」

しかし、ただではすましません。この原画いかにおもしろく見せるか？第2ラウンドの鐘がなりますキンコンカン。いつもいつもからくも逃げきって引き分けにおさめてまいりましたが、もろ手がヒリヒリしております。演出と作画での超豪速球火の玉キャッチボ

ール。どちらが先にうけそこなうか手をはらしてのザ・ガマン。ほんとによく僕の摩訶不思議、支離滅裂なイメージを現実化してくれたものですね。楽しかったのは2話でのバラをなぐったパワーある盗賊のゴロマキシーン、おたがいなっとくしましたね。
「これは、大阪の梅田のあそこ!! 阪急東通り商店街！ あれでんな‼」（阪急5の駄・進・堂書店で立ち読みしている人！近いからと言っても決して行かないようにね。恐い所よ）
「あそこね！わかった。そのものやんか！でやったらええねんな。」 すると湖川さん「おまえら、大阪へ帰れ！」
バッシュ！ひっさびさのメカニックの重さ、まさにヘビーメタル！コンテを書く前から2人でねったあのシーン。油は吹き出す。関節のびて立ち上るのがサムライマシンの醍醐味！できれば色をもっと考えたかったのです。ああ、私が悪いのよ。（泣き）しかしその分返したのがアステロイドベルドBOOK引き。ま、あいこにして下さいな。そして、忘れもしないあの、7話！僕がカゼをひいて寝こんでいる日、「お見舞いに行きまーす」と大森さんのTEL、うれしはずかし待つ時間、再びTEL、「道わからんようになってしもた。国立の駅までむかえに来てや」……僕はカゼひいてんねんぞ！その病人に寒い道歩かせて、見舞いの品が原画のチェック‼そして奥さんからのTEL、ぐったり原画チェックしている病人の横でLOVE・COOL！しかも3回！熱が出てしまいましたよ。ホント（うらやましい）
でも……29話で僕は見てしまったのですおたがいの方向性の変化を。少しづつではありますが変わりはじめた僕の方向性、大森さまの方向性。なにがどう変わったということでなく、だから組まなくなった……ということでもなく、それがとても共に良い結果を産める、そんな気がしているのです。エルガイムを通じて成功させあったテクニック・方法、みごとに失敗したこと。それは、今この時こそ何をやったかということより、何をやりのこしたかを、何をやれなかったかということを見すごさず、確実にとらえてプラスアルファの精神にもとずき、再びあいまみえるその日にそなえ、努力して行きましょう。
あのハイパーの楽しみをニッケルオデオンの響きと共にもう一度……

We must retern ?

We Live So Fast oh ! oh. oh.

Don't Dream Be it.

1985・4・18

for Dandai 今川

㊟ 私は、男色家ではありません、念のため。あしからず。



カット／炭谷ひろ子

WRITING

僕のひとりごと——湖川さんへ

大森英敏



湖川さん！今度ラーメン作る時は言って下さいよ。その位僕がやってあげますってば。僕、やなんですよ。湖川さんが一人でラーメン作ってるのって。なんか、らしくなくって。

えーと、何だっけ。

湖川さんと初めてお会いしてから、もう何年でしょうね。イデオンの頃だから彼此四年になる訳ですね。なーんかその間、ゴタゴタしてて、あまり時間と言うものを意識していなかったけど、今考えると結構色々ありましたね。

初めて会った時、湖川さん、自宅の一室で仕事してらしたんですよ。ポリマーの頭やらブルーアース号のモデルなんかに埋もれて。

僕はあの時、ハッキリ言って礼儀も、いや言葉使いすら分からなくなって——今もそうですが——随分御迷惑おかけしたと思うんですけど、とても快く話をして下さって、本当に嬉しかったんですよ。

だけどその後、ビーボォーに入社してからは、随分叱られましたけどね。え？忘れちまったんですか？僕の電話の応対が悪いって、大目玉をくれたでしょう。おかげ様であれからは、特に電話での言葉使いには、気を使う様に成りました。

それから、ダンバインの原画を経て、初めて作監やらして貰った時も、色んな面で叱られましたね。仕事の事ではもちろん、原画、動画の人達と接する時の態度とか。

アニメーションという集団作業の中で、人と人との関り合いや、人の気持ちというものを、もっともっと大事にしていかなきゃダメなんだよ、と言う事を、湖川さんは僕との関り合いの中で、身を持って教えてくれた様な気がします。

「一ヶ月のうち半月は遊んで、あとの半月で、いつもの量の仕事をこなせ。」

いつも湖川さんに言われる事なんだけど、なかなか出来ないんですよね、これが、

僕なんか遊ぼうと思ってても、その時間にまでズルズルと、仕事が延びてしまう事が多いし、もとより半月遊んで暮らすだけの、度胸が無いんですよ。

なんか仕事してないと、落ち着かなくて、やっぱり、もう少し、自分に余裕が欲しいですね。

湖川さんの仕事ぶりを目の前で見てると、やっぱり凄いな、と思いますよ。もう、分厚い原画修正を、バンバンあげてしまう。

最近は湖川さん自身、作画以外の仕事が増えてきたせいか、そういう場面を目にする機会が少なくなってきたのが、少し寂しい気がします。（あれは、いい刺激になるんですよ。よし！俺もってんで、自分も同じ事ができる様な気がしてきて。……できなかったりして。）

…うー、何か腹へったなー。ゴソゴソ。

そう言えば、最近は腕相撲、しませんね。ビーボォー内では湖川さん、二位でしたっけ。強いんですよね—。何故か。（僕なんかこの前、無残な敗け方をしてしまった…。）

そのうち又、やりましょう。今度は新人も増えた事だし、順位が代わるかも知れませんね。

これから先、僕らが少しづつ、湖川さんに代わって行かなきゃならないんだけど、やっぱり湖川さんにはいつも僕らの上に居て、お山の大将で、師匠で、親方で、そして誰よりも強くてコワイ存在であって欲しいなぁと、そう思うんですよ。

僕の甘えでしょうか…？

え？これからですかぁ？ダメですよ、僕まだ仕事が残ってるんですよ。これから飲みになんか行ったら湖川さんの事だもの、朝になっちまうじゃないですか！　ダメですったら！　（オオモリ君…。）ダメ…いや、ちょっと…。**（オオモリ君。）**　イヤァ……しかし…**（オオモリ君!!）**…ハハハ…。行きます。



カット／武内真紀

WRITING

「関係」

湖川友謙



人間にとって、仕事により拡張される意識的要素と、体現の為の可能性は、思考外の幅広さをもち得ている。

アニメーションの世界では、演出、作画、美術、プロデューサー、音響、撮影、編集、彩色等の各セクション（細かい分類をすると、その数は倍以上になると思える）があり、各自の技術開拓に熱を燃やすのが日々である。しかし、技術者の技術進歩が最大公約数的思考は難問題をひき起こす。技術者が技術のきわめをもつことは当然でありそこからが本当の自立の仕事になり、社会的価値の足掛りを手中に出来たりする。技術者たるもの、常に、感じることと、プロデュース感覚を持ち得なければ、単なる一般的職人ということになるのだろうから。

「関係」という不可解さ。

関係をすることなのだが、3人の関係で、1人は意識の人間で、1人は意志の人間で、のこる1人は意欲の人間と呼び合う仲間が発生した。

そして、再会するごとに燃え、発展が続き、社会の苦痛も、破顔一笑で昇華させていったのだが、ある時期難が起った。意識人間は、意欲人間の中へ入る一体化を望んだからだ。その結果の見えた意志人間は、意識人間への忠告を始めたのだが、動き始めたものは関接的抵抗を感じるまで止まるものでもなく、意識人間はただ進み続けてしまった。

意志人間は、関係を崩したくなかったことと、このことで遠まわりも好んではいなかった。そして当然のように意志人間の推察は適中したのだが、もっと強裂な結果だった。

意欲人間は、意識人間の意識を一歩も受け入れはしなかったし、逆に非難になってしまい、意志人間まで意欲人間から、その非難を耳にすることになってしまった。

2つの意識が世間という大現実に負けようとしていたのかもしれない。

しかし、基本的な人間への信頼感は、世間の波動に勝利していくのだろうか。再び、意識人間対意志人間対意欲人間・意識人間対意欲人間・意志人間対意欲人間・意識人間対意志人間のどのパターンをとっても、感受性が生かされる関係が続き始めていった。

最近、その意識人間は、自分を無意識人間と主張し始めた（もちろん意見の対立は常時起ってはいたのだが、関係がその対立を発展させていた）。

意志人間は、またまた難解な世界をかいま見ることになる。つまり、意志で動いていると身体は錯覚しているのだろうが、無意識となると、具体性が、ほんの少しの具体性が必要と思い込んでしまうのだから。しかし、意志人間は無意識が起点で動き始める意志の存在も、明確に感じていた。そして、「ことばあそびのたのしさは、いしのなかでのたたかいさ」などと口走っていた。

唐突に意志人間は、無意識人間より意識を譲り受けることを承諾させていた。

ほぼ同時期、意欲人間に変調がみえた。

もともと無意識人間と意志・意識人間は、世間法を無視して生きまくって来たようだが、今だに意識だの意志だのと口に出すところを見ると、結構、辛い思いをし、世間の常識の必要性を認めた上での発言らしい。年齢的に若い意欲人間は、非常識論の真只中であり、時々、無意識人間や、意志・意識人間の手をもやかせるので、より楽しかったりしたのだが、そのことのズレが生じて来たと言うことなのだろう。はざまに立つと、人間はとても弱いものであって、ぬけ出すキッカケをつかむことも難しくなって来る。

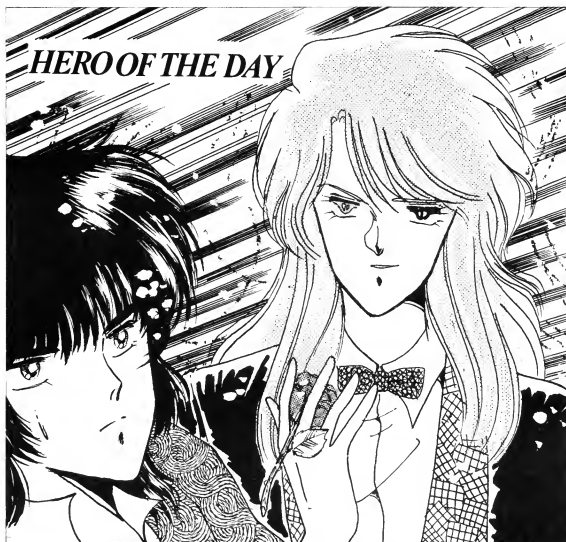
無意識人間と意志・意識人間は、自分達を少々反省し始めてしまった。つまり、感受性の世界を意欲人間に構築させようとした完璧願望からこぼれ落ちた部分なのだろうから。

やらねばならぬこと事態は単純で、現実との同居を意欲的に行動出来れば解決出来るのだから……と無意識人間と意志・意識人間は、本来の展望をかみしめ合ったりしていた。とは言え、人間のことなのだから、急成長出来るなどというのは、キコンの問題もあることなのだから、気楽・気長に考える部分もないと、疲れることのみ多くなり、勝者にはなれないのであろうから。

しかし、再び難問題が起り始めていた。予感はあったにせよ、意欲人間が、意志・意識人間の中へ入りたいと願ったのだ。だが、以前の無意識人間のパターンではなく、中へ入ることの怖さ

（辛さ）で、意志・意識人間との関係をたちきりたいなどと我ままな発言をフッともらしてしまった……から。意志・意識人間は辛いところをつかれたと、一瞬思ったのだが、「そんなことはない！」とも心のどこかが保とうとした。

ところで中川プロデューサーは現在どうしているのだろうか？
ヒゲの下で辛さをかみしめているのだろう？
中川さん！
パワフル？に頑張って下さいませ。
60・4・22



カット／刹寝瑞穂

INTERVIEW
回りが知らない人ばかりだったので心強い存在でした
平松広和



——仕事の上で雰囲気作りと言うのは、

平松　人見知りする方なので、回りが知らない人ばっかりだったもんですから…その中で彼女がいてくれたって事はすごく心強いと言うか、と言ってもたいしてあてになんないからおかしいんですけど、気が楽になる部分があってとてもありがたい存在でした。

——一年間共に仕事をして色々とエピソードなどあったと思うのですが。

平松　え〜〜〜。何かやったかなぁ？そう言えば、彼女はミニスカートが好きでねェ。（笑）まあ、けっこう短かいのをはいて来るんですよ。平気で（笑）彼女、小さくてカワイイいいんですけど。

——はぁ。

平松　それでねェ。僕達はね。とても楽しかったですねェ。（笑）

——彼女に何かメッセイジがありましたらお聞かせ下さい。

平松　そうですね。やはり、声優に限らず、舞台でもガンバッテもらいたいですね。

——本田さんとの出会は？

平松　最初は会った時は覚えてないんですが、多分状況から判断して、本田さんが俳協養成所へ試験を受けに来た時だと思います。4年ぐらい前ですね。試験開催場の整理受け付けをやっていましたから。

——お話をするようになったのは？

平松　その後、僕も劇団関係で、毎日のように養成所へ行ってましたし、顔は合せていましたね。名前も一応知っていました。まあ、話しをするようになったのは「エルガイム」からですね。

INTERVIEW

マリアさんは見た目よりひょうきんなんです

本多知恵子



――マリアさんとの出会は?

本田　マリアさんとはエルガイム自体が出会のキッカケですね。第一話のアフレコ前にリハーサルをやったんです。その時にマリアさんと初めてお会いしました。

――女性同士と言う事で、仕事をする時にお互い助け合うなど色々あったと思いますが?

本田　そうですね。エルガイムの始めのうちは、女性レギュラーがほとんど私とマリアさんだったもんですから、キャラクターの雰囲気やアフレコの調子など色々話す機会が多かったですね。特に座る席が隣だったりして、「今のどうだった?」とか「ちょっと、次見といてくれる?」などありましたね。それから、うまくできなかった時などは「うまくできなかった――――っ!!」と言って泣きついたりしていました。

――一年間同じ作品にたずさわって、以外な面などはありましたか?

本田　第一印象と言うか、出会った時に、すごくきれいなお姉様って感じの印象を受けたんです。実際、色々教えてもらったりお姉様なんですけども、わりとひょうきんな面がありまして。「え―うそ、マリアさんにこんな面がある?」みたいな、とっても見た目よりすごくおもしろい人ですね。ごめんね!(笑)

――最後にメッセージなどを!

本田　そうですね。あのスタジオで会ったら、またガンバリましょうね。と言う事と、スタジオの仕事を離れても洋服とか一緒にショッピングしましょう。

WRITING

万梨阿から富野総監督へ……こころは、少年!超時空ロマンチストのとみのさんへ……

川村万梨阿



富野総監督殿。こんな風に改まってしまうと、いったい何を書いていいやら困ってしまいます。だから、ほんの少し馴れ馴れしくなってしまう事を許して下さいね。なんだかエッセイというより手紙みたいですね。でもいいんだ。だってエルガイムが終わってから、ちっともとみのさんとお話できる機会が無いんですもの。あれからほんのちょっと気が抜けちゃいました。アフレコが無くなったら、週に一度の楽しみが消えてしまったようでとても淋しいです。レッシィやリリスともごぶさたしてるなぁ。とみのさんの作るキャラクターって、み―んな魅力的でとってもおかしな名前がついてるんですよね。私ね、最初レッシィのこと、ガウって呼ぶのかと思ってた。ハじゃあないんろうとは思ってたけど… でも、何度も呼んでいるうちに、とても親しみやすく思えてくるから不思議です。レッシィ、レッシィ…うふ♡このワンちゃんみたいな響きがたまりません。名犬レッシィ、なんちゃって。冗談はさておき、私、レッシィ役を演じてて、最高にノッちゃいました。こんなに魅力的なキャラクター、今まで見たことない。アニメで、いいえ実写のドラマだってこんなに素敵な女の子出てこないもの。チャムにしろリリスにしろ、彼女達はみんなしっかりした自我を持ってる厚みのあるキャラクターだし、こんな風に自分の理想に近いキャラクターを演じさせてもらってる私はとても幸運だと思います。既製のドラマ等での女性の描かれ方に不満を持ってたから、とみのさんの作品にふれる事がで

きて、とても嬉しかった。とみのさんは口では色々言ってても、とても女性を尊敬していてくれてるんですよね。そんなとみさんの女性観を作ったのは、奥様がすごく素敵な方だからだと思うのです。とみのさんの奥様ってね、とってもおしゃれで行動的で、頭の回転の早いパワフルな方なんですよ。その奥様をとみのさんはとても大切にしてらっしゃるのが、はた目から見ててもよくわかるんです。奥様が次に何をするか、何を言うのかって楽しみにしながら見守ってる。そんな時のとみのさんは本当に優しい目をしていて、こういう夫婦って最高だなぁとこっちまで羨やましくなってしまうのです。いつかおっしゃってましたよね。「僕は女房に嫌われないようにいつもがんばっているんだよ」って。この言葉を聞いた時、私もこーいうダンナ様を見つけてやるんだぁと秘かに思ってしまった。ホントなんだから。とみのさんの思考が柔軟なのは、常に緊張感のある生活を送っているからだったんですねえ。

そう、とみのさんの感性や探究心は、まるっきり少年みたいです。いつか打ち合わせで新宿のNSビルに行った事がありましたね。当時あのビルは建ったばかりで1〜40階まで吹きぬけになっていたり、最上階にスターウォーズさながらのSFチックな橋(ブリッジ)がかかっていて下が見降ろせたり、他にもパソコンのショールームとか、世界最大の振り子時計等々、とても話題の多いビルでしたね。パソコンのショールームは閉まっていたのであきらめ、とみのさんはロビーにある巨大な振り子時計をおもむろに観察しはじめたのでした。目をキラキラ輝かせながら前に回り、後ろに回り、横から見上げては腕を組んでみたり、もー打ち合わせも何のその、私の事なんてほったらかしたまま、ただただ時計に集中しているのでした。そうかと思うといきなりエレベーターにとび乗り、39Fにかかってる空中橋(ブリッジ)へ行ってしまったりで、ちっともじっとしていません。でもその橋(ブリッジ)は私達の期待にたがわず、ほんとに目も眩むような高みにかかっているすたぁうおーず橋(ブリッジ)だったのでありました。だってケシ粒みたいな人間が真下のテラスでお茶飲んでるのが見えるんだもんね。思わず私も我を忘れてはしゃぎまくってしまいました。するととみのさんは急にマジメ顔になり、「まったくいつまでたっても子供なんだから…」なーんていきなり総監督に戻ったりなんかして。さて一段落した我々、展望窓から外を見ていた訳ですが、黄昏時の高層ビル街というのは一種異様な美しさで、夕闇に沈むビル群はまるで巨大なドルメンのように見えるのです。

「ねぇとみのさん、さっきの時計にしろ、どうして人間って意味も無く大きい物造ったりするんでしょうね」するとトミノさんは事も無げに「決まってるさ、大きい方が豪快で気持ちがいいじゃない」と言ってのけたのでした。スゴイ。

ねぇとみのさん、やっぱりロボットも大きい方が豪快で気持ちいいのかな? そうしたら、高層ビルやドルメンや、他の沢山の巨大遺跡を作った人達も大きい方が気持ちいいからあれ程の苦労をしながらも必死で造ってみたのかな? きっとああいう物を造った人達ってみーんなとみのさんみたいにロマンチストだったのかもしれないね。ね、いつかとみのさんも一万年位後に残るような何か大っきい物作って欲しいな。うん、きっとできると思う。だってとみのさんって、時空を超えたロマンチストなんだもんね。とーみのっさん! とおっても、ス・テ・キ・よ♡♡



カット炭谷ひろ子

エルガイム評論

君はダバに何を見たのか或いは…

基騒



最初から結論は出ているのだ。僕の感性が鈍化している、などとは言わせない。しかし、僕にダバ・マイロードを理解し、愛す期会は遂にやってこなかったのだ。一体あ奴はなんなんなんだ!という素直な感想が今でもでてくる。この小文の依頼をうけた時、僕は少なからずあった疑問を、編集サンにぶつけてみた。すなわち、「何故にダバやレッシイというキャラクターが、今年のアニメ界を制圧したのか」である。何といってもアトム賞、アニメージュグランプリで一、二位をとっている、というのは、僕にとって七不思議といわざるをえなかった。

この疑問に対して僕に与えられた答は「人を変えていく(指導していく)存在になることを怖れるダバの感情への共感」や、「信念と愛に生きる気丈夫なレディ・レッシイへの愛」といったようなものだった(大分ニュアンスはちがうのだけれど)。まァ、大体僕の想像していたことと近いことは近い。けれど今のアニメファンは(言うまでもないが、視聴率から見ても子供の視聴者にとっては「エルガイム?何でちゅか、それ?」だったのだから)そんなキャラクターを欲していたのだろうか。いや、誤解しないでほしい。個人の共感を得ることのできるキャラクターこそが(今やもう一つの青春物となった)アニメーションのキャラとして理想的である、という事実を否定しているのではない。ただ、本当にダバやレッシイは前述のような心構をもったキャラだったのだろうか、と考えると僕は疑問を抱かざるをえない。ダバやレッシイが〝偶然から〟もらした一言のみに想い入れて自分たちなりのキャラをつくりあげてしまったのが今年のエルガイムキャラフィーバーではないか、とつい考えてしまう。永野センセ描くところのキャラが美しいかどうかなどということはぬきにしても、だ。(これは僕からみんなへの批判なのですよ、とトミノる)

どうもこのままだといつも通りの偏見記で終りそうなので、個人的な感情はまぜさせてもらいながら、気がついたことを少しづつ書いていってみよう。すなわち「キャラ」を中心に点在するエルガイムの失敗点である。断っておくが、僕はエルガイムという作品がそれ程好きではない。エ?判ってる?好き嫌いで人様に講釈するな?そんなこたあ百も承知でも一言言っておかなければならないこともあるんです。

面くらったのはダバがアムに平気でキスしちゃうところである。倫理(モラル)でいってるのではないよ。だけどあのキスが西洋的な親愛の情を示すだけのものではないことは確かでしょ?だってアムはそのキスをエネルギーとして(思えば可愛い娘だ)とびだしていっちゃうんだから、キ〜〜〜ンと!少なくともアムは「ある意味」を期待してそのキスをうけていたわけだし…。(ただし、アムはやがてそのキスに自分が期待している意味はない、と承知するようになる。それでも一方的な思い入れであってもキスによる心のつながり—幻であっても!—を求めてしまう。よく描けているキャラともいえるけど、ただのバカともいえるのよ)そしてダバはアムがどうして自分のキスで元気がでるのか判りつつもキスしていた筈だ。認めたくないファンがいることを承知した上で「ダバはアム(及びレッシイ)の自分への感情を利用していた」と明言できる。だってそれ以外にどういう風に解釈できるんですか、アレは!

二話のナレーションでキャオが語っている。「青雲の志を抱いて、出世したくて街にでてきた」…どちらかというとこの設定はギャプレーみたい。ダバはとても出世なんざ考えていないし、もしかしたら滅されたカモン家再興を念じていたのかも知れないけど、それならそのことに関する個人的な怨念、というのはもっと顕在化させておくべきでしょう。もちろん他者をまきこみたくなく、慎重すぎる故にそのことをハッキリさせるのに「マイ・アース」まで待たなければいけなかった、という考え方も可能だけど、そんなグズグズしたトリトンなんて、認められますか!?ってんだ。もちろん、いくつかの設定が(同じ作家の考えるものだから)かのトリトンと似てしまっただけで、ダバのキャラクターはトリトンがあの朝陽に向って消えていったその後と何の関係ももたない、というのならそれもよし。また時代には鋭い監督が、今

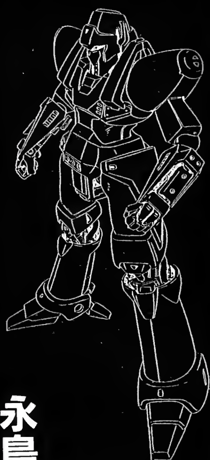
の若者には「少しぐらいグズグズ悩むヒーローの方がよかろう」とふんでダバを提示したのなら、それは正しく当ったわけだ。サスガですね、の一言ですましてもいいんだけれどね。
　それならそこで僕は他の難点にうつる。例えば、今や「Zガンダム」にまで影響を与えた、あのメカの動き方である。異様なアップからギューンと画面奥に消えていき、再びすさまじいスピードでとびこんでくる。二機のヘビーメタルがロングで闘いをくりひろげ、そのバックでビシャビシャと光線を無分別に発射する巨大船が艦対艦戦をくりひろげ、結局どれが味方か分らない、というアレ、である。（「Z」ではいくつか反省され、MS（モビルスーツ）の近くで艦がミサイルやビームをぶっぱなすこともないよう、対艦隊戦ではMSを出さないなど、設定されてはいるが……）あの演出の持ち味は上下左右のない闇の空間での闘いにおける、新らしいスピード感の発見だった。（既に「ダンバイン」でも多く見られたが完成させたのは「エルガイム」だ）しかし、それがスピード感と、煌めくビーム光にたよるばかりで、圧倒的な力とはなりえていなかった。ただもちろんそれなりの効用はあって、「スパイ・イン・スパイ」での杉島演出は、グーンと手前に突っ込んでくるマークIIに、V字にダバの顔をカット・インさせてダバの怒りをふきださせたりして（亥間作画も相まって）なかなか見物だったのだけれどね。
　しかし、今迄書いてきたことはすべて小さ～なことなのよ。タバやレッシイも、絵コンテも実はこれにくらべれば。
　いうまでもない。物語〈ストーリー〉だ！
　一体、「エルガイム」とはどういう物語だったのか？ダバという滅ぼされた王族、ヤーマンの生き残りが圧政を強いるポセイダルを倒してみたら、実はそれはポセイダルの父母を殺したカモン家への復讐だった。ああ、俺は何だったのだ――なんて話だなんていったって許さねーぜ!!大体ダバは一話の台詞にあるように「婚約者・オリビーの行方」をさがしにきたのか、「父母の復讐にきた」のか。「圧政から人民を解放する」という目的は結果としてもたされたものだとしても（聖戦士ジロン・アモス！て感じね）、全体のストーリーはダバという、目的を明らかにしないヒーローを追うことでついやされるべきだったのか。シリーズ構成氏が考えていたのはミラリイとポセイダルの論理の対立だったようだが、それもいささか…？といわざるをえず…。
　とどのつまり、この物語は「キャラクターが中心のそんな話なのよ」（©池田先生）と割きって、彼らをとりまくエピソードは無視して見ないふりをすべきなのか…。そんな筈はないでしょう!!
　だって、明らかにそのことが「Zガンダム」に影響を与えてしまっているのだ。どうして放映される1エピソード毎のドラマが見せてもらえないのか。オリビーとの再会も、ライラ・ミラ・ライラの死も1エピソードとしてドラマを形づくっていたとは決して言わさない。長大なドラマを転がしていく中での、12分間（1エピソードの半分）程の段落としてしかあらわれてくれないのだ。
　何故ダバは、「私の両親はこれ以上にムゴい手段でヤーマンに殺された」というアマンダラの台詞を言下に否定することができるのか？いや、もしかしたらそんなヤーマンの血を知ったから指導者の座を捨てオリビーへの愛に生きる決意をしたのか？あの演出、あの脚本、あの54本からはそんな想いは見てとれない……。
　全体としてのテーマを描くために一本一本はストーリーを消化する捨石とするのか、その流れの内に語るべきテーマがもしも消失していったらどうすればとりもどせるのか。
　最後まで心の内を明かすことなく去ったダバ。しかし最終回ならばこそアマンダラの台詞に対する答を、オリビーへの想いを語るべきだったのではないか。その謎めいた部分を魅力としてうけいれたダバファンの中に、何人ものダバが今も生きているのだろう。そのダバは大事にしてあげてほしい。それは「エルガイム」が君に与えたダバではない。君自身が作りあげた、ダ・バ・・マ・イ・ロ・ー・ド、だ。（マイロードの意味は、分るね？）
　1エピソード毎のドラマは、「Zガンダム」も大切にしてくれていない、と僕は感じている。ドラマが転がっていく中で、カミーユの心がもりあがってくれないのはそのためだ。本文でわざと書かなかったが、その責の一端は脚本家が負うべきだ。監督に与えられた1エピソード分のストーリーの中で、中心を見つけ、そこにドラマを派生させるのは脚本家の仕事だからだ。
　ただ、いくつかの希望はある。アニメック7月号にも登場した遠藤明吾は僕らの期待にこたえてくれそうなライターだ。第19話で見せるニュータイプ、フォウ・ムラサメとカミーユのふれあいと闘いは、これからの「Z」を変えていく可能性をもっている。「Z」終了後に「やはりパートIIはつくるべきではなかった」などと、監督がお書きになったりしたら、「エルガイム」で散っていったキャラクター達へのファンの想いはふみにじられてしまう。「エルガイム」をふみ台として、こんどこそ、成功作をつくってくれなければ…！

●ところでラポート大事典のトミノ評論は毎年中島紳介先輩が担当されていたのですが今回は弱輩の騒めが担当させていただきました。ご感想、ご批判をお待ちしております。次なるステップのために（と低姿勢）……

エルガイム評論

僕の心に触れてきたから…

永島収（月）



なぜだか波長が合ったんですよね、不思議と。特にキャラクターの誰それとか言うわけではなくて、「重戦機エルガイム」と言う作品にね。どういう風に波長があったのか、まだそこの辺りの事は正確に言葉では言い表わせません。でも、たぶん「エルガイム」を中心とする一次的な物から、二次的な物までをも含む状況を片鱗ながら感ずる事のできる編集者という立場において、何かが僕自身の中の若い心でありたいと言う希望を刺激していた、いや触発してくれていたのでしょう。この事は他にも「エルガイム」という作品を好いてくれた、愛しんでくれた方々もそうなのではないか？　と思っています。仮定形でしか書けないのは、僕自身が分の心を打破できないためなのです。も、それすらも「エルガイム」の持つ雰囲気は包み込んでくれたそんな気がします。そう言った意味で僕にはすごく喜しい作品でした。

しかし、当然短所も持っていました。ストーリー的な弱さとかの実質的な問題点、また先に述べたような　囲気を必要としない方々をさらに夢中にさせるものがあったか、などと言う事です。ただ、実際にファンの方々の数の多さを見るにしても、時代とシンクロする事ができたのではないでしょうか。それだけでも素晴しい事だとは思いませんか？　僕には少なくとも、そう思えるのです。個人的に言えば1話のアムに超された時のダバが好きです。18話の落ち込んだレッシィが好きです。クロソが死んだ時の叫ぶダバが、37話の遠い目をするタバが、それを止めるリリスがアムが、最終話のラストでクワサンの肩に手をかけ振り返っているダバが好きです。自分とシンクロしていました。雰囲気としてはもっとたくさんシンクロしていました。それがあるだけで僕は「エルガイム」を見たかったのです。ひょっとしたら、これが〝波長の合った〟と言う事かも知れません。

ところで、H・Mというのは不思議なメカニックでした。いや、H・Mが作り出した世界観が新しい雰囲気を持っていたのかな？　今までのアニメーションのロボット(?)が持てなかったマシーンなりのキャラクター性を保持し続ける事ができたのでしょう。Mk―Iの白さ、主人公メカがその操縦者を表すがごとくの白、アマンダラの操つったオリジナル・オージェのプラチナゴールドの機体の動き、これらが見ている者の心をH・Mが実在する世界へ引き込んでいく、「エルガイム」と現実世界との違和感をなくしていってくれた…。そんな気もしてくるのです。

この事に成功した、と言うのは非常にうれしい事です。メカニック・キャラクターが玩具としての粋組みを越えているのですから。確かにこれは「エルガイム」が最初と言うわけではないでしょう。ガンダム・ワールドにおけるモビルスーツも玩具の枠を越えた存在感を持っていましたし、他にもいくつかあります。しかし、ここに到ってそれがさらに一歩進んだ。と考えるのは僕だけではないと思っています。それでなければ、あれだけH・Mが人気を得ていなかったはずですから。メカを見たい、と言う手紙だけでも相当数あったんですよ。

もう一つ、個人的な感想を言せてもらうと、映像によって得られる感動はたとえその映像がアニメーションであったとしても、決っして落ちる事はない、実写と比較しても（個人的好みはあるにしても）決っして劣るものではないのだ。と考える人々が非常に増えてきたと思えるのです。この十年来、多勢の方達が訴え続けた事が浸透してきた成果でしょう。完全に個人的な感覚を言ってしまうと、僕にしてみれは、（あまり正しい比較のしかたではありませんが）A・ワイダ監督の「地下水道」のラストシーンの魂の叫びと旧ガンダムのララァが死んだ時の魂の叫びは同じ位、強烈に心に響いていた、そういう事なのです。そしてこの意識を持つ人々の少なくとも何割かが「エルガイム」を支援していたのだと思っています。さらにこの意識こそが今のアニメーションを見る側にとって必要なものの一つであると考えています。「エルガイム」はその事を明確ではないのかも知れませんが感じさせてくれた、いや、その事をスタッフの方達は表面に押し出そうとしていたようにさえ思えました。

これが、少なくとも僕にとっての「エルガイム」だったのでしょう。きっとね…　たぶんね…

重戦機エルガイム 大事典

本事典は日本サンライズ製作「重戦機エルガイム」（全54本）に登場したキャラクターを解説・収録した人名事典とメカニックや舞台などによる用語事典の二篇によって構成されています。

事典の使用法および注意

●人名・用語ともに五十音順にタイトル（見出し）を表記した。

●英単語についてはカタカナ表記に直して五十音順に入れた。

●英単語のスペルは公開されている資料に準じた。

●タイトル（見出し）に関してはサンライズの設定書に準拠しているが、統一のため部分的に変更している。

タイトル　英タイトル　登場話数　解説本文

アジーン【AGEIN】（#20～）

工業衛星P・Sの少年労働者。重労働に耐えかねてP・Sを脱出し、宇宙をさまよっていたところをターナに救出されP・Sへ連れ戻される。ダバたちの話しを聞き、P・S解放のために反乱を起こし、おのれの手でボン・サーンスを討つ。のちの48話では、ターナのブリッジでオペレーターを務めていた。

略語表

①使用頻度の多い名詞の省略

ヘビーメタル⇩H・M
十三人衆⇩EX―13
パラータ・スター⇩P・S
サート・スター⇩S・S

②タイトル類別のための省略

●ヘビーメタル関係用語⇩H
（H・Mの名称や、その他オプション兵器やサポートマシン、システムなどの名称につきます）

●フロッサー関係用語⇩F
（大はグーガーから小はミニまでフロッサーシステムによる駆動方式をとるメカニックにつきます。ただし、H・Mや宇宙船を除きます）

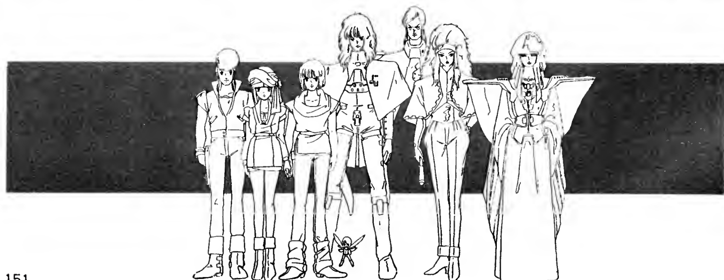
●宇宙船（スペースシップ）関係用語⇩S
（シャトルやボート類も含まれます。）

〈編者の言葉〉

この事典は、基本的な考え方としてTV版「重戦機エルガイム」の世界に準じています。永野護氏の裏設定も、この事典のためにあらたにインタビューしなおしたものを元に構成しています。考察という意味での創作部分が若干ありますので、今までの記事などと多少内容のくい違いがあると思いますが、大事典を編集する際の一貫した姿勢ですので、御容赦下さい。

昭和60年3月13日
編者代表　千葉　暁

人名事典



アジーン【AGEIN】(♯20〜)

工業衛星パラータ・スターの少年労働者。重労働に耐えかねてパラータを脱出し、宇宙をさまよっていたところをターナに救出されパラータへ連れ戻される。ダバたちの話しを聞き、パラータ解放のために反乱を起こし、おのれの手でボン・サーンスを討つ。のちの48話では、ターナのブリッジでオペレーターを務めていた。



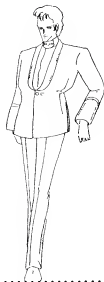

アノースカ【AKNOWSKA】(♯17〜)

ギャブレー遊撃隊の戦艦、スレンダースカラのブリッジに勤務している女通信士。



アマン銀行員(♯2〜4)

アマン銀行プリヤーモ支店のガードマン。頭取の命令により、ダバたちから強引に手形を取り返そうとするが、逆にやられてしまった。



アマン銀行頭取(♯2〜4)

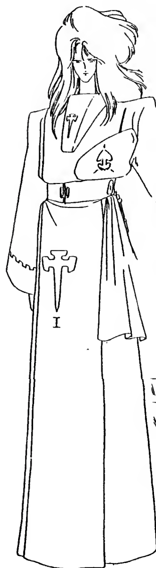
アマン銀行プリヤーモ支店頭取、かねてより手形を探していたが、リリスを買うためにダバが差し出した手形の真偽を確めたことでマップンの手にあるとわかり、部下を差し向けるが、タッチの差でダバに持ちさられる。翌日プリヤーモ支店に現れたダバたちを頭取室へ招きいれ、強引に取り返そうとするが逃げられる。だが、一人だけ逃げるとみせかけて残ったダバに脅されて、アマンダラと連絡をとらされる。

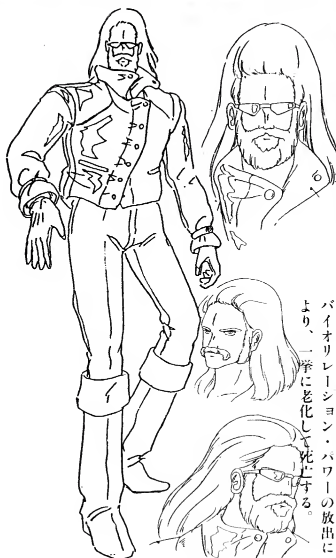


アマンダラ・カマンダラ【AMANDARA KAMANDARA】(♯4〜)

ペンタゴナ・ワールド最大の財閥の創始者。アマン商会を用いて武器を正規軍と反乱軍に供給していることから戦争商人と影でいわれている。その正体は第一、二次聖戦で活躍し、ペンタゴナ統一を果したテンプル・ナイツのナンバー1、オルドナ・ポセイダルその人であった。ポセイダルは愛人のミアン・クウ・ハウ・アッシャーにバイオ・リレーションを用いて、影武者にしたてあげ、自分はアマンダラと名を変えて、影からペンタゴナを支配していたのであった。ポセイダル(アマンダラ)のもうひとつの道具はサートスターとフル・フラットである。ミアンと同じ、テンプル・ナイツでともに戦ったフラットにサートスターを与え、治外法権の名のもとに戦艦、武器の製造を続け、反乱軍に協力させていた。

ポセイダルの狙いとは、影武者を用いて強大な権力でペンタゴナを支配し、反発する勢力に適度に肩入れすることで、正規軍にある種の緊張感をもたらせようとした。いわば、力の均衡をとることにより(それが反乱軍側が劣勢状態にあったにしろ)、組織内と民衆



内の反乱分子を浮び上がらせるというものであった。だが、広範囲に渡る正規軍すべてに看視の目がゆき届かず、コアム、ミズンなどの地方ではすでに軍隊としての機能が充分に果せなくなっていた。それは反乱軍側でも同様であった。正規軍の物量におびえ、適切なリーダーを持たないため、せっかくの軍資金や武器も無駄に浪費されていったのだ。そこでポセイダルが目をつけたのが、ダバ・マイロードとギャブレット・ギャブレイであった。ふたりの若き情熱は正規軍と反乱軍両方に新しいパワーをそそぎ、腐敗した両組織になんらかの刺激を与えるに違いないと考えたのである。

さらに看視機関としてポセイダル（ミアン）を通じてEX－13を解体し、バイオ・リレーション・システムを用いて、人間を中継せずにメカニック（戦艦、都市防衛機構など）を操ろうと計画した。その一貫がセンサーと呼ばれる人間たちであり、バック・アップ・システムがスヴェートであった。しかし、EX 13の解体は情報師団長のギワザ・ロワウの反発を生んだ。しかも、目をかけたダバがカモン家の生き残りであったことも誤算であった。ヤーマン王朝の名のもとに反乱軍が結集し、アマンダラとしての力ではコントロール不能となってしまったのである。さらに、フル・フラットの造反、バイオリレーション・システムの一時的不調などのアクシデントがあいつぎ、スヴエートは反乱軍とギワザ軍両方から攻撃を受け、ミリタリー・バランスは大きく崩れてしまった。

最後の手段として、バイオリレーション・システムの力でスヴェートもろとも両軍を壊滅させようとしたが、ミアンがコントロールを離れ裏切り、ダバとギャブレイにはばまれ、ミアンのバイオリレーション・パワーの放出により、一挙に老化して死亡する。

アマンダラ・カマンダラの私兵（＃10）

アマン商会の自警団で、正規軍とは別の存在。ステラの命令で、武器・軍資金の受け取りにきたダバたちを、アマンダラのところまで案内する。





アロン・ゼブラ【ALONE JEIBURA】（＃19～）

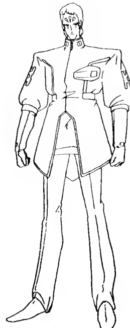
アムに連れられハッシャたちとターナでやってきた男。ターナのブリッジでマルシェとともにオペレーターをやっている。気の弱い男だが、レッシィに気があるらしくいつも彼女の身を案じている。しかしどうみても片思いである。



アントン・ランドー【ANTOON RANDOW】（＃12～）

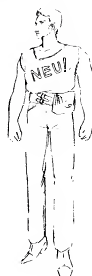
ネイ・モーハン直属のヘッド・ライナー。ネイが単身ガストガルへ乗り込んでからはギワザのもとで働くようになる。顔にインディアンのような模様をつけているのが特徴。クワサンを人質とする作戦においては活躍をする。のちにEX 13のひとりとなる。最終回で手錠をかけられ、ハッシャに顔の模様をはがされる。





イブラヒム【EYBRAHIM】（＃41）

メッシュの部下で技術者。ターナへセーラたちが乗ってきたマシンナリィ・ベアズを、この期をおいてほかにはないと、調べようとしているメッシュをたしなめる。その直後、セムージュの裏切りを知り脱出しようとやってきたセーラたちに、メッシュともどもラリアートをくらう。



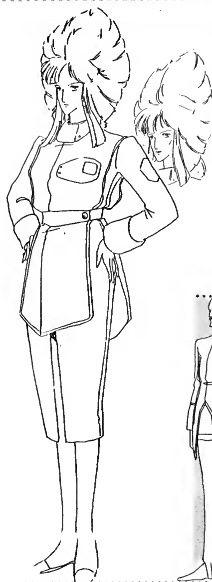
イッカ・ハミルトン【ITHUKKA HAMILTON】（♯31～）

トライデトアルのスギサンバレイの巨大洞窟内の反乱軍基地司令部のオペレーター。反乱軍スパイ、マサン・ハミルトンの弟で、スパイ発覚後、自害した兄の敵を討つべくダバたちとともに出撃する。ネイ部隊との戦闘において、ダバから真の闘いを学ぶ。



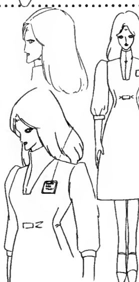
イレーネ・イルス【IHLENE IHLUS】（♯17～）

スレンダースカラの艦長。ギワザの命令によりギャブレーを作戦参謀としてむかえる。初めはギャブレーを軽んじていたが、のちに服従するようになる。クワサン・オリビーに夢中になっている彼をやくという女らしいところもある。最終回、正規軍に戻れという ギャブレーの命令に対して、最後の御奉公としてギワザ艦隊にプラネットボンバーを発射した。



インフォメーター（♯4）

アマン銀行プリャーモ支店の窓口をやっているロボットの女行員。ダバたちが手形を返すためにやってきたとき、窓口のインフォメーションの画面で応対した。



エイプの司令官（♯14）

ポセイダル専用艦エイプの艦長。奇襲をかけてきたダバたちに対して、近衛兵がセオリー通りの動きをしないのと、ポセイダルからの司令がないのとに不信を持つ。艦内に侵入したダバたちを白兵戦でせん滅しようとするが、うまくいかず艦底を爆破され逃げられる。



エイマン【EAIMAN】

アマンダラの秘書。アマンダラに忠誠をつくす男で、なかなかのキレ者である。アマンダラの行くところにはどこでも影のようにつき従っている。スヴェートでの最終決戦の際、天井をつきやぶって落ちてきたグルーンの腕につぶされて死亡。なにか不思議な雰囲気を持つ男であった。



オギス【O.GIS】（♯31～）

トライデトアルのスギサンバレイの巨大洞窟内の反乱軍基地の兵士。セムージュなどとやってきたダバに生き残るためのすべを質問し、運のほかに、まわりの状況に対しておのれの瞬発力をどれだけ高められるかがきめてということを教えられる。のちにダバたちとともにグライアで出撃する。

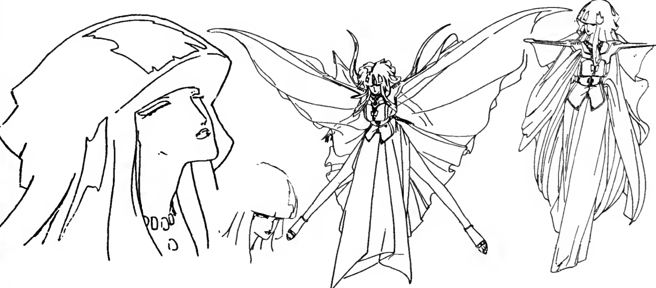
オズグッド【OZGOOD】（♯17）

ギャブレー遊撃隊の戦艦、スレンダースカラのブリッジに勤務している女兵士。



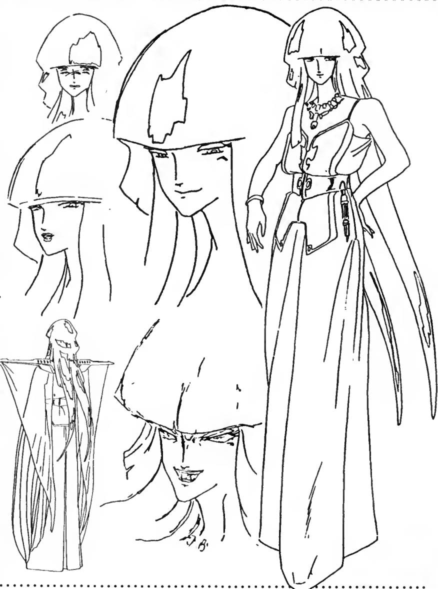
オルドナ・ポセイダル【OLDNA POSAYDAL】（13～）

ペンタゴ連合を樹立したガストガル



の王。出生など多くの謎を秘め伝説的存在であり、連合樹立後も一部の側近を除き、その姿を見たものはない。一説によると三千年の歴史をもつポセイダル家の創立以来あの若き姿で生き続けているとさえうわさされる人物である。聖戦以前にはオージエというH・Mに乗り、親衛隊のテンプル・ナイツの乗るB・テンプルを従え、みずから戦いにおもむいたと伝えられている。

ポセイダル自身優れた科学者であった。彼はバイオリレーション・システムという、人間のバイオ（生体）エネルギーを吸収し物理エネルギーに転換する技術を開発した。その力は人間の精神をコントロールするバイオセンサー・システムへの転用が可能であった。ポセイダルはその力で若さを保ち、影武者を遠く宇宙からコントロールしていた。その影武者とはテンプル・ナイツのミアン・クウ・ハウ・アッシャーであった。そして自分自身はアマンダラ・カマンダラと名を変え、裏の世界の王として君臨した。そして、スヴェード陥落後はミアンとともに消滅し、ポセイダルの名も消えた。

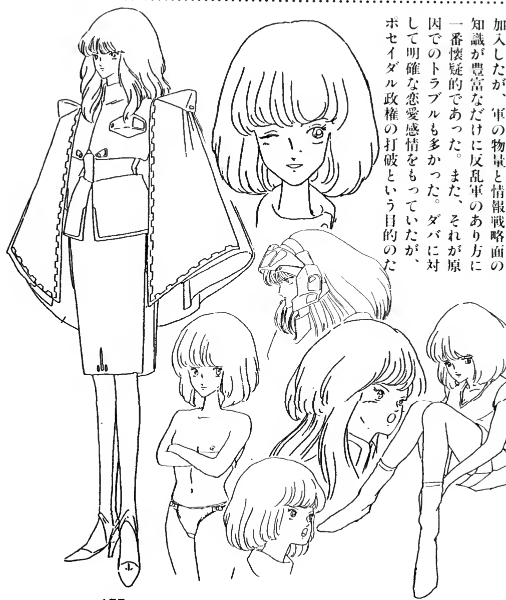


カ行

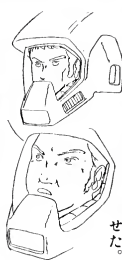
ガウ・ハ・レッシィ【GAW HA LECCEE】（＃5〜）

EX 13のひとりでコアム第三宇宙港でのダバたちのトランス・ポーター強奪に巻き込まれ、人質とされる。ミズン星で解放されたものの、かねてより正規軍の腐敗ぶりに業を煮やしていたこともあり、ダバを頼って軍を抜け出す。（アムにいわせると「あんた、ダバにほれちゃったのね」となる）なりゆきでステラ・コバンの反乱軍に全員加入したが、軍の物量と情報戦略面の知識が豊富なだけに反乱軍のあり方に一番懐疑的であった。また、それが原因でのトラブルも多かった。ダバに対して明確な恋愛感情をもっていたが、ポセイダル政権の打破という目的のためには、ダバと離れて戦う必要を感じ、ひとりグループを離れる。その後アマンダラの支援をあおぎ、ホエールとヌーベル・ディザートを得て、ふたたびダバのグループと協同作戦を取るようになる。

渡辺由自氏の初期性格設定では、ソバカスだらけで強いコンプレックスを持ち、反発して軍人としての能力志向が現われているキャラクターであった。TV本篇では美形キャラクターとして描かれているが、ギワザにとりいろうとしたものの、ネイ・モーハンにはかなわなかったことが、同じコンプレックスを与えたように思われる。



カサッシュのパイロットA・B（＃19）
正規軍の小型戦闘艇カサッシュのパイロット。ダバたちが、損傷したグルグルからターナへ乗りうつるためにランデブーしているところを発見し、近くを航行中のスレンダースカラに連絡をとり攻撃をかけた。その機動力を生かした攻撃は、エルガイムを手こずらせた。



ガストガル防衛軍司令（＃18）
ガストガル防衛軍司令。ガストガルの警備網にひっかからずに侵入したダバたちのグルグルに動揺するが、原因の究明をさせるのと同時に、防衛隊を出撃させる。



ガストガル防衛隊々長（＃18）
ガストガル防衛隊々長。大艦隊を率いてダバたちを追撃するが、アムのターナが放ったSLSによって艦隊は混乱してしまい、結局ダバたちを逃してしまう。



ガストガル防衛隊レイのキャプテン（＃18）
スクランブルをかけられてダバたちの迎撃に出てきたレイの艦長。ダバたちを甘くみていたが、攻撃の速さに戦闘プログラムがおいつかないため、防衛ラインを突破されてしまう。

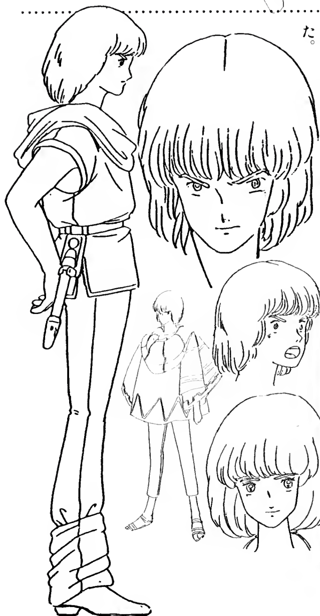


カナールの浮浪者たち（＃36）
ワザンが反乱軍と称して、ダバたちを罠にかけるべくひと芝居うった、カナールを包囲する反乱軍陣地のいっかくの廃墟で野宿していた者たち。たき火をしていたところへ、芝居をうっているマシンナリィに飛び込まれる。



ガブリオール【GABULIAUL】（＃12）
リトル・セイの反乱軍兵士。ロアンヌ・ベース攻撃作戦のとき、ダバたちとともにスピリッツで出撃する。罠にはめられたと知って撤退する際、キャオにかわってダバのエルガイムをリトル・セイまで運んだ。

カモン・マイロード【COMEN MYROAD】（＃33～）
ダバ・マイロードの本名。再度ミズン星に潜入したさい、大地への祈りというヤーマン族の儀式を行い、カモン・マイロードの名をあかした。カモン王朝の正統な第一王位継承者であり、王位を継いだ場合、彼はカモン・ワーラーⅥとなる。父はカモン・ワーラーⅤ、母はカモン・レナーテ。他に養父のダバ・ハッサー、義理の妹クワサン・オリビーがいる。しかし、アマンダラ・カマンダラの復讐により、オリビーを残して全員死亡しており、またそのオリビーでさえキバイオリレーションの崩壊により正常な意識を失なってしまった。物語りの最後、彼はそのオリビーをつれて、育ったコアムのウーゴル村へと還っていき、自らペンタゴナワールドの統治者を棄てさっていった。



カモン・レナーテ【COMEN LENNARTA】（＃26）
今は亡きヤーマン族の美しく、気品あふれる女王。ダバの母親。

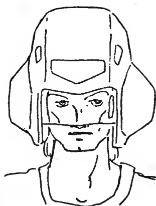


カモン・ワーラーⅤ世【COMEN WARLLER V】（＃26）
ヤーマン族根だやし作戦によって滅ぼされたヤーマン族の王。ダバの実の父。ミズン王朝陥落の日、ダバを忠臣ダバ・ハッサーに託す。

カロモン【CALLOMON】（♯1）

ミヤマ・リーリンの盗賊グループの別名手下C。リーリンがダバからエルガイムを奪おうとする二〜三日前に入ったという新入りで、医学をかじったことがあり、リーリンの義手の取りつけ手術を行った。二度目の襲撃のさいリーリンのミッド・フロッサーの操縦手となるが、エルガイムのパワー・ランチャーの至近弾を受けてうちどころが悪く死亡する。死にぎわにダバの百万ギーンの手形をプリャーモのアマンダラ・カマンダラに手渡してくれと頼む。

彼はコアムの反乱軍のひとりで、アマンダラの渡した軍資金が何らかの事情で支払い不能となったため、再発行を頼むため、正規軍の目をくらませるため盗賊の仲間になり、プリャーモにむかう予定だったと思われる。



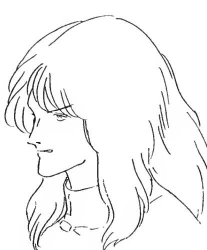
ギャブレット・ギャブレー【GAVLET GABLAE】（♯3〜）

正規軍遊撃隊々長で血気あふれる青年軍人。コアム星、モーレ・タウンの出身で、落ちぶれた地方貴族である家を再興するため、一旗あげるべく正規軍に志願した。ところが、その道中ダバたちの朝食を三人前全部食べてしまったことから、彼らをつけ狙うことになってしまう。ミアマの盗賊団とかかわりを持つことになってしまう。ミアマの遺言で盗賊のボスとなったギャブレーは、アマンダラの紹介で一家を率いて正規軍へ入隊、後にギワザにスレンダー・スカラを与えられ、しつこくダバを色いまわす。

貴族出身のためかプライドが高く、そもそもダバをライバル視するのは、自分は中古のアローンしか手に入れられなかったのに、見るからに田舎出身のダバがA級H・Mのエルガイムを持っていたため。以後、お家再興より打倒ダバの執念に燃える。実に一本木な性格の持ち主。しかし戦士＝ヘッドライナーとしての腕は一流で、遊撃隊々長に任じられたのもギワザにそこを買われてのこと。

女性にほれっぽいのも特徴で、ついでにこの性格のために42話でクワサンに一目ぼれしたギャブレーは彼女に忠誠を誓いその後の行動は全てがクワサン命！ そのため、最終回ではアムとクワサン引き渡しを条件に、あれほどライバル視していたダバを助けたりもした。もっとも、ギャブレーにとっては、ダバ＝ライバルであって、仇敵でははなかったからかもしれない。最後まで自らを劇的に演出する人物であった。







ギャボット・ササ【GABOT SASA】（♯13〜15）

リトル・セイの反乱軍の老兵。エルガイムがスパイラル・フロー・システムを使用していることからヤーマンのメカと知り、ヤーマン狩り再開を恐れてダバを非難するが、アムのダバを想っての行為を見ることによって心を変える。のちの15話で、チャイ・チャーの放ったスパイによって殺される。

キャロリーヌ【CARORENU】（♯9）

キャオが女装した姿。捕えられたリーフ救出のため、出入りのパン屋になりすましロアンヌ・ベースに侵入したときの変装。



ギワザ・ロワウ【GIWAZA LOWAW】（♯4〜）

コアム情報師団長。スパイ戦のエキスパートである十三人衆（EX—13）を配下とするエリート。反ポセイダル勢力の摘発と処刑を主任務とすることから、反乱軍に最も恐れられている。

ポセイダルの考えを理解していると自負し忠誠をちかっていたが、十三人衆の切り崩しや、ヤーマン狩りを行っていたクワサン・オリビーの近衛師団長への昇格など、ポセイダルに対する不信感がつのり、謀反の計画をたてる。

第一に十三人衆を通じて、ミズン軍、コアム軍、トライデトアル軍、星間パトロール部隊などの将来を説得して味方に引き入れること。第二に各惑星の反乱軍を壊滅することである。また、この計画の要となるのがフル・フラットとの同盟である。ポセイダルから特権を与えられ、サート・スターを支配するフラットの援助は全てがポセイダルの管理下に置かれているペンタゴナ



・ワールドにとって得がたい力であった。

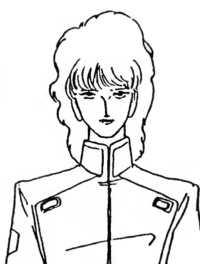
だが、ヤーマン族の旗のもとに集結しはじめた反乱軍に対し、決定的な手をうてないため、逆に反乱軍の大規模なスヴェート攻撃であるスターダスト作戦を利用して、ポセイダルを討ち、その後反乱軍の残存艦隊を葬るという漁夫の利を狙った。その時点でフラットの裏切りにより、サート・スターの支援を失ったギワザは、自分の本拠地であるメッタをスヴェートに落す作戦に出た。しかし、スヴェートはポセイダルのバイオリレーション・パワーの解放により直撃を回避し、反乱軍に対する攻撃も、ポセイダルをカモン・マイロードが倒したということで意気のあがる反乱軍にかなうわけもなく、一人脱出をはかるが、カモンの乗るエルガイムのバスター・ランチャーの直撃を受け死亡する。

十三人衆のナンバー1のネイ・モーハンを愛人としていたが、ポセイダルの尋問を受けていたことで不信の念を持ち、帰還したネイをスパイと断じ、殺そうとする。だが、重傷を負ったネイはギワザの右腕をセイバーで切り落して絶命する。その後、ギワザはサイボーグ義手をつけた。



ギワザにみすてられるオペレーター（♯54）

サージェ・オーパスのブリッジ勤務のオペレーター。今は退却もないと判断したギワザによって、艦ごとみすてられた。



グライア隊のキャプテン（♯21）

ハッシャにさらわれたダバとアムを救出しにきたキャオを、迎撃にでたスレンダー・スカラのグライア隊々長。ヘッド・ハンターをめざしてはりきるが増援にきたネイのバルブド隊と仲間われをする。



クレア【CREA】（♯43）

ターナの女メカニックマン。フラットとギワザの同盟を壊すため、みずから志願してクワサン・オリビーのところに乗り込む。サート・スターから脱出した者と身分をいつわり、同盟の事実を伝えた。口に自害用の爆弾を入れていったが、さいわい使用しなくてすんだようだ。



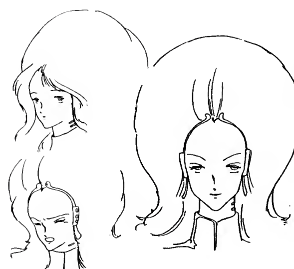
クロソ・デ・ロラ【CROSO DE RORA】（♯23）

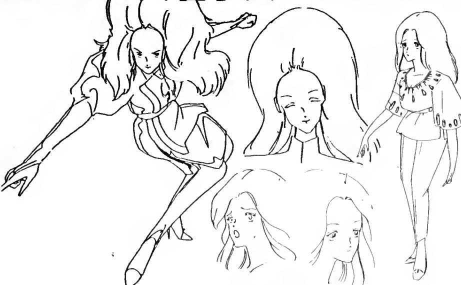
ペンタゴナ全域で活躍した反乱軍の英雄。ゲリラグループからは、〝ゼネラル＝将軍〟の呼称をつけられる。本人は、すでに捕えられ処刑されている。トライデトアルのマレーニキに現われたクロソは、ネイの命令でなりすましたにせ者である。ダバにその正体が知られてしまうが、最後はゼネラル・クロソとして生き、エルガイムをかばい、ネイの手により殺されてしまう。



クワサン・オリビー【QUWASAN OLIBEE】（♯22〜）

カモン・マイロードの義理の妹。ダバ・ハッサーの姪で、ミズン戦役のさいにコアムのウゴール村に逃げてきた。作中の3年前にポセイダルのヤーマン狩りにあい、連れさられ行方不明となる。その後、洗脳されバイオセンサー化され、商船イプシオンを用いてヤーマン狩りを続け、そこでカモンと再会する。そしてセンサーとしてのテストが終了後、正規軍近衛師団の師団長に昇格する。その段階でギワザ・ロワウと対立し、メッタで監禁されてしまう。その時期バイオリレーション・コントロールが不調で苦痛にさいなまれる。その要因としてはブロックされたカモンに対する記憶がよみがえり出していたためである。カモンとギャブレットの力でギワザのもとから救い出された





が、ポセイダルのコントロールを一時的に受けたり、もとの記憶を取り戻したりと交互に人格が変異し、外観的には精神失調症状をおこしていた。カモンはスヴェート潜入のさい、オリビーのバイオリレーションによるポセイダムに乗せ出撃する。だが、アマンダラルとのコンタクトを利用し、エルガイムがポセイダルの本性を現わした際、カモンはアムに彼女の身をあずける。だがアムもギャブレーの協力をあおぐため彼女を渡した。戦いが終わったのち、ギャブレーはカモンに返した。それは完全な精神障害を起したオリビーをカモンはコアムの故郷で一人めんどうをみるという決意を知ったからであった。

軍用トランスポーター船長（♯6〜8）

ダバたちがミズンへ行くために乗っ取ったトランスポーターの船長。航海中、やたらと船の心配をするが、以外と友好的で、船が壊されないかぎりは協力すると約束した。



ココイール【COCOHIL】（♯34）

ホエールのブリッジ勤務のオペレーター。ヘッケラー艦の砲撃をうけ、応戦しようとしたが、レッシィに止められる。



サ行

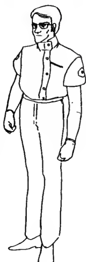
ザーザ【ZARZA】（♯41）

サート・スターのベアズ隊パイロット。隊長のセーラと同じ隊のノーマとともにターナに潜入した。当然のごとく女である。



サージェ・オーパスのドクター（♯45）

サージェ・オーパスの艦内医。ネイによって切り落された右手の義手をギワザに取り付けた。



サート・スターの踊り子B・C（♯18）

スレンダー・スカラの女戦闘要員。パメラの提案で、サート・スターにダバ暗殺のために送り込まれた。サート・スターの護衛を倒してダバをナイフで襲うが、ひとりはキャオに倒され、もうひとりは生けどられギャブレーのもとへ送り返される。





サート・スターのオペレーター（♯34）

フル・フラットと接触するため、サート・スターに接近してきたギワザに、入港許可などに対する応対をした。



サート・スターの警備兵（♯18）

サート・スター内のディスコで、ギャブレーの放ったスパイに襲われたダバたちの身を守ろうとするが、2人ともあっさりスパイにやられてしまった。



サート・スターの女医（♯43）

サート・スターの女医。ギャブレーのアトールにやられ、サート・スターに墜落したところを救助されたセムージュを治療した。少々荒っぽい治療の仕方をする。



シエラ・リーフ【SHELA REEF】（♯8〜）

リトル・セイの反乱軍兵士。コアム王朝の貴族の出身らしい。ダバたちをアマンダラのところまで案内するが、その帰り道でギャブレーの待ち伏せを受け、正規軍に捕まる。その後ダバたちに救助されるが、発信器を取りつけられていたために敵を呼び寄せてしまった。ガストガル進攻の際、アスフィーとともに駆けつけた。



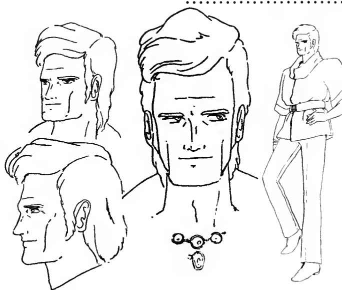
少女あ （＃31～）
トライデーアルのスギサンバレイの巨大洞窟内の反乱軍基地で、他の兵士達といっしょにダバの戦闘における教訓を聞いていた女性兵士。



スー・アザン【SOO AZAN】（＃40～）
サート・スターの司令官。常にフラットと行動をともにする側近でもある。フラットがホエールでサート・スターを離れるときも同行し、艦の指揮をとる。フラットに一番信頼されている女性士官。



ステラ・コバン【STELLA COBAN】（＃7～16）
元ミズン貴族。昔の王族や貴族の生活を復活させるために反乱軍を組織する。アマンダラの協力と物資援助を受けたため、ミズン星最大のグループとなる。コアムからトランスポーターを奪ってミズンに来たダバたちをむかえ、仲間としたが、EX—13のチャイ・チャーとネイ・モー・ハンの反乱軍掃討部隊に本拠地のリトル・セイを攻撃され多くの同志を失い壊滅的打撃を受けた。また戦闘で彼自身重傷を負う。ダバたちのゲリラ戦で対抗するべきだという意見を聞かず、総力戦で出撃したものの、ネイの作戦を読まれ、セイに集中攻撃を受ける。あわててダバたちは基地に戻り、ステラもミッド・フロッサーであとを追うが、ギャブレットのグライアに激突して死亡する。
報酬を受けとらず、しだいに同志の信頼を得ていくダバに対してジェラシーを憶え、困難な作戦を次々に命じた。だが、ダバのもつ高貴な血を敏感に感じ恐れていたと思われる。だが最後は騎士道にあこがれ無謀な突撃を行い死んでいった。



スパイ （＃15）
チャイ・チャーの部下。リトル・セイの反乱軍に忍び込み、ギャボットをヤーマンとして殺し、その罪をキャオにきせて裏切らせようとした。



スラッシュの艦長 （＃34）
ギワザ艦隊所属のスラッシュ艦長。ギワザの命令で、ヘッケラーとともにホエール撃破のために出撃するが、マークIIのバスター・ランチャーの一撃により撃沈される。



セーラ【SALA】 （＃40～）
サート・スターを防衛するベアズ隊々長。アムやレッシィをあざむき、ターナに部下数名と乗りこむ。フラットの放ったスパイ、セムージュと接触するが、裏切りを知ったのち脱出。フラットを人質としてサート・スターを脱出したダバからフラットを受けとり退却する。



ゼネラル・クロソ【GE.CROSO】 （＃23）
ペンタゴナ全域で活躍した反乱軍の英雄。本名は、クロソ・デ・ロラという。ゼネラル・クロソとは通称である。本人は、すでに捕えられ処刑されている。
23話で登場したクロソは、実はネイのスパイであったが、ダバや反乱軍の人々の心を知り、オージェに突っ込み爆死する。

セムージュ・シャト【SEMUGE SHATO】（＃28～）
トライデトアルの反乱軍グループリーダー。ギャブレイ隊に襲われているところをダバが助けたことで知り合う。その後、スヴェートを宇宙船一隻で攻撃したダバの活躍を知り、反乱軍の象徴化しようとするがダバの積極的行動により、リーダーとしてうやまうようになる。トライデトアルからダバが離れようとするさいもターナに乗り移り協力する。しかし、彼の正体はアマンダラとフラットのスパイであり、反乱軍をコントロールするという任務をおびていた。だが、ダバの正体（カモン家の生き残り）を知り、その行動力と理想を理解するうちに利害を越えて革命に身を投じようとする。



タ行



タック【TUK】(#22)

ヤーマン族残党狩りを行うおとり部隊の大型商船イプシオンの乗組員で、メラ同様コアム出身者。うっかりコアムの歌を口ずさんだため仲間に殴られる、ダバたちをギャブレーに引き渡す準備をしていたとき、コアムの歌を歌ったキャオたちをとがめたロンにはむかった結果、射殺される。



ダバ・ハッサー【DABA HATZER】

ヤーマン王家につかえていた男。ミズン戦役のさいカモン・マイロードと姪のクワサン・オリビーを連れ、コアムのウーゴル村に逃げのびた。そしてダバ・マイロードと名を変えさせて自分の子として育てる。脱出のさいには王宮からH・Mガイラムを持ち出し、他のH・Mを参考とし、また自分の考案したコクピット・システムを組みこみエルガイムというカスタム・メイドH・Mを完成させる。ウーゴル村では鍛冶屋として生計を立てていた。病気で死ぬ直前、カモンに対し本当の身分とポセイダルの復讐を伝え死んでいった。

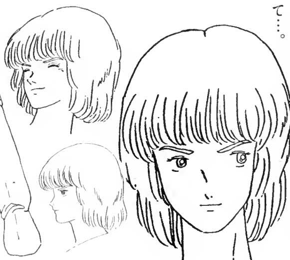


ダバ・マイロード【DABA MYROAD】(#1～)

本名をカモン・マイロードといい、ミズン王朝の王家である、カモン家の正統な相続者。十八年前のミズン戦役のさい、王家の家臣のダバ・ハッサーによって助けられコアムの片田舎、ウーゴル村へと逃げのびた。少年時代はハッサーの姪であるクワサン・オリビーと兄妹として育てられるが、ポセイダルに対する復讐と王朝の復活を数えこまれる。ハッサーの死後、村を出てポセイダル正規軍の入隊を希望していたのも、自分が獅子身中の虫となり、ポセイダルを討つというばくぜんとした目的のためであった。だが、ポセイダルの独裁政治による弊害をみかね、打討ポセイダルという自己の意志を打ち出し反乱軍で積極的な行動をとるようになる。

ウーゴル村を出たダバに強く影響を与えたのは、戦争商人のアマンダラ・カマンダラ、コアム貴族出身のミズン反乱軍リーダーのステラ・コバン、サートスターの支配者であるフル・フラット、トライデトアル反乱軍リーダーのセムージュ・シャトといった大人たちと、仲間であるミラウー・キャオ、ファンネリア・アム、ガウ・ハ・レッシィ、有翼人のリリス・ファウたちであった。

ダバは反乱軍に最も必要なものは、理想に裏うちされた行動の実践と考え、自分の本当の身分を公表する。そして、ダバはカモン・マイロードとして反乱軍全ての実質的リーダーとなる。そして総力を結集したスターダスト作戦の成功によりガストガルの首都スヴェートを陥落させ、ポセイダル政権を倒した。その後、ダバはポセイダルのセンサーとして用いられ、発狂したクワサン・オリビーをつれコアムに帰還した。前途に開けたあらゆる希望の道を捨てて…。





チェック・ソーロック【CHECK SPOROCK】(#25)

アムがコアムの首都キトーの劇団員時代の恋人。のちに正規軍に入り、バグザール基地に配ぞくされる。ネイ・モーハンの命令でアムを説得し、ターナのかくし場所を聞き出そうとしたが失敗する。だが、単独でターナを発見し攻撃するネイをみて、アムを救うため基地のバルブドを盗み、ネイのオージエを攻撃するが、結局はネイに殺される。



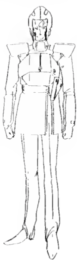
チグマ【CHIGUNA】(#31)

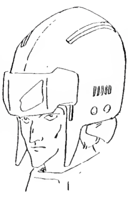
トライデトアルのスギサンバレイの巨大洞窟内の反乱軍基地の兵士。ネイの部隊を迎撃にダバたちとともに出撃する。のちに反乱軍のスターダスト作戦に参加する。



チャイ・チャー【CHEY CHER】（＃5〜15）

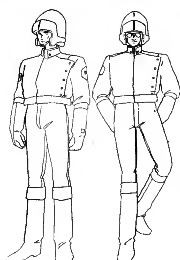
EX—13のひとりで、正規軍のプリャーモ・ベースの司令。アマンダラの紹介で、ギャブレーを直属の部下として採用する。ミズンのロアンヌ・ベースし左遷されてからは、ギワザに対して憎悪を抱くようになった。リトル・セイ掃倒作戦中、ダバとキャオによって討たれる。





テスのパイロットA・B（＃10）

正規軍ロージナ・ベースのパイロット。アマンダラのホエールの隠してあった海岸線の洞窟のホロスコープ・ガードを見抜き、攻撃をかけるが、救援にきたエルガイムによって撃墜される。



テッド・デビラス【TED DABILOS】（＃33〜）

EX—13のひとり。ギワザがメッタで補給の指揮をとる間の、トライデトアルの抑えを任命される。のちにスヴェート陥落のための兵力集めとして、コアム師団を説得に行く。EX—13なのに、出番もセリフも少なかった。



ドウア【DOUER】（＃26）

発熱によって倒れたダバが、キャオたちによってかつぎこまれたところの医者。賞金欲しさにダバたちをギャブレーに売ろうとした。女嫌いで、オカマっぽいところがあるが、医者としては一応いい大学をでているらしい。



ドモ【DOMMON】（＃3〜）

初めは盗賊の一味だ。だが、キャブレーとともに正規軍に入る。のちにスレンダー・スカラの副操縦士を務めるようになる。常にドでかいサングラスをかけているのが特徴。



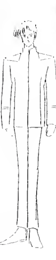
トライデトアルの老人（＃29）

トライデトアルに降下したダバたちにかくれ場所を世話した老人。ポセイダルの悪政に不満を持ったことが反乱軍へ手をかすきっかけとなる。ダバには、かつて星々にいた貴族たちの気品と力強さが感じられるといい、ダバに期待をかけた。



トラストの航空士（＃44）

トラストの航空士。ガストガルのスヴェートへ降下の際、嵐によって位置がずれていたが平然としていた。百キロぐらいの誤差などものともしない名航空士。



トラストの船長（＃44）

カストガル行きのトランスポーター船長。レッシィのガストガルへの密行を普通の10倍の料金で引き受けたが、まんざら金銭的なものだけではなく、レッシィの色香に迷わされたのかもしれない。ガストガルで別れるとき、レッシィの髪の毛を口にくわえていた。



ナ行

ニコマコス【NICOMACOS】（＃30〜）

セムージュがトライデトアルへ呼び寄せた反乱軍の歴戦の勇士。ダバの判断を疑い、セムージュに従ってネイ部隊攻撃に出撃したが、ネイの陽動作戦に会い苦戦したのち、ダバの判断の適確性を知り、以後ダバに従うようになる。セムージュがターナに移ってからは実質的なトライデトアル反乱軍のリーダーとなる。

ネイ・モー・ハン【NEI MOH HAN】（＃4〜）

十三人衆のひとりである女戦士。支配下の惑星に配備されることの多い十三人衆にあって、師団長のギワザ・ロワウとともに行動することが多い。ギワザとの愛人関係にあることも理由のひとつだが、それ以上に戦士としての能力が高いことが買われているのであろう。そのためポセイダルのプディン・オージェからのレプリカ（複製）の一号機であるA級H・Mオージェを渡される。



ギワザへの愛から反乱軍に対し激しい作戦を続けるが、アマンダラからトライデトアルの反乱軍に戦艦が引き渡



されるさいに戦いをしかけ、一隻を奪いガストガルのスヴェートに乗り込む。フル・フラットの裏切りをポセイダルに直訴しようとしたが、スヴェートにおける長期の取り調べはギワザの不信感を生む。放免されギワザの艦で待っていたのはギワザの処刑命令である。裏切られたネイはセイバーで一太刀切りつけようとギワザにせまるが、右腕を切り落したものの、力つきて殺されてしまう。

ハ行

ノーマ【NOMA】（＃41）

サート・スターの戦闘員。セーラに従いザーザとともにターナに潜入した女スパイ。



バーン・ガニア・キラーズ【BARN GANIA KILLAS】（＃33～）

EX―13のひとり。キワザの命令により、スヴェート陥落のための兵力集めにして、ミズン師団説得に行く。最終回、ギワザを討とうとして接近してきたダバのエルガイムを迎撃するが、キャオの協力を得たダバによって討たれる。



ハッシャ・モッシャ【HATCHIA MOTCHIA】（＃1～）

盗賊の副頭。ミヤマ・リーリン殺害後、しばらく姿を消していたが、18話で、アムとともにターナでダバ救出にやってくる。賞金欲しさに、ダバたちを正規軍に売ろうとするが、二度にわたり失敗する。その後ギャブレーの部下となる。ヘビーメタルの操縦の腕はなかなかのものである。

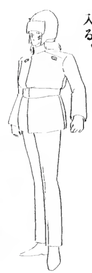


パメラ・ビロレージ【PAMELLA BELOWREG】（＃18～50）

スレンダー・スカラのオペレーター。ネイの命令をうけてギャブレーを誘惑しようとするが、本気で好きになってしまう。ギワザの命令で、フラットのホエールへテープをうけ取りにいくとき、自ら護衛を志願するが、フラットの陰謀を知りホエールから脱出するときに、警備兵によって射殺される。

バラ【BAULR】（＃3～）

女盗賊ミヤマ・リーリンの手下だったが、彼女の死後、代わって盗賊の頭になったギャブレーとともに正規軍に入る。



ハンス・アラハート【HANZ ALAHALT】（＃49～）

EX―13のひとり。マハール・セヌーマとともにポセイダル側についたEX―13。セヌーマの指揮の下、ガストガルへ進攻したギワザと反乱軍を討つため、H・M隊を率いて出撃した。スヴェートを攻撃するマクトミンを阻止しようとするが、ヘッケラーに邪魔をされる。最終回では、セヌーマとともにラキシスの心臓の入口で死亡していた。





反乱軍使節リーダー（#38）

コアムへG作戦（スターダスト作戦）の伝令にむかう反乱軍スラッシュの艦長。ターナをおとりにして、ネイたちの気をひいたすきに高速離脱するはずだったが、作戦を見破られ攻撃を受ける。だが、ターナとマークIIの活躍によって脱出に成功する。

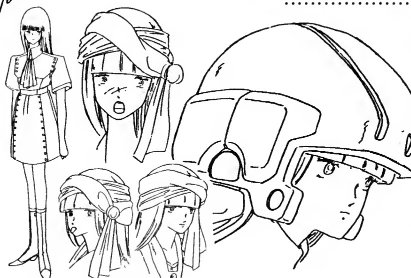
ファンネリア・アム [FANNARIA AMM]（#2〜）

コアム出身で、昔は俳優をめざし首都キトーで芝居小屋などで修業していたが、ふとしたことから、盗賊のリーリン一家に仲間入りすることになる。舞台できたえた度胸と持ち前のキップのよさで、リリーンなどには可愛がられていたようである。しかし、彼女にとっては役者も盗賊も借りそめのもので、よい男をみつけ、つかまえることが重要なことであったようだ。

ダバと出会ったことを幸いに、一家を抜け行動をともにしようと追いかけ、最後までダバのために命をかけて戦い抜いた。

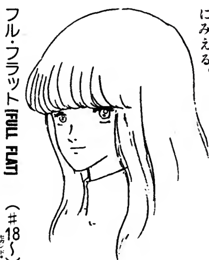
たいした教育は受けていないが、吸収力は高く、H・Mの操縦から軍隊指揮までマスターする努力派である。





フランチスカ [FRANCHISUKA]（#9）

ダバが女装した姿。捕えられたリーフ救出のためやむなく女装するが、なかなか似合っており、キャオより美人にみえる。

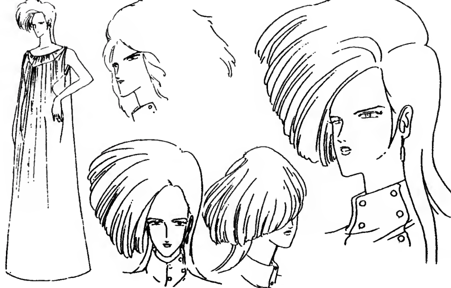


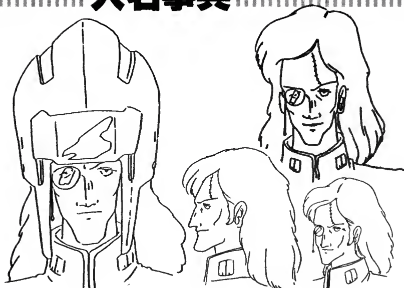
フル・フラット [FULL FLAT]（#18〜）

元テンプル・ナイツの一員で、第二次聖戦のときにポセイダルの命を救ったことでサート・スターと治外法権の権利をもらった女。80歳以上の高齢とうわさされるが、外観は20代の若さをもつ。その秘密はポセイダルが開発したバイオリレーション（アマンダラ）による不老処理である。真のポセイダルを愛し、彼のいうがままにサート・スターを支配した彼女も、生き続けることのむなしさを感じたとき、ポセイダルの傲慢さに気づき、この体制への反抗とミアンの解放をひそかに画策する。そのひとつがギワザとの同盟である。反乱軍のスターダスト作戦が実行されたとき、ヤーマン族から奪ったH・M、ガイラムでスヴェートに潜入し、ポセイダルの意のままとなる過去の友人、ミアンを解放しようとするが、失敗する。

カモン・マイロードが私邸にいるミアンを討ちに現われたとき、彼女をかばってマークIIの腕に押しつぶされて死亡した。だが、バイオリレーションで結ばれたフラットの思念はミアンに受け継がれた。







ヘッケラー・マウザー [HEKELER MAUZER]（＃12〜49）
EX—13候補生。ネイ・モー・ハンの部下として活躍するが、ネイがガストガルに行ってからはギワザの直属となる。直情型の性格で同期の理性派のアントンとはよいコンビを組む。ガストガル侵攻のさいには先陣を切ってスヴェートに突入するはめになる。艦を失ってからはバッシュで出撃するが、マクミトンのアトールVをかばってマークIIのセイバーによって倒される。「アントーン！」というのが最後の言葉。



ホエールのエンジンルームの兵（＃34）
ホエールの機関手。ヘッケラー艦を攻撃するために、補助エネルギーを主砲へつないだ。



ホエールの砲手（＃34）
ホエールのブリッジ勤務の砲手。レッシィのサインとともに、ホエールの全砲門をヘッケラー艦に合わせた。



ポセイダル側近の女性将校（＃38）
ガストガルへポセイダルとの謁見を求めて、単身乗りこんでいたネイ・モー・ハンに着がえを渡し、ポセイダルの部屋まで案内した将校。



ボン・サーンス [VON THERNCE]（＃20）
マフ・マクトミンの部下で、その配下パラータ・スターの司令官。ダバたちの引き渡しを求めるギャブレーの攻撃と、内部で起きた重労働者の暴動とに対処しきれず、脱出しようとしたところをアジーンによって討たれる。

マ行

マサン・ハミルトン [MASAN HAMILTON]（＃31）
反乱軍スパイ。ギワザの艦に潜入していたが、ネイに見つかり、拷問の最中に舌をかんで自殺する。イッカという弟を持つ。



マップ・マップン [MUP MUPUN]（＃2）
プリャーモの見世物小屋主人。アマンダラの手形と引替にリリス・ファウをダバに売るが、アマン銀行の手下とのゴタゴタのすきに、手形はダバに取り返されてしまい、本人は銀行の手下に射殺されてしまう。





マハール・セヌーマ [MARHAL SENUMA]（＃49〜）
EX—13のひとり。EX—13はギワザの配下であるため、ギワザ側につくのが普通だが、彼女とハンス・アラハートの2人はポセイダル側についた。坊主頭が印象的である。ギワザおよび反乱軍のガストガル進攻の際、司令室で指揮をとった。最終回、ラキシスの心臓に行こうとするポセイダルにつきそったが、バイオリレーションの影響をうけ途中で死亡していた。レッシィが見つけたときには、すでに風化していた。アラハートとはいいとこ同士。

マフ・マクトミン [MF MCTOMIN]（#42〜52）

ガストガルに配備されているEX—13のひとり。パラータ・スターも彼の一族の管理下に置かれていたが、バカンス中に反乱が起きてしまう。ギワザの命で正規軍幹部粛正（しゅくせい）にあたる。スヴェート攻撃にはアトールのボディに他のA級H・Mの武装をつけたアトールVをカスタム・メイドして先陣を切って出動した。ダバとは再三に渡って闘うがマークIIのバスター・ランチャーによって戦死する。





ママ [MAMA]（#3）

盗賊の一味。リーリンがハッシャにやられたときに、ドモたちといっしょに現われた。



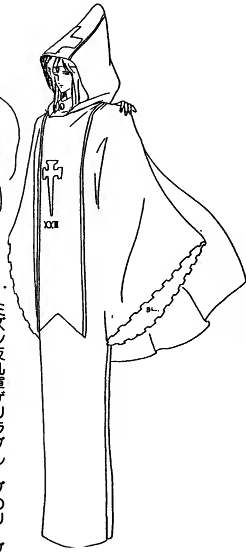
マルシェ [MALCHE]（#19〜）

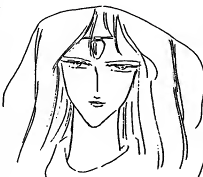
ロンペたちとターナでやってきた男。いつのまにか反乱軍になってしまう。ターナのブリッジでオペレーターをやっているが、出番も少なく、活躍もしていない。



ミアン・クウ・ハウ・アッシャー [MIAN KOO HAW ATSCHER]（#44〜）

元テンプル・ナイツの一員で、ポセイダル（アマンダラ）に身も心も捧げた女。バイオリレーションにより外部コントロールされ、偽りの人格と記憶、姿を与えられ、ポセイダルの影武者となる。同じテンプル・ナイツにいたフル・フラットとは友人であり、ポセイダルの愛を競ったライバルでもあった。反乱軍のスターダスト作戦によるスヴェート攻撃のさなかバイオリレーション・マシンが一時的に不調をきたしたこと、フラットの命をかけた説得などにより、じょじょにミアンとしての意志が戻る。ポセイダルの正体を明かしたアマンダラとカモン・マイロードとのH・Mの戦い、ギワザの切りふだである、メッタの落下のさなか、ミアンはラキシスの心臓にはいり、バイオエネルギーを放出させ、スヴェートを動かし、メッタとの直撃を防いだ。だが、エネルギーの放出により自分自身とポセイダル（アマンダラ）は一挙に老化して死んでいった。





ミザン・ルゥーン [MIZAN RUUN]（#36）

EX—13のひとり、ワザン・ルゥーンの息子。父の意に反して反乱軍に入ったが、正規軍との闘いで死亡したらしい。





ミズン反乱軍ゲリラグループのリーダー（#17）

反乱軍トランスポーターの船長。ミズンを離れ、他の戦域へ行くためにリトル・セイを出航したところを、敵の集中砲火をうけて死亡。



ミズン反乱軍トランスポーター船長（#14）

ダバたちが、ポセイダルと接触するために使用した反乱軍トランスポーターの船長。タバたちが、ポセイダル艦エイプに侵入している間の近衛師団との戦闘で船を破壊され、負傷を負う。



ミズン第三宇宙港司令（#7）
ダバたちを追ってきたギャブレーに協力を求められるが、人事移動の季節のため点数をかせごうと、独自でダバたちを捕えようとするが失敗してしまい、それを内諸にするということで、ギャブレーに無条件で協力させられるはめになる。



ミヤマ・アスフィー [MIYAMA ASPHY]（#24〜）
女盗賊ミヤマ・リーリンの娘。ギャブレーとハッシャに吹き込まれ、ダバを母の敵と思い命を奪おうとするが、闘いの最中、ハッシャの行為により誤ちと知る。各地のマシン競技大会に優賞しており、一度に数台の小型マシンナリィをコンピュータで操る天才少女でもある。のちにシエラ・リーフと知り合い、ガストガル侵攻の際、2人で駆けつけた。





ミヤマ・リーリン [MIYAMA LIELN]（#1〜3）
惑星コアムの女盗賊、女ながら盗賊の頭を務めている。ダバのヘビーメタルに目をつけ、奪おうとするが、逆に腕をセイバーで切り落されてしまう。それ以来、しつこくダバたちをつけ狙うが、エルガイム奪取作戦の最中、部下ハッシャ・モッシャの裏切りにより凶弾を受け倒れる。死に際に部下をギャブレーに託す。



ミラウー・キャオ [MIRAWOO KYAO]（#1〜）
ポセイダル軍へ志願するため、ダバを引っ張ってコアムのウーゴル村から出てきた18歳の青年。ところが、ダバがアマンダラの手形を預ったことから、本来の目的であった正規軍入隊がダメになり、逆に反乱軍として正規軍から追われるハメになる。少々短絡思考の気があり、頭に血が昇りやすいという欠点があるが、実は大変なお人良し。そのうえ女好きで大飯食らいというとんでもない性格の持ち主である。しかし、メカニックマンとしての腕は相当なもので、エルガイムが最終回まで戦いぬけた完璧な修理・整備はもちろん、ディザード、マークIIの開発、完成は彼の力によるところが大きい。その持ち前のパワーで、ダバを栄えある反乱軍のリーダーにまで押し上げた。ペンタゴナ開放後は、リリスと一緒にミラリィ探しの旅をしているらしい。

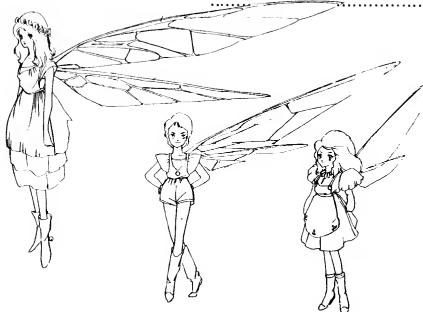




ミラリーたち（#45）
攻撃の振動によって作動したパラータ・スターの原子炉、アルファー・ハートの起爆装置を止めようとしたキャオが苦戦しているときに、リリスに過去のミラリーたちの記憶がよみがえり、その霊がリリスにやどるとともに、まわりにも多数出現したミラリーのこと。彼女らの協力のおかげで、起爆装置を止めることができた。

ムト [MUTO]（#20〜）
工業衛星パラータ・スターの鉱夫。ダバたちの話しを聞き、パラータ解放へ立ちあがる。パラータの工業力を利用したスターダスト作戦に参加している最中、攻撃の振動によって作動した原子炉の起爆装置を、キャオたちと止めようとした。





メッシュ・メーカー [MESCHU MAKER]（#26～）

トライデトアルの正規軍技術将校。ギワザの命令でA級H・Mの開発を行っていた。ドヴァの宇宙港でスレンダー・スカラに実戦テストのため引き渡しに来るが、ギャブレイの偏見でヤーマン・システムと変型機構を非難され、キャオの誘いであっさりとターナに仲間入りするという根っからの技術者バカ。





メッタの少女隊（#46）

ギワザ配下の工業衛星メッタの警備兵。ギワザとクワサンが会見したときに歓迎にでてきた。少女と思って安心していたクワサンたちを、クラッカーに見せかけたロープでしばりあげた。その後H・Mバルブド・ガイゼスに乗り、旗艦へクワサンを連れて帰途するギワザの護衛につくが、ダバとアムたちによって、ほとんどやられてしまう。

メラ [MERA]（#22）

ヤーマン族残党狩りを行うおとり部隊の大型商船イプシオンの乗組員で、コアム出身者。ダバを、証拠もなくヤーマンと決めつけるクワサンにはむかおうとしたキャオを取り押えるが、そのとき同郷のよしみで電波発信器を手渡す。リョクレイがタックを射殺したことによって発生した反乱に荷担したために、射殺される。



モーブ [MOVE]（#23）

トライデトアルの町ぐるみ反乱軍というマレーニキのリーダー。血気盛んで、反乱軍精神に満ち満ちている。ネイの放ったにせクロソを本物だと信じ込んでいたが、偶然、クロソがネイと通信しているのを見てにせ物と知る。だが、そのために手下によって殺されてしまう。



ラ行

ラマッサーの番兵（#39）

兵士Bに「いい写真が手に入るぜ」と呼ばれ、近づいたところをダバに殴られて気を失う。



ラマッサーの兵士A（#39）

フル・フラットとの同盟を結ぶため、グルグルタイプのラマッサーに乗り換えたギワザ艦のオペレーター。ダバが侵入の際に壊した26ダストシュートを調べにいかせる。



ラマッサーの兵士B（#39）

オペレーターの命令で、26ダストシュートを調べにいったが、途中ダバに襲われ、脅されて番兵を排除するための協力をさせられる。



リィリィ・ハッシィー [LILI HASSY]（#33～51）

EX―13のひとり。男嫌いで、逆上すると自我を忘れることがある。人質となったアムに対しても尋問の最中、たてついたことが原因で自我を忘れて逆上した。ワザン談によると、昔いろいろあったそうだ。ギワザの命令で、ミズンへ降りたダバたちに攻撃をかけて以来、しつこく追撃するようになる。反乱軍のガストガル侵攻のとき、アムによって搭乗機グルーンの急所を突かれ爆死。



リトル・セイの衛生兵（#15）

反乱軍基地リトル・セイの衛生兵。チャイ・チャーとの戦闘中に、爆風によって負傷したステラの手当てをする。



リトル・セイの歩哨（#14）

ダバたちがステラ・コバンに内諾で、ポセイダルと接触するために出撃するのを阻止しようと、トランスポーターに乗り込もうとするが、わずかな差で出撃を許してしまう。



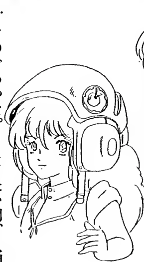
リョクレイ・ロン [RYOKLAY RONT] （#22〜）

クワサン・オリビーの目付役として、ヤーマン残党狩りを行うおとり部隊の商船、イプシオンに乗り込んでいる男。拳法の達人で、セイバーできりかかってきたダバをいとも簡単にのしてしまった。元はギワザ・ロワウの部下のEX—13のひとりであったが、彼もオリビー同様首にハーケンを打ち込まれており、ポセイダルに精神コントロールされている。オリビーが近衛師団の司令になると同時に、リョクレイもその副官となる。最終回、ギャブレーとの交戦のあと姿を消す。生死は不明だが、ポセイダルの死によって精神コントロールのたががはずれ、クワサン同様気が狂った可能性が大きい。



リリス・ファウ [LILIS FAW] （#2〜）

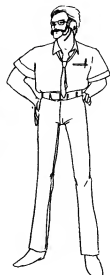
ペンタゴナ・ワールドの先住民族であるミラリー（有翼人）の生き残り。コアムのプリャーモの町の見せ物小屋にいたところをダバ・マイロードに拾われ仲間となる。微弱だが精神感応能力をもち、マインド・コントロールにより思ったとうりに人間を行動させることができる。ミラリー全ての使命であるペンタゴナ・ワールドに博愛主義を広めるためにリリスはダバを選んだのであった。しかし、ダバの強い意志は反対にリリスに影響し、人間に近い考え方に変ってしまう。普通のミラリーは人間と接することは少ないがリリスは伝導者としての任務を自ら選択したのであった。そして長い間、人間社会にいたため裁縫や料理を憶えていった。（多分に彼女の趣味のようではあるが、彼女は「ペンタゴナNo.1」と自称している）



リリスはその小さな身体と飛行能力により、ダバのゲリラ戦に大きく役立っていくが、パラータ・スターでは先祖の霊（?）の力を借り、原子炉の暴走をくい止める働きをする。だが、その際多量の放射線を浴びるが、みごとに再生した。ダバはそのためリリスをムタチオン（環境適応力の高い突然変異体のこと）であると推測した。革命成立後はキャオとミラリーの仲間を探しに旅を続けるという目的を持つ。

ルコ・マイト [LUCO MEIT] （#34〜）

ホエールの艦長。アマン商会の自警団に所属していたが、アマンダラの命令でレッシィを作戦参謀としてむかえ、ダバたちと行動をともにしているうちに反乱軍になってしまった。経験豊かな戦略家。



レジーナ [REGGENA] （#17〜）

ギャブレー遊撃隊の戦艦、スレンダースカラのブリッジに勤務している女航行士。



ロアンヌ・ベースのコック （#9）

正規軍基地ロアンヌ・ベースのコック。シェラを救出するために侵入したダバたちに脅され、シェラの居場所を聞き出される。







ロータ [LOTA]　（＃43）

ターナの女メカニックマン。クレアと共にサート・スターの人間に化けてクワサン・オリビーのクレパールに乗り込んだ。





ロンペ [RONPE]　（＃19〜）

アムがハッシャたちといっしょにターナで連れてきた男。ダバたちと行動をともにしているうちに反乱軍になってしまう。ターナでは副操縦士として活躍している。

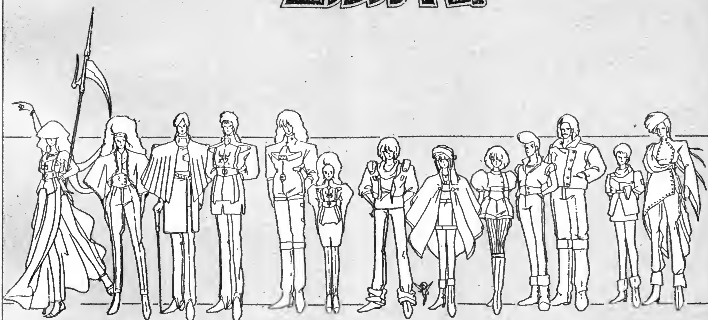
ワ行

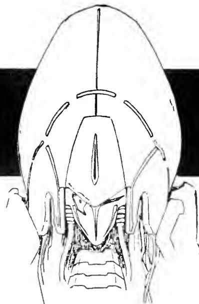
ワザン・ルゥーン [WAZAN RUUN]　（＃33〜36）

ミズン星域で作戦行動を展開していたEX―13のひとり。36話で、反乱軍を装いターナに侵入し、H・Mを奪おうとするが失敗して捕まる。その後救出にきた部下のグルーンに乗り、リリィ・ハッシィをかばい、マークIIの放ったバスター・ランチャーをうけ倒れる。反乱軍に入ったミザンという息子がいたが、すでに死亡している。







エルガイム  用語事典



ア行

アイ・センサー【EYE・SENSOR】H

A級H・Mに用いられる有機系センサーで目にあたる部分に有機系の物質が充塡されていて、さらにその奥に神経にあたるユニットがある。シンボライズド・コンピューターの自己判断能力に対応するようにつくられているため、B級用センサーにくらべて反応速度が速い。

アシュラ・テンプル【A・SHURA TEMPLE】H（#19〜）

A級H・M。両肩に容量の大きなジェネレーターを搭載しているため、四本の腕と四基のパワーランチャー（そのうちの二基はサーカスバインダー）を駆動するパワーを持つ。そのため中距離の攻撃では絶大な威力を発揮するが、もとは試作品として作られているために不完全な所があり、バスターランチャーの反動でバーストをおこすこともある。ムーバル・フレームはL型を使用している。

・身長 22m 全長 24m
重量 39・7t
・サーカスバインダー（パワーランチャー×1）×2
パワーランチャー×2
リバース・ボマー×1
エネルギー・ボンバー×12
セイバー×2
ランサー×2
バスター・ランチャー×2

〈備考〉
本機体はテンプル・ナイツが聖戦時に使用していた30機のテンプルシリーズの1機を改造したもので、現在使用されている10機ほどの機体はそのレプリカである。

アステロイド・ダミー【ASTEROID・DUMMY】（#23〜）

撹乱兵器の一種。惑星に降下するとき、大気圏突入とともに表面から粒子を放出し、それを摩擦熱で燃焼させて船体を包み込むことによって、隕石の落下にみせかけるもの。ダミーの自由落下に合わせて宇宙船も降下するので、船体と乗員に与えるG（重力）が通常に比べてはるかに高いのが難点である。（ダバは、これをヒントにして、スターダスト計画を考案した。）

アックス【AUX】F（#1〜）

ソーラージェネレーターを使用した小型フロッサー。全長2.9m。重量210kg。

アデバン【ADEVAN】（#7〜）

反乱軍で多用されている、大型フロッサー。武装は七門のレーザー砲で、本体下部に格納庫を持ち、四機ほどのミッド・フロッサーを収納が可能である。本来は、兵員輸送を目的にしていた。
全長 70m。

アトール【A・TAUL】H（#42〜）

A級H・M。アトールタイプのオリジナルは、H・Mのうちで最も古いものである。トライデトアル製ではあるが、背面に強力なフロッサーを装備しているため自力で飛行する。さらに、両腕のウインゲル・バインダーにより滑空することもできる。またフロッガーは、ビームがムチのようにのびる兵器で、最新式のものである。

・身長 22・6m 全長 27・5m
・セイバー×1
フロッガー×1
ウインゲル・バインダー×2
（パワーランチャー×2）

アトール・ファイブ【A・TAUL・V】H（#49〜）

A級H・M。EX13の一人で、元パラータ・スターの支配者でもあった、マフ・マクトミンによるアトールのマイナー・チェンジ版。アトールを中心にして、アシュラ・テンプル、オージェ、バッシュ、グルーンのそれぞれの特徴的な武器を装備している。また、本体も、つま先や目の部分などに多少手が加えられている。

・身長・22・6m
・サーカスバインダー×2
（パワーランチャー×2）
ラウンドバインダー×1
バッシュ用バインダー×1
ロングスピア×1

アーナンダ【A・NANDA】（#18〜）

ガストガルの衛星軌道上に配備されているガーディアン・ポスト（監視衛星）。高性能のレーダーを持ち、外敵の進入を探知すると、多弾頭ミサイルで迎撃することが可能な、ガストガル第一次防御ラインでもある。中央には小型宇宙艇のドッキング・ベイが設置されている。地上からのコントロールも可能だが、自己判断による攻撃も可能。
全長 170m

アハメス【AHAMESS】H（#50）H

エルガイム・MkーIの左胸にカービングされた文字。ダバ・ハッサーが刻み付けたもので、MkーIの原型であるガイラムの一体の元の名称らしい。

アマン商会【AMAN & Co.】（#8〜）

アマンダラ・カマンダラが所有している、巨大なコンツェルンの一部。軍用品から日常雑貨まで幅広く扱い、はては密貿易にまで手を出して巨利を得ている。正規軍に対しても武器を売りさばく一方で、反乱軍に対しても

陰から援助しており、そのあこぎな商法から、俗に「死の商人」とも呼ばれている。

アモンデュール【AMONOUUL】 H（#26〜）

B級H・M。トライデトアル製。メッシュ・メーカーがギワザに命じられて開発したコピーではない新型のH・M。基本的にはLサイズのムーバルフレームを使用しているが、腕のセイバーラックなどディザードを参考にしている。頭部に発掘品を使わないかわり、全身にサブ・コンピュータを配して動きをフォローし、また、ジェネレーション・システムを肩に移すことによって関節の可動範囲が広がったので、H・M自体の動きはたいへんよい。さらに、汎用性を考え、小型ランド・ブースター・ザッパを用いて全身に変型システムを入れ、ランド・ブースター・プローラーへの変型が可能となった。

・身長　22・3m・全長　26・5m
・バスター・ランチャー×1
　バインダー×1

〈備考〉
せっかくの新型H・Mであるが、ヤーマン系のコクピット・システムや変型機能はギャブレーの感性には合わなかったらしい。

アルファー・ハート【α・HEART】（#45〜）

P・Sのほぼ中央部分に位置していて、40年前より運転を休止していた原子炉。周囲には自動防御レーザーが配備され、侵入者を排除するようになっている。ギャブレー隊のH・Mの攻撃によって、突然起爆装置が作動してしまうが、キャオとリリスの活躍（そして、大昔に核攻撃によって死んでいった、ミラリィ達の魂の導き）によってあと0.5秒の所で爆発をまぬがれた。

アローン【ALLONE】 H（#3〜）

B級H・M。アローン・グランプの設計。A級H・Mの有機系とは異なり、ケイ素系の伝導システムを使用している。（大量生産が可能となった初のH・Mでもある。）いろいろなバリエーションがある。

・身長15・7m
　重量　軍用　29・9t
　　　　民間仕様21・1t
・レーザー砲×2
　レーザーランチャー（オプション）

〈備考〉
ポセイダル正規軍仕様が一番の基本体である。ギャブレーの使用していたものは、軍用アローンのセンサー部や脚部のフロッサーシステムを強化したものである。

アンチ・セイバー・リスト【ANTI・SABER・WRIST】（#22〜）

斬りかかるセイバーのレーザーを、ツイン・メリット・コーティングにより、空中に拡散させたり、吸収して電力に変換したりする、護身用のリスト・バンド（腕輪）。ただし、あまり連続して受けると、エネルギー・レベルがコーティングの許容量をこえて、リスト・バンドそのものが破損する場合がある。ボディー・アーマーと合わせてヘッド・ライナーの常備品である。

EX－13【EXSTRA－Thirteens】（#4〜）

ポイセイダル正規軍秘密情報機関のこと、十三人のスペシャル・エージェントが各惑星に配備され、反ポセイダル運動の徹発が主任務だが、エリート将校でかなりの自由裁量権が与えられているため、辺境星の基地指令におさまって高給を得ているという例もみられる。コアム情報師団長のギワザ・ロワウが機関長を兼任していたが、ポセイダルに対し反旗をひるがえしたとき多くがギワザの傘下に入った。EX－13の配置は以下の通り（初期のもの）。

●ガストガル星↓リョクレイ・ロン、ハンス・アラハート、マハール・セヌーマ、マフ・マクトミン（P・S管理も兼任）
●トライデトアル星↓デット・デビラス
●ミズン星↓ワザン・ルーン
●コアム星↓チャイ・チャー
●ファア星↓リイリィ・ハッシー
●メッタ↓バーン・ガニア・キラーズ
●ギワザ直属↓ネイ・モー・ハン、ガウ・ハ・レッシィ　（以下は不明）

なお、後半にはギャブレット・ギャブレイがEX－13に昇格する。

イプシオン【Y' ON】（#22〜）

大型宇宙商船。クワサン・オリビーが、ヤーマン族狩りのために、民間船を用いてアステロイド内船舶用のサービスといつわりパトロールしている。反乱分子以外の者には通常の12％割増料金を請求する。ダバたちが補給のために接触してクワサンに見やぶられ、捕えられるが、コアム出身の兵の反乱により脱出に成功する。（しかし、エサ＝補給物資でつって捕まえるとは、まるでゴキブリホ○ホ○みたいな船である。）

ウインゲル・バインダー【WINGEL BINOER】 H（#42〜）

H・Mアトールのオプション兵器。両腕に装備されている。特徴としては防御として用いる他に、切り離してリモートコントロールで単独で攻撃できる。パワーランチャーが一門ずつ装備されている。リモート・バインダーとも呼ばれる。

ウーゴル【WOOGOL】 地（#13）

コアムの片田舎の部落。ダバとキャオの出身地。

エイプ【THE・AP】（#13〜）

オルドナ・ポセイダル専用の恒星間航行用宇宙戦艦で、全正規軍の旗艦である。ミズン戦役の後、ガストガルとトライデトアルの中間あたりの宇宙空間で建造された。その1・3kmにも及ぶ巨大な艦体には、二門

アステロイドダミー
アンチセイバーリスト
アデバン
アーナンタ

用語事典

のバスター・ランチャーや百門の長距離レーザー砲を初めとする強大な武装群や、スラッシュ・タイプ二機が収納可能なドッキング・ベイ、100m×80mのH・M格納庫などがあり、資源が枯渇しかかっている現状を考えれば、この艦の装備のぜいたくさというものは筆舌につくしがたいものであるといえよう。スヴェートには、エイプの海上ドッグがあるらしいが、使用されたことはない。

A級ヘビーメタル【A CLASS HEAVY METAL】H
量産型準H・Mの登場による差別化としての上級H・Mの総称。ムーバル・フレームや有機系精密部品が使用されている。聖戦以前のレプリカと新しく設計されたものとに分類される。
レプリカとしては、
●ガストガル製
オージェ
A（アシュラ）・テンプル
C（カルバリー）・テンプル
●トライデトアル製
アトール
グルーン
●ミズン製
ガイラム
●コアム製
バッシュ
新設計型は、
エルガイム・Mk—I
アモンデュール
エルガイム・Mk—II
ヌーベル・ディザード
の四機種だが、特にアモンデュール以下の三機はランド・ブースターへの変型を考えた設計となっている。

エージャー【EAGER】F（#7〜）
ミズン星で多く使用されている戦闘用のフロッサー。機体上面の、大口径連装パワー・ランチャーが特徴で、地方基地においては対空砲座のように用いられることもある。武装はその他には、機首にレーザー砲が一門ある。兵員輸送車として使用される場合には、十〜十二名の完全武装した兵を収容する。

エス・エル・エス【S・L・S】（#18〜）
ヤーマン族がミズン戦役で使用した対レーザー拡散システムで、ジャマーと併用するといっそう効果が増す。強烈な閃光を伴い戦艦やH・Mなどのセンサー系を無効にしバスター・ランチャーの高エネルギー弾を消滅させる力がある。ただし、強力なエネルギーチューブを使用するために、多用できない。（スターライトシャワーを略したものである。）

S・マイン【S-MEIN】H
H・Mのバインダーなどに装備されている拡散手榴弾。化学反応兵器で対レーザーバリアーに影響されないため、使い方によっては効果的な武器である。

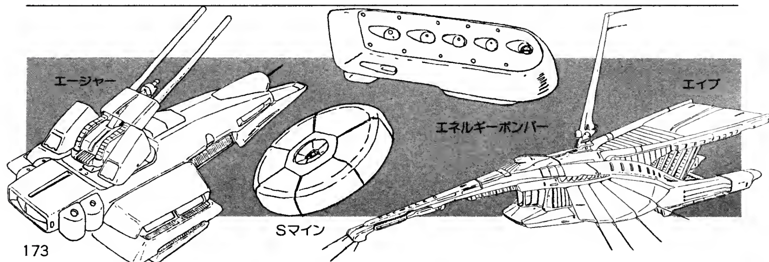
エネルギー・カートリッジ【ENERGY・CARTRIDGE】
ビーム兵器用の補助電源で、対人用ビームライフルなどでは、実弾と同じような使い方をする。また、バスター・ランチャーでは、H・M本体より供給されるエネルギーを一時的にたくわえる、いわゆる、バッテリーのような役わりをはたす。（なお、カートリッジは、一回射つごとに使い捨てにされる場合が多い。）エネルギー・パックとも呼ばれる。

エネルギー・サッシュ【ENERGY・SAATSH】H
カルバリー・テンプルの腕部と胸部に、各六門ずつ装備されている、対バリアー兵器。バッシュのエネルギー・ボンバーにくらべて、放電ユニットは小型化されているが、そのパワーは強力であり、バリアーを持たないH・Mに対しても、攻撃用兵器としてじゅうぶん有効である。

エネルギー・チューブ【ENERGY・TUBE】H
パワー・ランチャーなどの外部端末と腰のエネルギーソケットをつなぐもので、伝導中に切れるとエライことになる。

エネルギー・ボンバー【ENERGY BOMBER】H
バッシュ、A・テンプルが装備する放電兵器。敵のバリアーに接触させ、その内部の電子回路をショートさせる。バッシュの射出器は五連装でA・テンプルは肩と腰に十二基ある。

エルガイム・マークツー【L-GAIM MARK・II】H（#27〜）
トライデトアルで開発されたアモンデュールを改造してエルガイム・Mk—IIとして登場したA級H・M。ほぼ完全な360°視界のスパイラル・フロー・コクピットと変形してランド・ブースターのプローラーになるのが特徴。反乱軍の象徴として活躍するが、スヴェート内でのポセイダルの乗るオリジナル・オージェと戦い破壊されてしまう。
●全高26・5m、頭高22・3m
●バスター・ランチャー×1
パワーランチャー×1
セイバー×1
ランサー×1（ハンド・ランチャー×1）
ソーラー・バインダー（予備セイバー×8、S・マイン×4、最高3基までパワーランチャーを取りつけ可能）×2
●スパイラル・フロー、ビュイ対応
〈備考〉
ギャブレイにより頭部を破壊されたアモンデュールは、ターナに運び込まれキャオとメッシュ・メーカーの手によって修理と改造が行われ、エルガイム・Mk—IIとして再生された。主な改造点としては完全に破壊された頭部のかわりに、戦場跡から回収



したブラット・テンプルNo.3の頭部をつけた。また、すでにアモンデュールで完成していた全周囲スクリーンにスパイラル・フローのビュイを取り付け、360°の視界と耐Gシステムによるコクピットとなった。

エルガイム・マークワン【E-GAIM MARK-I】H（#1〜）

ダバ・マイロードの乗るカスタムメイドのH・M。第二次聖戦以後、始めて実戦に登場したA級H・M。スパイラル・フローによる耐Gコクピットなど新しい試みがされている。

・全長20・7m（通常率状態）
　22・5m（サスペンション・フルストローク時）
・重量19・1t（本体のみ）
　31・1t（最大装備時）
・パワーランチャー×1
セイバー×1
ランサー×1（ハンド・ランチャー×1）
ソーラー・バインダー×1（パワーランチャー×2、S・マイン×2）
・スパイラル・フロー、フリッカ対応

〈備考〉
エルガイムはミズン星ヤーマン王家所有のH・Mガイラムのうちの一台、アハメスを母体にしている。ミズンから脱出したダバハッサーはカモン・マイロードとクワサン・オリビーとこのアハメスを持ち、コアムに逃げのびた。優秀な技術者であったダバ・ハッサーはカモンがヤーマン王朝を復活させるための戦力となるように、ガイラムを量産しやすい設計に改造した。また、コアム王朝で開発されたバッシュのオプション火器を参考にその設計に取り入れていった。ダバ・ハッサーの最大の功績は耐Gコクピット・システムである。スパイラル・フロー・コクピットである。残念ながら360°視界スクリーンは完成をみなかったが、カモンの友人で技術者志望であったミラウー・キャオにその構想を伝え、この世を去ってしまう。

エンパー・テンプル【E-MPER TEMPLE】H（#51）

フル・フラットの所有するフォト・カードのバックに足だけ写っていた。昔日のH・Mらしい。

全長・重量不明
武装・パドル・スピアー他不明

オージェ【AUGE】H（#11〜）

A級H・M。正規軍のH・Mの中では一番オールマイティーな機能を持ったもの。脚部にはガストガル製のスーパー・フロッサーを装備しており、ランダムスレートを開放して飛行することが可能である。また、両肩のラウンド・バインダーは、支点を中心として広角度可変運動ができるため、先端部のパワーランチャーの照準方向を自由に選択できる。防御システムとしては、顔面保護用のシールドや全身のツインメリット・コーティングなどがある。

・身長　20・0m　全長　22・0m
　重量　23・1t
・ランダム・バインダー×2
　（パワーランチャー×2）
・セイバー×4
　スロウランサー×30
　ランサー×4
　パワーランチャー×2

〈備考〉
わざわざマスク用に防御シールドがあるのは、マスクが割れると（有機系伝達システムが）液もれをおこし、操縦不能になるためである。

オート・ジャイロ【AUTO-GYRO】F（#3〜）

走行高度に限界のあるフロッサーなどとは違い、かなりの高度まで上昇できる小型ヘリ。ただしローター自身には動力はなく、上昇や前進はメイン・フロッサー・ジェットによって行う。そのため、空中に静止することはできない。バリエーションとしては、レーダーシステムと二門の小型レーザー砲で武装したタイプも存在し、軍だけではなく盗賊団なども使用している。

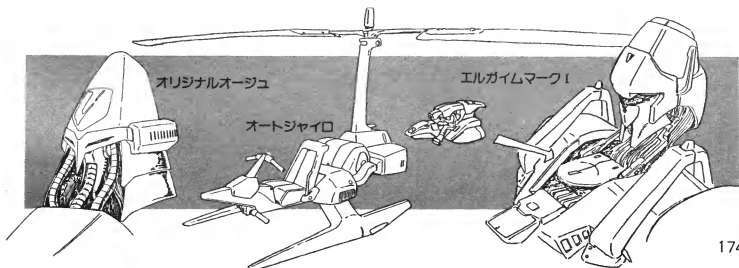
オートプログラミング【AUTO PROGRAMING】

H・Mにあらかじめ指定した動作をさせる装置。29話でレッシィは自分の赤いディザードをこの装置を使ってダバたちに返した。

オリジナル・オージェ【ORIGINAL AUGE】H（#54）

ポセイダル専用機として用意されていたA級H・M。ポセイダル家にはもともと二台のオージェがあり、一台がネイ・モーハンが乗っていた機体の原型機で、もう一台がプディン・オージェと呼ばれる機体であった。このオリジナル・オージェは上半身をオージェ、下半身をプディン・オージェのアーマーを使用しており右肩にはブラッド・テンプルのバスター・ランチャー用のバインダーを装備している。さらにバイオリレーション・システムによってパワーアップされ、特別なフィールド内では無敵の強さを誇る。生体反応が始動のためのキーでアマンダラに調整されている。Mk-IIと戦い、完全に勝利したものの、バイオリレーション・パワーを断たれ、パイロットであるアマンダラが死亡し、オージェも活動を停止させる。

全長20m、重量不明
パワーランチャー×1
サイズ（大カマ）×1
セイバー×1
ハンドランチャー×30





カ行

ガイラム【GAYRAHM】 H（#42〜）
ヤーマン族のオリジナルで、エルガイムの母体となったものであり、バッシュを参考にして製造された。背面にはライト・ブースターの取付基部があり、また右手のスピアは右手を通して腰からエネルギーを吸収して使用する。現在のペンタゴナ・ワールドにおいて（エルガイムMk―IIを除いては）唯一、B・テンプルやプディン・オージェと互格に戦うことのできるH・Mで、三十数機のオリジナルが存在する。
・全長22・2m、重量16・1t
・パドル・スピアー×1
（パワーランチャー×1）
〈備考〉
現在残っているものは、ポセイダルが第二次聖戦の時にヤーマンから捕獲したのを、フル・フラットがサート・スターにかくしておいたものだけである。また、左肩にヤーマンの紋章が書かれている機もあるが、これはフラットが消しそこなったもので、五機に一機の割合で存在する。

カサッシュ【KASATSH】 F（#19〜）
S・F・F高速戦闘艇テス・タイプ以上の機動力を持つ新型モデル。エンジン・ユニットがそのまま着陸スキッドを兼ねる。武装としては、下部に二門のレーザー砲がある。
全長　25m

ガストガル【PLANET GUSTGAL】 地
恒星サンズをめぐる五つの惑星のひとつ。地球に最も近い環境である。首都は海上の浮遊都市スヴェート。ポセイダルのいる星らしく、衛星斬道上には監視・迎撃衛星アーナンダが配備され、近衛軍の艦隊が周辺の宙域、及び地上各地に配備されている。

カード爆弾（#50）
フル・フラットがギャブレーを通じてギワザに渡そうとしたメッセージカード型の爆弾。ギャブレーが粗雑に使ったために爆発した。

カナール【KANNAHL】 地
現在のミズン星の首都。ダバたち反乱軍が最初にポセイダル軍から奪った都市。管理局の塔を中心に円形に広がるソーラパネルの外壁をもつドーム都市で新旧の建造物が渾然一体となっている。

カナール・ベース【KANNAHL BASE】
カナール効外の正規軍基地。ギャブレーやワザン、リィリィが駐屯していたが、ワザンが死亡して正規軍は退却、反乱軍が占領した。

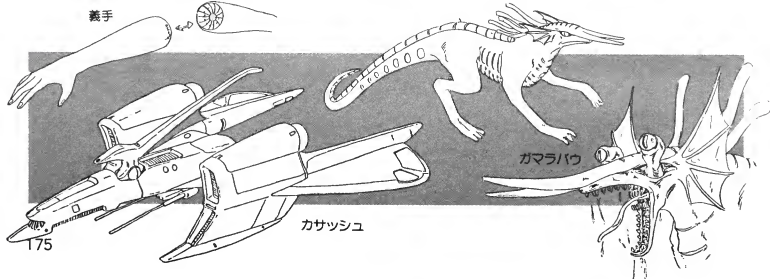
ガマラ・バウ【GAMARA・BOW】（#4〜）
は虫類のような顔をしたどう猛な四つ足動物で、主としてトライデトアルの荒れ地に生息している。アマンダラ・カマンダラは番犬として、サイボーグ化したガマラ・バウを三頭ほど自分の屋敷においていた。ダバから手形を取りもどすかわりに、軍への推薦状を取りつけようとやってきたギャブレーに襲いかかったため、あっさりと漸り殺されてしまった。

カルバリー・テンプル【CALVARY・TEMPLE】 H（#37〜）
A級H・M。テンプルシリーズの一機でムーバルフレームはL型を用いている。全体的には、A（アシュラ）テンプルを格闘戦用にしたようなもので、全身のアーマーがバッシュ・タイプのようになっていて、軽快に動くことができる。最大の特徴は、胸に装備されている二枚の反射板で、これにより敵のビーム砲などを防ぐだけでなく、はね返すことが可能である。（一見鏡が小さいようだが、磁界の操作によりレーザーを湾曲することによって集中させるので問題はない。
・全長23・1m、重量31・1t
・セイバー×2
パワーランチャー×2
サッシュ×12
レーザー反射鏡×2
〈備考〉
カルバリィ・テンプルの機体で、オリビーの使用したものは特にヘルミーナというコードネームで呼ばれている。

義手（#1、44）
ペンタゴナ・ワールドの医学はよほど進歩しているらしくて、ほとんど本物と変わらないほど精巧である。またそのパワーもすごいらしく、ワイングラスなどは簡単に握りつぶすし、キャオはストマック・クローをかけられ、あっさりネをあげたほどである。物語中では、ミヤマ・リーリンがダバに、ギワザ・ロワウがネイ・モー・ハンに斬り落された腕のかわりに使用している。

ギラッピー【GIRHTPPY】 F（#5〜）
おもにポセイダル正規軍で使用されている旧式のランド・ブースター。主翼は一応可変だが、格納運般には適しているとはいえず、また、小回りがきかない上に、対空装備もレーザー砲二門という貧弱なものである。ただし宇宙空間でも使用可能である。
全長　22・5m

ギーン【GEEN】
ペンタゴナ・ワールドで使用されている貨幣単位。一応この世界では金本位制であるが、クレジットカードが発達しているため貨幣を見ることは極めてまれである。ただ



し、ミズンやコアムなどの辺境では、今だに金貨が使用されている。(この手の設定はアニメ界の通例として、ドルと換算することができると考えてよい)。

銀河勲章（＃19）

ポセイダル軍における、最高栄誉をたたえて勇敢なる兵士に贈られる勲章。ただ、実際には何人がこの勲章を与えられているかは、不明。

クウォート【QUART】（＃4〜）

惑星間で戦略物資や食料などを運搬する軍用の輸送艇。輸送物資は後部のハッチより貨物質へ積み込むようになっている。武装は機首に二門と、コンテナ上に一門のレーザー砲が装備されているが、その火力は弱く、実際の戦闘においてはほとんど役に立たない。

全長 133m。

クォート・ターナ【QUART・TARNA】（＃18〜）

ターナの正式名称。普通〝ターナ〟だけで充分通用する。

グーガー【GUGER】Ｆ（＃7〜）

大型のフロッサー。正規軍・反乱軍の両方に存在し、おもに地上部隊の移動基地として使用されている。潜航能力や水上走行能力も持つ。また、艦首の戦闘ブリッジの周辺には対レーザー用のシールドがはりめぐらされているが、レーザーの入射角によっては通過されてしまう場合がある。後部には、巨大なクレーンと、フロッサー・カタパルトと、二基のクレーンが装備されている。

全長 155m

グライア【GREIR】Ｈ（＃4〜）

B級H・M。現在、ポセイダル正規軍で最も多く使用されているH・Mで設計者はグライア・ノーダ。開発しはじめたのはアローンよりも古いのだが、完成はグライアの方が遅かった。(その分、グライアの方が精密に作られているようである。)

・身長 17・0m、全長 19・3m
重量 25・7t
・パワーランチャー×2
セイバー×1

グライア・ノーダ【GREIA・NOROA】Ｈ（＃20〜）

B級H・M。本来、グライア・ノーダとは開発当初のマークⅤまでをいうが、パラータ・スターのものはかなりの改良がおこなわれていて（ランドセルなど）バルブドに匹敵するほどのパワーを持っている。

・身長 17・0m 全長 19・3m
重量 27・8t
・パワーランチャー×2

クラッカー【CRACKER】（＃46〜）

一見、何の変哲もないただのクラッカーであるが、実は、ひもを引くと紙テープの代りに、特殊鋼のロープがとびだす。対人用補獲兵器。メッタでは、クワサンとリョクレイをキャピキャピとり囲んだ少女隊が二人をからめとるのに使用した。(うーん、少女隊といいこのクラッカーといい、ギワザ・ロワウはずいぶんといい趣味をしているなあ。)

グルグル【GUL・GUL】（＃17〜）

S・J・S・（高速輸送艇）スラッシュの同系列艦でH・M、その他の輸送が目的である。武装は両舷の固定式パワー・ランチャーと四門のレーザー砲。ダバ・マイロードがミズンから脱出する際に使用し、単機で初めてのスヴェート攻撃を行う。(しかしその後、戦闘でボロボロになった機体は、荷物などをターナへつみかえた後、アステロイド・ベルトへ捨てられてしまった。)

グルーン【G・ROON】Ｈ（＃33〜）

A級H・M。めずらしいS（スモールサイズ）型フレーム。白兵戦性能に優れ、放電能力のあるロング・スピアを操つる。リィリィ・ハッシーが多く搭乗する。

身長20・7m、全高26m
・パワーランチャー×2
・ロング・スピア×1（放電機能、パワーランチャー×2）
ランサー×2
セイバー×2
チャフ（対レーザー拡散金属片）

〈備考〉
トライデトアル製H・M。

クレパール【QURPAUL】（＃35〜）

ポセイダル近衛軍の大型戦艦で、クワサン・オリビーが最高司令官を務める。ギワザの手によって、クワサンが捕えられたあとは艦長でもあるリョクレイ・ロンがその役目を代行した。また、スヴェート攻防戦では近衛軍の旗艦として指揮を行った。

全長 410m

クロッサー【CROSSER】Ｆ（＃17〜）

ギャブレー隊の攻撃を避けるため、サートスター内に入港したグルグルを出迎える時に、フル・フラットが乗っていたソーラーヨット。一応、自衛用の小型パワー・ランチャー二門を装備しているが、推進力が弱いため戦闘にはまったく不向きな船である。

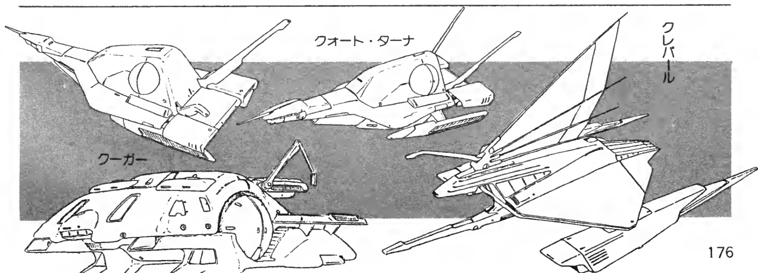
軍用ゼッタ【MILITARY・ZEDOA】（＃5〜）

マシンナリィ。民間用のゼッダのフレームやマニピュレーターを改良し、装甲を強化したもの。手足の関節数がふえ、右手は五指を持ち、さらに左手には、固定式のレーザー砲が装備されている。ほかの兵器とくらべると火力が弱く、また、機動性もあまり高くないが、操縦性が優れているため、旧式ながら、幅広く使用されている。

全長 8・0〜10・5m 重量 8・8t

コアム【PLANET・COAM】地

恒星サンズをめぐる五つの惑星のひとつ。大きさは火星程度だが、人類が居住可能。



ガストガルからみれば辺境地ということになる。カルスト台地が多い。首都はキトー。

コアムの歌【#22～】
コアム星の唱歌のひとつ。ペンタゴ連合樹立前は国（大地とか自然を含めたいっさいのもの）をたたえる歌として広く口ずさまれていた。ダバやクワサン・オリビーの育ったウーゴル村でも歌われており、洗脳されたはずのクワサンの記憶に残っていた。連合樹立後はポセイダルの命令で国歌に相当するような歌は全て禁止されてしまった。作中で歌われた歌詞を記すと、

「我らの大地　天につき
我らの海が　星うつし
山河に満ちる　命のかて
コアムの大地　星ひかる」となる。

コードセンサー【CORD SENSOR】（#1）
主にテントなどの周りにコードを張りめぐらし、そこに電流を流して、毒ヘビなど害虫、害獣の侵入を防ぐ装置。対人用には効果はない。

子バードナ H（#24）
ミヤマ・アスフィーの操るB級H・Mバードナからワイヤーで操縦される。小型フロッサー程度の大きさで、レーザー砲を1門装備している。アスフィーは、これを五、六台同時に操りエルガイムに立体攻撃をかけた。

ゴルダ【GAULOA】地（#12）
ミズン星ロアンヌ・ベース北側の荒野。

ゴロンゴ【GORONGO】H（#9～）
B級H・M。アローン・グランプ、ゴロンゴ・ゴーレンの設計による反乱軍使用のアローン。正規軍仕様との大きな違いは頭部の形状であるが、これはあくまで生産性における都合によるものである。
・身長　地上用15・7m　宇宙用16・2m
重量　29・5t
・レーザー砲×1
レーザーランチャー×1
〈備考〉
宇宙用のゴロンゴは胸部に冷却ダクトがあり、背中に宇宙装備がつけ足されていることで地上用と区別できる。

コント【CONTO】
ペンタゴナ・ワールドでの貨幣単位。1コントは、1ギーンの100分の1に相当する。

サ行



ザ・オリオン・ウエイ【THE ORION WAY】
マップ・マップンの見せ物小屋。リリス・ファウがトップダンサーだったが、ダバによって連れ出されてしまう。

サーカス・バインダー【CIRCUS BINDER】H（#19～）
アシュラ・テンプルが装備する攻守両用の楯。肩に固定されている補助アームによって自在に可動する。レーザーを反射し、先端にはパワーランチャーが装備されている。

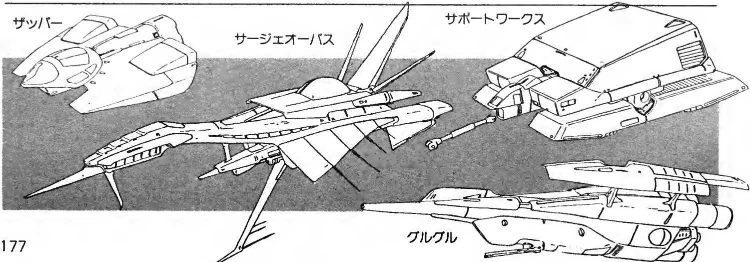
作戦参謀
実際に作戦を遂行する際の指揮官となる人物。戦艦などで行動する際は、艦長以上の命令権をもつ。ギワザから反乱軍の残党狩りを命じられたギャブレーは、プラネットボンバー、スレンダースカラにのりこみこの地位に就いた。

サージエ・オーパス【SARGE・AUPUS】（#28～）
ポセイダル正規軍のプラネット・クルーザーで、おもに、EX13以上の位の人間が使用する戦艦。船体の各所に約500門ものレーザー砲を配し、下部にはスライス・シャトルを収納することができる。また、H・Mは14台収納でき、さらに大気圏突入能力ももっていて、宇宙港に降下することも可能である。ギワザ・ロワウは、このタイプの艦に自爆装置を仕掛け、クワサン・オリビーを人質にしてダバ・マイロードの暗殺を計ったが、ギャブレット・ギャブレーにじゃまをされ、失敗に終っている。
全長　360m

ザッパー【ZAPPER】F（#46～）
クレパールに搭載されていた小型のランドブースター。ギワザの招待により、クワサンとリョクレイが、クレパールからメッタへ移動する際に使用した。エルガイム・MkーⅡやアモンデュール・スタックが背面に装備しているランド・ブースターは、このザッパーを改造したものである。

サート・スター【THEART・STAR】地（#17～）
フル・フラットの支配する、アステロイドベルト内の人工天体。巨大な推進器を持ち宇宙空間を自力での移動が可能。内部には遠心力による重力ブロックと、宇宙戦艦やH・Mなど（ホエールやベアズなど）を生産する、高度な工場がある。中央の倉庫には、30年前の第二次聖戦の時、アマンダラ・カマンダラが戦利品として得たH・Mガイラムが保管されていた。また、ここはポセイダルによる治外法権が認められ、正規軍ですらその介入を禁じられている星である。（さらに、女性のみの星であり、男にとってはまさに〝享楽の惑星〟であるといわれているが、実際はどんなものだか……。）

サポート・マシン【SUPPORT・MACHINE】H
H・Mを運用するための補助機器で、行動範囲や機動力を拡大するものと、火力を強化するものに大別できる。前者には、ラン



ド・ブースターやライト・ブースター、後者には、バスター・ランチャーやパワー・ランチャー、セイバーなどがある。

サポート・ワークス【SUPPORT・WORKS】（♯3〜）
格納形態となったランド・ブースター・スピリッツを一台収納できる輸送用トレーラーで、V・ジョイント式のコンロッドによってベースマシン・ワークスの後に連結が可能。二重デッキになっていて、武器や装甲は下部へ収納する。また、自動操縦も可能である。
全長　17・4ｍ

シールド【SEALED】（対レーザー・シールド【ANTI LASER SEALED】の略。バリア【BARRIER】と同義語）
レーザー光を拡散する防御スクリーン。宇宙船では標準装備だが、高出力を必要とするためH・Mでも上位機種でなければ装備できない。

ジーン・プラスチック【JEAN PLASTICS】⇩略ジーン・プラ【JEAN PLA】
放射線処理を施した強化合成樹脂材。特性としては処理前は加工が容易で、処理後は耐熱・耐圧性が飛躍的に向上する。ペンタゴナ・ワールドでは広範囲に用いられている素材で、宇宙船やH・Mの装甲板として使われる場合、さらにツインメリット・コーティングが施され、対レーザー装甲となる。

JB1-0023【J・B・10023】（♯4〜）
コアムの第三宇宙港から、ダバたちがミズンへ行くためにシージャックした、軍用トランスポーターの識別番号。ペンタゴナ・ワールドでは、大型兵器（H・Mやランド・ブースターなど）や宇宙船には、すべて認識番号の登録が義務づけられており、問いあわせに対して即答できない場合は、軍用・民間関係なしに攻撃をうけることになる。

磁気嵐【MAGNETIC・STORM】（♯27〜）
トライデトアルの一部地方でひんぱんに発生する、厚いジャマーを供った大気流のこと。激しい大気流は、磁気をおびた粉塵をふきあげるため、通信器やレーダーが使用不能になるだけではなく、H・Mや艦船などの航行にも支障をきたす。ギャブレー隊の迎撃に出動したレッシィのディザードはこの磁気嵐に巻き込まれ不時着する。

ジャマー【JAMMER】
ペンタゴナ・ワールド特有の自然現象で、通信電波がいちじるしく干渉され、送受信が妨害されてしまうというもの。そのためレーザー通信網が発達するが、長距離の場合、容易に傍受されてしまうため、極秘の内容の場合、高速艇を用いたビデオメイルが使われている。人工的なジャマー発生器もある。もちろん軍用。

十三人衆→EX—13

十三人衆候補生（♯11〜）
EX—13の候補生は多くの場合、EX—13の部下として働き、資格があると判断されてのち正式に昇格することができる。ヘッドライナーとしての腕ももちろんだが、家柄や士官学校時代の成績も問われるため、候補生というだけでかなりのエリートといえる。作中にはネイの部下のアントン・ランドーとヘッケラー・マウザーがその立場であった。

シンボライズド・コンピュータ【SYMBOLIZED COMPUTER】H
A級H・Mの頭部に搭載されている有機系コンピュータのこと。人型をしているといわれているが、ブラックボックス化しているため、詳しい構造などは不明である。現在ではこのコンピュータを製造する技術が失われてしまったため、過去の戦闘で破壊されたH・Mの頭部を換装している。この有機系コンピュータをもつことがA級H・Mの条件という。一説によると人型をしているらしいが、その姿は半透明の物質の封印の外からうかがうしかない。

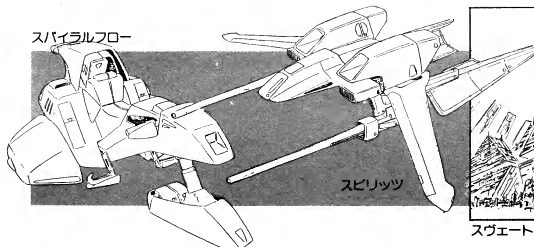
スヴェート【SVET】地（♯18〜）
ポセイダル直轄のガストガルの主都。巨大な円形の海上都市で自力での移動が可能である。中央には対空砲座をかねたポセイダル像が設置され、その周辺には行政や軍関係の中枢がある。また、海面下には、バイオ・リレーション・システムの本体があり、ポセイダルは、メッタの落下の際には、バイオ・センサーのパワーを集中して都市全体を飛行させ、直撃をさけた。

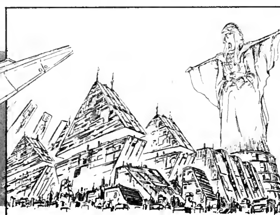
スギサン・バレエ【SUGISAN・VALLAY】地（♯29〜）
トライデトアルの反乱軍基地の一つで洞窟内に設置されているので発見されにくい。（ここで、レッシィは、みんなの奮起を促すため、そして何よりもダバのために、ついにターナを去る決心をしたのであった。）

スターダスト作戦【THE STARDUST OPERATION】（♯38〜）
反乱軍が立てたガストガルの首都、スヴェート攻略作戦のこと。ガストガル周辺のスターダスト＝小惑星を人工的に移動させ、スヴェートに落下させるというもので、隕石を爆弾として使うという目的の他に、ガストガル上空の監視衛星の目をくらまし、隕石に隠れて宇宙船を降下させようという二重の目的があった。この作戦を実行するには膨大なエネルギーを必要とするため、P・Sの協力が必要であった。

スタック【STACK】H（♯26）
トライデトアル製H・M、アモンデュールのコードネーム。

スターライトスコープ【STAR LIGHT SCOPE】




スヴェート

(#44)

暗闇でも物がはっきりと見える装置。レッシィがポセイダルの私邸に潜入するときに使用した装備のひとつ。

スパイラル・フロー【SPIRAL・FLOW】H

エルガイムのコクピットブロックと専用フロッサー・シートを含めたシステムの総称。単純に「スパイラル・フロー」とか「スパ・フロ(略称)」という場合、フリッカ、ビュイという専用フロッサー・マシンを指す。このコクピットシステムはダバ・ハッサーが考案したもので、従来のH・Mのサスペンション式コクピットと異なり、独立シートがコクピットからフローティングしているため、過度のGからもパイロットを保護できる。モニター・システムはMk—I用のフリッカ、Mk—II用のビュイでは異なるが、A級、B級を問わず他のH・Mよりも視界が良いとされる。またシートが通常のフロッサー・マシンとして使用できることも特徴である。

スパイラル・フロー・コクピット【SPIRAL・FLOW・COCKPIT】

ダバ・ハッサーが開発したシステムで、視界や耐G性に優れている。フリッカ・タイプ(視界は約180度)では未完成であったこのシステムは、後にビュイ・タイプ(視界は360度となった。)をもって完成をみる。

スーパー・フロッサー【SUPER FLOSSER】H

オージェ、A・Cテンプルに搭載されている高性能フロッサー・エンジンのこと。ガストガル製で、他のH・Mが空中戦の場合専用のブースターを必要とするのに対し、このエンジンは元より高推力をもつため追加装備が不要となっている。ただし、バッシュだけはレプリカ(複製)のさい、このフロッサーに換装されているので例外となっている。

スピアーラック【SPEAR RACK】H

バッシュのランダム・スレートについている大型セイバーを収納するラック、磁力による着脱方式。

スピリッツ【SPIRIT】(#3〜)

新型ランド・ブースター。旧型のギラッパーとは異なり、コンパクトに折りたたむことができるので、輸送や格納にはたいへんつごうがよい。また、パワー・ランチャーを二門装備していて、スピリッツ単独による作戦行動も可能である。

・全長 16・0〜25・4m

スペース・グライア【SPACE・GREIA】H(#7〜)

B級H・M。開発そのものはグライアよりも古い。地上用のグライアと異なり、フロッサー・システムがないためその分動力に余裕ができたのでパワーランチャーの装備が可能となった。(一応、地上でも活動できるがフローティングは不可能である。)

・身長 18・5m
重量 19・8t

スペース・ポッド【SPACE・POD】(#30〜)

宇宙船間の連絡などの短距離移動する際に用いられるスペース・ボード。小型フロッサーにより慣性飛行をする。

スペース・ボード【SPACE・BOAT】(#39〜)

メッシュ・メーカーに依頼して製作させた小型宇宙艇。小型のソーラープラズマエンジンに、コントロール装置を付けただけの極めて単純な乗り物である。武装は、申しわけ程度のレーザー銃のみで、二隻作られている。ダバ達が、ギワザ・ロワウのラマッサー(スラッシュ・タイプ)に潜入するために、対電波塗料布を縫い合わせたシートをかぶせて使用した。(このシートは、ペンタゴナ一番の裁縫の名手、リリス・ファウの手によるものである。)

スペース・リスタ【SPACE・LISTA】H(#6〜)

B級H・M。民間用自衛兵器として開発されたが正規軍でも使用されている。フロッサーシステムを持っていないので地上では移動できないが、ソーラージェネレーター利用のプラズマエンジンとスタビライザーにより宇宙空間では高い運動性を示す。

・身長 11・2m
・パワーランチャー×1
レーザー砲×2
ミニレーザー砲×1

〈備考〉
外型がマシンナリィ・リスタに似ているためこのような名称が定着した。しかし、全然違う構造をしている。

スライス・シャトル【SLAYS・SHATOL】(#29〜)

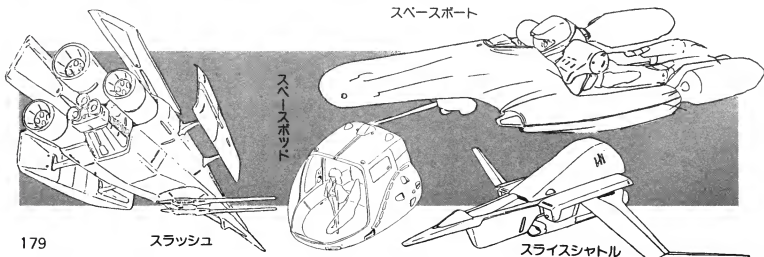
サージェ・オーパスタイプの戦艦の下部に収納されている、可変翼の連絡用宇宙艇。武装は機首のレーザー砲一門のみである。54話では、旗艦が反乱軍の猛攻を受け大破する直前に、ギワザ・ロワウが単身で脱出のために用いたが、ギャブレーのバッシュに発見され、追いつめられて、ついには、ダバのエルガイムのバスター・ランチャーによって消滅させられてしまった。

スラッシュ【SLASH】(#6〜)

S・J・R・(高速宇宙艇)H・Mやマシンナリィーを積載し、高速で(二〜三分程度)衛星軌道上まで上昇する、いわゆる、インターセプターである。そのため、垂直離陸が基本となるが、通常の離着陸も可能である。大気圏離脱の際には、乗員に、旧式の化学燃料式ロケット並のGがかかる。主砲として、連装ドラフターロック一基を装備している。また、艦首のコクピットはそのまま脱出カプセルとなる。

スレンダースカラ【SLLENDERSCALA】(#18〜)

プラネットボンバー・レイ・タイプの戦艦



用語事典

であり、本来は地上制圧用の中型艦である。艦長はイレーネ・イルスで、以下クルーは女性ばかりで構成されていて、ギャブレーはこの艦の作戦参謀であった。

スロウランサー【THROW・LANCER】 H
投げつけることによって相手を破壊するランサー。通常のものとは異なり、本体内にバッテリーをもっていて、バリアーなどにふれると爆発する。ただし、有効なのは10分ほどである。資源の少ないペンタゴナ・ワールドにおいてはたいへんぜいたくな兵器と言えよう。オージェはラウンドバインダー内に30本、バッシュは肩の下に12本装備している。

正規軍（♯1〜）
反乱軍に対してつけられたペンタゴ連合軍の俗称。大きな戦争の直後で、この時代税金が高く、学歴のない若者が夢みた職業が正規軍軍人であった。軍の整備が行われていた十年ほど前は兵器の絶対量が不足していて、H・Mをもちこめば入隊できたそうだが、今日ではよほどのコネか金を積まなくては入隊できない。最近は組織内の軍律が乱れ、職務を利用して強盗まがいの行為が行われているようで、そのことも反ポセイダル運動に拍車をかけているといわれる。

セイバー【SABER】（♯1〜）
ペンタゴナ・ワールドでは、ごく一般的な護身用具である。つかの部分から吸収した太陽光線をレーザーに転換するシステムを持つ。連続使用時間は、暗闇や夜間で約30分、光が当り続けるかぎりは無限である。また、アンチ・セイバー・リストやボディー・アーマーといったような、対セイバー用具も存在する。H・M用のセイバーも、基本的には構造は同じだが、その威力たるや格段の差がある。（あたりまえか。）

セイバー・ステッキ【SABER STICK】
正規軍の司官クラスがもっている杖。スイッチひとつでもセイバーになる。

セイバー・フロッガー【SABER・FLOGER】 H（♯42〜）
セイバーの一種で、つかから光ファイバーのワイアーを出し、ムチのように扱えるレーザー兵器。セイバーとしては最新式のものだが、操作は困難になっている。対人用ではフル・フラットのものと、対H・M用ではアトールのものが登場した。バリエーションとして、アトールVの用いたトリプルフロッガーがある。

セカンド・セント・ウオー【THE SECOND SAINT WAR】
三九二〇年〜三九六二年まで行われたペンタゴナ統一戦争。前大戦（ファースト・セント・ウオー＝第一次聖戦争）でトライデトアルとコアム両軍を破ったポセイダルのガストガル軍と、ミズンのヤーマン王朝との戦争で、ガストガル軍がミズンを占拠し王族を処刑することで終結をみる。ミズン戦役とも呼ばれる。この勝利により、ポセイダルはペンタゴ連合を樹立させることに成功する。

ゼッダ【ZEDOA】（♯1〜）
マシンナリィ。フレーム構造は単純だが、アーム部のパワーは強く、重量物の運搬作業などに適している。一部では盗賊団が、ハデな塗装や小改造をほどこして、自分達の仕事に用いている。
・全長　8・6m　重量　9・7t

Z作戦【OPERATION・Z】（♯38〜）
スターダスト作戦を実行するためのカギとなる。パラータ・スターの所在をつきとめる作戦行動の暗号名。この作戦のため、ミズンの反乱軍基地からスラッシュ・タイプ三隻が発進し、各地の同志に伝令を飛ばす。そして、それを正規軍にさとられないようにするため、ミズン上空にいるリィリィ・ハッシイのパトロール隊は、ターナが囮となって、ひきつけておいた。

センサー【SENSOR】
①探知機全般をさす。
②バイオセンサーの略。

セントール【SENTORL】 地（♯38）
ミズン星の辺境地域。

ゾウさん貯金箱（♯26〜）
スレンダー・スカラの艦長席にあるゾウの形をした貯金箱。普段はコンソールの奥に隠されている。なんと、ボンバーユニットオープンスイッチであった。

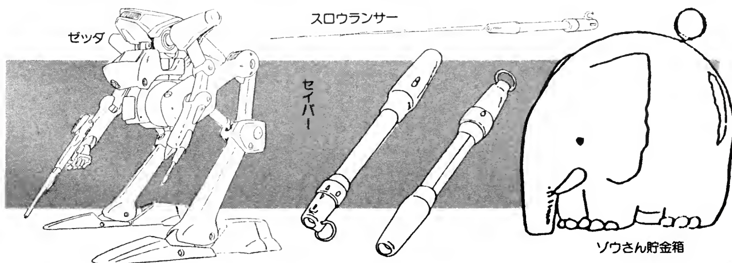
ソーラー・ジエネレーション・システム【SOLAR GENERATION SYSTEM】
ソーラー・エネルギーを源動力としたエネルギー循環システム。装甲を兼ねたソーラー・パネルから得た電力を畜電し、増幅して各パワーユニットに送る。さらにダンパーやアクチュエータ類の駆動部の機械エネルギーを電気転換し、最初の循環系に戻す。



〈H・Mにおけるエネルギー循環系図解〉

ソーラー光を受け続ける限り、エネルギーの補給は必要ないが、一定量以上のエネルギーの使用や、受光できない場所での戦闘の場合、内部バッテリーに依存するため、長時間の戦闘は不能となる。

ソーラー・ジエネレーション・ペースト【SOLAR GENERATION PASTE】



用語事典



太陽電気転換塗料のこと。ソーラー・パネルに使われる他にさまざまな分野に用いられている。

ソーラー・バインダー【SOLAR BAINDER】 H

エルガイムMk－IとMk－IIに装備されているバインダーのこと。盾の表面の黒色のソーラー・パネル部は、他のボディアーマーと比較して数倍の吸収・転換能力をもつ。そのため、独立したパワー・ユニットとしてパワー・ランチャーにエネルギーを供給している。また、非戦闘時は予備セイバーのバッテリーのチャージが行われている。オージェのラウンド・バインダーも同様のシステムだが、表面のコーティングはエルガイム以上のもので、したがってエネルギー供給量も高い。

ソーラー・パネル【SOLAR PANEL】

ジーン・プラスチック材の表面にソーラー・ジェネレーション・ペーストを塗ったもので、恒星サンズの放射線を電気変換するもので、ペンタゴナ・ワールド内の全てのエネルギーを必要とするメカニックの外装に用いられている。また、ペーストの質や塗装法により一単位面積あたりのエネルギー吸収量が異なるため、エネルギー吸収専門のものがあり、ソーラー・パネルというとむしろこちらをさすことが多い。

第一次スターダスト作戦【THE FIRST STARDUST OPERATION】（＃48）

スターダスト作戦を開始する前に小規模の流星群をスヴェートに落とし、正規軍の防御システムを知る作戦。

第一種通行証【THE・FIRST・RANK・CERTIFICATE・OF・TRANSIT】（＃5〜）

ポセイダル正規軍が発行している、武器関係（H・Mなど）の、民間輸送に対する許可証。もし、兵器などの輸送中に、正規軍から請求があり、この許可証を提示できなければ、反乱軍とみなされ攻撃される。ダバが、アマンダラ・カマンダラを追ってミズンへ行くため、民間輸送会社へ依頼しに行ったときこれを所有していなかったためことわられた。（これが、結局はトランスポーターを盗むきっかけになってしまった。）

耐Gスーツ【ANTI GRAVITY SUIT】

H・Mの操縦者が身につけるスーツ。戦闘中に生じるG（重力）を弱める作用がある。特に機動性の高いH・Mの場合、操縦者に加わるGは強くなるため、性能のよいスーツが必要である。なお、耐Gスーツは気密性をもたないため、宇宙空間での戦闘には使用されない。

耐電波塗料布（＃39）

電波を吸収、乱反射する布。レーダーをかいくぐってラマッサーに近づくため、ダバはメッシュに作らせたスペース・ボードをこの布でつつんだ。縫ったのはリリス。

ターナ【TERNA】（＃18〜）

中型戦艦で、ミズン星に置いてきぼりにされたアムがアマンダラより譲り受け、昔の盗賊仲間をかき集めて、スヴェート攻撃中のダバ達を助けるために使用したもの。それ以後、レッシィのホエールと並び、反乱軍の旗艦とされる。主砲は艦首の大口径レーザー砲で、他にミサイル発射口やS・L・Sなども装備されている。四〜六機のH・Mを収納することができる。正式名称はクォート・ターナという。

チッキン【CHICKEN】 F **（＃3〜）**

サポート・ワークス。ベースマシンとしてのワークス・タイプに比べ、陸上輸走と整備に機能が限定されている。しかし、機動性は高い。武装は前部のレーザー砲一門のみである。　全長21・9m　重量9t

ツイン・メリット・コーティング【TWIN・MERIT・COATING】 H

ジーン・プラスチックの表面に塗装されたエネルギー転換塗料で、太陽光線を電気転換したり、外部からのレーザー光線を拡散吸収し機体を守る役目をはたしたりする。ただし、外部からのレーザー光線のエネルギーがコーティングのエネルギーをオーバーした場合、本体のジーン・プラスチックも破壊されてしまう。

ディザード【D・SSERO】 H **（＃13〜）**

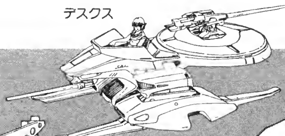
エルガイム・Mk－Iを量産ベースに再設計したB級H・M。ミズンのリトル・セイで試作機が作られ、設計図が各地の反乱軍に送られてからは多量に量産される。総合性能は正規のバルブドと同じであるというから、B級としては上位にあたる。

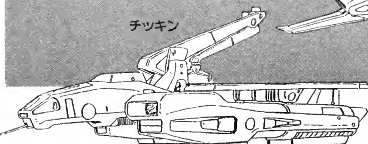
・身長20・7m、全長24・1m
・パワーランチャー×1
・ソーラー・バインダー×1（セイバー×1、ランサー×1、S・マイン×1）
・前期型フロッサーシート対応、後期型スパイラル・フローフリッカ対応

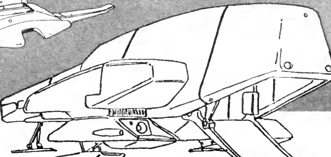
〈備考〉

Mk－Iと80％が部品を共有しているためパワー係数がB級として飛躍的に高い。このディザードを参考にしたのがアモンデュールである。

ディップス【D'PS】（＃30〜）







アマン商会所有の大型トランスポーターで反乱軍用に改造されたタイプも存在する。32話のトライデトアル軌道上での受け渡しでは、ネイ・モー・ハンのH・M隊の襲撃を受け、四隻のうちの一隻がネイ自身の手によって拿捕され、ガストガルのポセイダルのもとへ、運び屋もろとも連行された。目的は、艦を調べて製造元をわりだすためであった。

手形（＃1〜）
クレジットカードのことだが、暗証番号がなく所有者なら誰にでも換金できるので、現金がわりに扱われる。ダバ・マイロードは盗賊カロモンから百万ギーンが登録されている手形をあずかったため運命が狂ってしまったようである。

テス【THESS】（＃6〜）
ポセイダル正規軍の高速宇宙艇で、おもにパトロールに使用されている。武装としては、小型レーザー砲が二門あるだけなので戦闘には向いていない。　全長20m

テス・改【REFORMED・THESS】（＃32〜）
民間でも使用されている高速輸送艇で、S・F・Fテスの改良タイプ。機体後部に大きな貨物室が設けられている。また、ミズン上空で、アマンダラ・カマンダラの乗る、このタイプの機体が事故にあい、ターナに収容されたことがある。

デスクス【DESKS】F（＃1〜）
ウーゴル村を旅立ったダバとキャオがワークスに搭載していたフローザー・サドルで後部の円盤状のターレットが特徴である。武装として、二門のレーザー砲がある。

電波発信塗料（＃9〜）
超低周波の電波を発する粒子を含んだ塗料で、一般のセンサーでは探知できない。ベース・ロワンヌで捕えられたシエラ・リーフは、足のつめにこの塗料をぬられていたために、反乱軍のアジトまでギャブレー達を案内する形になってしまった。

テンプルシリーズH・M【TEMPLE SERIES】H
ガストガルで生産された同設計のムーバル・フレームをもつH・M。三十台生産され、B（ブラット）テンプルが二四台、残りが一台ずつ、A（アシュラ）テンプル、C（カルバリー）テンプル、D（ディスティニー）テンプル、E（エンパー）テンプル、G（ガスト）テンプル、K（クロス）テンプルとして作られた。K・テンプルはヌーベル・ディザードの原型といううわさもある。

テンプル・ナイツ【TEMPLE・KNIGHT】（＃49〜）
ガストガルのポセイダル王家につかえていた近衛騎士団のこと。第一、二次聖戦争のさいには、テンプル・シリーズと呼ばれるH・Mに乗り、王であるポセイダルの乗るオージェを守っていたといわれる。一騎当千の部隊といわれ、ペンタゴナ統一に大きく貢献したが、多くは戦場で戦死し、フル・フラットとミアン・クウ・ハウ・アッシャーなど数名が生き残った。

ドヴァ空港【DOVER・AIRPORT】地（＃26〜）
スレンダースカラが、新型H・Mを受けとるために立ち寄った、トライデトアルの軍用空港。スレンダースカラは、着陸時にオーバー・ランして、H・M格納庫に突っ込んでしまう。また、その後キャオを人質に取りながらも、新型H・Mを持ち逃げされた。

盗聴器探査カウンター（＃38）
反ポセイダルを決意したギワザは、ポセイダルの盗聴器を探しだすためにこれを使った。

盗聴システム（＃38）
ポセイダルがあらゆるポセイダル軍の艦船にセットした高性能盗聴器。正規軍の動向を完全に把握するためのもの。

ドッキング・センサー【DOCKING SENSOR】H（＃1〜）
フロッサー・シートやスパイラル・フローがH・Mのコクピットに接続するためのガイドシステムに用いられるセンサー。スパイラル・フローの場合、音声識別を兼ねている。

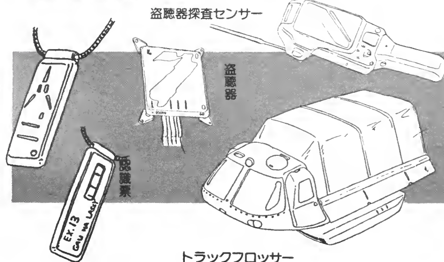
トライデトアル【PLANET・TRYDETOAL】地
恒星サンズをめぐる五つの惑星のひとつ。地球規模の惑星で土星のような輪をもつ。優秀な技術者を生み出す星として有名。

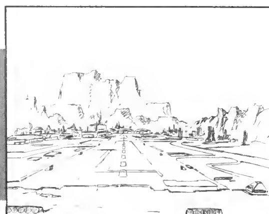
トラスト【TRAST】（＃44）
民間会社の大型輸送船。設計者がイプシオンと同じ姉妹船である（形が似ているのはそのせい）。レッシィを通常の10倍の運賃でスヴェートに密入国させた。

トラック・フロッサー【TRUCK・FLOSSOR】F（＃30〜）
反乱軍が兵員の輸送に用いている中型フロッサー。スヴェートに単艦で突入した、ダバ・マイロードのうわさを聞きつけて集まった。トライデトアル各地の反乱軍が使用した。

トリプル・フロッガー【TRIPLE FLOGER】H（＃49〜52）
セイバー・フロッガーのバリエーションでワイヤーが三本あるため、敵をつかまえやすくなっているが、エネルギー消費量は三倍である。






ドヴァ宇宙港

認識票【IDENTIFICATION・TAG】（＃8〜）
ポセイダル正規軍の兵士が、必ず所有している。階級に応じた身分証明標識で、通常は首にかけている。レッシィは、ロージナの廃墟で、パトロールをする兵士を追い払うため、EX－13の認識票を使用した。

ヌーベル・ディザード【NOVEL・D・SSERO】H（＃34〜）
A級H・M。サートスター製のH・Mで、アマンダラ（実はポセイダル）用としてK（クロス）テンプルをもとにして作られたものである。両肩にはパワーランチャー付のバインダーを装備しており、飛行形態への変形機能も持つ。また、コクピットはフリッカ対応型へ改造されている。
・全長24・5m
・ラウンド・バインダー×2
（パワーランチャー×2）
セイバー×2

ノーバ【NOVA】（＃30〜）
アマン商会のトランスポーターを改造したディップス・タイプの戦艦のコード・ネーム。アマンダラ・カマンダラが反乱軍のために用いたもので、火力はあまり強くないが、もとがトランスポーターだったため、H・Mなど兵器の輸送能力にすぐれている。トライデトアルでは、ニコ・マスコがダバ・マイロードのグループの活躍を聞き、この戦艦を持ってグループに参入して来た。

ノーブル（＃7〜）
グーガー・タイプの大型フロッサーで、ミズン星反乱軍のステラ・コバーンのグループで旗艦を務めた。

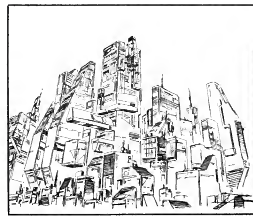
ハ行

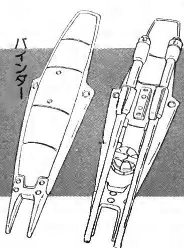
バイオセンサー【BIOSENSOR】
バイオリレーション・システムの応用例で生体エネルギーの転送に用いられる精神波を用いて精神同調をおこない、互いの行動や思考を知覚できるというもの。通常は二者をコントロール側とセンサー側に分け、センサー例を洗脳してコントロール側に同調させ、センサー側は知覚されていることを意識しないようになっている。このシステムの欠点は自意識がめざめると、同調が崩れ、リレーションが断たれてしまうことで、しかも、この期間が長いと二重人格化して、完全な精神障害を引き起す。

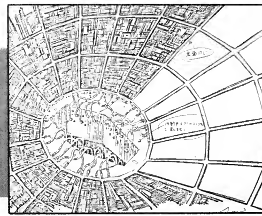
バイオセンサー・バックアップシステム【BIOSENSOR BACKUP SYSTEM】
バイオリレーションに必要な生体エネルギーを吸収、増幅、放射という制御を行うもので、スヴェート全体が補助機能を果している。この中枢コントロールにラキシスというシンボライズド・コンピュータが用いられている。

バイオリレーション・エネルギー【BIORELATION ENRGY】
オルドナ・ポセイダルが開発した人間の生体エネルギーの制御法。もともと不老不死の研究として進めていたものだが、生体エネルギーによる細胞活性化も一時的なもので、常時エネルギーの供給を受けていないともとの肉体に戻ってしまうという欠点があった。研究を続けた結果、生体エネルギーと精神波の相関関係に目を付け、生体エネルギーは同一の精神波長を持つ肉体ならば距離にかかわりなく互いに伝達しえることを発見した。これを人工的に制御したものがバイオリレーション・システムである。さらにこのエネルギーは物理エネルギーに転換した場合、ソーラーエネルギー以上のポテンシャル（潜在的）パワーを秘めていることが判り、オリジナル・オージェのバックアップシステムとしてメカニズムを完成させた。

バイオリレーション・システム【BIORELATION SYSTEM】
オルドナ・ポセイダルが開発した人間の生体エネルギーを吸収し、さまざまな目的のために利用する機構である。スヴェート住民の生体エネルギーを吸収し、それをポセイダル像の地下のコントロールルームに集約し、リレーションを介してアマンダラ・カマンダラ、ポセイダルの影武者であるミアン・クウ・ハウ・アッシャー、フル・フラットに常時そのエネルギーを送り続けている。このエネルギーは人体の細胞活性化を促進し、肉体的老化を防ぐ役割がある。このエネルギー転送は一種のテレパシーに似た精神波によって行われるため、ジャマーに干渉されず到達する。この性質を利用したのがバイオセンサーと呼ばれるシステムである。あらかじめ洗脳し、いつわりの記憶を植え付け生体エネルギーの精神波により、マインド・コントロールするのだ。この働きによりセンサー化された人間の五感はコントロールする側に伝達される。例えばクワサン・オリビーはオルドナ・ポセイダル（ミアン）によりスヴェートから制御されるが、同時にポセイダルもまたホエールのアマンダラからコントロールを受けているのだ。また、若返り以外にもこの生体エネルギーは物理エネルギーに転換することで、膨大なパワーとなる。そのひとつ


バグザール


バインダー


バイオセンサー

オリジナル・オージェを動かしたもので、もうひとつが、スヴェートを浮遊させたパワーである。このシステムを開発したポセイダル（アマンダラ）の目的は自己の生命を永遠にすることと、自分の影武者を立て安全にペンタゴナ・ワールドを支配するためであったと思われるが、反乱軍のスヴェート攻撃と、ミアンのマインド・コントロールが失われたことでその野望はついえてしまった。

バインダー【BINDER】 H

H・M用携帯火器を固定する楯のこと。特に強化されたツイン・メリット・コーティングされている。エルガイム専用形の他、A・テンプルのサーカス・バインダー、オージェのラウンドバインダーなどがある。

バクザール【BAC・ZAL】 地（♯25～）

ポセイダル正規軍の駐屯基地のあるトライデトアルの大都市で、かつてのアムの恋人チェック・ソーロックが警備隊長を務めている。この都市の郊外の洞窟にターナをかくしていた。食料品の買い出しにでかけたアムとリリスは、警備軍に追いまわされ、ゴミ箱の中へ隠れていた所を、チェックに助けられる。

バクザール空港 地（♯25）

トライデトアルのバクザールにある正規軍専用空港。ターナを捜すネイたちが立ち寄り、囮のアムをサージェ・オーパスで追跡していた。

ハーケン【HEARKEN】（♯22～）

リョクレイやクワサンの首すじに打ち込まれている8発のハーケンは、ポセイダルの精神コントロールを受けるアンテナのようなもので、今のところ取りはずす手段はない。

バスターランチャー【BUSTER・LAUNCHER】 H（♯25～）

エイプの主砲クラスのパワーランチャーで制御部や動力部にH・M自体を使用する。その威力はすさまじく、一撃で戦艦を破壊することもできる。ただし、エネルギーの過剰供給のため、アダプターは三チャンネルを必要とし、一度の戦闘では二回の発射が限度である。また、性能的に不安定な所もありチューニングが悪いとバックファイアー（あらかじめたくわえたエネルギーが逆流すること）をおこすこともある。セレクターによって、バスター砲、レーザー砲ブラスターと使いわけることが可能で、バスター砲以外でもパワーランチャーの二～五倍の威力がある。一般的にはA級H・M用であるが、アダプターのチャンネル数さえ合えば、B級H・Mでも使用できる。

バッシュ【BAT-SHU】 H（♯16～）

A級H・M。外観からは重装備のイメージを受けるが、ボディーはオールラバー製でアーマーが比較的少ない。従ってエネルギーのロスが押さえられ軽快に動くことができるので、白兵戦においてすぐれた機能を発揮する。ムーバル・フレームはエルガイムMk－Iとほぼ同じものを使用しているが、出力や脚部のフロッサーはエルガイムを上回る。攻撃力の大きいH・Mといえよう。

・身長 20・7m 全長 21・2m
重量 20・0t
・セイバー×2 ・スロウランサー×12
バインダー ミサイル×24
Sマイン×2
エネルギーボンバー×5

〈備考〉
十数体のバッシュが存在するが、これは、オルドナ・ポセイダルの設計によるレプリカが製造されているためであり、本物は一体しか存在しないがすでに現存しない。

パードナ【PERDONER】 H（♯24～）

B級H・M。本体より有線コントロールで子パードナを操縦するため、ジャマーが厚くても目標に対して無人機による攻撃が可能である。ただし、子パードナの操縦にはかなりの技術を要する。

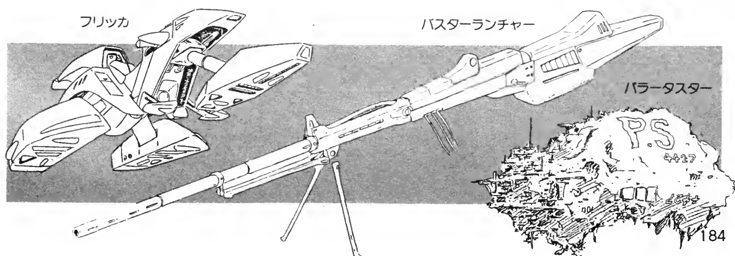
・全長 11・8m 体高 12・6m
・パワーランチャー×1
セイバー×1
子パードナ×6

バドル・スピアー【PADLL・SPEAR】 H（♯50～）

ガイラム専用の携帯兵器で、ブラッド・テンプルに対抗するために開発された。グルーンのロング・スピアとは異なり、パワー・ランチャーのエネルギーは、H・M本体より供給されている。

パラータ・スター【PALARTA・STAR】 地（♯20～）

アステロイド・ベルト内の鉱物資源を採掘する鉱山惑星。（物語中に登場したものは識別コード、P・S427である。）その歴史は古く、ペンタゴナ開発初期から操業は続けられていた。そのため旧式の原子炉が設置されており、太陽発電に切り換えられている現在でも、その一部に放射性物質の残っているものもある。P・S内部では今でも発掘が続けられていて、各鉱区の作業員達は塵芥による呼吸器障害などの病気に悩まされていた。P・Sは基本的には民間企業だが、中央政府の直轄の管理を受けており、EX13の一人、マフ・マクトミンが、責任者である。現場の管理はボン・サーンスが行っていたが、作業員達の反乱により死亡し、P・S全体が反乱軍に所属するようになった。そのため、正規軍からの攻撃を受けることになり、ギワザ軍の総攻撃の際にまだ機能を保っていた地下原子炉、アルファー・ハートが暴走した。この一件は、リリスとキャオの活躍により事無きを得て、その後のスターダスト計画ではダバ・マイ



用語事典

ロードの要請にこたえてあり余るエネルギーを供出し、作戦自体の中核をなした。

バルブド【BAL-BUO】 H（#13〜）
B級H・M。よりA級に近い性能をもっており近衛艦隊などに配備されている。
・全長18・9m　重量28・7t
・パワーランチャー×1　セイバー×2

バルブド・カイゼス【BAL-BUO-KAYZESS】 H（#46〜）
B級H・M。補給基地メッタの少女隊専用機。脚部のフロッサーを取りはずして、宇宙装備をほどこしてある、いわゆるS・バルブドとでも呼ぶべき代物である。外観上の差異としては、頭と胸の形状や腕のシールド、そして脚部のスタビライザーが取りはずされていることぐらいであるが、なによりもそのはでなマーキングは少女隊のイメージをよく表わしているように思う。
・身長　18・9m
・パワーランチャー×2
セイバー×1　・シールド×1

パワーランチャー【POWER LANCHER】 H
大型レーザー砲のこと。H・Mやマシンナリィ、フロッサーマシンなどに装備されている。

ハンド・メイド【HAND MAOE】（#1・2）
B級H・Mやマシンナリィーなどの大量生産品の場合、民間に払いさげられることが多く、ムーバル・フレームなどの部品も入手しやすい。それで外装を変えたオリジナルH・Mを作り、いきがっている地方出身の武芸者などが多かったそうである。

ハンド・ランチャー【HAND LAUNCHER】
小型のパワー・ランチャーでH・Mのセイバーラックに内蔵されている。エルガイムMk―IとMk―IIが主に使用した。

反乱軍（#1〜）
ペンタゴ連合のポセイダル政権に反対するゲリラグループの総称。正規軍の弾圧に対し武力闘争で民衆の意見を認めさせようとする。中央から離れたミズン、コアムなどで運動が活発だが、正規軍の分断作戦や各グループの運動方針の不一致などにより、ペンタゴナ全体の統一勢力に成り得ていない。諸問題を整理すると根本原因は、諸民族の壁を越えた指導者の不在が掲げられる。王朝過制に慣れたペンタゴナの民衆には、過去の繁栄をもたらせてくれた王族が最も適任者であるが、その王族もポセイダルの手により徹底的に根絶しされていたのだ。三九八〇年のミズンにおけるカモン・マイロードの打倒ポセイダル宣言は、一夜のうちに広まり、反乱軍統一のきっかけとなった。続いて行われたスターダスト作戦により、勢いを得た反乱軍は同年、スヴエートを陥落させポセイダル政権を崩壊させた。

B級ヘビーメタル【B CLASS HEAVY METAL】 H
純粋H・Mの設計をベースに簡略化した準H・Mの総称。マシンナリィ系戦闘兵器の性能向上により、人間以外のものもこの範囲に含まれることになる。

ヒップ・バンカー【HIP BUNKER】
ダバの耐Gスーツのオプションパーツのひとつ。サバイバルキットでレーダー、通信機、スコープなどとして使用できる。一・三キロと軽い。

ビュイ【VIEWY】 H（#27〜）
エルガイム・Mk―II用スパイラル・フロー。キャオがMk―Iを360°全周囲スクリーン・コクピット化しようと以前から製作していたもので、アモンデュールをMk―IIに改造するさいに完成させた。以前のスパイラル・フロー、フリッカと比べ本体にモニターがない点と、コクピット自体が広いため、特別な変形機構が不要となり、機体の構造はきわめて単純である。操縦系が同一なためMk―Iでも使用可能だが、コクピット正面の予備スクリーンでしか、外部をモニターできないため不便となる。

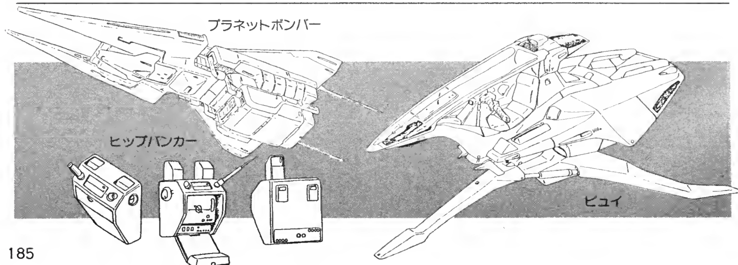
ファ【FA】 地
ペンタゴナ太陽系にある五個の惑星のひとつ。月ぐらいのサイズしかなく、地中の空洞部に植民されている。七八〇年前に崩壊し小惑星群と化したカラミティの衛星であった。

ブースター【BOOSTER】（#48）
スターダスト作戦において直径百〜二百m程度の大隕石を落とすために使われた動力装置。直径二十mもある噴射口をもっている。

ブラッド・テンプル【B-LOOD TEMPLE】 H（#53〜）
第一、二次聖戦争時代にポセイダル軍で活躍した大型H・M。テンプル・ナイツ専用のため、レプリカは登場しなかったが、Mk―IIの頭部やオリジナル・オージェの右肩のバインダーなどに部品が流用されている。
全長・重量不明
武装・フレームランチャー他不明

プラネット・ボンバー【PLANET BONBER】
ガストガル軍の保有する衛星斬道上からの対地掃討爆撃艦。通常は駆逐艦として機能する。対地ミサイルそのものをさすこともある。

フリッカ【FRITKA】 H（#1〜）
エルガイム・Mk―I用スパイラル・フロー。ダバ・ハッサーが開発した耐Gシステム用に製作されたもので、フロッサー・マシンが変形してH・M用のシートとなる。のちにディザードやヌーベル・ディザードにも搭載されることになる。シート上部から搭乗者を上からおおうようにモニターが出て、H・Mの頭部センサーからの映像が



投影される。さらにターゲット・マークや各種情報はヘルメットのバイザーに直接投影されるのだ。

プリャーモ【PREYAMO】地（#2〜）
コアムの主都、キトーに近い地方都市で、巨大な断層があり、上部は高級市街に、下部はスラム街になっていて、その貧富の差は激しい。アマン銀行の支店があり、ダバ達は手形を届けに来た。また、リリスとの出会いもこの都市である。

プリャーモ・ベース【PREYAMO BASE】
コアム星プリャーモに存在する正規軍ベース。チャイ・チャーが司令官。ダバたちはここからトランスポーターを奪ってミズンに向かったというアマンダラを追った。ガウ・ハ・レッシィも、ここにいたがためにダバたちにかかわりあうようになった。

フロッサー【FLOSSER】（フロッサー・エンジン【FLOSSER ENGINE】とフロッサー・マシン【FLOSSER MACHINE】の省略語）

フロッサー・エンジン【FLOSSOR ENGINE】
コアユニットから生じる人工重力波を増幅する装置。一種の反重力機関とも言えるが不完全なものであり、大地に対しての反発力を生み出し、フローティングしている。コアユニットの種類と増幅するための電力に応じ、出力に差が生まれる。ペンタゴナ・ワールドで用いられている大半の乗り物はこのエンジンを使用している。

フロッサー・シート【FLOSSOR・SEAT】H
H・M用の操縦席で、搭乗者を外部からコクピットに乗り込ませるため、フロッサーが装備されている。これを発展させたのがスパイラル・フロー・シートである。ディザード以外はA級H・Mの共通として用いられていた。音声入力ではないが、ドッキング・センサーが内蔵されていた。

フロッサー・マシン【FLOSSER・MACHINE】F
フロッサー・エンジンを搭載するマシンの総称だが、分類上H・Mや宇宙船、飛行機などを除いた陸上車両を示すことが多い。

プローラー【PLOLER】H（#27〜）
エルガイム・MkーIIがランド・ブースター体型となった状態の名称。関接がロックされエネルギーが集中されるためと、飛行形状の変化で大気圏内では少なからず速力は向上する。また、ランド・ブースターとして他のH・Mを運搬可能となる。この形態での火器は右腕に装備されたバスター・ランチャーだが、エネルギー・チューブを接続していないのでパワー・ランチャーとしてしか使えない（ただし、それでも通常のパワー・ランチャーの三倍の威力がある）。ソーラー・バインダーに三門、パワー・ランチャーを装備できるが、番組では使用しなかった。

ベアズ【BEAS】H（#17〜）
B級H・M。サート・スター製のH・Mで同星の自警軍専用機として使用されている。隕石群内での戦闘を念頭において設計されており、巨大なしっぽ状のスタビライザー、アステロイド・ベルト専用のオートレイバーや航法センサーなどを装備している。

・身長　23・0m
全長　40・7m
・パワーランチャー×2
ミサイル×30

〈備考〉
パワーランチャーは、未使用時には両腕のカバーに収納することができる。

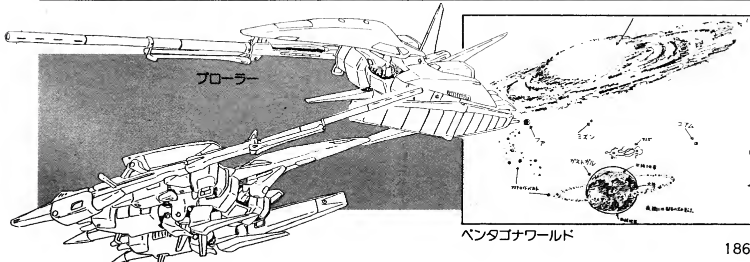
ヘッドハンター【HEAD・HUNTER】（#17〜）
反乱軍狩りにおいて、最も功績のあった者に贈られる称号。ポセイダル正規軍においては、上級の将校はほとんど文官で占められており、学歴や金、家柄などが重んじられているため、武力による出世の可能性はほとんどない。そのため、この制度が生まれることとなったのである。指揮官がヘッドハンターになった場合、その隊の兵士の給料は三倍になるといったような特権がある。ギワザの秘書官のさそいをけって、前線従事を望んだギャブレーは、スレンダースカラ遊撃隊を預けられ、ヘッドハンターを目指した。

ヘッドライナー【HEAD LINER】
A級以上のH・Mパイロットをいう。

ペティ・エリア【PETTY AREA】地（#11）
ミズン星の小村。反乱軍により、ポセイダル軍は撤退したものの戦闘を村内でおこなわれるのを嫌う村民は反乱軍に出ていってもらいたがっている。

ヘビーメタル【HEAVY METAL】H
広義的にはペンタゴナ・ワールドで用いられている有人操縦の戦闘ロボットの総称。構造や材質などによりA級とB級に分類できる。狭義的には、有機系コンピュータ・システムを操縦系に用い、ムーバル・フレームによってボディを構成される人型の戦闘ロボットとなる。

〈H・Mの歴史〉
H・Mの登場は古く、H・M同士の最大の戦闘が行われた第一・二次聖戦よりさらに何千年もさかのぼるらしい。ガストガル、トライデトアル、ミズン、コアム、カラミティといった各惑星でそれぞれH・Mが作られていたが、当時のH・Mは兵器としてよりも、王族、貴族、豪商の富や権力を示す象徴として作られたといわれる。材質は粋をつくされ、単品生産を前提とした設計はムーバル・フレームは共通のものがあっても、外装は一体一体異ったものであった。H・Mが兵器として活躍したのは第一、二次聖戦のころで、シンボライズド・コンピューターの搭載による操縦系の進歩と、



ペンタゴナワールド

用語事典

バスター・ランチャーと呼ばれる戦艦級の火器の使用が可能となったためであった。ガストガルのオージェやブラッド・テンプルを始めとするテンプル・シリーズH・Mは、今日までその強さが知られる伝説的H・Mである。だが、もともと単品生産が基本であるため量産が困難であり、有機系精密パーツをなくし、構造を簡略化した準H・Mを代用品として投入していった。また純H・Mも次々に戦いで破壊されたため、オリジナルを保存し、レプリカ（復製品）を製造していったため、部品の劣化が進み、第二次聖戦終了時には、完全な純正H・Mの姿はどこにもなかった。ペンタゴ連合樹立後、ポセイダル正規軍の整備が行われたのちは、H・Mとはアローンやグライアのような準H・Mを示すようになってしまった。そしてH・Mのレプリカ生産がふたたび始まったのであった。ポセイダル正規軍は、過去において大規模な戦闘があった場所や宙域でスクラップと化したH・Mを回収し、保存されていたオリジナルをもとに再生作業に入ったのである。パーツの多くは新しく作り直さねばならなかったが、準H・Mとは比較にならない高性能機が生れた。そして準H・MをB級と呼び、レプリカをA級と呼び差別化したのであった。だが、皮肉にもA級H・Mの実戦投入の一番手は正規軍ではなく、コアムの辺境地ウーゴル村で作られたハンドメイド品のエルガイムであった。その後もA級H・Mの生産は続けられたが、マシンナリィ系の戦闘兵器の進歩により、能力的にB級H・Mと同等かそれ以上になるにつれH・Mの概念も薄れてきつつある。

ヘルミーネ【HELLMEENE】Ⓗ（♯42）
クワサン・オリビーの専用機、カルバリー・テンプルのコードネーム。

ペンタゴナ・ワールド【PENTAGONA WARLD】
二重太陽である恒星サンズを中心に同心円上の軌道を回る、ガストガル、トライデトアル、ミズン、コアム、ファという五個の惑星全体をさす。ファを除いて、各惑星は人類に居住可能である。そしてそれぞれに王朝が栄えていたが、宇宙船による惑星間の運航が行われるようになると、積荷をねらう海賊などが横行し、民間の運輸会社も武装するようになり、宇宙の治安は非常に悪かった。そしてガストガル王朝のオルドナ・ポセイダルが各惑星の王朝制を廃し、共和民主制に移行するというペンタゴ連合構想を提唱するが、他星王朝の支持が得られるわけもなく、第一次聖戦が起きるのであった。

ペンタゴ連合【THE PENTAGO ALLIED】
オルドナ・ポセイダルによって設立されたペンタゴナ・ワールド統一政権。この連合樹立のために第一、二次聖戦争が起き、各惑星はガストガルのポセイダル軍に屈服し連合に加盟していった。最後まで抵抗したのがミズン星のヤーマン王朝であったが、三九六二年に統治者のカモン・ワーラーⅤ世の死によって完全統一は達成された。各惑星の王族、貴族はことごとくその身分を剝奪され、民主国家制に移行されたが、戦後の治安維持を名目に、ガストガル軍が駐留し、国政の大半はガストガル政府から出されていた。そして駐留軍が連合軍と名称を変えてもその実態に変りはなかった。そのため、旧王族、貴族を中心に反ポセイダル運動が起き、武力闘争化するや、反乱軍として活動が開始された。その背景には連合樹立前には無税であった民間の惑星間運輸が課税対象となったことや、正規軍のパトロール艦が臨検と称して、積荷の一部を没収したり、不当な通行税を徴収していくなどのトラブルが相つぎ、民間企業が影から反乱軍に資金援助をしていたということがあげられる。そして三九八〇年、ミズン星でカモン・ワーラーⅤ世の忘れ形見、カモン・マイロードの打討ポセイダル宣言により、トライデトアル、コアム、ミズンの反乱軍が集結し、同年にはガストガルの首都スヴェートは陥落。ポセイダル独裁政権と呼ばれたペンタゴ連合は崩壊した。連合国家制は反乱軍の方針で民主化に移行されようとしたが、困難な戦後処理問題を多く携え、新政権の前途は多難といえる。

ペンタゴ連合軍【THE PENTAGO ALLIED FORCES】
ペンタゴ連合樹立、三九六五年に結成されたペンタゴナ・ワールド統一軍隊。ガストガル以外の各惑星の旧軍隊は解体され、新たに現地から兵員を徴用した。上級士官は旧ガストガル軍出身者でしめられている。平時の任務としては、各惑星及び周辺宙域の治安維持、密貿易の徴発などである。

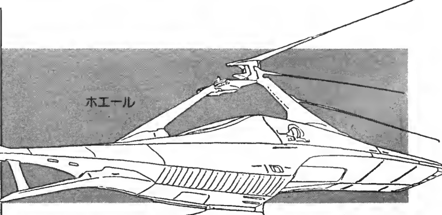
ホエール【WHELE】（♯8〜）
サートスター製のソーラーヨット。下部に強力なフロッサー・システムを装備している。オリジナルのホエールはアマンダラの所有（これにはバイオ・センサーのコントロール装置が搭載されていた）であるが、他にレッシィやフル・フラットも同タイプの艦を使用していた。

ポセイダル軍→正規軍
反乱軍がペンタゴ連合軍（正規軍）を指していう俗称。ポセイダル政権に対しての反発がそう言わしめるのである。

ホロ・ガード【HORO-GUARD】→ホロスコープ・ガードの略語

ホロスコープ・ガード【HOROSCOPE-GUARD】（♯8〜）
立体映像を展開することにより、地上における基地や戦艦など隠すシステムで、地形


マレーニキ


ホエール

の複雑な所や、ジャマーの厚い所で特に有効な擬装手段である。それを察知するには地形図をもとにトレスする以外に方法はない。

マ行

マグネット・アンカー【MAGNET ANCHOR】
戦艦が地上に着陸する際、地面との間にマグネットフィールドを形成してショックを極力抑えながら静止させるシステムでかなりのパワーがあり、逆推進ロケットを使用するよりも有効な着陸手段である。ランディングギアの周辺に装備されている。又同原理を利用したものにレーザーネットがある。

マシンナリイ【MACHINNARY】(#1〜)
B級H・Mとフロッサー・マシンの中間にあたる戦闘マシン。ムーバル・フレームを用いてはないが作業用マニュピユレーターなどの動きはよい。安定性のよいフロッサー・システムを持ち、地上での機動力はB級H・Mを上回るため、小規模な部隊では広く用いられている。基本的には、ゼッタとリスタの二種類がある。

マニュアル・レイバー【MANUAL・LAYBER】(#18〜)
H・Mや宇宙船を手動で操縦する方式のことで、これは、基本操作がオートレイバー化されていて、アステロイド帯のような特殊な空域ではほとんど役に立たなくなってしまう、これらのメカニックをフォローするために必要となるものである。

マレーニキ【MALAYNIKI】地 (#23〜)
トライデアルの一都市で、住民のすべてが反ポセイダルという町である。地下水道を、反乱軍の集会所や、マシンナリィーの格納庫として使用している。この町のリーダー格であるモーブ達は、市街に降りたターナを、"ゼネラル・クロソ"の船とかんちがいして、ダバ達と接触した。

ミズラ【MIZRAH】(#38)
ギワザ軍プラネットボンバー・レイ級の戦艦。リィリィの勝手な作戦の犠牲となりターナに特攻をかけられ撃沈させられた。

ミズン【PLANET・MIZUN】地
恒星サンズをめぐる五つの惑星のひとつ。楕円型の惑星だが重力は他と変りないようである。ヤーマン王朝がかつて栄えていたが、第二次聖戦争で首都ロージナは廃墟と化し、現在はカナールに新首都が建設されている。

ミズン・アローン【MIZUN・ALLONE】H (#7〜)
B級M・M。その名のごとくミズン星で一番多く使用されているタイプ。両腕が極端に細くなっていて、その分余ったエネルギーを肩のパワーランチャーに使用する。また背中にフロッサーシステムを装備していて、脚部の形状にも弱冠違いが見られる。
・身長 15・7m
　重量 15・7t
・パワーランチャー×2

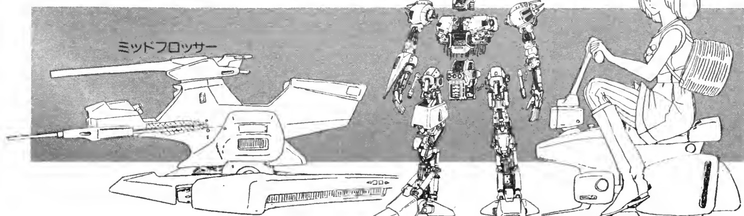
ミズン戦役(#18)
第二次聖戦争のことで、ポセイダルのガストガル軍がペンタゴナ統一に最後まで反対するミズン星に対し侵攻を開始した。この戦いでは、ミズン軍はSLSを大規模に使用し、ガストガル軍の宇宙船を迎撃するがポセイダルはプラネット・ボンバーを投入し、ミズン全土を焼土と化した。ミズン軍のH・M、ガイラムは降下部隊の迎撃にあたるが、先陣を切って進む、テンプル・ナイツのH・M隊に押され、首都ロージナは陥落し、カモン・ワーラーV世を始め、王族、貴族からヤーマン族の一般市民にいたるまで徹底的に処刑、殺害された。王族、貴族のごく一部は他星に逃げのびたが、ポセイダルの追求はきびしく、ヤーマン狩りは続けられていった。

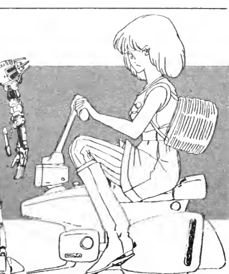
ミッドフロッサー【MIO FLOSSOR】
ふたり乗りの中型フロッサー、ドライバー席とガンナー席があり、小型レーザー二門と対H・M用レーザーランチャー一門を装備している。高さ四m。

ミニ【MINI】(#17〜)
ほとんど"おかいもの"用おばはんバイクにしか見えない小型フロッサーマシン。アムがレッシィにだまされて、一人寂しくグルグルを去る時に乗って行った。

ミノト宇宙港【MINOTO・SPACE・PORT】地 (#11〜)
ミズンの小規模な軍港で、アマンダラ・カマンダラが武器の引き渡し港に指定した。反乱軍側は、アムをリーダーとして、指定の宇宙船へ潜入するが、すでにその船は、ギャブレーの臨検を受けていて、乗員がギャブレーの手下に入れ代っていて、アムとレッシィは捕えられてしまう。

ミラリイ【MIRARI】
ペンタゴナ・ワールドの先住民族。テレパシーを用い相互理解に努め、不変の博愛主義を完遂する。なんらかの理由で文明は崩壊し(核爆発が原因らしいが?)、現在ではコアムの北極周辺に多少棲息するらしい。有翼人と呼ばれるとうり、背中に妖精のような羽をもつ小人族である。ファの母星であった惑星カラミティ(現在はアステロイドと化している)はこの種族の主棲息地であったらしい。





用語事典

ムーバル・フレーム【MORVAL FLAME】Ⓗ（**ムーバブル・フレーム【MORVABL FLAME】**が㊣）
H・Mの外装を取り外した部分（人間でいうと内臓や骨格のこと）で、これによって性能は大きく左右される。その動力構造は外部から得たエネルギーをジェネレーター（発電機）を介してパワーユニットに送り、ふたたびジェネレーターへもどして動力を得るという形式をとっており、一度出力をかけると無限に活動が可能である。また各関節への指示は、リキッド・シーリングされたマルチ・ケーブル（神経にあたるもの）によって伝えられ、作動は油圧ダンパー（つまり筋肉）によって行う。この情報伝達系には有機系とケイ素系の二種類があり、それによってフレームのA級・B級が決定される。（ただし、B級H・Mは、装甲の一部をフレームとして使用しており正式な意味でのフレームとはいいがたい。）サイズでは大別するとL（ラージ）、M（ミディアム）、S（スモール）の三種類があり、M型がもっとも一般的に使用されている。

メッタ【METTAHON】地（#33〜）
ポセイダル正規軍の補給基地でアステロイド斬道に位置する。反乱を決めたギワザはこの基地を本拠地と定める。スヴェート攻撃のさいには切りふだとしてこのメッタをスヴェートに直撃させようとするが、バイオリレーション・パワーによって回避されてしまう。

モーレ・タウン【MOLE・TOWN】地（#2）
コアムの辺境に位置する、ギャブレット・ギャブレーの出身地で、ミラリィは、悪い星を呼ぶ悪魔の手先であるという言い伝えがある。ギャブレーは、この地方役員登用試験で制度始まっていらいの満点を取ったが、立身出世のため、中央へと旅立つ。（この途中で、ダバ達の朝食へ手を出したため、彼の運命は大きく変わることになる。）

ヤ行



ヤーマン王朝
ミズン星を支配したヤーマン族による王朝名。ガストガルのポセイダル王朝に並ぶ国力を保有してきた。ミズン戦役でポセイダル軍によって滅されるが、その当時の王、カモン・ワーラーV世の嫡子、カモン・マイロードが脱出しており、王朝の復活は可能。

ヤーマン狩り
ヤーマン根絶し作戦の一部で、ミズン戦役後、各地に逃亡したヤーマン族を探し出し捕えることで、特別の部隊が従事している。商船イプシオンはそのためのスパイ船で、正規航路からはずれた宇宙船を調べている。ヤーマン族は身体特徴として他の民族と差はないので、言葉のなまりや、ヤーマン族特有の風俗、習慣などから探し出す。特に技術大系に特徴があったため、他の民族の人々は嫌疑がかかることを恐れ、ヤーマン系の設計メカニックを作らないようにしている。

ヤーマン族
ミズン星にかつて栄えた民族。団結心が強く勤勉な一族として伝えられるが、ミズン戦役で、オルドナ・ポセイダルによって滅されてしまう。現在のミズンは他の大陸にいた別の民族と他の惑星からの移住者によってしめられている。ミズン戦役のさいにポセイダル軍の追求の手をのがれて逃亡した人間を追うヤーマン狩りが現在でも行われている。

ヤーマン根絶し作戦
ポセイダルが反抗した民族に対しての見せしめとして、ヤーマン族を絶滅させるための作戦。ミズン戦役ではミズン全域、特に旧首都ロジーナ周辺をプラネット・ボンバーで焼土に変え、生き残った人々をも一人一人殺害していった。ポセイダルがなぜ、これだけ徹底してヤーマン族を滅ぼそうとしたか？ 最終回ではポセイダル自らの口から、私怨として語られた。聖戦以前にヤーマン族がガストガルに進行した事実があるのであろうか？ 全ては謎とされている。

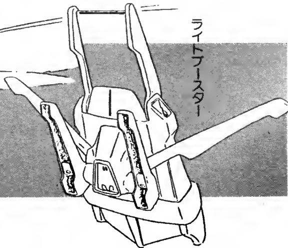
有翼人（#2〜）→ミラリィ

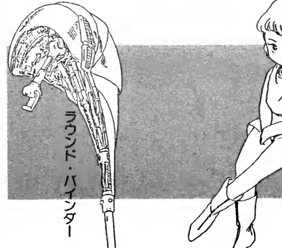
ラ行



ライト・ブースター【RIGHT・BOOSTER】Ⓗ
H・M用のサポート・マシンで、単体でソーラー・ジェネレーション・システム（太陽エネルギー電気転換システム）を持つ。これを装備することによって、H・Mは航続距離は短いながらも単独飛行が可能となり、空中での機動力は、スーパー・フロッサー装備機に匹適するほどのものとなる。また、折りたたむことが可能で、格納に広い場所を必要としない。

ラウンド・バインダー【ROUND・BINDER】Ⓗ
手や肩とは異なった動きができる（つまり手とは別の方向への攻撃が可能な）バインダー。オージェ・タイプのものは、金とプラチナでできており、ポセイダルの財力を見せつけている。





武装としてはパワー・ランチャーを持ち、さらにスロウ・ランサーなど多数のセイバー類の収納が可能である。また、ヌーベル・ディザード・タイプのものは、ランド・ブースターへの変形システムの一環で、武装はパワー・ランチャーのみである。

ラキシスの心臓（♯54～）
スヴェートのポセイダル像内に設置されているバイオリレーション・システムの中枢コンピュータの端末がある部屋。シンボライズド・コンピュータ、ラキシスへの命令には登録された人間の生体反応が必要で、ポセイダル（ミアン）はラキシスの祭壇に座わり、ポセイダル（アマンダラ）へのバイオリレーション・エネルギーの供給を切り、自分のエネルギーの全てを用いて、スヴェートを浮遊させ、落下するメッタの直撃を回避した。だが生体エネルギーの全てを消失したポセイダルの肉体は灰となって消滅した。

ラバー・コーティング【RUBBER・COATING】 [H]
フレームとの間の高圧縮された液体を、包みこむように覆ったラバー製のコーティングのこと。H・Mの、胴（ラバー・ボディー）や手首など柔軟性が必要とされる所に用いられる。ただし、破損しやすく、ツイン・メリット・コーティングがほどこしにくいという欠点を持つ。

ラマッサー【LAMATHER】（♯38～40）
ギワザの艦、サージェ・オーパスのコードネーム。

ランサー【LANCER】 [H]
H・Mの使用するレーザー剣の一種。システムはセイバーと同じだがグリップの両側から光線が出るようになっている。

ランタム・スレート【RANOAM・SREAT】 [H]
H・Mの大型フロッサー・システムの安定板で、主として、着地するときや滑空するときに機体を安定させる役目をはたす。大体は脚部（ふくらはぎ）に装備されていてエルガイムやバッシュ、アシュラ・テンプルのように側面へ開くものと、オージェやディザードのように後方へ開くものがある。また、グルーンのように肩へ装備したものも存在する。

ランド・ブースター【RANO・BOOSTAR】 [H]
H・Mの長距離輸送のために開発されたサポート・マシンで、フロッサー・システムを装備しているため、浮上や空中静止も可能である。H・Mとの連携で地上戦に威力を発揮するが、単体での空中戦闘能力も優れていて、正規軍で使用されているテス・タイプよりも、広く運用されている。

リスタ【LISTA】（♯1～）
マシンナリィ。ゼッタよりフレームの構造が複雑で、細かい動きが可能となる。またマニピュレーターはエアーによって可動する。オプションとして腕にレーザー兵器を装備することができる。
全長　9・8m　脚部縮小時　6・3m
重量　7・88t

リトル・フロッサー【LITTLE・FLOSSOR】 [F]
民間にもっとも幅広く普及している一人乗りの小型フロッサー・マシンで高速走行が可能。ダバ・マイロードにひかれ、リーリングループをぬけたアムが、ワークスを追いかける時に使用した。

リバース・ボマー【REVFRS BOMBER】 [H]（♯22～）
A・テンプル用兵器。高温の金属球を高速で打ち出し、敵にダメージを与える。原始的だがバリアーの影響をまったく受けないことと、ツイン・メリット・コーティングのボディを傷付けるため、ソーラー・エネルギー補給を断つという効果がある。

リモート・バインダー【REMOTE BINDER】 [H]（♯42）
アトールのウィンゲル・バインダーのこと。

ロアンヌ・ベース【ROANNE BASE】 [地]（♯8、9）
ミズン星の正規軍基地。警備隊に捕えられたシェラ・リーフを助けるため、ダバたちが女装して潜入する。

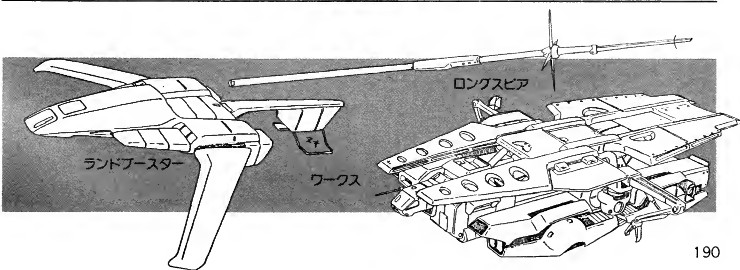
ロージナ【ROJINA】 [地]（♯8～）
ミズン星ヤーマン王朝時代の旧首都。

ロング・スピアー【LONG・SPEAR】
A級H・Mグルーンの常備兵器。槍のような形状で両端がパワーランチャーになっているため、接近戦から中距離の敵の迎撃まで目的に応じてはばひろい使用が可能である。また本体の放電攻撃のバイパスとなることもある。

ワ行

ワガマイ【WAGAMAI】 [地]（♯12）
ミズン星の遺跡。巨大人面岩や神殿がある。反乱軍はここをベースとしており、神殿は火薬庫となっていたが、警備が手薄のためネイに爆破される。深い森に囲まれており周りにはいくつかの農村があって、ここで反乱軍志願者を募ったりもした。

ワークス【WORKS】 [H]（♯1～）
H・M用のベースマシン。上部のランチングレールの上にH・Mを載せ陸上及び海上を運搬する。また、簡単な整備もできる。
・全長23・9m、重量17t
・対人用レーザー砲×1
パワーランチャー×1



——ある日突然

…私
もうイヤ！

耐えられないわ
こんな生活！

とアムが言った！

もう1つのエルガイム

あんり★M

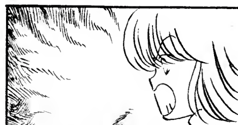
だってそうじゃない？
戦うだけの毎日なんて
潤いがなさすぎるわ！

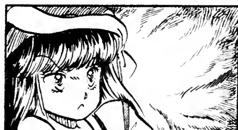
情けないわねえ
それでよく
ダバのあとに
ついていこうなんて
思ったもんね

あーらお姉様
・・・普通の女の子なら
そういう感情を
持つのが
あたり前じゃなくて？

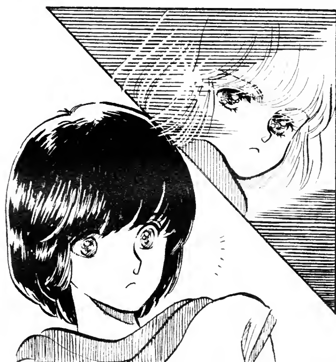

なによ盗族!
びたん!

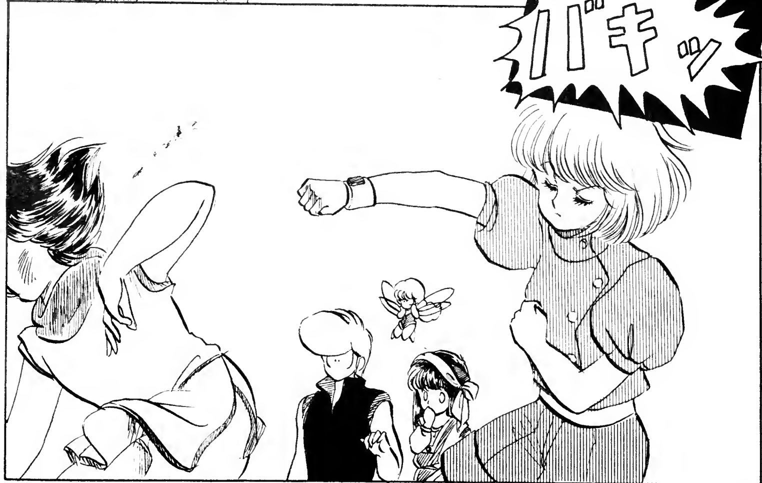

何すんのよスパイのくせにっ!
ばしっ!!






かみひっぱらないでよっ
いい加減にしないか2人共っ!!




バキッ


…な

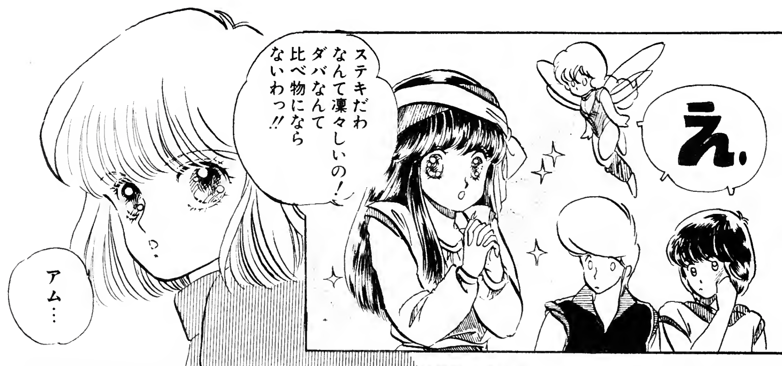

ただいまの一戦どう御覧になりますか解説のキャオさん
と一ですねやはりリング上で決着をつけて欲しいですね
かいせつしゃ
あなうんさー

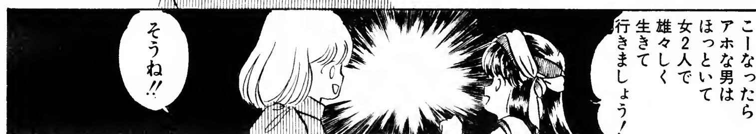

何するんだよっ!
俺はヤーマンの王子だぞっ
えーいやかましいっ!!

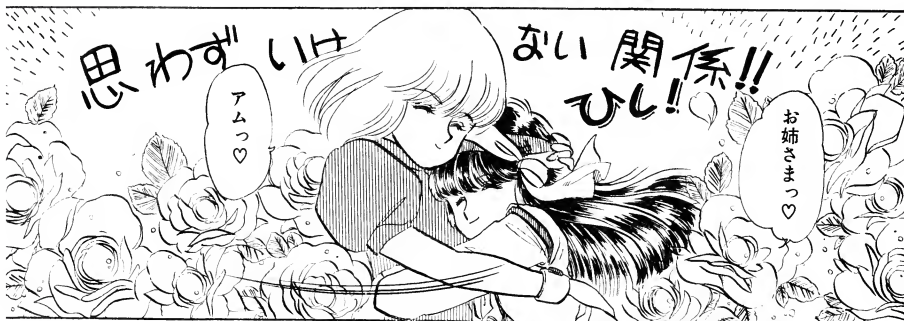

何よ大体ダバがはっきりしないからこーゆー事になるんじゃないない


そんな事も自分で決められないような奴に人の上に立つ資格なんてないわよっ!!
KYURI
TOMATO
MAN
JAGAIMO
NINJIN
KETASU
BEG
あんたなんかコアムに帰って野菜でも作ってりゃいーのよっ!!


さっさと私かアムかどっちかに決めたらどうなのっ!!
ま
フン!
女はこわい…
ステキ…♡


え。
ステキだわ
なんて凛々しいの!
ダバなんて
比べ物にならないわっ!!
アム…


こーなったら
アホな男はほっといて
女2人で
雄々しく
生きて
行きましょう!
そうね!!


思わずいけない関係!!
ひし!♡
お姉さまっ♡
アムっ♡


うーむ ヤーマンの母なる大地と共に生きて行くのも青春かも知れない…
真剣
園芸の友


こーなったら
俺1人だけでも
正規軍に
入るぞーっ!!
——その後
キャオは正規軍の
新しい13人衆の1人として
その名を轟かせるようになった——
めら
めら

85. 5. 23. UP

END

HEAVY METAL L·GAIM STAFF LIST(♯1～♯54)

	タイトル	脚本	原画	作画監督	演出	ストーリーボード
1	ドリーマーズ	渡辺由自	北爪宏幸、寺東克己、大西清美、窪岡俊之、	北爪宏幸	井内秀治	斧谷　稔
2	スキャンダル・P	渡辺由自	大森英敏、坂本英明、詫　祐二、	大森英敏	今川泰宏	今川泰宏
3	カミング・マン	富田祐弘	遠藤栄一、矢木正之、所　智一、辻　清光、	近藤栄一	川手浩次	川手浩次
4	ザ・コネクション	渡辺麻美	金山明博、小林利充、杉山東夜美、スタジオ・ワールド	金山明博	川瀬敏文	斧谷　稔
5	エスケープ・ラン	渡辺由自	北爪宏幸、寺東克己、大西清美、窪岡俊之、	北爪宏幸	関田　修	関田　修
6	シー・ジャック	富田祐弘	坂本三郎、外記康義、山田きらさか	坂本三郎	井内秀治	井内秀治
7	スクランブル	渡辺麻美	大森英敏、坂本英明、詫　祐二、	大森英敏	今川泰宏	今川泰宏
8	ヤーマン・クラン	渡辺由自	矢木正之、遠藤栄一、所　智一、辻　清光、	矢木正之	川手浩次	川手浩次
9	アーミィ・ベース	富田祐弘	金山明博、小林利充、布　告文、内田順久、桑原美佐、杉山東夜美、	金山明博	川瀬敏文	鈴木　行
10	タイム・リミット	渡辺由自	北爪宏幸、寺東克己、大西清美、窪岡俊之、	北爪宏幸	関田　修	関田　修 斧谷　稔
11	ジェラシー・ゲーム	富田祐弘	大森英敏、坂本英明、遠藤栄一、矢木正之、	大森英敏	井内秀治	井内秀治
12	ディコイ・ディコイ	渡辺麻美	坂本三郎、山田きさらか、外記康義、小林利充、	坂本三郎	川端蓮司	今川泰宏
13	コンタクト	渡辺由自	中村プロ、伊藤昌宏、奥野浩行、柳沢哲也、石田　誠、	中村旭良 亥間我子	川手浩次	川手浩次
14	レディ・ポセイダル	富田祐弘	貴志芙美子、加藤政広、吉田　徹、	谷口守泰	川瀬敏文	川瀬敏文
15	プライド	渡辺麻美	北爪宏幸、寺東克己、大西清美、窪岡俊之、山本正文、宇佐美浩一、亥間我子、	北爪宏幸	関田　修	湖川友謙
16	ブロークンハート	渡辺麻美	金山明博、外記康義、小林利充、山田きらさか、真田康之、彌惠保久、山田浩之	金山明博	川端蓮司	滝沢敏文
17	ライム・ライト	渡辺由自	大森英敏、坂本英明、辻　清光、詫　祐二、南伸一郎、	大森英敏	今川泰宏	今川泰宏
18	ガストガル・デモ	富田祐弘	矢木正之、遠藤栄一、沢田正人、山内貴美子、恩田尚之、	矢木正之	関田　修	杉島邦久
19	ゴーアンドカム	渡辺麻美	坂本三郎、外記康義、内田順久、山田きさらか、	坂本三郎	井内秀治	井内秀治
20	スターダスト	河原よしえ	大森英敏、遠藤栄一、坂本英明、矢木正之、北爪宏幸、寺東克己、	北爪宏幸	川手浩次	滝沢敏文
21	ザ・テンション	富田祐弘	金山明博、小川利充、内田順久、大貫健一、山田浩之、福井亨子、	金山明博	関田　修	関田　修
22	クワサン・オリビー	渡辺由自	スタジオ雲雀、ビーボォー、アニメ・トロトロ、大井弘義、スタジオ・ダブ、多加かずひろ、	亥間我子	今川泰宏	今川泰宏

	タイトル	脚本	原画	作画監督	演出	ストーリーボード
23	ゼネラル・クロソ	渡辺麻美	北爪宏幸、大森英敏、矢木正之、遠藤栄一、坂本英明、寺東克己、辻　清光、窪岡俊之、中村　悟、恩田尚之、	大森英敏	川瀬敏文	川瀬敏文
24	アスフィー・ハート	富田祐弘	坂本三郎、外記康義、山田浩之、大貫健一、山田不二夫、福井亨子、	坂本三郎	川手浩次	川手浩次
25	ラブ・アゲイン	渡辺麻美	小林利充、平野謙一、内田よりひさ、山田浩之、アニメ・トロトロ、小田不二夫、粟井重紀、福井亨子、	金山明博	杉島邦久	杉島邦久
26	サーチII	渡辺由自	坂本英明、寺東克己、辻　清光、窪岡俊之、恩田尚之、大西清美、中村　悟、	大森英敏	関田　修	斧谷　稔
27	ミステイク・ラブ	富田祐弘	北爪宏幸、大森英敏、矢木正之、遠藤栄一、	北爪宏幸	井内秀治	井内秀治
28	ネイ・クライシス	渡辺麻美	外記康義、内田順久、福井亨子、平野謙一、大川弘義、粟井重紀、アニメ・トロトロ、小田不二夫、	金山明博	川瀬敏文	川瀬敏文
29	クロス・ポイント	富田祐弘	坂本英明、寺東克己、大西清美、中村　悟、辻　清光、窪岡俊之、恩田尚之、	大森英敏	今川泰宏	今川泰宏
30	アワ・マスター	渡辺由自	大森英敏、遠藤栄一、北爪宏幸、矢木正之、	北爪宏幸	杉島邦久	杉島邦久
31	キャッチ・ウオー	河原よしえ	坂本三郎、外記康義、粟井重紀、山田浩之、山田きさらか、小林利充、平野謙一、	坂本三郎	川手浩次	川手浩次
32	フラッシング・ネイ	渡辺麻美	小林利充、大貫健一、佐藤浩雅、内田順久、小田不二夫、中谷マリ、アニメ・トロトロ、	金山明博	関田　修	滝沢敏文
33	マイ・アース	富田祐弘	矢木正之、坂本英明、寺東克己、大西清美、窪岡俊之、大森英敏、遠藤栄一、辻　清光、恩田尚之、中村　悟、	矢木正之	川瀬敏文	寺山昭夫
34	レッシィ・マインド	渡辺由自	村中博美、黄瀬和哉、大島城次、吉森一彦、山本佐和子、中村美子、向山祐治、	村中博美	今川泰宏	今川泰宏
35	ベリル・ミッション	渡辺麻美	外記康義、粟井重紀、平野謙一、杉山京子、大川弘義、加藤義貴、小田不二夫、	山田きさらか	関田　修	川瀬敏文
36	オールド・ソルジャー	河原よしえ	小林利充、大貫健一、瀬尾康博、藤岡正宜、山田浩之、松尾　慎、	金山明博	川手浩次	川手浩次
37	オリビー・クライシス	富田祐弘	北爪宏幸、遠藤栄一、寺東克己、大西清美、詫　祐二、矢木正之、坂本英明、辻　清光、恩田尚之、窪岡俊之、	北爪宏幸	杉島邦久	滝沢敏文
38	エスケープ・キワザ	渡辺麻美	坂本三郎、岩滝徹、森川定美、千明孝一、内田順久、中谷マリ、結城信輝、大上浩明、三坂　徹、千明ゆり、佐藤浩雅、	坂本三郎	川瀬敏文	斧谷　稔 寺山昭夫

HEAVY METAL L·GAIM STAFF LIST(#1~#54)

	タイトル	脚本	原画	作画監督	演出	ストーリーボード
39	ザ・オーメン	富田祐弘	外記康義、杉山京子、小村直美、河上孝子、松尾　慎、粟井重紀、向井祐治、時友みゆき、石地富司夫、瀬沼靖治	金山明博	関田　修	横山広行
40	フル・フラット	大野木寛	藤岡正宣、紺野智幸、小田不二夫、加藤義貴、中谷マリ、瀬尾康博、平野謙一、山田浩之、内田順久、瀬沼靖治	山田きさらか	今川泰宏	今川泰宏
41	スパイ・イン・スパイ	渡辺麻美	矢木正之、坂本英明、寺東克己、沢田正人、大西清美、所　智一、恩田尚之、遠藤栄一、窪岡俊之、詫　祐二、山本正文、山内貴美子、	亥間我子	杉島邦久	杉島邦久
42	ヤング・パッション	渡辺由自	小林利充、千明孝一、小田不二夫、熊谷浩彦、千明ゆり、松尾　慎、スタジオ・ダブ	小林利充	川手浩次	川手浩次
43	レディ&ガール	渡辺由自	外記康義、山田浩之、きくち通隆、平野謙一、小田不二夫、向山祐治、照日四郎佐藤浩雅、紺野智幸、	金山明博	川瀬敏文	川瀬敏文
44	ピカレスク・ギワザ	大野木寛	坂本三郎、西島よしたか、粟井重紀、河村佳江、杉山京子、西沢　昇、秋野洋一、藤岡正宣、加藤義貴、田中あや子中谷マリ、伊藤岳史、	坂本三郎	関田　修	寺山昭夫
45	リリス・メモリー	渡辺麻美	北爪宏幸、小田不二夫、平野謙一、小村直美、高橋義則、紺野智幸、中野恭子、時友みゆき、スタジオ・ダブ、石地富司夫	山田きさらか	横山広行	横山広行
46	クワサン・ウェイブ	河原よしえ	矢木正之、坂本英明、寺東克己、沢田正人、大西清美、所　智一、恩田尚之、遠藤栄一、窪岡俊之、詫　祐二、山本正文、山内貴美子、	亥間我子	川手浩次	滝沢敏文
47	ボーイズ・ボーイズ	大野木寛	小林利充、千明孝一、向山祐治、千明ゆり、松尾慎、アトリエ・フクロウ	小林利充	川瀬敏文	寺山昭夫
48	ファースト・アタック	渡辺麻美	外記康義、矢木正之、遠藤栄一、寺東克己、照日四郎、坂本英明、恩田尚之、窪岡俊之	亥間我子	関田　修	川手浩次
49	レディ・キラー	富田祐弘	内田順久、粟井重紀、加藤義貴、中谷マリ、虎子光秀一郎、山田浩之、西島よしたか、有田裕次、笹錦　洸、永野護	金山明博	今川泰宏	今川泰宏
50	エキサイト・アム	大野木寛	坂本三郎、藤岡正宣、高橋義則、西沢昇佐藤浩雅、きくち通隆、中村　清、伊藤岳史、スタジオ・ダブ	坂本三郎	井内秀治	井内秀治
51	マイ・ラブ	渡辺麻美 河原よしえ	小田不二夫、平野謙一、松尾　慎、千明孝一、紺野智幸、中野恭子、向山祐治、千明ゆり、	山田きさらか	川手浩次	横山広行
52	ファイナル・タイム	大野木寛	矢木正之、詫　祐二、南伸一郎、大西清美、遠藤栄一、所　智一、宇佐美浩一	亥間我子	関田　修	滝沢敏文
53	ザ・ディクテイター	渡辺由自	外記康義、粟井重紀、西島よしたか、中谷マリ、小林利充、照日四郎、山田浩之、加藤義貴、有田裕次、ビーボォー	金山明博	川瀬敏文	川瀬敏文
54	ドリーマーズアゲイン	渡辺由自	矢木正之、沢田正人、所　智一、詫裕二、山本正文、遠藤栄一、坂本英明、山内貴美子、	大森英敏 園田美世	杉島邦久	杉島邦久

編集後記



イラスト　四位広猫

■富野氏にとって「エルガイム」は、まさに制作者側の新旧交代劇を模索した実験作品だったと思う。氏はアニメが〃文化〃のレベルまで引き上がる最後の作業、「時代を継ぐ者達」の育成を思い、自からの行動が信管となって発光すると考えたに違いない。アニメか文化として回転し続けるには次の世代の若者達によって活性化か必要である富野氏はその方法の一つとして、永野護氏と言う閃光を華々しく打ち上げた一つの閃光は次の閃光を生む。永野護氏自体まだ若きホープとして歩み始めたばかりだが、彼自身の華々しいデビューは一つの道標として若者達の欲望をかき立てたに違いない。しかし、答えは時間を要する。最低でも二〜三年はかかるだろう。それでも、時は刻一刻と深刻な状況に変化しつつある。

現在、TVアニメは83年のアニメ黄金時代と呼ばれる時期から十数本も減少し、第二の慟哭時代にさしかかろうとしている。アニメブームから、はや数年、半は市民権を得たかのように見えるアニメも、その放映媒体か多方面に拡大した割に、制作者側の人材、ギャランティーなどは急速発展に今だ追いついていない。その結果、TVを離れ、低いリスク、高い収入の分野へと人材か流れ始めたのである。その中で、富野氏はオーバーワークを囁かれながらもコンスタントに作品を出し続けているのである。かくも、時代をつなぐハイブのごとく……

私は富野氏のその行為に期待する。いつの日か「エルガイム」て放った閃光か第二、第三の閃光となって輝く日を確信して！

（モ）

■自分の能力限界がどこにあるのか、絶えず考え込みながら、（そう、夢の中まで…）何とかここまで辿りつきました。もう最悪の状態の時は他の人に引っぱり上げてもらうと言った状況でした。本当に随分と多勢の方々に迷惑をかけたものです。もう我ながら情けなかった… 自分の心の中の第三者的な意識を失ない始めた時から状況はもう悪くなるばかり。〃何か〃が精神の中で割り切れなくなっていき、それに気付かないという阿呆さかげん。もう手のつけようがありませんね…。でも、何とかそこから脱出しようとはした、いや少なくともしたはずだった… しかし視野が狭くなっている人間には、もうほとんど無駄なあがき。根本的要因を解決しない限り意味がなかったのですよ。やはり情けないなぁ、情けないくらい甘ちゃんですね。思わず自己嫌悪…… いつもは自分の中で昇華できていたはずの事なのにね。

とにもかくにも、なんとかもう一度自分の中の他人の意識を取り戻せたようです。ただ、手遅れかも知れませんけどね。もうシッチャカメッチャカな事をたくさんやってしまったからなぁ。その責めは最低でも僕が自分で負わなければいけない事だから。少なくとも「後は気力だけだとわかってはいるが…」と思っていたのならばそれをしなければ！ それを成してこその〃人〃のはずなのだから！ そこで負けたらおしまいのはずだ…

（♬）

■ひとことと言えば、それで済んだのだろう、と思う。それが出来たのだ、とも。冷静に考えている自分が在るのを感じていたので。けれども、どうしても言えなかった、いや、言わなかったのだ。口に出してしまえば、想いが全て霧散してしまう様な気がして。そうして、その根源に在った想いが消滅した後に、計算しながら手に入れたものがどんな意味を持つのだろう。傲慢だと（自分自身に対しても）思いながら、今は自分に納得をさせたいだけなのだ。一足飛びには先に進めない性質なんだよね、やっかいな事だけど、それでいいと思っている。

そしてまた、いつか言う時が必ず来るのだろう。それは今まで拘ってきた「大人」という言葉や、ましてや良い悪いで片付ける事ではなく、ただ、生きていくという事なのだな、と漠然と感じるのだ。そんなわけで、それから先への資本が「不安」でしかないのだけれど、こうして歩いてゆくのもそんなに悪い事じゃあない、と思えるのさ。

これが終わったなら、今度はエプロンドレスを作ろう。ぬけるようなブルーでね。きっと白に映えるはずだよ。そうしたら、街に出ようか、真夏の陽の下で。緑の影が覆っても、私には一目でわかるよ。どんなに時が経っても変わらないものがあるからね。

信じられるかい。ここが大気の底だなんてね。時には、流れに漂ってみるのもいいさ。

（R）



By永野護　©日本サンライズ・創通エージェンシー・永野護



By湖川友謙・大森英敏・矢木正之
©日本サンライズ・創通エージェンシー

AFFIX
STAMP
HERE

□□□-□□

POST CARD

Heavy metal L-GAIM

AFFIX
STAMP
HERE

□□□-□□

POST CARD

Heavy metal L-GAIM

MARK-2 L.GAIM

L.GAIM MARK-II

POST CARD

Heavy Metal L-GAIM

AFFIX STAMP HERE

POST CARD

Heavy Metal L-GAIM

AFFIX STAMP HERE



By末弥純　©日本サンライズ・創通エージェンシー



By永野護　©日本サンライズ・創通エージェンシー

●アンケート●

★「エルガイム大事典」の中でおもしろかったものを、5つお書き下さい。

★同じく、おもしろくなかったものがありましたらお書き下さい。

★「ラポートデラックス」でとりあげてほしい作品がありましたらお書き下さい。

★アニメックで特集してほしい企画をお書き下さい。

★好きなアニメ作品を、3つお書き下さい。

★好きなアニメ・キャラクターを、5人お書き下さい。

★そのほか、ご感想をお書き下さい。

郵便はがき

40円
切手を
おはり下さい

160-□□

東京都新宿区新宿2の1の1

ラポート株式会社

「アニメック」

エルガイム編集部行

〒 ご住所	TEL
フリガナ ご氏名	昭和　年　月　日生 男・女　才 血液型　A・B・O・AB
購買書店名	ご職業(学校名・学年)

郵便はがき 40円 切手をおはり下さい 160-□□ 東京都新宿区新宿2の1の1 ラポート株式会社 「アニメック」 エルガイム編集部行 〒 ご住所 TEL フリガナ ご氏名 昭和 年 月 日生 男・女 才 血液型 A・B・O・AB 購買書店名 ご職業(学校名・学年)

Heavy Metal L-GAIM 大事典

重戦機エルガイム大事典

定価680YEN

RAPPORT DELUXE 11



ラポートデラックス⑪ 重戦機エルガイム大事典 昭和60年7月1日発行 編集人 伊沢秀男 発行人 海野榮一 発行 ラポート(株) 〒160東京都新宿区新宿二丁目一番一号 Tel(03)354 3951 定価680円

From PENTAGNA



to Eternally

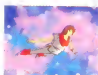
雑誌69159 11 ©RAPPORT KK 1985 大日本印刷株式会社印刷


RAPPORT DELUXE
11
重戦機エルガイム大事典
magazine for animec life
ラポートデラックス
11

重戦機エルガイム CONTENTS

LAST STORY FILM DIGEST









表紙イラスト／大森英敏　裏表紙イラスト／北爪宏幸

重戦機エルガイム スタッフ・リスト

企画　日本サンライズ
原案　矢立　肇
原作　富野由悠季
シリーズ構成　渡邊由自
アニメーション・ディレクター　湖川友謙
キャラクター・デザイン　永野　護
美術　池田繁美
音楽　若草　恵
オープニング・テーマ①
「エルガイム Time for L.GAIM」
作詞　売野雅勇
作曲　筒美京平
編曲　松下　誠
唄　MIO
レコード　キングレコード
オープニング・テーマ②
「風のノー・リプライ」
作詞　売野雅勇
編曲　戸塚　修
唄　鮎川麻弥
レコード　キングレコード
エンディング・テーマ
「スターライト・シャワー」
作曲　筒美京平
作詞　井荻　麟
編曲　松下　誠
唄　MIO
レコード　キングレコード
撮影監督　斉藤秋男
録音監督　藤野貞義
総監督　富野由悠季
プロデューサー　森山　滋（名古屋テレビ）大西邦明（創通エージェンシー）中川宏徳（日本サンライズ）
制作　名古屋テレビ、創通エージェンシー、日本サンライズ



本誌スタッフ

editers in chef　安田　猛
total editer　永島　収
asistant editer　増渕理子
cooperation　銀英社・伸童舎
layout　多田井善治・伸童社・荒野晶夫
special thanks'　日本サンライズ
永野　護、ビーボォー、スタジオ・パック

RAPPORT DELUXE 11
重戦機エルガイム大事典

発行　東京都新宿区新宿２—１—１
ラポート株式会社

印刷　大日本印刷株式会社

昭和60年７月１日発行